

町村の施策 事例集Ⅲ

全国町村会



はじめに

全国の町村は、それぞれの地域が自主的、主体的に地域の特性を最大限活かしながら、創造的なまちづくりに取り組んでいます。

「町村の施策事例集」は、こうした各町村が取り組んでいる特色ある地域づくり53事例を紹介しております。それぞれの事例は、全国町村会の機関誌「町村週報」に現地レポートとして掲載したものであり、現場の町村職員等に施策の成立に至るまでの経緯や苦心談、今後の課題と展望などをご執筆いただいたものです。

各位におかれましては、是非ともご一読頂き、町村の地域活性化に向けた真摯な取組にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、本書の刊行にあたり、多大のご協力をいただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成26年2月

全国町村会長
藤原 忠彦



北海道 厚沢部町	過疎だからといってあるー。町民が主体のまちづくり —「素敵な過疎の町」への挑戦—	1
北海道 新十津川町	歴史に感謝 未来へはばたく 元気あふれるまちづくり	5
北海道 音威子府村	夢を語れる学校 人口※905人、村の地域力、北海道おとねつぶ美術工芸高等学校	9
北海道 初山別村	この村であなたの「星」を見つけてください —マイスター登録者※8,538人に—	13
北海道 白老町	食材王国しおり誇りある故郷づくり	17
北海道 安平町	「自然・利便性・話題と魅力は多い町の課題」「 —移住・定住化促進による活気あるまちづくりを目指して—	21
青森県 七戸町	潤いと彩りあふれる田園文化都市を目指した町づくり —東北新幹線全線開業を迎えて—	25
青森県 おじりせ町	奥入瀬川の恵みと笑顔あふれるまち —私たちのまち私たちの手で満足度七十% 納得度百%のまちづくり—	29
青森県 東通村	東通村の教育改革 「教育環境デザインひがしうおり21」 の挑戦	32
宮城県 加美町	「食の文化祭」で地域の食文化を掘り起す	36
秋田県 三種町	豊かな自然、大地の恵み、心のふれ合つ協働のまち —長寿の種、福禄の種、楽の種を語源とする三種川のように—	40
秋田県 五城目町	思いやりと活力に満ちたふるさとの創生 自然にやさしく、人健やかにしてやさしき、 産業が息づき、明るく文化の香り高い風土の形成と人々が交流する「ふるさと五城目町」をめざして	44
福島県 磐梯町	「温もりと活力ある まちづくり」 —情報と人・もの・自然・文化に出会いの会津嶺の里—	48

茨城県
五霞町

栃木県
那珂川町

群馬県
上野村

群馬県
嬬恋村

群馬県
草津町

埼玉県
毛呂山町

埼玉県
ときがわ町

千葉県
酒々井町

東京都
小笠原村

神奈川県
葉山町

山梨県
市川三郷町

福井県
池田町

静岡県
長泉町

「小さくても、魅力と活力にあふれるまちづくりをを目指して」

豊かな自然と文化にはぐくまれ やさしさと活力に満ちたまちづくり
リーダーン対策事業で、自立する村づくりを目指す

「人と自然 やすいぎと活力のある村づくり」
「さわやかな高原の村『つまさじ』の明るい未来をめざして」

景観に配慮した魅力ある町づくり

草津町特別編 草津町の国際交流行動

「ICTがもたらす家庭教育の革新」
「動画サイト「むらやま 親子で学ぶ基礎学習」を公開」

「木」をキーワードに、都市と農村の交流で町の活性化を
「植えて育てる林業から、伐採し、活用し、植える林業へ」

人 自然 歴史が調和した活力あふれるまちづくり
「住民満足度の向上へ」

世界自然遺産推薦地

ゼロ・ウェイストへの第一歩
「住民協働と半減袋でごみ半減へ」

「おひが町のPR下手」解消への第一歩

「町匠一品・あたりまえがぶつひとつあるまち」を目指してー

笑顔があふれるまち ながいおみ
「子どもが輝き 子育てが楽しい 心ふれあうまちをめざしてー

104 100 96 92 88 83 79 75 69 65 61 56 52





愛知県 東栄町	現代ゆいの提唱 —上下流の協働で再生する水源の里—	111
三重県 多気町	高校生レストラン「まごの店」で地域活性化! 「明るく・元氣で・長生き」できる町を目指して— —ICTを利用した安心・元氣な町づくり—	114
滋賀県 愛荘町	消えゆく文化を保存活用し、地域の魅力に —町の「地域遺産」を未来へ—	119
京都府 伊根町	日本で最も海に近い生活のあるまち「ふなやん」の故郷から 人口12千人の都市近郊型のまちづくり —何もないところを整備—	123
大阪府 能勢町	「絆」を大切にした支えあい、助けあつまちづくり	126
兵庫県 佐用町	人にやさしい 人がやさしい 元氣な町をめざして	130
奈良県 広陵町	緑に囲まれた潤いと安らぎのふるむとづくり —定住支援と住民が参画する協働のまちづくりの推進— 「小さな村だからこそ出来る」とある、 伝統技術・地場特産物・ICT・環境保全・教育の5本柱で地域づくり	134
和歌山県 かつらぎ町	風車と名探偵コナンに会える町 “人と自然が共生し、確かな豊かさを実感するまちづくり”	138
和歌山県 北山村	田舎すば「飯南ブランド」	142
鳥取県 北栄町	「A級グルメ」と「日本一の子育て村」の推進により 雇用の創出と定住人口、観光交流人口の増加を目指す	146
島根県 飯南町	150	
島根県 邑南町	154	

島根県
海士町

「人づくり、からいの『まちづくり』、
『教育の魅力で全国から人を呼ぶ』」

岡山県
奈義町

「小さじからいこなできるー。きめ細やかなまちづくり
—単独町政を歩む町の挑戦—」

岡山県
美咲町

「黄福定食」かり『黄福』なまちづくりへ
MISAKI YELLOW HAPPY PROJECT

山口県
周防大島町

賑わいの創出・観光交流人口100万人を目指して
—瀬戸内のハワイ周防大島町へ都会の子供たちの修学旅行—

香川県
まんのう町

元気まんまんまんのう町 改革・協働・輝きの町

愛媛県
松野町

この森に遊びこの森に遊びてあめつちの心に近づかむ
—地域資源を活かしたまちづくりで個性を磨く—

愛媛県
鬼北町

森がすくすく、川がいきいき、人が元気
—自然満足都市 きほく—

福岡県
東峰村

自然・文化を生かした交流による活力と心豊かな暮らしのある村
—山里の「智」と「技」から創造する持続可能なまちづくり—

佐賀県
有田町

「食」と「器」でまちづくり・ひとづくり

熊本県
嘉島町

大豆焼酎「嘉島」誕生 —嘉島大豆をブランデ化—

鹿児島県
さつま町

個性と知恵と協働で創造する豊かなまちづくり
—自然と文化と温泉のまち—

鹿児島県
南種子町

島への移住支援に求められる」と
—サボテンの取組—

沖縄県
伊江村

「タロとロマンの『ラワーライフンド』」
—自己立の村づくりを目指す島—

※一部文中の日付・数値、記述につきましては、原則として「町村週報」掲載時点のものですが、最新のデータに修正した箇所があります。

208 203 199 195 191 187 183 179 175 171 167 163 159



過疎だからこそできる! 町民が主体のまちづくり

—「素敵な過疎の町」への挑戦—

はじめに

北海道の南部、渡島半島の日本海側に位置する厚沢部町は、総面積460・42km²、東西約29km、南北約27kmの広がりをもち、町域は、扇形をなしています。町の中央には、国道227号が東西に延び、車では、函館から約1時間15分、札幌からは約4時間30分の位置にあります。

また、面積の8割以上を森林が占め、ヒバ（ヒノキアスナロ）や五葉松の北限の地であるほか、トドマツの南限地でもあり、南北の植物の両方が共生する学術的にも貴重な地域となっています。加えて、鶴川や安野呂川をはじめ多くの支流を集め、田園地帯を流れる厚沢部川は、水量も豊かで鮭の泳ぐ良好な環境が保たれており、大地に潤いを与えています。

しかしながら、町では、人口減少とともに急速な高齢化の進行が地域振

「素敵な過疎づくり株式会社」における移住交流コンシェルジュ業務

田舎暮らしには憧れるけど、移住に踏み切るのは、なかなか勇気がいるものです。そこで、平成21年9月には素敵な過疎づくり株式会社を設立し、移住体験の情報や、町の住民の様子、暮らしに役立つ情報を、専用ホームページ「ちよっと暮らしナビ」によ



▲水車公園

北海道 厚沢部町 あっさぶちょう



まちの観光大使
「おらいも君ファミリー」



厚沢部ちよつと暮らしおとし
厚沢部町の移住と滞在施設情報

広大な緑のロケーションとゆとりの和空間に溢れる住宅C棟

原野に立つ存在感のある住宅、家庭菜園のスペースも充実しているD棟

趣味や生きがいと共に暮らせる「アトリエ」や土間のある家A棟

自然と共に心豊かに暮らす場所、テラス&デッキで家族団欒B棟

り、町民が参加した動画とじつたより分かりやすい形で提供しています。

そして、平成22年2月に4棟のちよつと暮らし専用住宅が建築され、一軒家をまるごと貸し切って、まるで我が家のように田舎暮らしをお試しえるつれしへプランが厚沢部町に誕生しました。

交流事業の「九州女子大学アウトキャンパスタディ」においては、学生がホームステイをすることによって課題を発見し、発表・解決案を提起するといった取り組みを行っています。

また、都会の小中学生が、恵まれた自然環境、農村景観の中、地理規模で環境を学び、大人になる準備としての社会学習や、ブチ寮生活で学ぶ人間関係、地元の人たちとの交流等を実施



▲2010年、世界最大のコロッケを制作！

メークイン発祥の地における 巨大コロッケ

初夏を迎えると厚沢部町の大地は、メークインの花々に彩られます。厚沢部町の風物詩ともいえる広大なメークイン畠ですが、はじめてメークインが試作されたのは大正14年のことです。その後研究が進められるとともに、厚

沢部町はメークインの適地として栽培が広がり、全国でも有数の産地となりました。メークイン発祥の地として古くから農業の営みが続けられてきた厚沢部町では、現在も、農業を基幹産業として安全で良質な農産物づくりに取り組んでいます。

毎年、7月はイベントが真っ盛りです。中でもユニークな試みで楽しむ「あつさぶふねさと夏まつり」では、町内の職人が結集し、特産のメークインを使用した、巨大コロッケを作っています。平成22年は、メークイン400kgを使い、直径3・08mの世界最大のコロッケの製作に成功しました。クレーンで吊り上げ、900mlの油で揚げる様子は圧巻です。

森林資源の有効活用

厚沢部川を中心とした森林伐採や川鮭漁などにより拓かれ集落が形成された厚沢部町ですが、林業はその後も豊かな森林資源を活かしながら、農業とともに町の重要な産業となっています。

五葉松の自生地一帯は明治41年に伐採が禁止されて以来、保護が続けていますが、昔から厚沢部町では森林の持つ機能に対する意識が高く、水土保全、森林と人との共生、資源の循

環利用など、樹木や森自体をまちづくりに活かす取り組みを展開しています。また、未利用森林資源の有効活用のため、クリーンエネルギーとして注目を浴びている「木質ペレット」の普及・利活用に、地元業者・関係機関が一体となって取り組んでいます。

豊かで貴重な森の樹々がやさしく語りかけてくれる「土橋自然観察教育

林（レクの森）は、森林と身近にふれあえる空間として訪れる人々に自然の素晴らしさを伝えています。

また、管内初のオートキャンプ場として平成11年にオープンし、ファミリーで気軽にキャンプを楽しめ、道南を代表するアウトドアの拠点として親しまれているのが「鶴ダムオートキャンプ場（ハチャムの森）」です。

厚沢部町の自然体験空間として思う存分に森の魅力を満喫できるのが「レクの森」と「ハチャムの森」。清らかな自然の素晴らしさに、肌で触れてみてください。

本格芋焼酎「喜多里」



◀レクの森：シラカバ並木
▼ハチャムの森

厚沢部のメークイン栽培技術に着目した札幌酒精工業株が、平成15年から焼酎用のさつまいも「黄金千貫」の試験栽培に着手し、契約農家と共に研究を重ねた結果、「北海道では不可能」といわれたさつまいもの本格栽培を実現しました。

また、町民がふだん口にしている水道水は、雨や雪が地下に浸透した湧水（わき水）を水源としています。この湧水は、水道法で定められた滅菌処理のみが施され、水道水として最も良質な状態で一般家庭に届けられます。水

源からの取水や水質、各地区への配水など、水道に係わるあらゆる

情報は、専用回線を通じ24時間体制で管理されており、



徹底した安全確保が図られています。

このように厚沢部町のきれいな水や、さつまいも栽培を可能にした温暖な気候が、焼酎造りに適していただけます。

から、町内鶴に札幌酒精工業㈱厚沢部工場を建設しました。

初の北海道産本格芋焼酎（乙類）はやわらかな芋の香り漂つたりとした飲み口で、町内はもとより、道内各地で人気を博しています。

時代の息吹を今に伝えて・ 史跡館城跡の保存整備

明治元年（1868）8月下旬、松

前藩は根拠地を福山（現松前町）から

厚沢部の「館」に移すことを決断します。築城作業は、突貫工事で進められ、10月下旬には一応の完成をみたようですが、11月3日には藩主徳広公が福山城から館城へ移動しました。

その後、館城周辺は、農地として利用されてきましたが、北海道における幕末維新时期の情勢や、松前氏の歴史を知る上で重要な、と判断され、平成14年に国の史跡指定を受けました。平成23年町では、史跡発掘事業を進めています。



◀初の北海道産本格焼酎
「喜多里」

◀館城跡

伝統芸能「鹿子舞」



▲伝統芸能「鹿子舞」

今から約5百年前、厚沢部周辺の山々は良質なヒバの森となっていました。室町時代の終わり頃から江戸時代の初めにかけて、ヒバの森を目指して東北地方から多くの仙人が訪れたといわれています。延宝6年（1678）、江差に檜山番所が設置されるときには多くの仙人達が厚沢部の山々に入り込み、定住するようになりました。自然を相手に仕事をする仙人達は、鹿を山の神として崇拝し、鹿をモチーフにした芸能「鹿子舞」を創りあげました。鹿子舞は、東北地方北部と北海道南西部に広く分布し、仙人達の交流の痕跡

を今に残しています。
厚沢部町にはかつて6つの鹿子舞が伝えられていましたが、現在では、4地区で保存会が結成され、伝承活動が続けられています。厚沢部の成り立ちはよく示す伝統芸能として、平成17年に町の無形民俗文化財に指定されています。

まちの観光大使 「おりじも君フアミリー」

おじいも君は、昭和59年5月11日厚沢部町の地に産声を上げ、以来、厚沢部町のイメージキャラクターとして、活躍しています。

そもそもは厚沢部町を通る国道227号沿いのマークイン・ロードの看板に描かれていたおじいも君ですが、その姿がとてもかわいいと、当時の町活性化集団「明日の厚沢部を考える会」が、ネーミングの公募を実施。昭和60年2月7日に、「おりじも君」と正式に命名されたのです。

その後、厚沢部町のPR担当に就任し、ポスター・Tシャツ・看板・包装紙等に登場し、平成3年には、着ぐみとなって登場し、各イベント等で活躍してきました。

妻のさつきちゃん、娘のポートちゃん

を今に残しています。

厚沢部町にはかつて6つの鹿子舞

などともに、これからも町をPRして、盛り上げてください。

地域で共に支え合う 福祉社会を目指して

全国的に高齢社会を迎えているなか、福祉の果たす役割はますます高くなっています。

厚沢部町では、高齢者の保健福祉

サービスの着実な推進を目的とした老人保健福祉計画・介護保険事業計画「あつさふひまわりプラン」に基づき、住む人に「豊かな田舎暮らし」をサポートし、細やかな介護のかけを大切に

したサービスを提供しています。訪問

リハビリや転倒予防教室、痴呆予防・

介護教室、生きがいデイサービスなど

介護予防事業の充実を図っていますほか、

健康づくりや生きがいづくり事業を展

開し、在宅生活を快適に過ごす上で

生活支援事業の推進にも努めています。

平成18年10月には、保健福祉総合

センター「あゆみ」がオープンし、地

域包括支援センター・訪問看護ステー

ション・機能回復トレーニングコー

ナー・リハビリ教室などに利用する多

目的ホールなど充実した設備を有して

います。この施設を保健福祉活動の拠

点として、赤ちゃんからお年寄りまで健康で楽しく過ごせるまちづくりを推進しています。

おわりに

近年の本町を取り巻く社会経済情

勢は、人口減少と少子高齢化の急速な

進行等、大きく変化しています。

また、地方分権の一層の推進と国

家財政の窮屈に伴い、町の行財政運営

も一層厳しさが加わるなど、大きな転

換期を迎えており、これまで以上に行

財政改革を進め、自立できるまちづくり

に向けた積極的な施策の展開が求め

られています。

厚沢部町は、町民と一体となって素敵な過疎のまちを目指し、これらの自然や歴史・伝統文化を保全するとともに、貴重な財産として活用し、住みよい快適な生活環境を形成するために、

生活基盤の整備充実や保健・医療・消

防・救急、高齢者福祉、子育て支援など、基礎的なサービス機能の充実を図

り、町民の定住化と町外からの移住者

などの受け入れを促進しています。

清流と森林に囲まれ豊かな自然が息づくまち厚沢部町で、まずは、ちょっと暮らしを体験してみませんか。

妻のさつきちゃん、娘のポートちゃん

総務政策課政策振興係

（平成23年5月30日付第2761号）

歴史に感謝 未来へばばたく元気あふれるまちづくり

はじめに

今から、122年前の明治22年8月に奈良県吉野郡十津川郷で起きた未曾有の水害は田・畑や道路が埋没し、これがせきを切つて濁流となり、死者168人に及ぶ尊い命が失われ、流失・全壊家屋600戸、村の7割に及ぶ



▲開墾の状況

言語に絶する大惨事となりました。家産を失い衣食を絶たれた600戸、2,489人が政府をはじめ関係機関の手厚い援護を受け、翌23年6月北海道石狩川中流域のトック原野に集団入植し、

本町は開村いたしました。この新天地を母村たる十津川村にちなんで新十津川村と命名し、その後、昭和32年に町制が施行され現在に至っています。

地勢は、札幌市と旭川市の中間となる道央空知のほぼ中央部で、石狩川の右岸に位置し東西35km南北30km、面積495・62kmで、そのうち77%が山林となっています。気候は、内陸型で四季の変化に富み、増毛、樺戸山系の影響で、冬は西北の風が強く寒冷地帯で積雪量も多くなっています。積雪は1メートル前後であるが、山間部では2メートルに達します。人口は、農業の近代化や省力化による規模拡大により、農業従事者が最盛期の3分の1に減少したことなどの要因から、昭和30年の16、

雪まつり
メインイベントの「国際中華鍋押し相撲WAJIMA」



北海道 新十津川町 しんとつかわちょう

199人をピークに減少を続け、平成23年10月末現在では、7,147人となり、高齢化比率は、32・7%となっています。

めがりじこ成り立ち

北海道内で、単一団体の移住により設置された市町村は、本町だけだと思います。被災からわずか2カ月後には移民団が出発するなど、当時の努力がしのばれます。折角の機会なので、移住の経緯などに触れさせていただきたいと思います。

明治22年の災害発生後、在京の十津川郷出身者によつて、被災者救済策が

検討され、特に生活基盤を失つた約3千人の生活をどう重建するかが急務となりました。このため、移住が検討され、明治政府の北海道開拓方針に添つて、北海道に移住し、北方防備にあたることば、十津川郷士先祖代々の忠君愛國の精神にかなつものとの意見も強かつた一方、最北極寒の地では、到底生活できなじとの意見もありました。

こうした中、上京中の北海道庁長官永山武四郎に面会した郷出身者は、北海道移住への協力を要請。永山長官は、できる限りの便宜を图ることを約

束し、このことにより、北海道移住への機運が一気に高まりました。これを受け郷内では、北海道移住の勧奨が行われ、政府に対し移住保護願が提出されました。

内容は、移住に際しての支度料や旅費、農具料など総額17万5741円の移住費の支給などでした。同年10月16日願は閣議で可決し、10月18日第1回移民200戸790人が十津川郷を出発し、このあと2回に分けて神戸港から北海道へ向かいました。移住に際し、天皇陛下からの就産資金として2千円の御下賜があつた旨の達しがあり移民一同を感激させました。

小樽に上陸し、汽車と徒步で空知太（そらぢひぶと）現 在の滝川市）へ。

11月18日までに全員が到着し、当時建設中の屯田兵屋に入居しましたが、完成した兵屋が150戸しかなく、1戸に4家族が同居する状況となりました。初めて体験する北海道の寒さに驚いた。初めて取り組む高齢者の笑顔を大切に



▲稲刈り

まちづくり

新十津川町では「元気あふれるまちづくり」を進めてこまか。

◇あこがれ運動

まがいぐりの基本は、人ぐぐりであり、その基本となるのが「あこがれ」であると教えます。一日の始まりは家庭においても、社会においてもあこがれからはじまります。

朝の通学時に、笑顔で明るく「おはようございます」とあこがれする子供たちや、地域活動に生きがいをもつて取り組む高齢者の笑顔を大切にして、町民によるあこがれ運動を高め、毎日を明るく楽しく生活する「日本一」と茂つた原始林の伐採から始まりました。当然のことながらすぐ作物が収穫できるわけもなく、道府から2年間にわたり食料が支給されました。同年7月に第2次移民をもつて十津川郷からの団体移住は終了しました。その後、他府県からの移住者が増え、開墾当初

は畠作のみでしたが、北陸出身者によう水田への転換が進められ、北海道内屈指の米どころの礎を築き、現在に至っています。

まちづくり

△産業の活気あふれるまち

本町は開村以来、農業を基幹産業として発展し、特に水稻は、道内でも有数の米どころとなっています。創業

100年の歴史を誇る町内の酒造会社はもとより道内各酒造メーカーに酒米供給しており、道内で屈指の生産量を誇っています。また、メロンやトマトなどのブランド化を進め販路の拡大を図っています。

観光では、約50haの敷地に温泉、スポーツセンター、プール、野球場、パークゴルフ場、宿泊施設などを設置したふるさと公園が集客の核となつていて、同公園を会場にふるさとまつり（当日入込12,000人）や、標高1,100mのピンネシリ山頂を目指すピンネシリ登山マラソン（350人参加）が行われ、学生の合宿などを利用してしています。このほか町内では、ビールパーティー、味覚まつり（当日入込12,000人）や、



▲トマト

◆ピンネシリ登山マラソン

▶ふるさとまつり
「泥（でい）ブリッジ選手権」



◆農業体験



つり、雪まつりなど四季折々のイベントが行われています。さらにグリーンツーリズムでは、全国から年間1,000人を超える生徒が農業体験のため、来町しています。また、豊かな自然の恵みを受けた特産品がたくさんあります。

高品質米の「ゆめぴりか」や「ななつぼし」、地酒金滴、ホルモンやジンギスカンなど全国各地からご注文をいただいているます。皆さんもぜひご賞味いただき、ご感想をいただければ幸いです。

◇教育の充実したまち

本町は、文武両道の伝統を母村かう受け継ぎ、教育に入っています。



▲金滴

平成21年、教育環境を整備するため小学校4校を1校に統合し、小中各1校体制とし、校舎耐震化を進めていますし、平成24年度からの中学校武道の必修化に伴い平成24年度に剣道場を新設するべく準備を進めています。旧小学校校舎を改修して設置した、現代彫刻家五十嵐威暢氏監修による彫刻体験交流施設「愛称かぜのび」は、平成23年6月にプレオープンいたしました。



▶神社例大祭

後ろの新十津川神社は十津川村の玉置神社から移住の際分祀したもの。

五十嵐先生の作品は、全国でも多くの

施設で設置されており、今後は、計画的な作品展示と、彫刻体験施設として、大勢の愛好者で活用されることが期待されています。

また、母村十津川村との交流は、小学生・青年・婦人、スポーツ・文化活動など多岐に交流し、絆を深めています。

新十津川おどり保存会では、国指定重要無形民俗文化財の奈良県十津川村武藏踊保存会の大踊を昭和54年に伝承し、平成22年で30周年を迎える。町内の各種行事で、大踊を披露し文化振興に貢献しています。

◇安全で安心なまち

いじじとがでわゆる、住宅環境の整備では、土地区画整理事業や公共下水道事業などを実施いたしました。また、道路の安全を確保するために道路整備計画に基づき、街路事業や道路整備事業を計画的に進めています。今後は、明るく安全な街並みを進めるため、街路灯のLED化を進め、町営住宅の建設を促進するとともに民間アパート建設促進事業を支援し、定住人口の増大に努めています。

◇健全財政と協働のまち

町民と行政が共に手を携えてまち

◆ふるやまとまつり



終わりに

また、過疎化・高齢化により乗車者数の減少が著しい農村地区の、路線バスの今後のあり方を検証する地域公共交通確保対策については、平成21年から町内で「マンド型交通」を用いた実証試験を行い今年が最終年となつておられます。今後は、町の実態に適した交通手段を確保していきます。

上げます。

近年の急激な社会情勢の変化と相まって、人口減少や少子高齢化など様々なまちづくりの課題を抱えています。しかし、本町を開拓し、今日まで導いてくれた先人に感謝し、町民の輝く笑顔を守るために、常にスピード感を持ち、創造と挑戦をスローガンに「元気あふれるまちづくり」を積極果敢に進めていこうと考えています。

様にも心からお見舞い申し上げます。

この度の台風被害や東日本大震災による集団避難の模様は、本町の先人が、122年前の十津川郷で発生した未曾有の豪雨による集団移住を彷彿するものであり、被災された皆様のご心情を察するに余りあるものがござります。

先人達は、新天地に向かう時に様々の人たちから物心両面によるご支援を受け「皆さんからの温かい励ましに応えるためにも、新村を開拓する意思を強くした」と聞き及んでいます。この度の被災者の皆様には、多くの人たちからの温かいエールを心の糧として、皆様で支え合ひ一刻も早く平穏な暮らしをめざしますよい心からお祈り申し上げます。

心に発生した東日本大震災で、全国各地に避難生活を余儀なくされている皆

北海道新十津川町長 植田 滉

(平成23年11月14日付第2780回)

夢を語れる学校

—人口※905人、村の地域力、北海道
おといねつぶ美術工芸高等学校—

音威子府村について

○地形

音威子府村は、上川地方管内の北部に位置し、北東は宗谷地方管内中頓別町、北西は中川町、南は美深町に隣接する、東西22・2キロメートル、南北18・6キロメートル、総面積が275・64平方キロメートルの村である。地形は、村の中央を天塩川が貫通し、北西部地域は段丘、または扇状地で平地は少なく、南東部地域は概ね平坦な扇状地である。

○気候

気候は、四国山岳に囲まれた狭隘な盆地的地形であるため、寒暖の差が著しく、平均気温は、12月～3月で、マイナス6度以下、6～9月は17度以上である。酷暑時には30度以上を示すこともあり、逆に、酷寒時にはマイナス30度以下にもなる。冬期間にあつては道内でも有数の豪雪地帯で、12メートルを超える降雪量がある。

12メー

○成り立ち

音威子府村は、明治34年帝室御料領地に編入、同37年には初めて開拓の鍵が下され、当時は土別村戸長役場に属し、同39年下名寄村戸長役場所管となつた。さらに45年には、中川村戸長役場に属し、大正5年中川町より分村し、新たに常盤村戸長役場を咲来市街地に設置した。分村して上流域に集落を形成するのは道内の歴史上非常に珍しいと言われている。

大正8年には2級町村制が施行され、同14年11月に現在の音威子府市街地に役場を移転し、昭和38年4月1日、村名を「音威子府村」と改称し現在に至つている。

○産業

開拓以来、馬鈴薯を中心とする畑作農業が中心だった。昭和初期には乳牛が導入され酪農家も増えたが、生産調整や価格の低迷などの外因のほか、從事者の高齢化・後継者不足などの問題が顕著化し、現在では一ヶタの戸数にまで減少した。畑作農家は現在馬鈴薯



▲アトリエ1Fに並べられた作品群



北海道 音威子府村 おといねつぶむら

の作付は全くなく、蕎麦、南瓜が大規模に作付されている。絹サヤ、ホワイ・ト・グリーン・アスパラの出荷も行われているが、従事者の高齢化等の問題は酪農農家と変わりない。

○交通

大正元年は現在の宗谷線
年に旧天北線が開通したことにより開
発が進み、鉄路の分岐点としての「国
鉄の街」として発展した。併せて国道
40号線・275号線の分岐点でもあり
道北交通の要衝地として位置づけされ
てきた。しかし、昭和59年代前半から
の国鉄合理化、昭和62年の分割民営化
平成元年の旧天北線の廃止と矢継ぎ早

の体制的合理化により、人口が激減。地域経済、福祉、教育にも大きな影響を受けた。

高等学校の遍歴

現在本村の人口は905人（22年6月末現在）であり、全国各地、この人口規模で高等学校を市町村立で運営している自治体は無いと自負している



分校として始まり、同28年に村立音威子府高等学校として独立した。当時からの大きな特色は一貫して「教諭」と「生徒」の距離感がなく、地域に根付いていたことである。しかし当時は当たり前と思われた定時制も、経済及び教育の急激な発展により、生徒が激減時代の流れとして「廃校」も余儀なし



▲北海道おといねっぷ美術工芸 高等学校 ◀工芸授業風景



翌60年には新校舎を建設し、61年には工芸実習室、平成6年には家庭科実習棟と体育館を新築し現在に至る。この間寮の増築・新築を行い21年度に更に寮を増築し、現在の在校生徒数は実際に119名を数えるまでになった。

と誰もが推測していた。
かようじそいに狩野剛校長が昭和53年に赴任になったのである。彼はすぐに音威子府村を隅々まで見て聞いて、村の「宝物」である「豊富な木材」と「村人の心の熱さ」を活用し、全国的にもなり高等学校づくりに自分の人生をかけることになった。

校長の熱意、そしてその発想力と実行力が、地域住民を巻き込み、人を呼び知恵が知識となり、思い描く高等学校の姿を現実にしていった。それは正に「夢を現実に」であった。ま

た定期制でありながら、芸術科目として工芸、職業科目としてインテリアの実習を取り入れた。この「奇想天外」な学校運営は、親はもちろん進学しようとする生徒たちにとつて特に新鮮で、「芸術に秀でる」「才能を伸ばし可能性性を追求する」として全国各地から生徒が集まつた。昭和55年には120名を収容できる「チセナシリ（アイヌ語で音威富士の意味）寮」も完備された。昭和59年、村立から道立校への「格上げ」も検討されたがその特色と意義深さを認識し、村立高等学校のまま全く日制工芸科単置とあいなつた。

隣町村には存在

せず、上川管内
北部では4番目

の大きな学校で
もある。

ここには、可

能性を信じ、高
等学校を温かく
見下り、常に「応
援」する教育関



▶美術授業風景

校生たちの歓声や笑顔、真剣に取り組

む姿に、誰もが「この村民運動会を続
けられるのも高校生のおかげ」であり、

「なくしてはならない存在」と実感して
いるに違ひない。

「夢を語れる学校づくり」へ

平成18年4月には、新任校長として札幌から石塚耕一氏が着任した。彼の夢もまた「夢を語れる学校づくり」で、それを実行していくための原動力は平成18年度に設置された「学校評議員会議」である。「東海大学旭川校との高大連携」事業や家具デザインで世界をリードするスウェーデン、レクサンド高校との「国際理解教育」事業は、高校の教育力向上と存在感を高め将来への可能性を大きく示した。高大連携

では、「東海大学へ出向き、大学から教授がやってくる」の繰り返しの中で、生徒たちは自分たちの発想を飛躍的に高め、更に技術的にも成長している。国際教育理解では、高校間の交流は非常に珍しく、スウェーデン大使館からも「積極的な交流を」と、平成20年から本校の生徒を2~3名派遣して、本村の高等学校が正にそれで、村民は、高等学校の生徒たちとなにかにつけ必ず関わりをもつ。特に村一番の大イベントである初夏の村民運動会は、高校生たちには、さながら「高校体育祭」でもあるようだ。900人の人口で約300人が参加する運動会は、高

を高め合っている。

美術工芸高等学校の教育課程は「工業高校」に習って進められていたものが「美術高等学校」に進化させなければならず、「美術工芸教育実践発表会」

「教育課程研究指定事業」への取り組みが始まった。教職員全員の英知結集が実を結び、19年度には新教育課程が編成され、20年度実施、さらに文部科学省の支援を受け、東海大学や教育大

学との連携で美術工芸教育実践研究発表会が実現した。

全クラスの公開授業や教諭のレポート発表が全国に発信され、平成19・20年度の国立教育政策研究所教育課程研究指定校（美術）21年度は同教育課程研究指定校（工芸）へと全国的にもトッピクラスマの教育実践校となり、教育関係者の訪問が飛躍的に多くなっている。

本校の教諭は、「造る・描く者とし

て自分を高めよつ」と生徒同様の志を持つており、その真剣さに色あせがないと断言しても良い。卒業・入学式時期には毎年教職員6~7名で展覧会を地元で開催して、「教える側のクオリ

ティーの高さ」を発信している。献身的な教職員の努力が、信頼へと変わり、生徒たちは、のびのびと個性を伸ばしていけるのであり、1クラス40名の定員、3学年で120名という小規模高等学校ではあるが、教諭たちの昼夜を

問わず、積極的に生徒と向き合う姿勢が、目的意識の変化に繋がっていく。ドロップアウトは皆無に近い。このような環境の中で生み出される生徒たちの「絵画」や「工芸」作品の発想力及びデザイン力、制作力が、道内で群を抜いているのも当然で、全国でもトッピレベルと言つても良い。

高文連、北海道学生美術

展、道展、道展J21などの出展では常に最高賞を受賞する生徒もあり、出展した生徒ほとんどが入選という状況である。大学へ進学する者も増え、今では道内の

美術界にとって大いに期待される逸材に成長している者もあり、後輩への大きな刺激になつてゐる。

北海道おどいねつぶ美術

▲2Fアトリエ作品群
◆2F階段アトリエ作品群



工芸高等学校では「夢を現実に」「優しさは人を変える」、この言葉を実践すべく、経営努力を続けている。

もう一方の栄光

本村の村民は、1年のうち半年間を雪と共に暮らす。積もれば捨てられるやっかいな雪、これを逆に活用したのが「クロスカントリースキー」である。年末の12月下旬には27年前から全日本大会と全日本学生スキーの大会が1週間開催され続けている。

オリンピック出場、ワールドカップなど海外でも活躍する選手たちがこの時期、目の前で競技するとあって地域の子供たちへの取り組みが始まり、今では地元生まれの本校出身者で平成26年のソチオリンピックをねりの選手も輩出するまでになった。

クロスカントリーパーは第53回冬季インターハイ（平成15年2月）と第54回

インターハイ（平成16年）で2連覇

を達成するとい

う輝かしい栄冠

を手にしている。

この栄光の陰

にもやはり教諭

の存在がある。

教諭と村教育委員会、関係者の



◀クロカン練習風景

努力によつて地元中学からクロスカントリースキー選手が入学するようになつた。「高校に行つたら野球をやりたい、そのための冬のトレーニング」にしか考えられなかつた競技が逆転して、それを専門に行つ選手が生まれた。

「いち早く滑れて5月に入つても平地でスキーができる」環境を求め道内から有力選手が集まりだし歴史が生まれた。現在指導に当たつている教諭（バシクバー）オリエンピック出場・夏見円さんの恩師）のもと、現在は9名の選手（女子3名男子6名）が在籍。4年ぶりに地元中学から2名の選手が入學し全員「インターハイ全国制覇」を目指し練習に励んでゐる。

社会教育の実践

木材工芸を教育に取り入れ「ものづくり」を通した人間力の育成の一環で、その振興を図つていぐ上では、砂澤ビックキという「精神的支柱」の存在が必要だつた。関係者は、休日遊ぶ場所のない高校生徒に目を向け、生徒指導の教諭と協議し、「運動の手伝い」を目的とした高校生ボランティアをスタートさせた。毎週末1年生から3年生まで4人1組でやつてくる高校生が、館内の清掃、土産品の販売、喫茶コーナーなどを手伝つて、大きな声で「こんじらは」「ありがとうございました」と若々しい声で清々しく来館者を迎えてゐる。

彼は、篠島を拠点に世界に向かつて現代彫刻を発信しながら、作品が評価されていつたが、その当時は「遠い存在」でしかなかつた。ビックキが没して今年で22年が経過する。8年前に彼の功績をたたえてオープンした記念館が、今高校生たちのボランティアで成り立つてゐる。



▲ビック記念館

関係者は、「知識は学校で学べ。記念館では知恵を学べ」と生徒たちに話して、人生ことと次第によつては「翻つりになれる」と書つことを知つてほしいとその活動を温かく見守つてゐる。

最後に

取り組む姿は何物にも代え難い、江戸初期「慶長」の時代に「春は花 夏時^{ホトトギス}鳥 秋は月 冬薄雪に 人は心」と詠んだ方がおりますが、四百年経過した現在でも「人は心」です。高校生がひたむきに取り組む姿はそのものであり、これを伸ばさないことには世は何も実をつけません。地域に芽生えた大切な宝を更に磨きをかけ未永く「世の宝」としたい。

音威子府村は高等学校と共に今後も全国に特色ある村づくりを発信し続ける。
教育委員会 宗原 均

（平成22年9月6日付第2732号）

この村であなたの“星”を見つけてください

—マイスターーズ登録者※8,538人に—

何にもないけど、
何でもある

初山別村って?／北海道は北のは
ずれの／小さな村です／何がある
かって?／何でもあります

空と海、／風と／太陽と土／そし
て／豊かな恵み
デパートなしです／コンビニも／
電車、ライブハウス／ないです／
でも

磯の香り、星空／雪どけ水の音／
あります／ためしに「住んで」み
ます?

「食」プロで作成したリーフレット
の一節です。

北海道北部日本海沿い、農業と漁
業を基幹産業とする、人口千五百人に

そして、平成7年7月7日、初山

満たない小さな村、それが初山別村で
す。都会の利便性には及ぶべくもない
けれど、暮らしに必要なものはありま
す。何より豊かな自然の恵みがここに
あります。

秋にはもち米が実ります。冷涼な
気候、潮風のおかげで、農薬の使用は
最小限であります。北の日本海の幸が
あります。タコ、ヒラメ、ナマコ、フ
グ・・・何故か小型のマフグがあがり
ます。

星の村 マイスターーズシステム

眺望抜群、村のオアシス「みさき台公園」海の向こうには、
「利尻富士」が浮かんで見えます



北海道 初山別村 しょさんべつむら

別村は全世界に向け、マイスターーズ宣言を発信しました。曰く、

★星を所有することは誰もできないことである。

★星を所有することとは誰にでも許されないことであるが、星の輝きに心癒すことは誰にでも許されていることである。

★その星の輝きを「自分が所有する」と主張することを、こと初山別村内においてのみ許す。

★本村は申出のあつた星の名前を永久に保管する。(抜粋)

数ヶ月後の「漫画『巨人の星』で星一徹・飛雄馬が指さしていたあの星がどの星だったのか、村職員が特定した」とのニュースとともに全国のマスコミに取り上げられました。

また、当時山手線に出した広告が縁で、ドラマ「白線流し」の舞台の一となりました。

マイスターーズシステムの登録者は、現在8,538人及びます(平成22年3月末日現在)。初山別村を第一の故郷とする方々ですか。

「食」プロ 様々な「食」の開発

◀期間・数量限定!福多幸(ふぐたこ)弁当には、1日1個、小さな幸せ(当たり)が、こっそりかくれています

焼尻両島の島影、日本海に沈む夕陽は来村者にいつも絶賛されます(村民には見慣れた景色(ごとの度再認識するのですが)。

公園内にはキャンプ場、バンガロー、パークゴルフ場、野球場、道の駅、温泉宿泊施設・岬センターがあります。ハーレーダビッドソン愛好者がこの地を気に入り、毎春キャンプ集会を開いています(200台以上のバイクが集まります)。



▶みさき台公園の中にある「じょさんべつ天文台」で、星の登録を受け付けています

平成20~21年度、村は「初山別村『食』ブランド化プロジェクト」を実

天文台があるみさき台公園は、日本海を臨む岬にあり、そこから見る海岸線、利尻富士(利尻島利尻山)、天売・

▶新食感!「天然真ふぐ照り焼き丼」

「食」による仕掛けの第一弾としてフグに着目しました。初山別村では何故かフグが獲れます。小型で、浜では「豆フグ」と呼ばれ、安価で取引されていました。このフグとともに特産品タコを素材とした道の駅弁当「福多幸（ふぐたこ）弁当」を開発販売しました。フグとタコは「福」と「多幸」。何だかめでたい、縁起がいい、というわけで、一日に一個だけ小さな幸せを



▶なまらうめえ（超）「うまい」、スイーツはハスカップカタラーナ「流れ星の純愛」冷凍すれば、アイスクリームの食感



忍ばせた「アタリ」をこつそり紛れませています。地元食材に拘ったこの弁当、期間・数量限定での販売にもかかわらず、好評をいただいています。

また、旅行雑誌じゃらんとのタイアップによる新・ご当地グルメ「初山別天然真ふぐ照り焼き丼」を開発販売し、村内食堂三店舗で年間数千食を食べていた感じです。

次に、岬センターで「ひらめ御膳」を開発、提供しました。

初山別村の活ヒラメは、漁師の手で一枚一枚丁寧に釣られる天然ヒラメ

▶岬センターの看板メニュー「ひらめ御膳」は季節限定

◀「星の露」（上品な甘みと香りをはなつ大人の味」と「茜の露」（ほんのり甘酸っぱい爽やかな味わい）は、セツトでどうぞ



で、札幌市場でも高い評価を得ています。このヒラメを素材としたヒラメのフル「ース「ひらめ御膳」を季節限定、時価（概ね三千円～三千五百円）で提供したところ大きな反響を得ました。

北のシェフとして著名な貫田シェフにもアドバイスしていただいたこの御膳、今では岬センターの看板メニューの一つになっています。

そして、カタラーナ。平成21年度は村制施行100年、国技館も誕生100年。初山別村といえば「星」、大相撲も「星」を大切にする世界。といつわけで、スイーツのブローティュースを元関取・大至氏に依頼し、完成したのがハスカップカタラーナ「流れ星の純愛」です。また、大相撲つながりでスイーツ親方こと元横綱大乃国・芝田

山親方に試食してもらつたところ、大絶賛、直筆の推薦文をいただきました。

そして、みりん。みりんはもち米で作られます。また、初山別村はもち米の産地です。というわけで、村内もち米農家7人が会社を設立、自分たちのもち米を酒蔵に持ち込み、贅沢至極な「飲むためのみりん」を造り出しています。みりんの名は「星の露」。また、村の特産品である不老長寿の妙薬・ハスカップの果汁を加えた「茜の露」も開発、初山別村から新しい食文化を発信しています。

それには、各家庭に伝わるお菓子の商品化に向けた奥さんグループの活動も始まっており、そのうちの一つ、完全手作りおこしが「ほしおこし」のネーミングで最近製品化されました。

外への発信へやつぱり星

星、お預かりします／大切な想いがこもった星を

皆さん、今／クククショーン飛び交う喧騒の中／きっと星を思い出

平成21年10月 全国に募集した「星にまつわるシナリオ大賞」受賞作が東京銀座の博品館劇場で、昭和九年会チャリティ朗読劇「星の雲」として上演されました



す暇はない／日々忙しきんだのう
な／と思ひながら

でもある日／クラクションが途
切れた瞬間に／大切な何かを思
い出す瞬間が／いつの日か必ず
あるから

大切に／お預かりします

冊子「綺羅星列伝」の冒頭文です。
マイスターーズシステムの登録申込
書とともに「想い」を添え書きしていく
れる方がいます。登録の数年後に後日
談として手紙をくれる方がいます。シ
ステムを始めて間もなく、村は登録者

の方々に案内文を送り始めました。曰
く、

「星に託された『想い』を物語とし
て寄せていただけませんか。村はその
物語をあなたの星とともに永遠に『記
憶』します。そして、いつの日かその
時の自分に会いたくなつたら天文台に
お越しください。」と。13年後、物語
は250の余編となり、「綺羅星列伝」
というタイトルで一冊の本にしました。

「綺羅星」とは、あつたけの「想い」
を込めて登録された星の一つ一つのこ
とです。「列伝」とは、星に託された「想い」

じ（物語）が集まつた、いわばマイ
スターズシステムそのもののこと、「綺
羅星列伝」というタイトルにはそんな
意味を込めています。

平成20年のクリスマスに発行し、マ
イスターーズシステム登録者全員に贈り
ました。

後日、この冊子をご覧になつた藤
村俊一さんから「何かお手伝いできる
かも」と人伝てに言つていただきまし
た。昭和九年会とのコラボレーション
の始まりです（昭和九年会＝藤村俊一
氏ほか昭和9年生まれの芸能人・文化
人の集まり。様々な社会貢献活動をし
ている）。

平成21年6月、村は「星にまつわ
るシナリオ大賞」を全国に募集、各地
から寄せられた作品の中から大賞、特
別賞を選考しました。

10月には博品館劇場（東京銀座）で、
昭和九年会チャリティ朗読劇「星の雲」
として上演され、マスコミ各社に取り
上げられました（北海道食のアドバイ
ザー出村氏に尽力いただきました）。

「食」プロは北海道の「地域再生チャ
レンジ交付金」の支援を受けて実施し

たソフト事業の集合体です。村内に眠
る様々な資源・魅力に、ちょっとだけ
手を加え、村外の方にどうても魅力的
なものになると考へています。農家

のおばちゃんの自家製の漬物や、正月
のつきたての餅や、船上で食べる透明
なイカや、街灯に飛んでくるカブトム
シすら村の財産だと考へています。
よそつきではなく、普段着のまま
の初山別村を好きになつてもらひ、村
民の収入がちょっとだけアップする、
最終的にはそこに辿り着きたいと考へ
てしています。初山別村の挑戦は、まだ始
まつたばかりです。

平成22年1月30日、国際天文学連
合（IAU）により、小惑星6158
番は「Sno san betsu」と命

名されました。とても小さな星ですが、
「ショサンベツ」と全世界の人に呼ば
れる星の誕生です。

一星空に夢とロマンを求めて
初山別村のキャッチフレーズです。

経済課 大水秀之

（平成22年5月17日付第271号）

食材王国しおりおじ誇りある 故郷づくり

北海道にある元気まち

白老町は、北海道の南西部に位置し、東隣に苫小牧市、西隣に登別市が接する。平成23年1月現在、人口19,623人、世帯数9,726戸、面積は425・75km²。町の基幹産業は、工業を中心に一次から三次産業までバランスよく構成されているまちである。

産業の概要

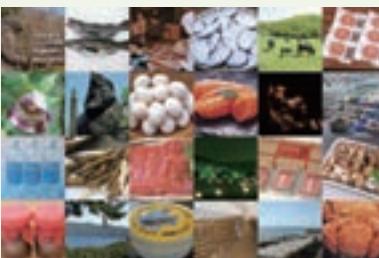
田の前に雄大な太平洋を望み、水産資源が豊富であり、水産業ではスケトウダラを中心に行き、毛ガニ、貝類が水揚げされ、優れた加工技術による品質の高い「虎杖浜たらこ」が有名であるとともに、全国有数の透明度を誇る併多楽（クッタラ）湖、町の背後に広がるほほ手つかずの原生林など美しい自然がいっぱいである。その中で農林業は北海道でも有数の黒毛和種「白

老牛」の生産や養鶏（鶏卵）、シイタケなどの栽培が盛んである。一方、工業は、道央中核地域に属し、地域産業の流通拠点である地方港湾白老港が整備され、製紙業をはじめ、食品製造業、機械器具製造業、精密機械製造業などが進出している工業団地がある。また、産業・流通の交通アクセスにも優れ、道央自動車道（陸）、白老港（海）、千歳空港（空）に隣接している。気候は道内でも夏は涼しく冬は雪が少なく温暖である。

むろに、本町は、道内を代表するアイヌ文化の伝承の地であり、自然を神としたアイヌ民族の生活と文化を復元し保存伝承している（財）アイヌ民族博物館には、多くの修学旅行生や外国人旅行者をはじめ、町全体で年間約200万人の観光客が訪れている。近年は後で紹介する「食材王国しおりおじ」の取組みとともに食産業と観光が連携しある地域振興を図っている。



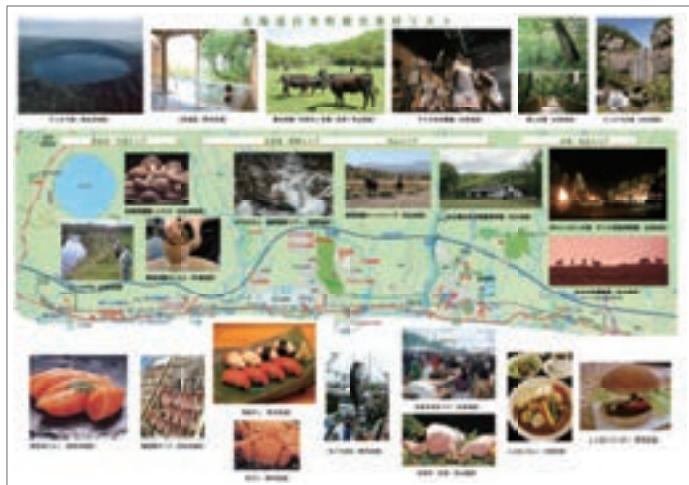
▲虎杖浜温泉キャラクター
「ゆたら」



北海道 白老町 しらおいちょう

▲ポロトコタン

町民活動・福祉の概要



町民活動は、平成3年地域C（「ニユーニチ・アイデンティティ」）の導入以来、「元気まわりづくり」に取組み、協働のまちづくりが進み、加入率100%である町内会連合会が地域自治を進め「町民まちづくりセンター」として町内会と各種ボランティア・NPO団体、文化・スポーツ団体、自然環境活動団体などの町民活動団体とのネットワークによる活動の取組み、情報の収集・発信、相談などの機能を有する活動が進んでいます。

して活動している。また、議会改革の取組みも注目され、白老町議会では国内で初めて「通常議会」の導入や議員活動の充実に取り組んでいます。さらに、子どもからお年寄り、障がい者など福祉の取組みも長年にわたり盛んで、NPOによる子育てネットワークの取組みや障がい者が生き生きと働く事業所などがある。近年では高齢者に操作性

し国内でもトップのリサイクル率に達する」とから注目されています。

このように白老町は、人が元気、自然が元気、産業が元気な「北海道にある、元気まち」である。とりわけ、今回は、食と観光を中心として「誇りある故郷づくり」に取組む産業活動をレポートする。

「食材王国じゅねい」の取り組み

急通報機能をもたせる「高齢者見守り・生活支援システム事業」が注目を集めている。

環境活動の概要

環境活動は、自然環境保全活動としてNPOが活発に活動するほか、ゴミをリサイクルするところ最先端の工事を実践する「エコリサイクルセンター」（白老町バイオマス燃料化施設）で町内から出る可燃ごみ、生ごみ、木くず、食品残渣、廃プラスチックの多様な廃棄物を飽和水蒸気を用いて固形燃料に生成し、工場の石炭代替燃料として使用することによりリサイクルしている。この施設によって19%だったリサイクル率は90%以上にまで上昇

に点在する観光資源を有機的に結びつける。②旅行者の誘客と滞在時間の向上による観光消費額の増加を図る。③裾野の広い観光産業から地域全体に経済波及効果と活力を創出する」とに注目して提案されたのが、「食」が文化、自然、温泉をつなぐキーポイントとなる「食材王国じゅねい」の取り組みである。

◇官民協働の推進体制づくり

白老町では、「港まつり」、「牛肉まつり」や「白老港朝市」など、これまでに商工会、農協、漁協が中心となるて開催されている産業イベントによる地域活性化に向けた取り組みをさらに

◇低迷する観光産業を立て直す
白老町では、平成3年度に250万人を超えた観光客数が、平成17年度には185万人にまで減少し、観光産業は危機的状況に直面していた。特に、

観光の基幹施設であったアイヌ民族博物館の入場者数も平成3年度の87万人をピークに平成17年度には23万人まで落ち込んでいた。

行政においてもこの危機感の高まりから、それまでの管理・指導型の体制から実践・営業型の組織体制に改編し、自治体間の広域連携の確立や民間旅行社との交流による振興策の導入など官民協働による地域活性化に取り組んだ。



▲牛肉まつり 2011年は、6月4、5日に開催され、来場者は、過去最高の49,500人でした！

発展させ、町をはじめ商業・観光事業で地域活性化に向けた取り組みをさらに

源を基盤に、生産から加工、流通、消費を目標に、地域活性化の継承や発展を目指し、地元の多彩な食文化の継承や発展を目指す「白老の食材を活用したフェア」「大白老祭」、三国シェフと子どもたちによる



▲食材王国しらおい推進理念図

費に至る取り組みによって食品部門の基盤強化、観光産業の活性化を図り「誇りある地域づくり」を進める体制とした。事業の柱となっているのは、「産業の活性化」「観光と農林水産業の連携」「ヒトづくり・ネットワークづくり」「「食育」の4つであり、この推進理念により地域ブランドを強化して町の未来に繋げていくことである。

◇食材王国しらおいの主な歩み

【萌芽期】(平成16~17年度)

故郷の素晴らしさを皆で知ろう

まず、地域の団体や地域住民に対する働きかけとして、町職員が町内の様々な施設や企業を個別に訪問し、抱えている課題を聞き取った。その上でによる課題解決に向けてこれまで繋がりのなかつた事業者間や産業間を繋ぎ新たな産業が創出されていった。

【実践期】(平成18~19年度)

飲食店との連携強化、生涯食育へ

味覚の情操教育「食育授業」、商工会による「産消協働ショップ」など多岐にわたる事業を実施した。



あお、地域の団体や教育機関などとも連携して、地域に根ざした豊富な食材を用いた「地産地消」による新たな地域づくりに取り組むため、平成16年度から啓発事業を開始するとともに組織づくりを行った。平成18年度に「食材王国しらおい地産地消推進協議会」が発足した。協議会は、食に関する消費者と生産者の信頼関係の構築、豊かな食文化の継承や発展を目指し、地元の多彩な食資源を基盤に、生産から加工、流通、消

▼じゃらんとのタイアップで
生まれたしらおい蔵バーガー



平成18年度には農・漁業、観光業界から消費者協会に至るオール白老による「食材王国しらおい地産地消協議会」を設立。町内初の取組みとして、普段は町内に流通しない白老近海で水揚げされた本マグロを提供する「まぐろの日」を企画し、町内の飲食店6店で開催したところ、各店とも平日の2~3倍の入込客を記録するなど好評であつた。

そして、観光協会では、町内飲食店と協賛したご当地グルメとして「じゃらん」とのタイアップ企画で「白老バーガー＆ベーグル」を開発。当初10店舗が域内調達による商品開発と販売を開始し、年間5万個を越す売り上げとなつた。また、商工会においても全国商工会連合会の支援を受けて、独自ブランド「白老料理」を開発するなど飲食店を中心とした地場産品との連携が強化された。

また、食育の取組みは小学校での単発な授業から総合学習と連動した取組みに成長し、北海道栄高等学校では選択授業である「味わいクラブ・楽食」の学習テーマを「食材王国しらおい」にわたる事業を実施した。

しかし、レシピの考案から飲食店でのテスト販売に至るまで、

る授業として深まつた。

【発展期】（平成20～22年度）

産学官民連携による
ビジネス構築を目指して



▲アイヌ伝統料理



5年目を迎えた

平成20年度は、北
海道の支援を受
け、食による地域
活性化を目指した

「食材王国じりおじブランド強化事業」
としてプロジェクトに取組み、内容は、

①白老「薬膳料理」開発事業 ②元気
農園プロジェクト事業 ③じらおい
シーフードカレー開発・PR事業 ④

海の畠づくり事業 ⑤食材リスト作成
事業の5つで構成され、本町の豊富な
山海の幸やアイヌの伝承有用植物を素

「白老牛」の図形商標



材に、地域に
根付く文化の
独創性を前面
に打ち出し、

産学官の連携
による新たな
料理・食品・商品を開発して、生産か
ら加工・販売までトータルコーディ
ネートすることと、食材に「附加值」
を加え、産業の底上げを目指した。

◇取組みの成果とまちおこしへの効果 (白老の特性を活かした振興策)

観光客数の減少や商工業の低迷から始まった「食材王国じりおじ」の取組みは、従来の行政の仕事を大きく変えた。ひとつは観光や商工といった総割りの仕事や調査・報告といった管理型の体制を、より行動実現型にするための行政内連携体制とともに、現場主義の実行や産業間連携が深まり関係機関の垣根がなくなりたこと。これまでの民間が中心の活動からまち全体を考えた地域振興として活動できるようになつたこと。そして職員が白老町をトータルに売り込むセールスマントとして企画書を作成して積極的に営業し、

込数が208万人にまで回復した。

しかし、まだまだ国内景気の低迷が続くなか、課題は山積しているが、農林水産業の生産者から加工業者、飲食店、福祉・環境関連事業者などが連携することでお互いが抱える課題を解決できることが多いことに気づき、自ら主体的に取り組もうとする意識変化がある限り将来への可能性が高まつた。観光の形態も時代とともに変化し、

団体旅行から個人旅行へ、見学旅行か

ら体験旅行へ、そして、健康旅行や産業観光など多岐にわたる。平成23年、本町では、バラエティーに富んだ産業を抱える町の長所を活かして、中学校の宿泊旅行向けに職業体験メニューの

開発を進めている。農業・漁業体験のほか、ネイチャーガイド、文化伝承者、

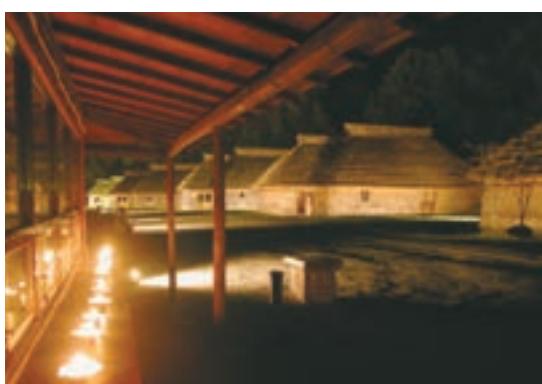
学芸員、陶芸指導、リサイクル業、木テル業、小売業、福祉施設などの1次～3次産業までの全てで受入れ可能な体験商品をつくったといい、早くも6月に東京事務所を置き、企業・観光・商

工といった部門を中心に職員を常駐させ、首都圏での企業や産業との連携を

強化して、町内の産業界とともに生産・消費や誘客の拡大を図るシティセールスを行なっている。その結果、首都圏発の旅行商品の開発・催行や旅行会社の担当者などが下見に多く訪れるなど、また、首都圏の飲食店で白老地場産品の取り扱いが増えるなどの効果が現れていく。

このように積極的に活動する白老町は、アイヌ文化という地域独特の資源や自然の豊富さ、そして何より産業間連携や人材ネットワークといつ利点や強みを活かして、食と観光、食と産業といつ切り口に着目して「食材王国じりおじ」を進め、誇りある故郷づくりを目指している。

白老町産業経済課 高橋裕明



▲ポロトコタンの夜(チセ夜景)

(平成23年6月27日付第2764号)

「自然・利便性・話題と魅力は多い町の課題」

—移住・定住化促進による活気あるまちづくりを目指して—

はじめに

安平町は平成18年3月、追分町・早来町が合併して誕生しました。

札幌市から50kmほどの道央圏に位置し、北海道の空の玄関「新千歳空港」と北海道の海の玄関「苫小牧港」に隣接し、JR室蘭本線をはじめ道央と道東を結ぶJR石勝線や道東自動車道が通るなど、交通・物流の要衝として陸海空に恵まれた場所にあります。

町内には多くのゴルフ場があり、夢の「ゴルフ三昧も実現できる場所となつてあり、ゴルフをされる方からは「ゴルフ銀座」とも言われるほどであります。

そのほか、日本競馬界トップクラスの競走馬を育てている牧場が数多くあり、多くの馬が放牧されている北海道らしい風景を目にすることができる地域となっています。

自然と調和した住宅地

安平町と土地開発公社では、町内3か所の分譲地を造成し販売を行っています。

それぞれ特徴をもつた造成地のうち「ラ・ラ・タウン・おいわけ」をご紹介します。

かつては蒸気機関車の格納庫などがあった追分機関区跡地の一部に「ラ・ラ・タウン・おいわけ」はあります。新千歳空港に近く、駅には特急も停車するアクセスの良さから、北海道外からも多くの方が住まわれています。

住宅の屋根を三角屋根にすることなどの建築協定や、電線の埋設化を行い電柱のない美しい家並みを実現した住宅地として整備しています。

ゆとりのある敷地ではガーデニングも楽しめ、目の前にある日本最古の保健保安林「鹿公園」との調和で四季を感じた生活を楽しむことができます。

電線埋設により電柱のない美しい町並みを実現。
豊かな自然と便利な生活環境が人気です。



北海道 安平町 あびらまち

①住宅建設奨励助成金

1. 経済面の支援

環境の良さに限りらず移住への促進（後押し）対策として「定住促進条例」があります。平成18年に合併して誕生した安平町では旧町時代より人口確保対策の取組を継続しており、今までの単に町の分譲地の販売促進対策ではなく子育て世代や多子世帯への支援も見直した移住者、在住者に魅力のある町としての取組を進めています。

そんな中「安平町」は新しい町となつた時期でもあり、本州方面への町のPRも始めたました。

▲おためし暮らし住宅は3LDK平屋

►8畳のリビングは暖房機なども完備

四季折々、町では町民を対象に生涯学習や健康教育を目的とした各種事業を実施していますが、それらは楽しい中にも健康な生活につながる工夫がなされています。

町での暮らし方には・・

定住化促進のための取組



►住宅地に隣接する鉄道資料館に静態保存されている蒸気機関車D51

町内で利用できる商品券等の金券などを支給する。
町内3つの分譲地に住宅を建設した場合に限り助成金を支給 最高50万円の助成金支給
②出生祝い金

町内で利用できる商品券等の金券などを支給する。
町内3つの分譲地に住宅を建設した場合に限り助成金を支給 最高50万円の助成金支給
②出生祝い金

第1子は 3万円相当
第2子は 5万円相当
第3子は 10万円相当
第4子以降は 50万円相当
その他子育て世代・多子世帯への支援として、町内認可保育園へ同時入所している場合、保育料が2人目が半額、3人目が無料とする保育料の負担軽減の支援もあります。

● 住宅について

この「おためし暮らし」住宅については、昔の職員住宅（教育長公宅）

②体験事業について
2人で1週間：24,000円
2人で1ヶ月：48,000円
水費は実費負担）



►そば打ち体験

を利用しております。

住宅には、体験者が手ぶらでできるよう、家電や家具など、最低限の生活必需品も用意しています。（光熱



▲おためし暮らし住宅は3LDK平屋

►8畳のリビングは暖房機なども完備

四季折々、町では町民を対象に生涯学習や健康教育を目的とした各種事業を実施していますが、それらは楽しい中にも健康な生活につながる工夫がなされています。

永く住むには教育や子育て、健康

暮らしさやすさや魅力を伝える努力

例えば室内プールを使った事業には、水泳教室や健康教室などを設け、子供向けや高齢者向けなど、用途を選択できる教室を開設しています。

北海道発祥のパークゴルフは春から降雪前まで町内いたるところで楽しめる上、冬には野球場の雪上にコースを作り一年中楽しめたり、町内のスキー場や屋内外のスケートリンクではスピードスケートやアイスホッケーを楽しむことができ、初心者から世界を目指す選手までが利用しています。

文化面の事業も多く定期的に開催されるコンサートや講演会といったスローライフの材料も整えています。

町内に不動産業者が少ないので、不動産情報のリサーチや近隣市のハウスメーカーへ営業訪問を行うことや、移住促進住宅（ラクラク住宅）として状態の良い経年住宅をリユースアルして

例えば室内プールを使った事業には、水泳教室や健康教室などを設け、子供向けや高齢者向けなど、用途を選択できる教室を開設しています。

北海道発祥のパークゴルフは春から降雪前まで町内いたるところで楽しめる上、冬には野球場の雪上にコースを作り一年中楽しめたり、町内のスキー場や屋内外のスケートリンクではスピードスケートやアイスホッケーを楽しむことができ、初心者から世界を目指す選手までが利用しています。

文化面の事業も多く定期的に開催されるコンサートや講演会といったスローライフの材料も整えています。

移住希望者の関心の高い項目を盛り込み、わかりやすく作成された「移住ガイド」には実際に移住者の声を取り入れるなど、町の魅力を紹介するアイテムも用意しています。

まちづくり推進課の取組には今までに経験した多様なお客様一々に対応しようとすると考えるが取り入れられています。

例えば室内プールを使った事業には、水泳教室や健康教室などを設け、子供向けや高齢者向けなど、用途を選択できる教室を開設しています。

北海道発祥のパークゴルフは春から降雪前まで町内いたるところで楽しめる上、冬には野球場の雪上にコースを作り一年中楽しめたり、町内のスキー場や屋内外のスケートリンクではスピードスケートやアイスホッケーを楽しむことができ、初心者から世界を目指す選手までが利用しています。

移住希望者の関心の高い項目を盛り込み、わかりやすく作成された「移住ガイド」には実際に移住者の声を取り入れるなど、町の魅力を紹介するアイテムも用意しています。

まちづくり推進課の取組には今までに経験した多様なお客様一々に対応しようとすると考えるが取り入れられています。



▲(上)水泳教室 (中)雪上パークゴルフ大会 (下)コンサート

格安な家賃の物件などを用意するなどの取組も行っています。

紹介された事業以外でも新規就農や新規起業、企業誘致などいろいろな部署との連携で定住化策を進めています。

年度の3ヵ年事業として、民間アパート建設助成を実施し、町外への流出を抑制、町内への移住・転入における居

住先の確保を目的に人口確保策も進めています。

定住化促進対策のこれから

「おためし暮らし」体験を平成19年度から実施してきて、体験者数や滞在日数としては伸びてきている状況です。(表1参照)

しかし、すぐには「移住・定住」には結びついていない事も現実で「将来の移住候補地として…」の成果などもあっています。

日本全体で人口減となっている現状のなか、安平町はこれからも、民間活力の導入などによる宅地整備をはじめ

市部への人口流出や一極集中化、少子高齢化といった問題が顕著となっています。平成21年度については、町の対策により社会増減等において一定の歯止めをかけることができましたが総体数ではマイナスとなっています。

町の最重点課題の「定住化施策・



◀移住ガイド

表1 移住体験者実績

年度	体験数	日数	体験者居住地
H19	5組	39日	東京都・京都府
H20	7組	94日	愛媛県・徳島県
H21	7組	155日	神奈川県・愛知県・長崎県
H22	6組	206日	東京都・埼玉県・千葉県
H23	5組	109日	神奈川県・兵庫県・大阪府
H24	7組	151日	東京都・愛知県・宮崎県

「人口確保施策」は、子育て・教育・福祉・介護等いろいろな分野の連携が重要であり、定住希望者や移住希望者の二ーズも高まる中での整理が更に必要となつてくると考えています。

地域資源の活用

安平町内の多くの「ゴルフ場、日本競馬界で活躍する競走馬を育てている牧場などに、年間40万人ほどの観光入込客数があります。

反面、地理的に恵まれた場所は観光的には通過型の町になつていてこれらのお客様の目をどのように町内に向けるかも大きな課題です。

町の名産品としては、高級ブランドの「アサヒメロン」やチーズ発祥の地でもある「カマンベールチーズ」などがありますが、観光面の知名度を上げていく取組が大きな成果に結びつくやうな知恵も必要と考えます。



夢が現実！全国、そして世界へ雪だるま小包について

北海道民にとっては、邪魔なものとして扱われる「雪」を活用した取組として、「雪だるま小包」があります。

旧早来町時代の郵便局長が発案し、「北海道では雪は邪魔もの扱いだが、本州では雪は喜ばれるもの」と全国へ真っ白な雪を届けることで町をPRしようと考えたのが発端で、雪だるま型の発砲スチロール容器に新雪を詰め込み、「雪だるま小包」として全国へ「雪だるま」を発送しています。

1986年に試行錯誤、悪戦苦闘でスタートしてから今年(2010年)



平成17年12月に特別住民として

で25年、その人気は全国に届かれています。

2008年2月、安平町から2m

(重さ1トン)の「四大雪だるま」を地球の反対側、南米ブラジルへ届ける奇想天外な企画に成功しました。

もちろん「雪だるま小包」も届けましたが、実際に雪に触れる機会のないブラジルの方々は子供も大人も雪に触って目を輝かせていました。

日本では冬の2月、でも現地ブラジルは真夏のサンパウロカーバルの季節。

苦労が実り無事に数時間の企画の間、溶けることなく最後まで四大雪だるまは形をどどめました。

町はこの「雪だるま」を地域資源として特別住民登録を行っています。

早く雪だるま郵便局の局舎の屋上には雪だるま型のモニュメントがあり、地域特産として欠かせない存在である雪だるまの功績をたたえ、ゆうパック開始20周年を記念し、

▲早来雪だるま郵便局



►特別住民登録表

登録し毎年住民票の限定発行を行っています。

地元のキャラクターやアニメの人気者などが特別住民として登録されることはあるのですが、当時、建造物としてはこの「早来雪だるま」が日本で初めてのことでした。

今年も全国に向けて雪だるま小包の発送は始まっています。

更に平成22年度には本州方面からクルージングツアーのオプショナルツアーに、安平町にて「雪だるま」づくり体験の採用が決まり、観光面においても交流人口を増やす大きな役割を担っています。

(平成22年12月20日付第2743号)
安平町長 瀧 孝

潤いと彩りあふれる 田園文化都市を目指した町づくり — 東北新幹線全線開業を迎えて —

はじめに

七戸町は八甲田連峰の東側に位置し、総面積3337・23km²のうち山林が約65%を占める自然に囲まれた内陸の町です。

連峰の外輪山・靈峰八幡岳から続く裾野には、広大な家畜改良センター・奥羽牧場が牧歌的雰囲気を漂わせ、高低差の少ない丘陵を利用し畑作・水田地帯が広がっています。

町の基幹産業は、畑作・水田・酪農などを中心とした農畜産業です。この地域は、山背の影響で夏でも日照が不足し冷夏の年も度々ですが、農業者の方々がまぬ努力で出来秋を迎えております。他の地域と比べて決して条件は良くありませんが、清らかな水と澄んだ空気、豊かな大地が安心安全な農畜

産物を提供しています。

町の広域交通網は、国道4号が南北に縦断し、国道394号が4号と交差して東西に延びており、また、みちのく有料道路で県都青森市と結ばれているほか、平成22年12月4日には町のほぼ中央に東北新幹線七戸十和田駅が開業するなど地理的条件から県南地方における交通の要衝として重要な役割を担っています。

今後は一般国道45号の三沢・大間林間や下北半島縦貫道路の早期整備を、全線開業の波及効果を県内等しく受けるための最重要課題とし、関係機関に強く働きかけていかなければなりません。

北辺の小城下町

七戸町の歴史は古く、縄文時代の遺跡は町内に数多く存在し、特に二ツ



▲しづのへ秋まつり 嘘嘆太鼓



青森県 七戸町 しづのへまち

▼平成22年12月4日 全線開通する東北新幹線七戸十和田駅。



▲国指定史跡 ニツ森貝塚

森貝塚は平成10年に国史跡に指定されております。平成21年には、二ツ森貝塚や三内丸山遺跡など北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群がユネスコの世界遺産暫定一覧表に記載され、県が中心となり世界文化遺産登録に向けた活動



七戸の名は、鎌倉時代に馬產地として初めて文献に登場します。建久2年(1191年)には、甲斐の南部郷から下向した南部光行の三男・七戸太郎朝清が七戸の地を治め、南部八戸城の支城として七戸城が造られ城下町が形成されています。以来、江戸時代には代官所、明治に入ると郡役所が置かれるなど上北地方の中心として栄えておりました。町場は活気にあふれ近江商人が住み、酒造業や呉服屋、小間物屋が建ち並ぶ小城下町でした。七戸城は昭和16年に国史跡に指定されました。

余談ですが、昭和59・60年から山梨県南部町、身延町、岩手県盛岡市、遠野市、二戸市、そして青森県八戸市、三戸町、南部町、七戸町の9市町が「南北のそにし」のもと南部首長会議を開催し、平成18年には領民68万7千人、面積361、488町（3、5885・02

kmほど東側の上北町（現在の東北町）に新駅ができました。駅舎を持たない七戸町は、十和田市、三沢市など新興都市の台頭と相まって上北地方の中心としての地位を失い、町も次第に衰退していったのです。

このような歴史的背景が、町民の鉄路に対する想いを一層強くし、昭和37年には七戸・野辺地間に南部縦貫鉄道を開通させ、東北本線に接続する鉄道として物資や旅客の輸送を担つていました。しかし、モータリゼーションの進展など自家用車の普及とともに営業は厳しくなり、ついに平成14年廃止されました。

本鉄道が使用していた車両は、バス車体の構造と部品を多用して造られたクラッチとシフトレバーのあるマニュアル車で、レールバスと呼ばれて

南（）、石高1千万石を保有する「平成南部藩」を結成。毎年子じゅサニシトや参勤交代、一日国替えなどの事業を実施しながら絆を深めております。

鉄路への想い

▲新型新幹線「E5系」13年春には東京—青森間を3時間5分で結びます。



いるユニークな可愛らしい車両です。毎年5月には、全国の愛好者で作る「南部縦貫レールバス愛好会」が主催してレールバスイベントを開催しており、全国から多くの鉄道ファンが詰めかけ大変なにぎわいを見せています。

いのこちのへ産直七彩館

▲こちのへ産直七彩館



文化村」があり、物産館や当町出身の洋画家を記念して建てられた鷹山亭—記念美術館、農家の朝ざりの新鮮な野菜を販売する農産物直売施設七彩館、七戸秋まつりで出陣した山車の展示と製作を間近に見るひとのできる山車展示館があります。



▲温度と湿度調整だけで長時間熟成発酵させた黒ニンニク。においが少なく、そのままフルーツ感覚で食べられます。

観光地への玄関口

東北新幹線七戸十和田駅の開業は、先達の方々の鉄路に対する熱い想いを無くして語ることはできません。ミニ新幹線導入計画が浮上した時には県内自治体や全町民が一丸となり、フル規格導入に向けて努力してきました。今こうして開業を目前にし、長年フル規格による早期開業のために尽力された方々に対し、地域住民を代表してお礼申し上げなければなりません。

七戸十和田駅の外壁曲線は、八甲田連峰の山並みと南部馬の優しい背中を表現し、心安らぐ

七戸十和田駅は地理的に大変恵まれた場所に立地しており、文豪大町桂月がこよなく愛した奥入瀬溪流や十和田湖、本州最北の地・下北半島、山岳

景観と素朴な温泉地が点在する八甲田山へは最も近い駅であることが、十

シ「駅から観タク」を始めることになり、またレンタカー会社4社の出店も決定し、二次交通の形が整つてきました。

駅前整備については、新幹線利用客だけでなく一般客も利用する、日常的に「いざわいのある駅」を目指して整備を行つており、平成23年春には駅南側に大型スーパーが進出し、道の駅とともに新幹線駅前は活気に溢れる場所となります。そして、このにぎわいを町の中心商店街や景勝地をめぐる観光コースに誘導することが重要であり、行政や商工会、観光協会など関係機関が一体となり新たな商品開発における試行錯誤しながら進めています。



和田湖、下北半島、八甲田山の玄関口として観光客の利用が期待されます。

しかし、ほかの新幹線駅と比べ鉄路の接続がありません。このため、二次交通の整備にむけて地元の交通関係者と協議を重ねてきました。幸い、十和田観光電鉄とJRバスがほぼ毎日運行し、地元のタクシー業者も観光タク

湖、下北への観光客やビジネス客の交行し、地元のタクシー業者も観光タク

シ「駅から観タク」を始めることになり、またレンタカー会社4社の出店も決定し、二次交通の形が整つてきました。

駅前整備については、新幹線利用客だけでなく一般客も利用する、日常的に「いざわいのある駅」を目指して整備を行つており、平成23年春には駅南側に大型スーパーが進出し、道の駅とともに新幹線駅前は活気に溢れる場所となります。そして、このにぎわいを町の中心商店街や景勝地をめぐる観光コースに誘導することが重要であり、行政や商工会、観光協会など関係機関が一体となり新たな商品開発における試行錯誤しながら進めています。

終わりに

七戸町は、わずか1万8千人に満たない小さな町です。

平成17年3月、七戸町と天間林村が合併し新生七戸町が誕生しましたが、それでも人口は年々減少し、反して高齢化が加速度的に進んでいます。このような町に先達の方々や周辺自治体、全町民が一つになり完成したのが東北新幹線七戸・十和田駅です。

(平成22年11月29日付第2741号)

七戸町長 小又勉
地と位置付け、周辺自治体ともども発展していかなければと願っています。
十和田駅を文化、観光、産業の発信基地と位置付け、周辺自治体ともども発展していかなければと願っています。

広域的に開業効果を享受するため、上とで自然に優しい駅、環境に配慮した駅の実現を目指しています。本事業を拡大・発展させるためには、電気自動車の性能の向上や充電スタンドの設置など多くの課題がありますが、周辺自治体と連携を密にしクリーンな地域、観光地にするため、試行錯誤しながら取り組んでいます。平成22年度は、電気バスの購入と道の駅に充電ステーションを設置し、平成23年4月から電気バスを町内巡回バスとして常時運行する予定であり、全国でも先駆けた取り組みとなります。

新幹線全線開業は「ホールではなく、これが、駅舎の町七戸に与えられた使命と考えておられます。



▶町の木 銀南木(いちょうのき)

電気自動車で クリーンな地域を

機関が一体となり新たな商品開発における試行錯誤しながら進めています。

政や商工会、観光協会など関係機関が一体となり新たな商品開発における試行錯誤しながら進めています。

奥入瀬川の恵みと笑顔あふれるまち

—私たちのまち私たちの手で
満足度七十% 納得度百%のまちづくり—

はじめに

おいらせ町は青森県の南東部に位置し、南は八戸市、北は三沢市に接し、それぞれの中心部には車で二十分から三十分の距離にあります。さらに西には十和田市があり、ここへも同程度の距離にあります。このため新幹線八戸駅、あるいは三沢空港にも比較的近く、その他にも東北自動車道やそれに連なる有料道路が南北に走り、その一にも二カ所設置され、第三セクターの青い森鉄道駅も二駅あるなど交通の便には非常に恵まれた地域です。

また、本州北端の県にある本町ですが冬も降雪量は多くなく、年間降雨量も千ミリ程度と暮らしやすい環境にあります。

町の南部には国立公園十和田湖を源とする奥入瀬川が流れ、流域を潤し水田が広がっています。また、北部は台地が広がり畑作が盛んです。

一方、町の東部は太平洋に面して

おり漁業も営まれています。

このほか、工業団地などには誘致企業が三十一社操業しています。

さて、本町は平成十八年三月一日に旧百石町と下田町が合併して誕生しました、まだ六年の若い町です。町名の由来は、町を流れる奥入瀬川からもので、親しみやすさと奥入瀬溪流のある地域と区別するためひらがな表記の町名になりました。

人口は平成二十四年一月一日現在二万五千人余りで、県内では稀な人口が増加している町で、人口規模も町村では一番の町です。要因としましては、前述のように周辺三市に近く、交通インフラが整っている、あるいは自然環境が良いなどからベッドタウン的因素が強いことが挙げられると思います。また、少し古くなりますが、当時では東北最大級といわれたショッピングセンターが平成七年に立地したことその一つと考えられます。



青森県 おいらせ町

▲町内を潤しながら流れる奥入瀬川(遠景は八甲田連峰)

満足度七十%、納得度百%のまちづくり



◀達成目標を数値化した町総合計画書

前に記したとおり、本町は平成十八年三月に合併しました。そこで、旧町の成果を引き継ぎ、さらなる発展を目指すべく第一次おこりせ町総合計画を策定しました。目指す将来像を「奥入瀬川の恵みと笑顔あふれるまち」とし、平成三十年を最終計画年次に定めています。

その詳細は省きますが、この計画の特徴的なところの一つは、取組みの対象や目指す姿を明確に示してくる、また達成目標を数値化していくところです。ある施策について、それを実施するのによつて将来はこのように「なつこうる」と結果を想定した表現で示し、例えはココロニティ関係であれば、町内会への加入率や住民自治組織数などを現状と目標値を示すところなのです。これは状況を把握しやすく共通認識しやすいといつ効果があります。

その詳細は省きますが、この計画の特徴的なところの一つは、取組みの対象や目指す姿を明確に示してくる、また達成目標を数値化していくところです。ある施策について、それを実施するのによつて将来はこのように「なつこうる」と結果を想定した表現で示し、例えはココロニティ関係であれば、町内会への加入率や住民自治組織数などを現状と目標値を示すところなのです。これは状況を把握しやすく共通認識しやすいといつ効果があります。

キャッチフレーズに謳つてあります「私たちのまち 私たちの手で 満足度七十%、納得度百%のまちづくり」ということですか。これはまちづくりは住民が主体としていること、情報を共有しながら、対話し、お互いの合意形成を図るところの意志が含まれています。

つまり、今の経済情勢の中、持続可能な町であるためには「それぞれ判断基準が違つ住民の多様なニーズに対し満足度百%を達成することは困難」との考え方で「その行政サービスを提供できない」とすればその理由を説明し合意形成を図ることにより納得してもよいとする考え方です。最初から目標値を下げて取組むのではなく、説明責任を十分果たし、それで納得してもらひえたなり満足度も高まるのではなじかとつことです。現実となるとむずかしい面もありますが、そうした姿勢を大事にしなければと思ひます。

しかし、それではアピール度も弱く、全体的な波及効果が期待できない、もつと総合的な取組みをと、平成十九年度に地域ブランド戦略を取りまとめました。そして「おこりせ」をキーワードに全国発信できる地域ブランドをつくり、それを地域づくりに、産業振興につなげようとする取組みがスタートしたわけです。

本町は合併に伴つて、総合計画とは別にもう一つ町の柱となるものを作りました。それは、町の憲法ともいわれる「自治基本条例」です。

この条例は町民の権利、町民、行政及び議会の役割と責任を明らかにするなど、自治の原則と仕組みに関する基本的な事柄を定めたものです。この

中には毎年度運用状況の検証作業を行ひつつ規定も謳つてあります。ですかひつて条例をつくりました。後々それだけで「ここに」とではなく、後々その運用状況が問われる仕組みになつていふところことで、条例の理念が担保されるところになります。

おこりせアソブランド確立への取り組み



◀イベントで特産品などをPR

的には、町のイベント（鮭まつりなど）と農業体験を絡めたミニテーマの企画や地元産品を使った新たな特産品の開発、販売ルートの開拓、認定品制度の創設、あるいは中央のイベントなどに出店して商品のPRをしながら評価を受けねなどなどです。平成二十四年度からは商店街にサロンを出す取組みをしています。

これらの取組みはいま縁についたばかりであり、ましてこの種のものは、一朝一夕に結果が出るものではなく、今後長い取組みをしていかなければと考えております。

具体的な取組みを進めてきています。具

太陽光発電設備設置に補助 光回線未整備地区の解消



▲補助制度創設で太陽光パネル設置にはずみが
(イメージ)



▲ニューヨークの女神像の妹？町の観光名所
の1つに
▼つかみどりした鮭を手に笑顔の参加者



(平成24年2月20日付第27-90号)
おじらせ町総務課

本町では今年度から一般家庭を対象に太陽光発電設備を設置する場合、経費の一部を助成する制度を創設しました。これは平成二十一年度に策定しました「おじらせ町地域新エネルギー・ビジョン」に重点プロジェクトとして太陽エネルギーの活用を掲げており、それを具体化したものです。

内容としましては、一キロワット当たり四万円、最高額で十六万円を助成するところのもの。当初は二十件分の三百万円を予算措置していましたが、要望が多く、さらに三十件分の増額をしていました。

この取組みなども推進プロジェクトとして位置づけており、今後これらも推進していく予定です。

この他ICO-T関連で若者の定住や利便性の向上のため、光回線の未整備地区の解消に取組んでいます。本町内には電話局の管理区分の都合で、光回線が利用できない地域がありました。

このため、町が総務省の交付金などを活用して回線の整備をし、ーRUI方式により通信事業者が光ブロードバンドサービスを提供しています。

おじらせ鮭まつりは町の風物詩的イベントで、その日使われる鮭の数が二千匹で日本一ということギネスに載ったこともあります。これは、奥入瀬川に遡上していく鮭を特設の生簀に放し、それをつかみ取りかるというのがメインのイベントで、この日は米軍の関係者の来場も多く国際色豊かな雰囲気の中で一日を楽しむことができます。

また、毎年十一月に開催しています。おじらせ鮭まつりは町の風物詩的イベントで、その日使われる鮭の数が二千匹で日本一ということギネスに載ったこともあります。これは、奥入瀬川に遡上していく鮭を特設の生簀に放し、それをつかみ取りかるというのがメインのイベントで、この日は米軍の関係者の来場も多く国際色豊かな雰囲気の中で一日を楽しむことができます。

なあ、「古聞は一見に如かず」です。ぜひ一度お立寄りいただきたいと思います。その際はくれぐれも国立公園奥入瀬渓流のほうではなく、そいかつ流れこぼれる奥入瀬川の東端の町ですのでお間違いのなじよハ」。

ビジョンの中では「エネルギー・環境教育」も重点プロジェクトとしていますほか「バイオマス」や「BDOE」の取組みなども推進プロジェクトとして位置づけており、今後これらも推進していく予定です。

くつたもので、地域活性化の起爆剤との狙いでつくられました。なぜ本町に女神像かといいますと、本家のニューコークと同緯度ということがそのまま答え。懐かしさを覚えるのか、隣の三沢市にある米軍基地のアメリカ人が訪れるようです。

また、毎年十一月に開催しています。おじらせ鮭まつりは町の風物詩的イベントで、その日使われる鮭の数が二千匹で日本一ということギネスに載ったこともあります。これは、奥入瀬川に遡上していく鮭を特設の生簀に放し、それをつかみ取りかるというのがメインのイベントで、この日は米軍の関係者の来場も多く国際色豊かな雰囲気の中で一日を楽しむことができます。

なあ、「古聞は一見に如かず」です。ぜひ一度お立寄りいただきたいと思います。その際はくれぐれも国立公園奥入瀬渓流のほうではなく、そいかつ流れこぼれる奥入瀬川の東端の町ですのでお間違いのなじよハ」。

最後に

「教育環境、デザイン、ひがしどおり21」の挑戦



▲村制100年を記念して完成した新庁舎

東通村の概要 人づくりとしての教育施設の整備

本州最北端青森県下北半島の北東部に位置する東通村は、東は太平洋、北は津軽海峡に面し、面積（294.36 km²）の約80%を山林・原野で占めて

いる村です。そして、北東端の尻屋崎を挟み、津軽海峡と太平洋に面した約65 kmにも及ぶ海岸線や、幅約1 km長さ10 km以上にわたる猿ヶ森砂丘など、独自の景観と豊かな自然に恵まれた地域です。

東通村は、明治22年の町村制施行以来、隣接するむつ市に役場庁舎を置く、全国でも極めて珍しい自治体でした。昭和63年に、村の地理的中心地である砂子又地区に役場庁舎を移転し、中心地として整備が始まりましたが、人口は、点在する村内大小29の集落に散在している状況にあります。

また、村議会は、昭和40年に原子力発電所の誘致を決議し、平成17年に東北電力1号機が運転を開始しました。今後、東北電力1基、東京電力2基の建設計画が進行しており、村では原子力発電所との共生による街づくりを進めています。

当村は1万人に満たない人口では



▲仕切りのないオープンスペースでの英語の授業は真剣そのもの



青森県 東通村 ひがしどおりむら

あるものの、村民の総意のもと、他市町村とは合併せず、単独での行政運営を選択して歩んでおります。

このような状況で、村の基本構想の中の重要な柱の一つである「人材育成」を進めるため、①安心して子供を産み育てられる子育て環境づくり、②未来を担う子供たちが将来の夢に向かって大きく羽ばたいていく教育環境づくり等を村の最重要課題に掲げ、取り組んでおります。

教育環境改革への決意

産み育てられる子育て環境づくり、②未来を担う子供たちが将来の夢に向かって大きく羽ばたいていく教育環境づくり等を村の最重要課題に掲げ、取り組んでおります。

環境とは言えない状況となつております。このことは、子供たちの進学状況や各種学力調査において、殆ど全ての教科で満足出来る数値に達していない状況をみて明らかでした。

平成22年、原子力発電所の立地に伴い、各方面の様々な分野の人口流入と地域の高度技術化が進む中で、子供たちが科学技術に関心を持ち、立派な国際人として活躍出来る力を育む教育を施すことは、欠かす事の出来ない必須の条件となっています。

また、将来にわたつて地域の機能を存続させていくためには、地域が自ら様々な分野・職種のエキスパートを育て上げていかなければなりません。それには、子供たちの知力を高め、知力を土台として、徳力・体力が相乗的につき伸張し、心身共に逞しく、自らの夢を達成する力を育成する必要があると感じておりました。

そのため、これまで先人達が築きしきの役割も担い、村独自の形で発展し、愛され、親しまれてもおした。しかしながら、高度化・多様化する現代社会において、独自の形で発展してきた村の学校は、いつしか子供たちの学力を高める機能を構造的に弱め、多くの子供たちにとつて恵まれた教育

じとを考えていく教育環境を作り出す必要があると決意しました。

既成概念からの脱却 「六・三制」に替わる 「一十五・四制」の提案

◆総合教育プラン
「教育環境デザインひがしどおり21」



平成16年に既成の教育概念や枠組み等、一切の教育界のしがらみに影響されないよう村長部局の企画部門に事務局を設置し、諮問機関の「21世紀東通村教育デザイン検討委員会」に対し、学力の充実を目指した総合教育プラン「教育環境デザインひがしどおり21」の策定を諮問し、翌年3月に答申を受けました。

策定段階においては、教育現場の新たな取り組みや変革を嫌い、低い学力も風土によるものと片付け、現状維持を求める教育現場が様々な形で反発した事から、本検討委員会委員には一切委嘱せず、子供たちの学力向上を切望する保護者並びに村連合PTAから全面的な賛同・協力を得て、多数のヒアリングやワークショップ、アンケートを経て、子供たちの将来を想い、大が大切であり、その過程においては、「保護者・地域・学校・行政」が一体となつて考へ、共に行動・実践する」とが重要であり、村全体で子供たちの

そのため、これまで先人達が築き上げてきた教育的財産と英知、教育への情熱を再認識し、将来を的確に見据えた教育環境を改めて再構築する事が大切であり、その過程においては、「保護者・地域・学校・行政」が一体となつて考へ、共に行動・実践する」とが重要であり、村全体で子供たちの

答申では、「21世紀の国際的リーダーと村をリードする次世代の優秀な人材の輩出」と「子供を持つ世帯に魅力的かつ先進的な教育の村として確立し、定住志向を高め、県内外からの移住を取り込みを図る」という2つの大きな目標のもと、具体的な数値目標が掲げられ、田標達成のために、保護者・住民が深く学校教育に参画、教育に対する気運を醸成し、保護者・住民・学校・教育行政が一体となつて取り組んでいくことが必要であると提言されました。

この答申は、骨格デザイン8項目と詳細デザイン30項目で構成されております。主なデザインを紹介すると、①幼小中一貫教育デザイン②幼保一元化デザイン③クラス構成デザイン④学習指導入デザイン⑤生徒寮設置デザイン⑥教諭公募デザイン⑦英語教育デザ



教育を保障する認定こども園を設置すると共に、乳幼児教育カリキュラムを策定し、系統的な乳幼児教育を展開する。③クラス構成デザインは、幼小中ともに少人数学級・教科担任制・習熟度別クラス・ティームマティーチングを行い、より個に応じたきめ細かな対応を行う。④学習塾導入デザインは、村内の学習塾・進学塾が皆無の状態を克服し、首都圏に負けない学校教育以外の教育環境を構築する。⑤生徒寮設置デザインは、中学校4年生を全寮制とし、週5日制のもとで、限られた時間を有効活用し、学力の充実と集団活動を通じた心身の調和のとれた発達と個性の伸張を図る。⑥教諭公募デザインは、使命感に燃え、力量のある優秀な教員を配置するため、村費負担教職員を全国公募により採用し、幹部に積極的に登用していく。⑦英語教育デザインは、乳幼児段階から年齢・発達段階に応じた言語能力や聴覚構成の中の表現能力、記憶能力を考慮したより的確・効果的な英語教育を展開する。⑧住民参画組織構築デザインは、保護者・住民・企業等が積極的に学校運営に関わることにより、より一層の学校参画・学校監視・学校評価・学校協力等を行ない、更に、幼小中の各PTA組織を一元化してNPO法人化し、スケールメリットを活かした積極的な活動を展開する。このような斬新な施策の提言(デザイン)がなされました。

イン⑧住民参画組織構築デザイン等の斬新な提案がなされました。

①幼小中一貫教育デザインは、時間的ゆとりに基づく徹底的な主要教科の履修を行い、基礎・基本を固め、その後の学年倒し（5歳児就学）と学年齢の1年前倒し（5歳児就学）と学制の括りを既存の「6+3制度」から「6+4制度」に変更し、また、児童館・保育所等の乳幼児施設を1園に統合し、共働き世帯の子供にも幼稚園

児から中学校までを系統的カリキュラムにより指導する幼小中一貫教育を開き、更に、乳幼児施設・小学校・中学校を同一敷地内に一体的に整備し、児童館・保育所等の乳幼児施設を1園に統合し、教職員も横断的に学校間を行き来して学校運営を行う。②幼保一元化デザインは、現在10園ある幼稚園・児童館・保育所等の乳幼児施設を1園

を1校統合、平成21年4月に小学校16校を1校統合しました。

また、平成20年4月に中学校6校を1校統合、平成21年4月に小学校16校を1校統合しました。

教育環境デザインひがしひおり21の実現



▲構造改革特区伝達式

更に、平成24年4月には、現在（平成22年）10園ある乳幼児施設を認定こども園として1園統合すると共に、乳幼児施設・小学校・中学校を隣接設置し、廊下で繋ぎ、幼小中一貫教育の展開をハード面からサポートしていく予定としております。

一方、ソフト面では、平成17年度に「わが村の先生制度」特区の認定を受け、現在、村費負担教職員を全国公募で15名採用し、小学校で25人学級、中学校で29人学級の少人数学級体制を敷くと共に、小学校段階から主要教科で習熟度別クラス、ティームティーチング

グ、教科担任制を既に導入しています。

更に、平成19年の「東通村英語教育特区」の認定により、小学校1年生から英語科を正規教科として設置し、日本人英語教員、外国人英語教員、学級担任の3人体制で英語教育を行っており、特に、豊かな国際感覚の育成と英語によるコミュニケーション能力が身に付けられる村独自で策定した英語教育プログラムは、小学校段階で中学校卒業程度レベルの習熟を無理なく可能としております。

教育プログラムは、小学校段階で中学能としております。

全国初！公営学習塾 「東通村学習塾」の設置



当時、全国初の試みであった公営学習塾「東通村学習塾」の設置は、村内外からとても多くの反響がありました。

民間学習塾が村・保護者と協働で運営を行い、低廉な受講料（月1、000円程度）を導入して、現在、中学生を対象に週2回間、長期休業時はほぼ毎日開設し、村の子供たちの学力強化に貢献している状況にあります。

また、学習塾の運営をより効果的にするために、個別受験相談窓口の設置や、学習塾保護者の会を設立するなど、試行錯誤を繰り返しながら運営を行つて

行つて居る状況にあります。

今後は、受講対象を小学校1年生まで拡充し、全ての子供たちが学習塾に通う体制を整えるとともに、学習塾が年間を通して毎日開催されるなど、先進的な学校教育以外の教育環境を目指し、更なる充実をしていかなければならぬこと考えております。

教育改革は、一朝一夕で成果が見えるものではないため、子供たちの将来に想いをはせながら、着実に根気よく取り組んでいく姿勢と保護者・住民・地域・企業の気運を高めながら協働を保ち、今後、総合教育プランの実現に向け、更なる努力を傾注していきたい

学校教育に対するニーズの多様化と社会や価値観の複雑化の中で、学校教育の本質的研究や全体的な掌握は極めて困難になっています。しかし、政府も学校教育制度そのもののあり方を検討するなど、教育改革という大きなうねりは着実に進行している

状況にあり、本プランを実現して、村の次代を担う子供たちが夢と希望を持ち、自信を持つて、国内はもとより国際社会にも大きく羽ばたいてもらいつつこそが、村にとっての最重要課題だと考えて

東通村長 越善靖夫

（平成22年4月19日付第2717号）



「地域の食文化祭」で 地域の食文化を掘り起こす

はじめに

加美町が誕生したのは、今から7年前の平成15年4月。旧中新田町、旧小野田町、旧宮崎町の3つの町が一つになり、県内ではトップを切っての合併でした。



▲町内荒沢地区にはミズバショウの群生地がある

加美町は、宮城県の北西部にあり東西約32km、南北に約28km、面積は約461km²と、県内でも有数の面積を有しています。町の西部や北部が山岳、丘陵地となつており、ブナなど豊かな

原生林が残る東北白名山・船形山（標高1,500m）や、加美富士で親しまれ加美町のシンボルである薬菜山（標高553m）が聳えています。丘陵地から一級河川・鳴瀬川、田川が町を貫流し、その流域は肥沃な田園地帯が広がりをみせ、四季折々の自然の変化が満喫できます。希少な動植物が生息し、ミズバショウの群生地である荒沢地区、天然記念物「鉄魚」（てつぎよ）の生息する魚取沼（ゆとりぬま）は宮城県の自然環境保全地域に指定されています。

古い町並みが残る旧中新田町は、秋田へ通じる羽後街道と山形県尾花沢へ抜ける中羽前街道が交差する交通の要衝として古くから栄えた歴史のある町であり、また、旧小野田町は薬菜山を背景に温泉保養施設を抱える県下でも有数の一大リゾート地として、年間100万人ほどの観光



▲食の文化祭の様子。地域の食卓から1300もの家庭料理が集まった。



宮城県 加美町 かみまち

客が訪れていました。

雄大な自然環境に恵まれ山紫水明の加美町では、古くから農業が盛んであり、なかでも「農」に焦点を当て、地域の食を掘り起こすイベントである食の文化祭が田宮崎町で行われてきました。そして現在も「加美町食の文化祭」として、スローフードの取り組みを全国へ発信しております。

消費の流出をくじ止めるために打つ手はなじか、危機感を持った田宮崎町商工会は平成8年に村おこし事業を立ち上げ、翌平成9年から10年度にかけて地域資源のとりえ直しによる新たな地域特産品の開発に取り組み始めたのです。

田宮崎町は仙台から北西50キロ立ち上げ、翌平成9年から10年度にかけて地域資源のとりえ直しによる新たな地域特産品の開発に取り組み始めたのです。

そのような状況の下で取り組んだ地域特産品開発は当初、地域にある資源の中で生産性が高く安定供給できるものを選び、消費者が好むものを商品化するところの円並みなものでした。しかし、村おこし事業にアドバイザーとして参加していた著名な民俗研究家から「コンビニのない町はコンビニ不要」な町ではないか。一軒一軒の家に烟があつて、近くの山からは春には山菜、秋にはキノコや木の実が採れ、町を流れる川からはカジカ・ヤマメ・イワナやアユもとれる。それら旬の食材が、家々で料理され食卓に並んでくる。また、収穫の余剰分は加工や保存の知恵、技術とともに貯えられ、また食卓に並ぶ。この、当たり前の食事の中にこそ、田宮崎町らしい豊かな食文化が隠れているのではないか」との後押しを受け、性急な商品開発を図るのではなく、その前にみんなが宮崎町の豊かな食を確

▲川魚も町の食文化のひとつ



▲鳴瀬川、田川の流域には肥沃な田園地帯が広がる



かめよつ、大量消費地に向けて持ち出せる特産品ではなく、いじにしかないままの食、地域の特産品こそ地域の活力になる、といつ結論に達し、「宮崎町のおむねなしのい」をコンセプトに、「食の文化祭」という名称で開催が決定したのです。

町全体が食卓に

これまでの経過を紹介しますと、平成12年に開催された「第1回食の文化祭」では、1,500世帯から、

850品の家庭料理が集まりました。しかし、最初から850品集まつた訳ではありません。まことに内28行政区、婦人会など各集落を回り説明会をしましたが、「ほつたなふだんのものを人様の前で出すのは恥ずかしくてやんだ」と言つた抵抗や遠慮があり、



▶「おらほの女子衆もたいしたもんだ」と称賛の声を集めた

開催日2週間前までの申し込み件数は、50品程度でした。そこで、実行委員約50名が手分けして町内を一軒一軒お願ひして回ったのです。祭り当日、持ってきた料理がずつと並ぶと「おらほの町には何にもねえ」と自分の町をのじっていた人々も「おらほの女子衆もたつしたもんだ」「おらほの町もたつしたもんだ」と称賛の声が上がり、少しづつ意識の変化が見られました。

翌年の「第2回食の文化祭」でも同じようなことが起こりました。開催日5日前になつても集まつた料理の品数は200品程度でしたが、開催日当日には、1、300品もの料理が集まり、会場となつた体育館は圧巻ともいえる迫力で家庭料理が並びました。

なぜ、直前にならないと集まらないのか、といふ謎はすぐに解けました。それは、スーパー等の大



◀郷土色豊かな料理の数々と興味津々の参加者

博物館」として生まれ変わりました。料理の展示会場の他、宮崎町の自然、



春の行事食「植え上げ膳」

文化、そして食の生産過程をまるごと味わえる企画とし、交流の常態化を図るイベントへと発展しました。町内28行政区にある農家の庭先や畠を会場に春編・夏編・秋編・冬編と年4回実施し、宮崎町の食と農のガイド役である「食の学芸員」も50名誕生しました。まず春編では、山菜取り、川魚の炭火焼き、しじたけの菌打ち、春の行事食である「植え上げ膳」を茅葺き民家で食べるなどの企画をし、夏編では野菜のもぎ取り体験、秋野菜の種まき体験、秋編では新米・秋野菜の収穫を中心とした企画を実施し、新米や秋野菜を使った料理の試食を通して、他の地域の人々との交流を深めました。冬編では温泉等交流施設・陶芸の里ゆうりんを使って、一番美味しい食べ頃を判断し、見た目も味も最高の状態で出品する料理を作つてしまふのです。「第3回食の文化祭」ではさうにバージョンアップし、ただ見るだけではなく、味わつてこそ食文化、宮崎町の味を食べてみたいという期待に応え、展示とは別に11,000食の試食コーナーを用意しました。

どにおいて、「この冬、宮崎町のとりおわし料理でのんびり雪見酒」と題し、この年の「地域に根ざした食生活推進コンクール2002」において農林水産大臣賞受賞記念として開催した交流会や、冬期間の保存の知恵や技を中心とした保存食の展示や試食を実施したところ、大変好評でした。

合併して加美町が誕生した平成15年、

食の博物館は「第8回宮崎食の博物館」として開催されました。この年は地元の小学生も積極的に参加するようになり、自分たちで育てたハーブや手づくりシユウマイの出品む。このように地域の食を見直し、掘り起しそして、その土地のままの食文化を育て、地域活性化の中核に据えてる取組みは年を追つじと、回を重ねるじとに住民一丸の意識や地域の一大イベントへ



加美町食の文化祭として

さし、食の文化祭の中心的な役割を担つてついた宮崎町商工会も、平成15年8月に加美商工会へと広域合併したことにより、事務の引き継ぎが困難となる中で、食の文化祭を続けてほしい、との声が上がり、結果的には町の商工観光課が担当するじとに。以降、食の文化祭事業は加美町全体で取り組む事業の一いつとして開催に

向けて検討し始め、平成17年3月に「第1回 加美町食の文化祭」を実施するじとなりました。

しかしながら、加美町全体での事業として展開するには大きな弊害がありました。第一

と成長していったのです。地元のありのままの食生活の魅力を再発見し、誇りを持てぬよになつた住民が工夫を重ね、毎回趣向を変えたイベントとして企画することじで、地域のリピーター創出に繋がり、そのことが高く評価され、全国過疎地域自立促進連盟会長賞を受賞するじができました。

この地域にも先祖から受け継がれており、その土から風土に合った作物が育ちます。そしてその作物を使った家庭料理が食卓に並んでい

るはずです。旧宮崎町で育まれた食の文化祭では、スローフード・スローライフは人間のスタイルに合わせたものだけではなく、野菜や川魚など自然の流れに逆らわず、そこにある食材と向かい合ひ、作物たちの都合と寄り添いながら生きていけるじことを再確認させてくれます。「旧宮崎町で掘り起された食の文化を加美町全域で継承し、地域の子どもたちに伝えていく」ことは、学校では教えてくれない、食の地元学と言えるじよ。

第2回目以降、地元JHA女性部や小中学校の協力を得て着々と出品数は伸びてきており、平成21年度に開催した第6回加美町食の文化祭では300品の協力があり、県内外から大勢の見学者が訪れました。

従来の食の文化祭と比較するじ、展示料理では見あつかるばかりですが、内容は年々変化に富み、最近では小学生や親子を対象とした調理体験や竹炭のオブジェを設置するなど加美町で育まれてきた自然と調和する技も披露し

ております。

受け継がれる食文化への誇り

豊かな自然、大地の恵み、心のふれ合う協働のまち

—長寿の種、福禄の種、楽の種を語源とする三種川のように—

三種町は、平成18年3月に3町（琴丘町、山本町、八竜町）が合併して誕生しました。西は日本海に面し、秋田県の北西部、男鹿半島の北に位置している人口20,115人の農業が基幹産業の町です。

特産品は、生産量日本一の森岳じゅんさいのほか、八竜メロン、梅、岩川水系米などがあり、観光資源には、しおりぱい温泉の森岳温泉や36ホールの秋田森岳温泉36ゴルフ場、砂の彫刻展サンドクラフトをはじめ、昔、修験者の道場地として栄えた信仰の山、房住山があります。また、じゅんさい摘みなどの農業体験、夏には、旬の森岳じゅんさい鍋、冬が旬のだまご鍋などの田舎料理もあり、三種町はこれらの地域資源を活用し地域づくり活動を行っています。

サンドクラフトの目的は、地域資源を活用した交流人口の拡大と特產品

砂の彫刻展 「サンドクラフト」

砂の彫刻展「サンドクラフト」は平成9年に開催して平成22年で14年目になります。きっかけは、平成8年に

旧八竜町で開催された日本砂丘学会に参加した鹿児島県南さつま市（旧加世田市）職員の1枚の名刺からでした。名刺にあつた砂の彫刻写真を見た、当時の佐藤亮一町長が、「釜谷浜海水浴場でも砂像ができるのか」と聞いたのが始まりです。地元釜谷浜海水浴場でも砂像づくりが可能と分かり、役場職員や町民を派遣させ、第1回サンドクラフトは、南さつま市から砂像を制作できる砂像連盟会員を招聘して開催しました。



秋田県 三種町 みたねちょう

▲2010サンドクラフトメイン会場

や町のPRによる活性化を図ることで

す。当初は電源交付金を活用し、2,000万円を超える予算で実施しましたが、今年は事業費1,000万円で実施することができました。入り込み客数は野外イベントのため天候に左右されますが、今年は時折雨の降るあいにくの天気にもかかわらず、開催2日間で約34,000人の人出がありました。また近年は、他県からの観光客が増え、イベントの知名度は広く着実に伸びてきていて、町の貴重な観光資源となっています。

このサンデクラフトを利用してイベントには、東京みたね会余員等を対象にした、「ふるさと体験モニターチャーなどがあります。平成22年で4回となりますが、毎年20名前後が参加し、町の魅力紹介や各種体験などが参加者に好評を得ています。

サンドクラフトの課題は、砂像作り後継者不足と資金確保とマンネリ化です。砂像づくり後継者不足対策については、昨年から県の元気なふるさと秋田づくり活動支援事業補助金を導入し、「砂像づくり出前講座」を実施しています。今回は町内各地で出前講座による砂像制作と展示を実施し、後継者育成とサンドクラフトのPRを実施することができます。平成23年は今年以上に町内各地で砂像づくり出前講座を実施し、将来は町内各地で砂像が作られる日本一の砂像の町になることを目指してます。

資金確保とマンネリ化対策については、平成15年に民間の力と智库による運営を目指し、それまでの町主体イベント協議会と民間主体実行委員会が統合しました。それ以来はサンデクラフトが終了した

▲砂像づくり体験を楽しむ親子

▲砂像をバックに水着コンテスト



その年の秋頃から、企画会議を開催し、早い時期から企業広告協賛金集め等の準備活動を始めるようになり、全体予算に占める自己資金（広告協賛金と環境協力金と出店料）の割合が高くなりましたが。また、効果的でない企画の廃止や新しい企画の取り入れなどを積極的にを行う方式により、一時後退していた特産品のPRや販売活動強化、伝統芸能の取り入れが、観光協会やNPO法人、農協、商工会、バレーボール連盟、綱引連盟などで実施されています。



▶彫刻家保坂俊彦氏制作
メイン砂像(高さ5メートル)

「ドクターフィートを活かした地域づくりを進める計画」です。

田んぼの中から突然湧き出した じょっぱい温泉

▲じょっぱい温泉 森岳温泉郷

森岳温泉は、昭和27年に石油採掘中に田んぼの中から突然湧出し、長く秋田の奥座敷として親しまれてきました。無色透明で、弱アルカリ性の「とてもじょっぱい温泉」として有名で、泉質も優れ皮膚病などに効く効用があります。

塩分濃度は、海水（塩分濃度約3%～3.5%）には及びませんが、約2%の塩分濃度があります。料理への利用など色々な活用アイデアはありますたが、実現には至りませんでした。しかし温泉については、温泉付分譲地や温泉付別荘、病院、介護施設などに利用されています。

森岳温泉が全盛期の頃には、数多くの温泉ホテルや旅館、飲食店、みやげ店などで賑わっていましたが、現在は3軒のホテルと町営温泉1軒だけになり、飲食店も少なくなっています。宿泊観光客数も年々減少し、21年は149,000人（内町営温泉133人、596人）となりました。



森岳温泉郷の振興のために開催されているイベント、花火と日本一の森岳じゅんさじを取り入れた「森岳温泉夏まつり」は、「森岳温泉まつり」と同じく、「じゅんさじ王国ゆの湯フェスタ」を平成10年に一本化したイベントで、平成22年で13回目の開催となりました。

三種町観光協会では森岳温泉郷を核とした三種町観光振興のため、平成22年度は秋田県緊急雇用創出臨時対策基金事業を導入し、2名の失業者を雇用了した「森岳温泉郷活性化支援事業」を実施し、森岳温泉郷に観光案内所を設置したり、観光イベントの企画や、当地グルメの普及、温泉郷全体の営

利用者数となつてます。また森岳温泉郷のホテルと連携した韓国人「ゴルフツアーや誘致も行われています。そのほかには、遊歩道やバンガロー等が整備され、四季折々の自然観察などの野外活動のできる石倉山公園。岩手競馬の場外勝馬投票券販売所として開設され、140インチの大画面で迫力あるレースシーンを見ながら、手軽に競馬を楽しむことができる「レトロラック山本」。農家や町民有志で組織した農業体験受け入れ組織で、人気のじゅんさじ摘みどりや、そば打ち、干し餅作り、郷土料理作りなどが体験できるやまもと百姓大学。三種川の源流にある信仰の山、房住山（409メートル）には、バンガローや登山道が整備されており、今年は房住山を主体とした観光ガイド協議会が結成され、町内各地をガイドできる人材を育成する計画です。



▲森岳温泉夏まつり
わんこじゅんさい競争

利用者数となつてます。また森岳温泉郷のホテルと連携した韓国人「ゴルフツアーや誘致も行われています。そのほかには、遊歩道やバンガロー等が整備され、四季折々の自然観察などの野外活動のできる石倉山公園。岩手競馬の場外勝馬投票券販売所として開設され、140インチの大画面で迫力あるレースシーンを見ながら、手軽に競馬を楽しむことができる「レトロラック山本」。農家や町民有志で組織した農業体験受け入れ組織で、人気のじゅんさじ摘みどりや、そば打ち、干し餅作り、郷土料理作りなどが体験できるやまもと百姓大学。三種川の源流にある信仰の山、房住山（409メートル）には、バンガローや登山道が整備されており、今年は房住山を主体とした観光ガイド協議会が結成され、町内各地をガイドできる人材を育成する計画です。

業活動、首都圏等へのPR活動など、じょっぱい温泉や町内外観光資源の活用による観光客の拡大と、地域資源森林温泉郷の活性化を進めています。

日本一の生産量 ～森岳じゅんさじ～

じゅんさじの歴史は案外古く、万葉集に、ぬなわ（忍縄）として詠われている多年草の水生植物です。昔は日本全国の自然の沼で繁殖する植物であったのですが、水稻の転作として旧山本町地域で栽培が広まり20年間以

ている多年草の水生植物です。昔は日本全国の自然の沼で繁殖する植物であったのですが、水稻の転作として旧山本町地域で栽培が広まり20年間以

上も「じゅんさいの生産量日本一」を誇っています。しかし、価格の低下や生産者の高齢化などにより、生産量は平成3年の1、260トンをピークに平成21年は最盛期の1／3の400トンまで減少してしまった。

三種町商工会では、森岳じゅんさいによる地域振興を図るために、町内の農協を含むじゅんさい加工業者の社による「森岳じゅんさい加工業者組合」を組織し、平成21年度から秋田県緊急雇用創出臨時対策基金事業による「森岳じゅんさい沼へ廻るため27名を雇用しました。



また、三種町商工会では平成22年、地域資源じゅんさいによるおりついの基本となるビジョン作りのため、商工会連合会と秋田県ふるさと雇用再生臨時交付金事業と町の補助金を利用して、森岳じゅんさいビジョン策定事業を開始しました。町職員のほか、生産者、加工業者、市場関係者、大学教授の20人を受託しています。雇用期間は6ヶ月間で、摘み取り担い手15名と事務員1名を雇用し、加工業者組合8業者に分かれ、約1週間のローテーションでベテラン摘み取り手からじゅんさい摘み取り技術を習得しました。始めは1日約2～3キロしか取れなかつた雇用者も、雇用期間後半には約10キロ近く取れるようになります。摘みとり担い手育成事業終了後は、派遣制度を作る計画で検討しています。また自立を目



▲じゅんさい摘み取り受講してから、受講生の中には平成22年じゅんさい沼を購入し、独立を目指す人も誕生しました。2年目は加工業者組合加盟全9社が、摘み取り担い手を受け入れする」とになり、3人1組でじゅんさい沼へ廻るため27名を雇用しました。



▲じゅんさい沼観察風景

(平成22年9月13日付第2733回)

二種町企画振興課課長補佐
伊藤祐光

▲じゅんさい摘み取り体験モニターツア

22年じゅんさい沼を購入し、独立を目指す人も誕生しました。2年目は加工業者組合加盟全9社が、摘み取り担い手を受け入れする」とになり、3人1組でじゅんさい沼へ廻るため27名を雇用しました。

また、三種町商工会では平成22年、地域資源じゅんさいによるおりついの基本となるビジョン作りのため、商工会連合会と秋田県ふるさと雇用再生臨時交付金事業と町の補助金を利用して、森岳じゅんさいビジョン策定事業を開始しました。町職員のほか、生産者、加工業者、市場関係者、大学教授の20人を受託しています。雇用期間は6ヶ月間で、摘み取り担い手15名と事務員1名を雇用し、加工業者組合8業者に分かれ、約1週間のローテーションでベテラン摘み取り手からじゅんさい摘み取り技術を習得しました。始めは1日約2～3キロしか取れなかつた雇用者も、雇用期間後半には約10キロ近く取れるようになります。摘みとり担い手育成事業終了後は、派遣制度を作る計画で検討しています。また自立を目

名で作った森岳じゅんさい産業育成戦略会議と作業部会により策定します。

作業部会はさらに「生産」と「加工」と「里づくり」の3つのテーマに分かれ、ワーキンググループ方式により作業を進めています。平成22年の夏には、

ビジョンを作る期間の有効活用とPR効果を狙って、里づくりワーキンググループ主催で、町内小学生5・6年生による自然学習会を実施しました。参加した26人の児童は、水生生物や植物などの調査や学習をし、その成果を町民祭で発表する計画を立てています。

森岳じゅんさいを取り巻く環境は、国内の新たな産地の誕生や、安価な中國産の流通増加などにより年々厳しくなっていますため、商工会主催で取り組んでいる、「森岳じゅんさい摘み取り担い手育成事業」と「森岳じゅんさい産業育成ビジョン策定事業」は、喫緊に必要な事業となっています。じゅんさい産地として生き延びるために、品質と認証の確保などを進め、じゅんさい産業関係者の手取り収入を向上させ、日本一の森岳じゅんさいによる地域づくりを進めてゆきたいと思っています。

▲じゅんさい摘み取り

自然にやさしく、人健やかにしてやすらぎ、産業が息づき、明るく文化の香り高い風土の形成と人々が交流する「ふるさと五城目町」をめざして

思いやりと活力に満ちたふるさとの創生

町の状況

五城目町は、秋田県の中央部、八郎潟の東部に位置し、町土の面積214・94平方キロ、人口10,978人（平成23年2月末住民基本台帳）の行政規模となっていきます。

急峻な山岳地帯から肥沃な水田地帯まで変化に富んだ農業と林業の農山村であるとともに、中心部には500年の伝統を誇る露天朝市が栄え、製材、家具、建具、打刃物、醸造業と商店街が発達し、湖東部における商工都市を形成しています。

気候は、年平均気温11・2℃、年降水量1,790mm、最深積雪値40cm（平成21年秋田地方気象台）で、春夏秋冬の季節感がはっきり体感できる地域であります。

現在の五城目町は、昭和30年に旧



秋田県 五城目町 ごじょうめまち

五城目町、馬場目村、富津内村、内川村、大川村が合併、さりに昭和33年に面潟村の一部が編入して誕生しました。その後、いわゆる平成の大合併においては自立による行政運営を余儀なくされ、単独立町として現在に至っています。

協働のまちづくり

これから地域の課題解決や暮らしやすいまちづくりを進めていくためには、町民と行政が、一緒に考えて一緒に汗を流して、互に協力し合いつき目的を持って取り組む必要があります。五城目町では、地域の課題解決やまちづくりを、町民が主体的に考えて、実践し、これを行政が支援していくといつたパートナーシップを重視した「協働」の関係を築き、新しいまちづくりを進めています。

平成20年6月には、誰でも健康増進や憩いの場として自由に使用できる芝生広場を整備しようと、芝張り作業を実施しました。作業には2日間で約

350人のボランティアが集まり、約4千m²の土地へ、4万枚の芝の苗を植え付けました。

町では、このように町民が自主的、

主体的に行う、地域環境の美化、清掃、ごみ対策など、身近な環境をきれいにする活動や地域を元気にする多彩なイベント開催などの“まちづくり活動”を支援しています。

正月の初売りに始まり、福寿草の苗やフキノトウが春の息吹を伝えると、新緑と共にワラビ、ゼンマイなど多彩な山菜が並び、5月には祭市。そこ

には色鮮やかな野菜が加わり始めて、8月は盆市。夏が過ぎて、栗やキノコが顔を出し、大根や白菜など漬物の素材が増えるにつれて冬へ。そして、正月用品の買出しで大変なにぎわいとなる歳の市。そのほか、イベントとして、5月春まつり、6月市神祭、10月秋まつり、2月冬まつりを開催しています。

江戸時代は、久保田と能代や檜山の中間、そして阿仁鉱山への物資補給の基地として栄え、さまざまな職人が集まり、農作業や生活に必要なものがすべてそろっていました。

豊富な自然の恵みから、包丁や桶、ザル、衣類などの生活用品まで。暮らしに密着した市の伝統そのままに、五

城目「市」は、戦後八斎市から2.5.

7.0の付近で行われる十一斎市になりました。時代が変わつても市は、

人々との生活と密着していたことから、今日も繁栄続けています。

正月の初売りに始まり、

福寿草の苗やフキノトウが春の息吹を伝えると、新緑と共にワラビ、ゼンマイなど多彩な山菜が並び、5月には祭市。そこには色鮮やかな野菜が加わり始めて、8月は盆市。夏が過ぎて、栗やキノコが顔を出し、大根や白菜など漬物の素材が増えるにつれて冬へ。そして、正月用品の買出しで大変なにぎわいとなる歳の市。そのほか、イベントとして、5月春まつり、6月市神祭、10月秋まつり、2月冬まつりを開催しています。

江戸時代は、久保田と能代や檜山の中間、そして阿仁鉱山への物資補給の基地として栄え、さまざまな職人が集まり、農作業や生活に必要なものがすべてそろつていました。

朝市は、春夏秋冬の旬の彩をあざやかに放ち、訪れる人々の心を和ませます。

市ふれあい館」が完成します。

この朝市ふれあい館は、歴史的地を次代に継承するとともに、交流の場として文化及び産業の振興を図り、中核市街地の活性化に寄与するため、「朝



と「にわわこ」ネットワークの形成による街なかへの誘客、更には少子高齢化に対応した「ミニコニティづくり」による地域交流の活性化に大いに期待しているところです。



だまこ鍋
鶏ダシ仕立てのスープに、ご飯をすりつぶして丸めた「だまこもち」とキノコや野菜を加えた鍋。古くから五城目町の家庭料理として食されてきた、町を代表する郷土料理です。

防災など、年々その輪を広げ、交流が盛んになってきています。

首都圏に住む五城目町出身者で結成された「ふるさと五城目会」は、会員相互の親睦を図りながら、千代田区

や五城目町の行事に参加したり、会報を発行したりと積極的な活動を続け、姉妹都市提携の架け橋的存在になっています。

昭和60年来から交流友好関係を深めてきた千代田区と五城目町は、平成元年10月姉妹都市提携を結び、以来行政の交流はもちろらん、子孫もから大人のスポーツ交流、町内会・福祉・消防

千代田区と姉妹都市の縁を結ぶことにより、互いの個性的な特性を活かしながら住民同士が親しく交流し、また非常時や緊急時には協力し、助け合ひながら、相互の発展に努めています。

平成21年10月には五城目町・千代田区姉妹提携20周年記念式典が行われ、これまでの20年の歩みを振り返るとともに、今後、両自治体が益々発展し、より一層友好が深まる」と誓ひ合いました。

また、千代田区と五城目町の姉妹提携20周年を記念して始まった「五城目町・千代田区児童双向交流事業」の交流体験が平成23年1月に五城目町で開催され、児童19人が、雪遊び、郷土食べづくり、布ぞりづくりなどを、田舎なりでの体験を行い、各家庭にホームステイするなど、五城目町での生活をより身近に体験するところ、「お互い

こに交流を深めることができた。

新たな町特産物 「キイチ」「の誕生

キイチ「類は、欧米ではラズベリー、ブランクベリーなどの名前で、知られています。主要な果実のひとつです。日本のキイチ「の輸入量はここ10年間で10倍以上に増加し、キイチ「類への需要は高くなっています。しかし、日本には主要産地がありません。五城目町では「五城目町農業活性化促進会議」における「平成19年度五城目町農業活性化に対する提言」の中で、キイチ「を特産品として推進することを決定しました。

その要望に答えるべく、五城目町では「他県に先駆けて供給体制をつくり上げた」「秋田県独自の特性を持つたキイチ「品種を生産したい」という声があがりあした。そして、平成20年に秋田県立大学との産学共同研究で「五城目町キイチ「研究会」を立ち上げました。

秋田県では、過疎化や高齢化等の進行により、集落活動の停滞など、活力の低下する集落が増加傾向にあることから、高齢化等集落の自立と活性化を促すため、市町村との協働による高齢化等集落対策に取り組んでいます。その取り組みの中で、小規模高齢化集落を対象にした「元気なまちづくりプロジェクト支援」として、県内20市町

の和菓子職人による「キイチ」「最中」、県内の酒造会社による「キイチ」「を使ったリキュール酒」や県内飲食関係者による「キイチ」「カクテル」、「キイチ」「生ジュース」が発売されています。特に

キイチ「生ジュースは、県内のイベントから声が掛かりた皆さんの方々に味わって頂いています。また、洋菓子業界からも引き合ひが多く、ケーキやパフェなどに生果実・冷凍果実が利用されています。加えて平成23年3月に、

キイチ「のカップアイスクリームが新発売されました。県内外からの関心も高く、その期待に応えるべく販賣も生産に力を入れており、今後さらなる活動が期待されています。

小規模高齢化集落における まちづくり

研究会では、毎月大学から栽培技術の指導と同時にマーケティングの研究指導も受けています。

現在、キイチ「の商品として町内

の和菓子職人による「キイチ」「最中」、県内の酒造会社による「キイチ」「を使ったリキュール酒」や県内飲食関係者による「キイチ」「カクテル」、「キイチ」「生ジュース」が発売されています。特に

と「にわわこ」ネットワークの形成による街なかへの誘客、更には少子高齢化に対応した「ミニコニティづくり」による地域交流の活性化に大いに期待してい

村52集落の住民の生活等に関する「明るさ・希望調査」が行われました。

本町では、3地区7集落が対象となっています。集落の活性化に向け、一人一役による住民全員参加型の集落づくりや住民が主体となつた実践活動への展開を目指し、県元気ムラ推進チームと連携して、地区毎にワーキングショップを開催するとともに、住民主体による話し合いの開催や地域住民から研修会などに参加していただいている

ます。また、高齢者地域における買い物支援と交通手段確保のため、課題の抽出と解決策の検討も進めており、無料貸し切りバス運行による郊外型大型店舗での買い物支援などが行われています。

ており、安定した交通運行が確保されるとともに、買い物などの日常生活における不安を取り除き、高齢者が生き生きと安心して暮らせることが期待されています。

映画「釣りキチ三平」のロケ地が新たな観光資源



映画「釣りキチ三平」のロケ地は、平成21年3月の映画公開によって、この町の豊かな自然や文化などを広く全国に発信することができ、築100年の茅葺民家「三平の家」、馬場日川源流部にある巨岩「ネコバリ岩」は、訪れる多くの人々に感動を与えており、新たな魅力ある観光資源になりつつあります。

「三平の家」には、

観光案内人を配置し、

一般公開を行っておりま

すが、入館者は、毎日30人から50人の観光客で賑わいを見せおり、これまでの当地域への登山、

渓流釣りなどの観光

入込客数（年間約7,500人）に匹敵す

►「釣りキチ三平」のロケ地にもなった巨岩[ネコバリ岩]



最後に

信拠点の設置を目的として整備した農家レストランは、平成23年4月にオープンしています。開業時から各種報道機関による取材や報道がなされ、1日の食事の提供数は当初見込みの倍以上となっており、旬の山菜を中心としたメニューを提供していますが、お客様からはヘルシーで大変おいしく高い評価をいただけており、リピーターも多く、大変喜ばしく思っています。

盆地庵（ぼんじょうあん）古民家を復元して建てられた茅葺き屋根の宿泊施設。暖炉裏で山村生活を体験。1日1組限定の自炊の宿。

五城田町まちづくり課

澤田石清樹

（平成23年4月11日付第275号）

盆地庵（ぼんじょうあん）

古民家を復元して建てられた茅葺

き屋根の宿泊施設。暖炉裏で山村

生活を体験。1日1組限定の自炊

信拠点の設置を目的として整備した農家レストランは、平成23年4月にオープンしています。開業時から各種報道機関による取材や報道がなされ、1日の食事の提供数は当初見込みの倍以上となっており、旬の山菜を中心としたメニューを提供していますが、お客様からはヘルシーで大変おいしく高い評価をいただけており、リピーターが多く、大変喜ばしく思っています。

盆地庵（ぼんじょうあん）古民家を復元して建てられた茅葺き屋根の宿泊施設。暖炉裏で山村生活を体験。1日1組限定の自炊の宿。



「温もりと活力ある まちづくり」

—情報と人・もの・自然・文化に出会う会津嶺の里—

はじめに

磐梯町は福島県会津地方北東部に位置し、秀峰「磐梯山」をはじめとする豊かで美しい自然環境に包まれるとともに、平安時代初期に徳一菩薩が慧日寺を創建し、会津仏教文化発祥の地として栄えるなど、悠久の歴史と文化、伝統を有する町であります。

町土は、総面積が59・69km²で、うち約70%が磐梯朝日国立公園を含む山林で占められ、起伏の多い山岳地となつており、この地形を活用して、スキー場やゴルフ場が立地しております。気候としては、日本海型気候の地域に属し、年間平均気温は10℃前後で夏期は比較的しのぎ易い一方、冬期は平均150cmもの積雪があり特別豪雪地帯となっています。

また、人口は3,849人、世帯が1,483

台帳)で、高齢者率が29・7%となつております。過疎地域指定の町であります。

現在の磐梯町は明治22年の市町村制施行の際、4ヶ村が合併し磐梯村となり、昭和35年4月に町制を施行し、その後平成の大合併において町民の多くの声をもとに、自立とじう道を選択し、今日に至っております。

幼小中一貫教育

「まちづくりは人づくり、人づくりは即ち教育である」との理念に基づき、

基礎学力の向上や豊かな人間性の涵養、体力の向上を目指して、平成16年度から町独自の幼小中一貫教育を導入しています。

英語、算数・数学を中心とした教育を行うとともに、幼児教育の重要性



福島県 磐梯町 ばんだいまち

▲磐梯町の航空写真

性を考慮して子育て中の若者世代の負担を軽減するために幼稚園保育料の無料化を実施しています。

更には、昭和63年のカナダ国オリバー市との姉妹都市締結を契機として、

平成元年度から相互間の教育交流をス

タートし、ホームステイなどを通じた

相互親善交流、語学指導外国青年招致事業や町独自の語学指導助手の招致など、語学教育の環境充実に努め、国際理解とともに国際人としての自覚を得する教育を実践しています。

また、一ト化社会に適応できる個性と創造性豊かな人材を育成するため、平成15年から整備を開始した光ファイバー網を活用し、積極的な情報教育に

も取り組んでいます。

今後の取り組みとしては、平成24年度より中学校の校舎、体育館などの建替え整備に着手し、さらなる教育環境の充実を図る計画があります。

悠久の歴史と文化のまち

史跡慧日寺跡は、今からおよそ

千二百年前、理想の仏法を追い求めて南都（奈良）を離れ、靈峰磐梯山の麓にたどり着いた一人の若い僧「徳二」によって開基された東国を代表する寺院です。その広大な寺院跡は昭和45年に国の史跡に指定され、以来、町をあげてその保存に努めてまいりました。

その経過の中で、町は史跡慧日寺跡の整備事業を「特色あるまちづくり」の重点施策に位置付け、約17万平方メートルにも及ぶ広大な指定地のなかで、20年以上にもわたり発掘調査を行ってまいりました。



▲幼小中一貫教育（幼稚園での授業風景）

心伽藍部の整備計画を文化庁はじめ有識者からのご指導をいただき進め

こりましたなか、



▲(上)巫女舞 (下)復元された金堂と中門

も取り組んでいます。この他にも磐梯町には、福島県指定重要無形文化財としての「磐梯神社の舟引き祭りと巫女舞」、町指定無形文化財「会津赤枝彼岸獅子舞」など、多くの行事・文化が伝承されております。

観光のまちへ

本町は、磐梯朝日国立公園内の磐梯山や廻嶽山・猫魔ヶ岳等を北限として、南限は猪苗代湖を水源とする一級河川日橋川が流れ、磐梯西山麓湧水群は日本名水百選にも選ばれ、豊かな自然と環境をもつた山紫水明の町です。

夏期には多くの登山客でにぎわい、大自然を満喫しております。

また、総合保養地域整備法（リゾート法）の第1号として承認され、行政主導型による整備がなされた、スキー場・ゴルフ場・日帰り温泉施設を備えるオールシーズン型の「アルツ磐梯リゾート」やオーナーの個性が光るバリエーションに富んだ「七ツ森ベンション」、「テニスコートやゲートボール場、アスレチック広場など家族連れで楽しめる「おおるり公園」など、四季を通して訪れる人々に憩いの場を提供しています。



▲道の駅オープン



▲磐梯山頂上からの展望

むりに、平成21年にオープンした「道の駅よんだい～徳一の里きりり～」は新鮮野菜や手芸品おみやげなどの地場産品はむかろとのこと、青森県むつ市との交流により山でありながら海の物が楽しめるとあって好評を得ています。町の名産であるそばの実を使った「そばソフト」もおすすめです。

当町において、ライフスタイルの変化、核家族化の進行に伴い、高齢者世帯や一人暮らし高齢者世帯、要介護世帯も増加傾向にあることから、町民の福祉の充実、向上を図るため、社会福祉協議会の活動の活性化とともに老人福祉センター及び保健医療センター整備を行つて来ております。

さうに、平成12年4月にオープンした診療所を核とした保健医療福祉の複合施設「磐梯町保健医療福祉センター（瑠璃の里）」の活用によるデイサービスセンター、現在の居宅介護支援事業所等の強化を図り、リハビリや健康づくりに向けて安心して生活できる「長寿・福祉社会」の実現に向けて幅広い事業活動の展開を図つています。



▲磐梯町保健医療センター「瑠璃の里」

平成15年11月には介護保険制度のもと医療と介護、自立支援を兼ね備えた磐梯町介護老人保健施設「ひらじい」を開設し、医療を受ける本人はもどり、介護している家族の負担軽減を図つています。

また、一人暮らし高齢者などの安全な生活確保のため、緊急電話の導入を図るとともに、保健師やホームヘルパーによる訪問、指導活動を含めた一人暮らし、寝たきり高齢者対策等の推進並びに、身体障害者福祉対策にも力を

平成16年度に磐梯町地域情報基本計画を策定し、全町に光ファイバー網を整備しました。この整備により、ブローダバンドの普及率も高まり子どもから高齢者までインターネットを楽しみ、ーーーが生活の一部になつております。

平成22年度からは、今までの防災無線に代えて光ファイバー網を活用した防災行政情報システム（ＴＶ電話）の整備を行つております。「音声」だけではなく、「文字」、「画像」による情報発信は、住民生活利便性の一役を担つております。

これからも、ーーーの技術は進歩し、ますます便利な情報化社会になることが予測されますが、住民ニーズを的確に捉えながら、時代の波に取り残されなじよつ情報化を進めてまいります。

魅力あるまちづくり ーーーを活かした

情報化社会と呼ばれ、住民の価値観やニーズが多様化する中、本町では地域間による情報格差をなくすため、

知サービスでは高齢者の安否確認も可能となるなど、安心、安全なまわりへいに取り組んでいます。

懲される中、歯止めをかけるとともに、ある地区においては小学校の複式学級が解消されるなどの成果が着実に現れております。

また、七ツ森地区に若者定住促進住宅地分譲事業（一区画120万円）や民間活力による住宅整備の推進など、今後ますます子育てに良好な住環境の確保に努めてまいります。

町は、少子高齢化や人口減少に歯止めをかけるため、特に若者の定住化に向けた住宅施策に取り組んでおります。具体的には、平成17年度から子育て世帯を対象とした若者定住住宅の整備を行っており、同年度には4棟12戸の整備を行い、夫婦12組、12歳以下の子供21名、計45名が入居し、少子化対策に一定の成果を上げることができました。以来、平成23年度までに31戸の若者等定住住宅整備を行い、夫婦31組、子供55名が入居し、さらには平成24年度にも6戸の若者等定住住宅の整備を計画しております、県内で人口の流出が危



▲ ITを使った合同児童学習会

町の産業別就業構成は第1次産業18・2%、第2次産業28・6%、第3

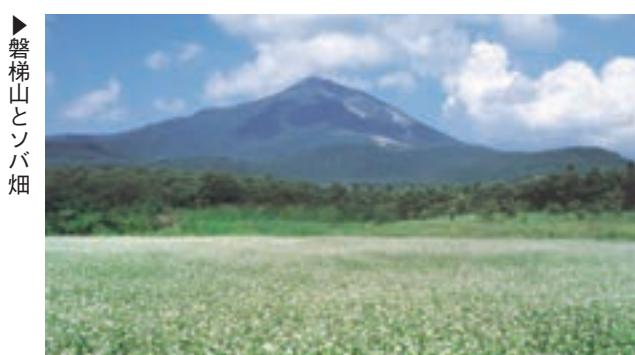
まちの産業

このようなかつて、担い手である専業農家の持続的発展を促すため、経営的に効率・安定化を図れる生産構造の改善と「米」を中心とした販売ルートの新たな開拓など、経営基盤の充実強化を目指した、「ミニマックスセンター構想」に取り組んでこらるといひであります。

地元企業として

できるかが、最優先課題となつております。

これまで安全・安心を確認するため米をはじめとする農産物のモニタリング調査や観光誘客事業やPRなどに努めて来たといひであります。



は、日曹金属化学株会津工場やレンズ製造業である㈱シグマ会津工場、名水を活かした榮川酒造㈱磐梯工場や㈱佐川磐梯山製氷工場などが立地しています。既存企業の発展はもとより、さらなる魅力ある雇用の場の確保、若者が就業

するために、本町の資源特性や環境を生かした企業の誘致に向けて、現在取り組んでいいるところであります。第1次産業の農業は水稻を中心に戸ウレンソウ、そば、しいたけ、リンゴ、蜂蜜など野菜・果樹・工芸物を生産しておりますが、従事者の高齢化と後継者不足が深刻化しており、大きな課題となつています。

震災による被害は、幸いにして大事に至らなかつたものの、原発事故による風評被害は、震災の被害を受けていた当町においても、農産物や観光をはじめとする、あらゆる業界に大きく影響を及ぼし、地域経済全体の停滞を招いております。

おわりに

（平成24年3月19日付第2793号）

▶シグマ工場

▶磐梯山とソバ畑

るために、本町の資源特性や環境を生かした企業の誘致に向けて、現在取り組んでいいるところであります。

次産業53・2%となつております。

震災による被害は、幸いにして大事に至らなかつたものの、原発事故による風評被害は、震災の被害を受けていた当町においても、農産物や観光をはじめとする、あらゆる業界に大きく影響を及ぼし、地域経済全体の停滞を招いております。

平成23年3月11日発生の東日本大震災による被害は、幸いにして大事に至らなかつたものの、原発事故による風評被害は、震災の被害を受けていた当町においても、農産物や観光をはじめとする、あらゆる業界に大きく影響を及ぼし、地域経済全体の停滞を招いております。

おわりに

（平成24年3月19日付第2793号）

磐梯町長 五十嵐源市



「小さくとも、魅力と活力にあふれる まちづくりを目指して」

り』が行われています。

**明治22年五霞村誕生。
平成8年に五霞町、平成23年
で町制施行15周年を迎えます**

五霞町は、関東平野のほぼ中央、茨城県の西南端、東京都心より約50km圏内にあり、茨城県では唯一、利根川の右岸に位置しております。

総面積は23.09km²、周囲は、北東部に利根川を隔てて茨城県古河市・境町に接し、東は江戸川を隔てて千葉県野田市、南西は権現堂川（現 権現堂調節池）及び中川を隔てて埼玉県幸手市・久喜市と四方を河川に囲まれた県境の町となっています。

総人口9,410人（平成22年国勢調査）で、茨城県内で一番人口の少ない町になっています。

本町では、農業・工業それぞれがバランスのとれた農工両全の町として、また、住民の安心・安全及び住みやすさにも力を注ぎ、社会資本の整備が必要であるとの認識のもと、上下水道事業が取り組まれ、現在は上水道・下水道の整備率は、ほぼ100%となっています。

五霞町と河川との関わり

周囲を利根川、そして本町南端で利根川から分岐する江戸川、中川及び権現堂川（現 権現堂調節池）に囲ま



茨城県 五霞町 ごかまち

▲利根川・江戸川の分岐点にある中の島公園「大こぶし」



茨城の西の玄関口 道の駅「ごか」

平成17年に「道の駅「ごか」」が新4号国道沿いにオープンし、県内外から多くの人たちが訪れております。管理・運営は、第三セクターである株式会社五霞まちづくり交流センターが町の指定管理者となり行つております。

「道の駅「ごか」」が目指すのは、地産



れた本町では、川の流れは、豊かなぬぐみをもたらすとともに、度重なる水害をも引き起こしてきました。

川と共に歩んだ歴史を振り返ると、江戸時代に輸送・交通手段として舟運が大きくな役割を果たすようになります。

銚子を経由して東北地方からの物資までも江戸へと運んでいました。このひとつの物資の輸送以外にも、人々の交通手段として重要な役割を果たしていました。利根川には明治時代の中頃まで、東京からの蒸気船が就航しておりました。当時、町内には3つの渡船場があり、町民の暮らしを支えておりました。

昭和22年のカスリーン台風による大洪水を最後に大きな水害は発生していないましたが、その後、利根川では2回の堤防改修工事、現在も国土交通省において、利根川・江戸川の堤防強化事業が行われています。

こうした水との関わりの記録は、「水と闘い築いた里に、残る尊い自立の気風」という一節が五霞町立五霞東小学校の校歌に記されています。

その一方で、度重なる洪水中に悩まされることも多く、江戸時代から大規模な治水工事が何度も行われてきましたが、明治時代以降も、住民は水害だけでなく、信州や越後、さらには苦しめられてきました。

特に利根川水系の水運の発達は、流域の地域だけでなく、信州や越後、さらには



入る水量調整や、船の運航のために水位調整する「関宿水閘門」、そして、その当時植えられたとされる「ひぶし」などがあり、忘れてはならない史実として、今に伝えられています。

地酒。そして、町内外への情報発信の拠点です。

施設には、五霞町産の朝取り野菜や米はもちうんのこと、果物・花卉・加工品などを取り揃える農産物直売所「わだい万葉」や手作りのまんじゅう、ジエラードが楽しめる軽食コーナーも併設し人気を集めています。また、地元産品が味わえるレストラン「華いぶし」では、茨城県銘柄豚ローズポークを食材とした「トンカツ」や県産そば粉で作る「手打ちそば」、県産の「天然なまのてぐふり」などのほか地域食材を活かした季節食も楽しむことができます。

なかでも、道の駅ごかで開発した「ローズポークまん」（商標登録）がファーストフードの一番の人気商品となっています。商品開発を考えている中で、地元、茨城県銘柄豚ローズポークを使い、「ちよつと立ち寄つて、ちよつと食べる」というドライブイン的感覚で食べてもらおう



▶ローズポークまん

との声をもとに、横浜中華街に視察、コフビーエンスストアを何ヵ所も回り、味や大きさを研究し、完成品ができるまでには半年ほど何度も試作を繰り返して、肉まんを作りあげました。料理長は、「肉や野菜の食感を出すのに苦労しました」と話してくれました。このローズポークまんは県内の観光地やインターネットでの販売も行われ多くの皆さんに食されています。

また、道の駅ごかの開設により、経営規模が小さい農家の生産する少量多品目の農産物の販売が可能となり、地元生産者は、新たな作物に取り組むために各種組合を設立し、安心・安全な農作物を提供できるよう生産技術の向上を目指しエコファーマーの認定に取り組み、現在では56品目の認定を受けるなど五霞町農業の活性化に大きな役割を果たしています。

五霞ふれあい祭りをひねって 次世代に伝えたいもの

県成田方面への飛躍的なアクセス向上が見込まれています。同時に、周辺地域への都市的土地区画整理事業を図り、田園環境などと調和のとれた新たな産業の拠点を田舎し、商業・工業・流通業務など、多様な企業の誘致に向けた取り組みを鋭意推進しています。

今後、圏央道などの広域幹線道路網が確立される地の利を最大限に生かした「町の魅力と活力の更なる向上」が、益々期待されています。

五霞町では、毎年11月に「五霞ふれあい祭り」というイベントを五霞町、五霞ふれあい祭り運営委員会の主催によるなど五霞町農業の活性化に大きな役割を果たしています。

協働での企画・立案などを始めて6年、毎年、趣向を凝らしたプログラムを作り上げ、多くの方を楽しませてくれます。

実行委員会では、五霞ふれあい祭りのイメージキャラクターの募集・決定、その翌年度にはキャラクターグッズの作成、平成23年度に着ぐるみ製作にも取り組んでいます。

次に、現在は米作が中心の本町ですが、以前は五霞町が県内一位の麦生産地だったことを次世代に伝えたいとの思いから生まれたプログラム、「麦わら帽子飛ばし」を始めました。

そして、平成23年度は五霞町の特産物ともいえるお米のおいしさを町内外の方々に伝えるとともに、わら一度再確認してもらつたじと考へ、じはんに合う一品料理、「じはんの友ココナースト」を行いました。



▶飛べ!!麦わら帽子

広がる五霞町の可能性

現在、本町の中央を縦貫する新4号国道に接続される圏央道（首都圏中央連絡自動車道）（仮称）五霞インターチェンジの整備が進められています。

この圏央道の全線供用によつて、本町より東京、埼玉西部、神奈川、千葉

より開催しています。運営委員会には下部組織として、実行委員会をつくり、町民・町内の各種団体、行政の協働により、企画・立案から即日運営までを行っています。

協働での企画・立案などを始めて6年、毎年、趣向を凝らしたプログラムを作り上げ、多くの方を楽しませてくれます。

五霞町の重点プロジェクト

互いに絆を深め、『五霞町らしさ』をつくり、そのため、各種施策に取り組んでいます。

近年の五霞町を取り巻く情勢は、少子高齢化の急速な進展、金融不安による景気の悪化に伴う税収の落ち込み、住民ニーズの複雑多様化など、様々な課題に直面しております。

このような状況のもと、本町では第5次五霞町総合計画で掲げる「人がきらめき だれもが安心・安全に暮らせるまち 五霞」の実現を目指して、町民・各種団体・事業所のみなさんがあ

第5次五霞町総合計画では、まちづくりの6つの基本目標（大綱）を定めて施策を行っており、さらに施策を効率的・効果的に展開していくため、横断的に連携しながら実施する事業を重点プロジェクトとして位置づけました。

○重点プロジェクト内容

《自然との共生を基本とした 「暮らしの安全・安心プロジェクト」》

・見守り・助け合い事業

・災害に強いまちづくり事業

・地域公共交通システム構築事業

身近な地域における人々の助け合いや支えあいの関係を育みながら、毎日の暮らしのなかにおける安心・安全を実現し、町民だれもが将来にわたつて五霞町に住み続けたいと思えるまちづくりを進めます。

《地域ふれあいを活かした 「人・地域育成プロジェクト」》

・人づくり事業

・地域づくり事業

住み続けたいまち、住んでみたいま



おわりに

地域や社会における問題が多様化・複雑化するなかで、暮らしの質を高め、住みよい地域をつくるには、町民・事業所・行政がそれぞれの特徴や能力に応じた役割分担のもとネットワークを形成し、協働でのまちづくりが必要であり、これまで以上に、第5次総合計画や行財政改革を推進した積極的な施策に取り組んでまいります。

地域づくりのあり方が求められています。現代のライフスタイルに応じた地域づくりのあり方が求められています。これからは、それぞれの地域の住民が主体となったまちづくりを進めるとともに地域や時代にあった人づくりや、地域づくりのあり方を構築していく必要があります。

五霞に住んでよかつたとだれもが実感できる五霞町を町民と一緒に、創り上げていきます。なお、今回ご紹介させて頂いた「道の駅ごか・ローズパークまん」につきましては、平成23年12月3日、全国町村会主催で行われる「町イチ・村イチ2011」に出品いたしますので、是非、ご賞味ください。

《地理的条件を活かした
「交流・発信プロジェクト」》

- ・圏央道IC周辺地域整備事業
- ・道の駅を核とした交流拠点形成事業
- ・情報発信事業

本町の地理的条件を活かした既存

産業の振興と圏央道IC周辺地域を活用した新たな産業の拠点づくりをすすめ、町内外との交流を積極的に展開することで、多彩な交流情報を発信し活力あるまちづくりを進めます。

▲道の駅直売所



▲五霞町の風景

豊かな自然と文化にはぐくまれ やさしさと活力に満ちたまちづくり

はじめに

那須の山々を源としてゆつたりと流れる那珂川と八溝山系の豊かな自然の恵みを受け、発展を続けてきた馬頭町と小川町が平成17年10月に合併して「那珂川町」が誕生しました。

栃木県の東部、茨城県境に位置し、東西約23km、南北約19km、中央部には関東の四万十川と称され町名の由来となつた清流那珂川が南流しています。総面積192・84km²のうち耕地が約15%、森林が約64%を占める中山間地域です。

人口は、19,000人あまりで、

主要な産業は、農業、林業、観光業です。農業は、水稻・畜産が主体ですが、近年ではトマト、イチゴ、ナスなどの施

設園芸作物やナシ、ブドウなどの果樹類も定着しています。林業では、豊富な山林を有する八溝山系の木材は、「どちぎ八溝材」として良質ですが、木材需要の低迷により苦しい状況に置かれています。

観光面では、地域資源をネットワークリ化するとともに、地場産業と連携し特産品の推奨を図り、交流人口の増加と地域の活性化を図りたいと考えています。

安全・快適なユニークーサル デザインのまちづくり

街なみ環境整備

広重美術館を核とした「にぎわい

のあるまちづくり」として、街なみ環境に配慮したバリアフリーの道路整備



栃木県 那珂川町 なかがわまち

▲電線類の地中化を実施し、景観に配慮した街並み



▲デマンドタクシーなかちゃん号



から3か年の継続事業でケーブルテレビ施設の高度化を実施しました。
平成21年4月にケーブルテレビ放送施設がリニューアルし、地上デジタル放送再送信を始め、CS有料放送サービス、インターネット接続サービス、IP電話サービスなど新しいサービスの提供が可能となりました。

情報通信基盤の整備は、あくまで地域活性化の手段であることから、基本サービスの充実はもちろん、ケーブルテレビ網の町民の利便性の向上、地域

交通弱者の足を確保するため、自宅と市街地まで利用者の希望に応じて運行する「デマンドタクシーなかちゃん号」の実証運行を平成22年10月から始めました。実証運行により見直しを行い本格運行に移行する予定です。

を推進し、人にやさしいユーバーナルデザインの道路交通環境の整備をしました。また、電線類の地中化も実施し、街並み景観の形成に努めました。

デマンド交通の運行

高齢者等のマイカーを利用できな

情報通信基盤の整備

当町は、高度情報化社会に対応し、

情報通信技術（ICT）を活用した地域の一体性の確保と行政サービスの向上を目的に、平成17年にケーブルテレビ高度化事業計画を策定し、平成18年



▶平成21年にリニューアルしたテレビ放送施設

域福祉や地域産業の活性化、豊かで安心・安心な生活の確保等に利活用していくことが今後の課題となっています。

人を育て未来を拓く まちづくり

文化の振興

歴史的には、関東地方で最も古い古墳が造られるなど特色ある文化が育まれました。国指定史跡の筆頭は、古代那須地方の役所である那須官衙です。発掘調査の結果、役所や倉とみられる建物跡が確認されました。県内最古とされる駒形大塚古墳、前方後方墳の那須八幡塚古墳などの那須小川古墳群、古代の豪族の墓跡と伝えられる唐の御所、弓の名手那須与一が生まれたとされる那須神田城址などが国指定の文化財となっています。

これらの史跡や資料を保護し、文化財の調査研究啓蒙普及を図るために県立なす風土記の丘資料館は、ふるさとの森公園の一角にあり、県北部地域の文化財保護センターの機能を果たしています。

歌川広重の肉筆浮世絵・版画等を中

▲県立なす風土記の丘資料館



その一つが県内に在住する外国人を中心

に地域民間団体の協力を得て実施するホームステイなどの国際交流事業

です。「ホームステイウイークエンブー

ン那珂川」と名付けたこの事業は、田

植え時期と稻の収穫時期の年2回実施し、平成22年度で15年目を迎えました。

平成22年10月の収穫には、県内在住の外国語指導助手や留学生など29人、ホストファミリーなど総勢120人が

参加して春に植えた稻の刈取りを行い



町内9か所の農産物直売所には採

れたての大根や白菜、キュウリ、トマトなどの新鮮野菜やイチゴ、ナシ、くりなどの果物が並び、安全安心な食材

を供給しています。

とちぎ「食」の回廊で、「八溝そば街道」にあたる当町では、十数軒のそば処があり、八溝山系の豊かな水資源のもと、寒暖差の大きい中山間地域で



▲ニューヨーク州ホースヘッズ村との交流

国際交流事業の推進

豊かな国際感覚と感性を身に付け、国際化時代に対応できる人材の育成と国際交流を生かしたまちづくりを推進しています。

心とする「青木コレクション」の寄贈を契機に建築した馬頭広重美術館は、美術品の研究・保存、芸術鑑賞など新たな芸術文化活動の拠点となっています。

人がにぎわい活力ある
まちづくり

自然资源を活かした地域振興

町の中央を流れる那珂川は、鮎の漁獲量日本一で、釣りのメッカです。鮎屋の軒先や観光やなで食べる鮎の塩焼さは格別です。



▶農産物直売所

トの新鮮野菜やイチゴ、ナシ、くりなどの果物が並び、安全安心な食材

を供給しています。

とちぎ「食」の回廊で、「八溝そば街道」にあたる当町では、十数軒のそば処があり、八溝山系の豊かな水資源のもと、寒暖差の大きい中山間地域で



作られた香りの高いせせらぎ
粉を使用したごだわり
の食味が楽しめます。

また、新たな特産品
のブランディングの取り組みを
紹介します。一つは、箱鼠やくべつ鼠
で捕獲した野生のイノシシの生体を買
い取り、町営加工施設で商品化したイ
ノシシ肉に「八溝しじまる」のブランド
名を付けて売り出しました。

二つ目は、温泉水を活用して、高級
魚のトロワグを養殖する「那珂川町温
泉トロワグ研究会」の取り組みです。
廃校となつた小学校で塩分を含んだ温
泉を使って実証実験を続けて、「温泉
トロワグ」の養殖に成功し、平成22年
夏に初出荷しました。今後、事業拡大
によりブランディングを図ります



自然の恵み

八溝県立自然公園内に位置する那
珂川町は、緑と清流に恵まれた自然資源、
古代から連なる歴史文化資源、温泉、
美術館、ゴルフ場、キャンプ施設など
のスポーツ・レジャー資源など魅力的
な観光資源を有しています。

那珂川沿いの高台にある馬頭温泉
郷は、1860（万延元）年に源泉が
発見され、今も豊富なお湯が湧き出て
います。アルカリ性単純泉で、肌がな
めらかになるとから「美人の湯」と
呼ばれており、「町営温泉ゆりがねの

「八溝しじまる」は、食肉加工店や
地元温泉旅館、飲食店に出荷され、八
溝しじまる料理として好評を得ています。
農作物の被害も減少し、まさに一
石二鳥の取り組みですね。

一つ目は、温泉水を活用して、高級
魚のトロワグを養殖する「那珂川町温
泉トロワグ研究会」の取り組みです。
廃校となつた小学校で塩分を含んだ温
泉を使って実証実験を続けて、「温泉
トロワグ」の養殖に成功し、平成22年
夏に初出荷しました。今後、事業拡大
によりブランディングを図ります

美術館

当町には、三つの美術館があります。

まず、「那珂川町馬頭広重美術館」
は、江戸時代の浮世絵師歌川広重の貴
重な肉筆画や保永堂版東海道五拾三次
之内、小林清親を中心とした明治版画、
日本洋画界創始期の画家川村清雄の油
絵、思想家徳富蘆花の書などを所有し
ています。「江都八景」や「富士十二景」
など、広重の肉筆画の名品を鑑賞する
ことができます。また、建築家隈研吾
氏の設計による建物は、「広重の芸術
と伝統を表現する伝統的で落ち着きの
ある外観」を「ソンセプト」とし、自然豊
かな町の景観に溶け込むよう、ゆつた
りとした平屋建てに切妻の大屋根を採
用しています。

美術館全体は、地元産の八溝杉に
よる格子（ルーバー）に包まれ、時間

湯」を始め、十数軒の温泉宿から眺め
る夕日に染まる那珂川は絶景です。
また、対岸の「まほろばの湯」は、
ナトリウム硫酸塩・塩化物泉で電気風
呂、気泡浴、遠赤外線強化仕様ファイン
ランドサウナなど様々な入浴が楽しめ
ます。



▲安藤広重「東海道五拾三次 庄野」



►那珂川町馬頭広重美術館

とともに移りゆく光によつておもわせ
な表情を見せてくれます。

「いわむらかずお絵本の丘美術館」
は、日本のみならず、ヨーロッパやア
メリカ、アジアなど13か国の国々で翻
訳出版されている世界的な絵本作家い
わむらかずお氏の原画や絵本などが展
示された美術館です。



「むらひとつの美術館」は、廃校に
なった小学校の校舎を活用して開設さ
れました。さまざまな障がいを抱えた
人たちの芸術活動をサポートするとと
もに、誰もが表現活動の楽しさを感じ
ることができます。あるいは人との人を結び
つけ、誰もが人の可能性、自分の可能
性を見出していく、そんな新しい出会い
の場を提供している美術館です。

江戸時代から続く伝統の技

「小砂焼」は、日本最古の砂金の産
地と伝えられる当町の小砂地区から焼
物に適した陶土が発見されたのをきっ
かけに、水戸藩主徳川斉昭が御用窯と
して庇護し、日用の陶器が焼かれるよ
うになりました。

現在は、黄金の光を放つ砂金を思
わせる金結晶の陶器を始め、青磁、白
磁などが軒の窓元で製作されていま
す。

美術館に併設されたえほんの丘（子
どもの森）は、総面積10㌶の土地が、

描かれた絵本同様に雑木林や草原、田
んぼや畠などを配し、訪れた子供たち
が自然を学び、豊かな心を育む情操教
育の場となっています。

「むらひとつの美術館」は、廃校に
なった小学校の校舎を活用して開設さ
れました。さまざまな障がいを抱えた
人たちの芸術活動をサポートするとと
もに、誰もが表現活動の楽しさを感じ
ることができます。あるいは人との人を結び
つけ、誰もが人の可能性、自分の可能
性を見出していく、そんな新しい出会い
の場を提供している美術館です。

▲小砂焼



地として20年間無償貸与するもので、
1区画150坪程度で10区画整備しま
した。田舎暮らしを考へての方のお
越しをお待ちしております。

那珂川町長 大金 伊一
(平成23年3月14日付第2752号)



▶「農ある田舎暮らし高手の里」
定住人口を増やすため、家庭菜園
もできる分譲宅地「農ある田舎暮らし
高手の里」を造成しました。

▶「いわむらかずお絵本の丘美術館」

▶「農ある田舎暮らし高手の里」を造成

U-イーターン対策事業で、 自立する村づくりを目指す

はじめに

上野村は、群馬県の最西南端に位置し、西は長野県、南は埼玉県に接しています。その境界は秩父、荒船、御荷鉾連山等のいずれも急峻な1,000～1,500mを超える山々が連なり、その支脈が複雑に入りくんで、平坦地は極めて少ない典型的な山村です。山々は、原生林を始めとして深い森林に覆われ、森林面積は村の総面積181・86mの96%を占めていますが、広葉樹が多く四季のうつろいは鮮やかで、たいへん美しい景色を形成しています。村の中央には、西から東に向かって村に源を発する神流川が貫流して渓谷をつくり、その本支流の河岸段丘を利用して、標高400～800mの位置に小集落が散在しており、人口



▲人口1,379人の上野村。13%強に当たる187人がUイーターン者です。
上野村は、定住の方々を積極的に支援しています。

群馬県 上野村 うえのむら



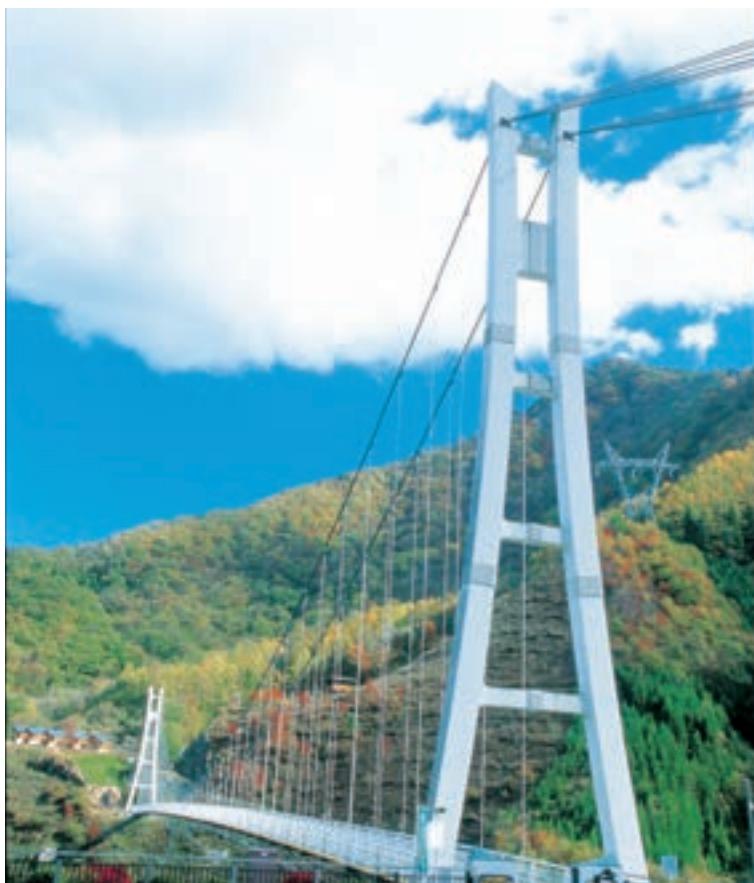
は1,379人（平成22年6月1日現在）と群馬県で最も人口が少ない自治体です。

本村は、東京から100km圏内に位置しているのですが、上信越自動車道や平成16年3月の湯の沢トンネル開通に伴い、都心から2～3時間程度のアクセスで雄大な山岳美や親しみやすい溪流など「大自然の癒しの力」にあふれる環境を満喫できるようになりました。



▶大自然あふれる上野村の風景

◀川和自然公園とまほーばの森を結ぶ、高さ90m、長さ225mの上野スカイブリッジ。吊り橋を渡れば空中散歩気分。4月から11月は、1日3回シャボン玉の舞う風景が見られます！



また、観光資源についても、群馬県指定天然記念物であり関東一の規模を誇る鍾乳洞「不二洞」を中心とした

連続で関東一きれいな川に選出された神流川もあり、入り込み客数は増加しています。

川和自然公園、天空回廊（まほーばの森・上野スカイブリッジ）、国指定重

要文化財の「旧黒澤家住宅」、平成17年12月に1号発電機が運転を開始した

東京電力の神流川発電所、また、平成の名水百選に選定されるとともに5年

◀神流川（かんながわ）は、イワナやヤマメ、鮎などの多くの渓流魚を育み、大勢の釣り人に愛されています。



リーチャン対策事業におけるこれまでの取り組み

そこで、本村は、平成元年度よりリーチャン者を積極的に受け入れており、現在は人口の13%強の187人（平成22年5月現在）が定住し生活をして

観光客の増加とともに、本村が総力をあげて取り組んでいるのが定住対

策です。過疎から脱却するためには、何より若い世代を中心とした人口の増加が必要であり、そのことが高齢化問題及び少子化問題の解決にも繋がっていきます。

じます。総人口に占めるJ-ETERNERSの割合は全国的にみても大変高く、各種の定住化対策事業の成果によるものと考えられます。具体的な対策事業としては、就業の場の確保（木工事業の振興、特産品開発・製造販売事業等の産業振興及び観光事業の振興）、村営住宅の整備及び後継者定住促進条例による生活支援をこれまで強力に推進してきました。



就業の場の確保

本村には企業が少ないため村を中心となり、就業の場の創出に努めています。J-ETERNERSの主な従事先は、木工業、農林業、特産品製造販売業（上野村きのこセンター・十石みそ工場・森の菓子工房等）及び観光事業（第三セクター（株）上野振興公社等）となっています。木工業については、昭和51か

52年度にかけて建設した現在の銘木

成18年度農林水産省総合食料局長賞を受賞した上野村農協の十石みそ工場、村内の木材を使用したオガの菌床で椎茸や舞茸を生産する村直営のきのこ工場及び村の素材を活用した菓子の開発を手がけている村直営の森の菓子工房がJ-ETERNERSの主な就業の場となっています。

また、特産品製造販売業では、平

成18年度農林水産省総合食料局長賞を受賞した上野村農協の十石みそ工場、村内の木材を使用したオガの菌床で椎茸や舞茸を生産する村直営のきのこ工場及び村の素材を活用した菓子の開発を手がけている村直営の森の菓子工房がJ-ETERNERSの主な就業の場となっています。



工芸センターを中心に村の森林資源を利用した挽物製品（茶釜、菓子器、茶托等）の加工施設や展示販売施設を整備しています。現在、J-ETERNERSを含めて十数名の木の工人達が木工家協会を設立する等、村の貴重な地場産業として定着しています。森林整備事業についても木工業同様J-ETERNERSの就業の場として現在も就職率の高い職種です。

生活支援

J-ETERNERSへの生活支援については、村の後継者定住促進条例に基づいて、生活補給金、結婚祝金、住宅資金利子補給を行っています。当村に移住してきた場合、移住前に比べ所得が減少する場合も多く、安定した所得が得られるまでの支援として最長36ヶ月を限度に生活補給金を月5万円支給しています。その他、誕生日祝金、養育手当（3人目から月額1万円、最長15年間支給）、子供の福祉医療（中学校卒業までの医療費無料）及び低額での保育の提供（月額2,000円）などを実施しており、J-ETERNERS者が村に定住しやすい環境の整備に努めています。

J-ETERNER対策事業の今後の取り組み

村営住宅の整備

J-ETERNERSの主な住居である村営住宅については、様々な制約のある公営住宅の補助金を使用せず、J-ETERNERS者が少ない負担で入居できるよう、村単独で整備しています。現在までに9世帯分の整備を行いましたが、依然供給不足の状況です。

林業における新たな可能性の模索による雇用の拡大

本村は、交通条件や地形的な条件から企業誘致による雇用の拡大は難しい状況です。今後も既存の就業の場を充実させ雇用の拡大に繋げると同時に、

▶上野村の木工品
食器・おもちゃから世界で一点の特注家具まで、職人たちが心をこめてつくります。

▶上野村の特産品
自慢の肉厚のきのこと十石みそ 加工品
セカターリー（株）上野振興公社等）となっています。木工業については、昭和51

林業における新しい可能性も模索していくたとえます。森林面積が村の総面積の96%を占める本村では、一層のリーターン対策を推進していくために林業分野における雇用拡大は強く求められる」とです。

林業については、現在、搬出間伐（伐採から林内搬出まで）の採算がどれるよう、村独自の財政的な支援を林業事務から求められています。



▶ 現在、伐採から林内搬出まで、林業で採算が取れるよう、村独自の財政支援を行っています。今後は、林業における新たな可能性も模索します。

業者に対して行っていますが、今後、伐採の際に生じる「林地残材」について森に放置して森林荒廃の一要因となるのではなく、有効的に活用する仕組みづくりを行います。具体的には、村にペレット工場を建設し、「林地残材」は当該工場でペレット化して村内の施設や住民に供給し、将来的には村外にも販売したことになります。村による財政的支援等を行い、ペレットの原料調達、製造及び流通の各段階における雇用の創出をねらいます。林業全体として、良材は市場に搬出、「林地残材」はペレット化するように、村の森林資源を余すことなく活用する「村内循環型経済社会」を構築することにより、雇用の大きな受け皿にしてきました

ことと、良材は市場に搬出、「林地残材」はペレット化するように、村の森林資源を余すことなく活用する「村内循環型経済社会」を構築することにより、雇用の大きな受け皿にしてきました

村営住宅の更なる充実

現在、村営住宅は満室状態が続いている。定住希望者への安定的な住宅供給のため、今後も積極的に村営住宅の整備を進めています。整備にあたっては、1ヶ所に住宅を集中させることではなく、各集落の実情等を勘案しつつ、村の各集落に住宅を分散配置して限界集落の解消にも結びつけていきます。



▶ 定住を促進し、活力ある村づくりをはかるため、積極的に村営住宅の整備を進めています。

群馬県は、現在35市町村で構成されています。本村は群馬県で最も人口が少ない自治体ですが、リーターン対策を通じて村民の年齢構成は変化を見せ（リーターン者はほとんどが40歳以下）、子育て世代、高齢化及び少子化の様々な交流により、集落全体の活性化をはかっています。実際、地元の人からも「赤ちゃんの声が聞こえる集落になりよかったです」というような喜びの声も聞こえてきています。

また、住宅を新設するだけでなく、使用していない既存古民家を改修し住宅として活用するなど、定住希望者の様々なニーズを満たす取り組みも行っていきます。

おわりに

群馬県は、現在35市町村で構成されています。本村は群馬県で最も人口が少ない自治体ですが、リーターン対策を通じて村民の年齢構成は変化を見せ（リーターン者はほとんどが40歳以下）、子育て世代、高齢化及び少子化の様々な交流により、集落全体の活性化をはかっています。実際、地元の人からも「赤ちゃんの声が聞こえる集落になりよかったです」というような喜びの声も聞こえてきています。

また、住宅を新設するだけでなく、使用していない既存古民家を改修し住宅として活用するなど、定住希望者の様々なニーズを満たす取り組みも行っていきます。

上野村長 神田強平

（平成22年7月19日付第27-27号）

PRの充実

全国的なリーターンイベントである

「人と自然 やすらぎと活力のある 村づくり」

—さわやかな高原の村『つまごい』の明るい未来をめざして—

はじめに

嬬恋村は、群馬県の西北端に位置し、東は長野原町、草津町、西北は長野県に村境を接しています。面積は337・51km²で、うち7割近くを山林で占めています。村の東部を除く外周には、浅間山、四阿山、白根山などの2000m級の山々が連なり、北西部一帯は、上信越高原国立公園に指定されています。居住地は、標高700mから1800mの間に位置し、集落の大部分は村の中央部を流れる吾妻川の流域に散在し、浅間山の影響を受けて火山灰土の腐食土壤が多い地質で、高原野菜の産地を形成しています。

明治22年の市町村制の施行に伴い、現在の嬬恋村が誕生。村名は、日本武尊と愛妻弟橘媛との間の口マンに満ちた伝説に由来しています。

気候は、高原地域特有の冷涼な気

候であり、夏の降水量が多く、昼夜間の温度差が大きく、平均気温は7・5℃で、豪雪地帯に指定されているものの冬季の降雪量はそれほど多くなく、雪期間は12月下旬から4月上旬までとなっています。

過疎地域指定に

本村の人口動態は、昭和35年の15、214人を最多に昭和55年には10、737人と著しく減少しています。これは硫黄鉱山の閉山により、若年層が村外へ流出したことによる結果となっています。その時に過疎地域の指定となりました。平成22年度の国勢調査では、10、178人と減少傾向です。

一方日本列島改造などによる急激な経済成長で、浅間高原一帯に別荘分譲が盛んになり、過疎地域振興特別措置法（昭和55年）の指定からはずれる



群馬県 嬬恋村 つまごいむら

▲「愛してる！」キャベツ畑の中心で妻に愛を叫ぶ（通称キャベチュー）

ことになりました。平成になり、ふるさと創生事業、大規模リゾート地域の指定など開発ブームが進む中、地価高騰や環境問題がクローズアップされ、急激なバブル崩壊とともに、公共事業の減少や地域経済が徐々に衰退傾向になりました。過疎地域自立促進特別措置法(平成22年)で再指定となりました。

本村の財政運営

本村は、国営農地開発事業負担金やスキー場事業の債務をはじめ、バブル期以降に多くの建設事業に取り組ん

できた結果、平成20年度決算において、「実質公債費比率」が基準を超えたため「早期健全化団体」となりました。そのため平成18年9月に策定した「嬬恋村財政健全化計画」、その後平成20年9月に策定した「第1次嬬恋村財政健全化計画」に基づいて歳入確保・歳出削減を進め、平成21年度決算では、実質公債費比率を早期健全化基準の25%未満にあることが出来ました。

さらに、起債の許可を要しないとされる18%未満も視野に入れた不斷の取組みを進め、住民の安心・安全の確保と地域経済の活性化を図りつつ、信頼される財政運営に努めています。

村の主な計画

平成23年度には、村の豊かさを築いてきた「人」と「自然」を村づくりの基本視点におき、「やすらぎ」の提供と「活力」を生み出すために継続性のある明るい未来を目指し「人と自然やありきと活力のある 村づくり」へむやかな高原の村「つまづく」の明るい未来をめざしてスローガンに「第五次嬬恋村総合計画」を策定しました。次の6つの領域で具体的な施策に取り組みます。



▶粉雪舞うバラギスキーフィールド

(1) 自然と人々が共生する村づくり
(2) 健やかで人にやさしい村づくり
(3) 生きる力をはぐくみふるさとを愛するひとづくり

(4) 安定と元気のある産業を生み出す村づくり
(5) やすらぎと潤いのある村づくり
(6) 未来へ向けた行財政をめざして過疎地域からの脱却を図り、若者の定住促進に向けた就業の場の確保や快適な生活環境の整備を目標として

地域の魅力をより高め、自然環境や地域資源を活用するような対策として「嬬恋村過疎地域自立促進計画」を策定しました。重点項目は、①保健・医療・福祉サービスの充実②嬬恋村を担う人材の育成③自然豊かで、やすらぎのあるむら④災害に強く、安心して生きてできるむら⑤広域的な視点に立った基礎の整備⑥少子・高齢化の対策⑦基幹産業を基軸とした新たな産業構造の確立⑧「ミユニティ」を重視した協働の地域づくり⑨費用対効果の高い財政運営⑩地球温暖化対策への取り組みです。

キャベツの大産地

特産のキャベツは、昭和初期から始まり、昭和30年～40年には「嬬恋村

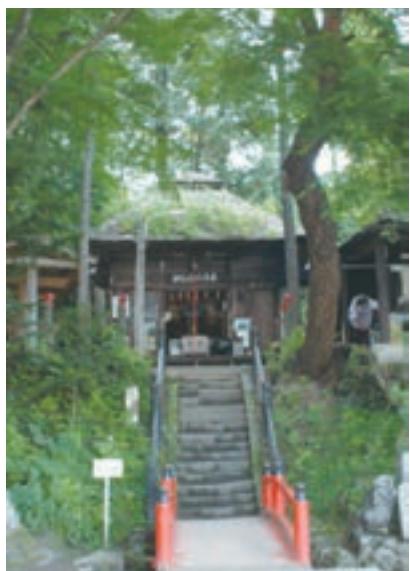
の高原キャベツ」としてブランド商品とされるようになりました。昭和41年から野菜指定産地となり、大規模な農地造成が始まり、一大農園地が形成され、出荷量とも、夏秋キャベツでは日本一の産地となりました。キャベツがよく育つ気温は15℃～20℃で、他の地域では、6月からの月の気温が高いため、キャベツの生産は不向きで、この期間にキャベツの生産が出来るのは、夏でも涼しい北海道



▲夏秋キャベツは日本一

▶夏のキャベツ畑と浅間山

◀天明3年の大噴火で運命を分けた鎌原観音堂



人、集落の西側の高台に
あつた鎌原観音堂にたど
り着いた者など93人が奇
跡的に助かりました。

平成16年9月1日の噴

火を契機として、浅間山火

山防災対策連絡会議を組

織して、ハザードマップの

作成、噴火による土砂災害

に備えるため砂防事業の

実施、火山監視映像の配信や地震計設
置、浅間山体内部の観測などの体制も
充実しています。

平成21年10月には「火山との共生、
観光の振興、国際性のある地域振興」

をテーマに全国の火山を有する自治体
が参加する火山砂防フォーラムが本村
を中心を開催され、火山砂防意識の啓
発に取り組んでいます。

村の観光



本村は、2000メートルを超え

る浅間山・四阿山・本白根山・湯ノ丸
山の雄大な景観に抱かれ、標高
1800メートルにある乳白色の硫黄
泉の万座温泉郷、古くから湯治場とし
て1500メートルの高原にある鹿沢
温泉郷など温泉も豊富です。



▲雄大な景観「愛妻の丘」

や、標高の高い限られた地域だけです。
嬬恋村では、昼間は暑くても、夜間に
は気温が下がり涼しくなるため、この
気温差と高原特有の朝露のおかげで、
おいしいキャベツを生産することがで
きます。

愛妻の村づくり

平成16年11月に嬬恋村で週末農業
を楽しむグループにより、村名の由来
と発案した方ご自身の経験から「妻と
いうもつとも身近な他の他人を大切に
する人が増えると、世界はもう少し豊
かで平和になるかも知れない。」とい

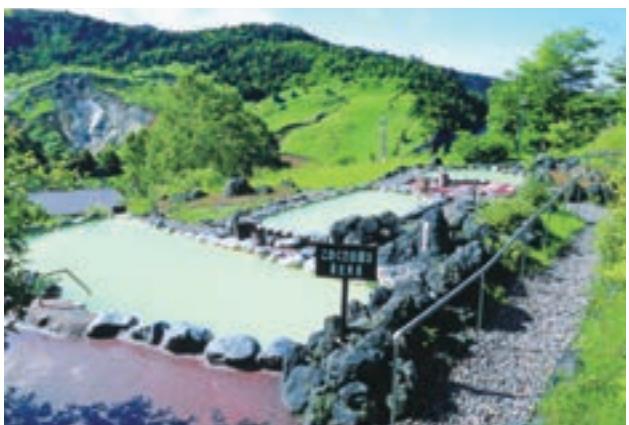
うことで平成18年に始まりました。妻を
前に「ありがとうございます」「愛してる」な
どの言葉が出にくくされていますが、
ひとまずキャベツに向かつて叫んでみ
ると苦手な愛情表現を克服できるので
はないかと考えました。

平成19年に「愛妻家の聖地」とし
ての村づくりを進める上で、田代湖や
浅間山の雄大な景色の「愛妻の丘」を
造成。この「愛妻の丘」では、住民の
手により芝桜等の植栽や周辺の環境整
備等が実施され良好な景観が保たれて
います。

平成20年度には、これらの地域づ
くりの活動が評価され、総務大臣表彰
団体表彰を受賞しました。愛妻の丘に
は、じつ誰が来ても愛を叫ぶことができる「妻に愛を叫ぶ専用叫び台」があ
ります。普段なかなか口にできない言
葉を叫んでみてはいかがでしょうか。

浅間山の噴火と防災

天明3年（1783）の浅間山大
噴火では、本村鎌原地区で死者477



▲夏の万座温泉露天風呂



▲万座のコマクサ

粉雪舞う5つのスキー場、本格的なリゾートコースの3つのゴルフ場、雄大な景観と高山植物が豊富なバラギ高原エリア、浅間高原エリア、鹿沢・湯の丸・高峰エリア、万座・白根エリアに年間200万人を超える観光客が訪れています。各高原では、四季折々の石楠花・レンゲツツジ・コマクサ・ヤナギラン・リンゴドウなど高山植物が咲き乱れています。

また湿気も少なく、夏は涼しい気候のため9000戸の別荘が建築され、軽井沢にも勝る別荘地を形成し、滞在型・体験型のメニューも豊富で、遊歩道、観光施設、景観ポイント、歴史的遺跡等豊富で、訪れる方々に大変喜ばれています。しかしながら、観光客数は、平成5年度の3,338,000人をピークに、平成21年度は2,161,800人と64.8%まで減少しています。

観光協会・商工会では、キャベツマラソンの開催や、千代田区における雪だるまのイベント、各観光エリアにおいても様々な取り組みで、誘客や宣伝活動に努めています。

おわりに

皆様には、村民憲章にあるように「なげかけるいじばにほほえみを さしだすその手に むくむりを」嬬恋村

であります。こつした事業がマスコミに取り上げられ知名度向上に効果を上げています。今後は真田街道など広域観光連携やネット関連の情報発信ツールの導入、施設の整備等により観光振興を目指します。

教育施設の再編

本村には、幼稚園3園、保育所1園、子どもふれあい館1箇所の施設が配置され、義務教育施設は、小学校5校、中学校2校です。過疎化、少子化による園児の減少、就労形態の変化等による保護者のニーズに応えるべく、幼稚園では預かり保育の実施、保育園では保育時間の延長や土曜日の保育、幼稚園と保育所の連携等を進めています。

平成16年度「嬬恋村教育施設再編計画」を策定し、平成21年度再度検討を重ね、平成27年までに小学校2校、中学校1校、幼稚園2園の再編成に向けて取り組んでいます。



▲川床が安山岩でできた石畳「石壙」

の素朴さと温かさを感じていただきたいたと思つておつます。私は就住以来、Think Global Act Local!!(地球的大規模で考えて地域のために活動する)を信条に日々活動しております。一人でも多くの方々に「嬬恋村に住んで良かった」。嬬恋村に住んでみたい。と思っていただけます。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

嬬恋村長 熊川 実

(平成23年8月22日付第2770回)

▲レンゲツツジの湯ノ丸山

▲15万株の「しゃくなげ園」

景観に配慮した魅力ある町づくり

◀草津白根山

豊かな自然、そして温泉

草津町は群馬県の北西部に位置し、東西9km・南北8km、総面積は49.7km²、人口7,100人の小さな町です。

北と西には三国山脈の2,000m級の山々が聳え、東と南には海拔1,200mの高原が開けています。

特筆すべきは、土地の約70%は国有林であるとともに、草津白根山を中心としたその周囲は、上信越高原国立公園に指定され、あるがままの豊かな自然がしっかりと守られています。日本有数の活火山である草津白根山をとりまく山岳景観は、景勝地としては見ごたえ十分、また、ここは高山植物の宝庫でもあり、春のシャクナゲ、夏のコマクサ、秋にはナナカマドの紅葉が季節を彩り、ハイカーや観光客の目を楽しませてくれます。

そして最も重要なことですが、草津町が一番大切にしている「温泉」となる地下水が、その豊かな自然によつて、しっかりと蓄えられていることです。マグマ溜まりの熱で温められた地下は、毎分32,300ℓの温泉となつて町内の各所に湧きだし、自然湧



群馬県 草津町 くさつまち

▲毎分4,000リットルもの熱湯が湧き出ている迫力の湯畠(ユバタケ)広場

◀シャクナゲ



◀コマクサ



◀豊富な温泉



よそ室町時代には草津温泉の名が文献に出ており、戦国時代には豊臣秀次や前田利家など多くの武将が草津温泉を訪れています。江戸時代には全国

にその名が広まつてじたようで、小林一茶や十返舎一九などの文人も多く訪れ、「草津千軒江戸構え」とうたわれるほどの賑わいを呈したようです。

明治時代に入り、ドイツ人医師のベルツ博士（明治時代のお雇い外国人として来日、29年間東京大学で教鞭をとり、日本の医学の近代化に尽力した。

大正天皇の侍医をつとめていた）が草津を訪れ、「草津には、無比の温泉以外に日本で最上の山の空気と、全く理想的な飲料水がある。こんな土地が、もしヨーロッパにあつたとしたら、カ

ルルスバード（チエコ共和国のカルロビ・ヴァリ市で、ヨーロッパを代表する温泉リゾート地）よりもにぎわう」と絶賛し、温泉保養地として使える土地が少なく、農業も成

り立たなかつたことなど、観光以外では生計を立てることができない土地

は7・8%となつてします。つまり町民のほとんどは第三次産業に従事し、しかもサービス業（全体の63・3%）に従事しています。

つまり、草津町=草津温泉であり、温泉地として、観光業で町が成り立つ

た。道路や上下水道などの整備が行われ、外へ外へと開発が広がつていきました。

特に「草津スキー場（現草津国際スキー場）」は、昭和23年に日本のスキー場としては最初期にスキー・リフトを建設し、その後全国に広がつた一大スキーブームの牽引役となりました。また、昔からあつた地域の「共同湯」も趣を異にした、日帰り温泉入浴施設「大滝乃湯」が建設され、草津町の経済発展の一翼を担いました。

草津スキー場も大滝乃湯も、週末ともなれば観光客がごつた返す状態で、日本全国の観光地同様（観光地だけではありますんが）、草津町もバブルに

沸き立ちました。

そして訪れたバブル経済の崩壊。俗に言う「失われた10年、あるいは20年」、日本経済が低迷、混沌する時代となりましたが、草津町も例にもれず、長い間、温泉観光地としての在り方、方向性を見いだすことができず、もがき苦しんできました。

歴史を振り返つて・・・

温泉観光地の在り方にについて

私は、観光地の使命とは、そこを訪

歴史を振り返つてみると、お

大型ホテルを建設し、やがてリゾート



なぜ、踏みとじあることが できたのか？

それは、豊かな自然とそこで育まれた圧倒的な「温泉力」、長い歴史に培われた個性豊かな温泉文化（草津温泉には「湯もみ」や「時間湯」等、草津温泉独自の文化があります）、時間をかけて形成された情緒ある街など…。じわば日常生活で経験できない生活空間、あるじは「癒しの空間」が、草津町には、残っていたからではないでしょうか。

景観ルールづくりと 湯畠広場の再整備

草津温泉のシンボルといえば「湯畠」です。ここでは湧き出たばかりの温泉が湯煙をあげ、7本の木桶に通されたのち、湯滝となって流れ落ちています。

高度経済成長の時代、大量生産と大量消費の時代を経て、時流に迎合して開発を進めた多くの観光地がその魅力を失い、疲弊して苦しいであります。あるがままの自然を守り、地道に地域の特性を活かした町づくりを行ってきました。観光地が、いまでは多くの人達から支持される観光地となっています。

草津温泉も多くの温泉観光地と同様、高度経済成長とリゾート開発の波

に呑まれそうになつた時代があり、ギリギリのところで踏みとじあつてきましたといふ気がします。

温泉地でも、市街地の中心でこのよのな景観に接することは大変珍しいと思います。当然のことながら、湯畠の周囲にはホテルや旅館、土産店、飲食店

が建ち並び、多くの観光客で賑わっています。

しかし街なみ景観の観点からみると大変残念なことがあります。

一つには、温泉情緒あるその土地

固有の日本建築の建物が少なくなつてゐることです。これはわが国が高度経済成長の過程において、経済優先、効率主義をよじじしてきた結果ではないかと思います。



▲湯畠・新湯桶

◆草津温泉の湯畠前に立つ「熱の湯」「湯もみと踊り」は、ショーとして楽しめます。



ことにより、地域の個性を生かした魅力ある街なみづくりに拍車がかかりました。草津町も本格的に街なみ整備に取り組むこととなり、平成22年度より国庫補助事業である「街なみ環境整備事業」に着手しました。

ポイントは、市街地の「景観ルールづくり」と湯畠にかかる所のある空地整備をメインとした「湯畠広場の再整備」です。

「景観ルールづくり」につれては、市街地を5つの地域に分け、地域ごと

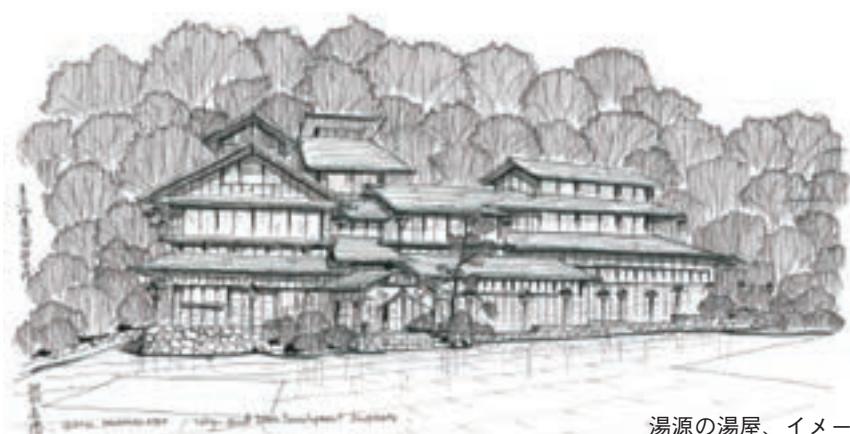
にその個性を生かした景観ルールをつくります。具体的には、建物の高さや色彩、屋外広告物の掲出等で、建物外観の改修等には助成金を出すことにより、地域の魅力ある町づくりを推進させます。

なお、地域の景観ルールづくりについて、地域の人達が自分で考へ、そして自分達が納得したルールをつくりてこくこと第一と考へ、行政サイドからはアドバイスはあるが、押し付けることはしない、いわば、「地域づくりはアドバイスはあるが、押し付けることはない」、地域づくりには地域の人達で、というスタンスをもって、これから草津町の担い手である、地域の青年部の方々を中心にして取り組んでいます。

平成23年度は、「湯畠地区」において景観ルールづくりを行ひ、地域住民の了解も得られました。平成24年度も他地区でのルールづくりを行つてあり、平成24年度中には予定した地域のルールづくりが完了します。

「湯畠広場の再整備」につけては、大きいく三つの柱があります。「一つある空地の一つには、「湯源（とうげん）の湯屋」として昔ながらの温泉情緒を満喫できる浴場施設を建設し、観光客の方々に本物の温泉を味わつていただけます」というものです。

あと一つの空地については、「湯路（とうじゆ）広場」（イベント広場的な公園）を整備し、湯畠の賑わいを演出しようとすむのです。そして最後に、「湯もみシロー」で人気のある「熱の湯」が老朽化してしまったため、これを建替えようとしているのです。



湯源の湯屋、イメージ図

この「湯畠広場の再整備」についても、地元住民や観光業界の代表者、議会議員への丁寧なヒアリングを行い、再整備構想を策定、町民全体説明会を実施するなど、いろいろな段取りを踏んで事業をスタートさせました。なお、住民説明会では、大部分の方がこの事業に大きな期待を寄せ、賛同していただきましたが、意見の中に、町の財政が厳しいこの時期（おりしも住民説明会の開催時期が、東日本大震災と重なつてしまふ、日程を変更しての開催となりました）、なぜ「箱物」を作らなければならぬのかどうの意見もありました。

しかしながら、「湯畠」として第一級の観光資産がありながら、その周囲

では採石を敷いただけの土地が仮の駐車場として、ある意味では放置されていたところとは、観光地として大変恥ずかしいことであり、決して「箱物」をつくるのが目的ではなく、湯畠周囲の景観を整え、湯畠という観光資産をさらに魅力あるものにしようとする第一の目的であることを重ねて説明し、理解を求めました。

「景観ルールづくり」と「湯畠広場の再整備」、この二つの事業が進展するにしたがつて、草津温泉を訪れるお

客様には、そのたびごとに、生まれ変わつていくその姿をお見せでもると思つています。

平成23年度では、景観ルールに基づいた助成金制度もスタートし、すでに何件かの申込みをいただけており、街並み整備が具体的に動きはじめました。また、湯畠広場に目を向ければ、「湯源（とうげん）の湯屋」の建築設計とともに、同地裏側にある擁壁の補強・修景工事も行っており、平成24年度にはじよりよしよし本格的な建築工事がはじまり、事業が具体的な形となつて見えてきます。

おわりに

私は行政のトップに立つ者として、観光による経済の活性化、そして福祉と教育の充実を、町政の基本的な柱としてこなします。

特に「観光」につけてですが、草津温泉といつ商品をいかに魅力ある商品として磨き上げるか、そして草津温泉に来ていただいたお客様に感動と喜びを与えることができるか、それが何よりも大事なことだと考へています。



草津町の 国際交流行動



草津温泉の道の駅にある「ベルツ記念館」にベルツ博士に関する様々な情報が表示されています。

中学生のホームステイ

1997年からほぼ毎年草津町中学校はビーティヒハイム・ビッシングング姉妹都市のビッシングング実科学校と短期交換留学が行われます。最初の何年間はビーティヒハイム・ビッシングングの他に、チエコのカルロビ・ヴァリや他のドイツ隣国にも訪問しておりましたが、現在は、7月に約一週間ビーティヒハイム・ビッシングングだけ訪れます。

逆に、ビッシングング実科学校の生徒は9月に草津を訪問します。2009年（新型インフルエンザ）、2011年（東日本大震災）のホームステイは中止になりましたが2012年はまた実施する予定です。

参加者は7～8人で、引率は中学校の英語教師とドイツ語圏の草津町国際交流員に頼みます。ドイツへのホームステイに参加した子どもの家族はホストファミリーとしてドイツの生徒

を受け入れる必要があります。これが大切な点で、一方的なホームステイでもいい経験になるのかもしれません。最初からお互いの訪問が予定されていること、より深い交流ができるよう

です。

ホストファミリーが決まった時に生徒はドイツのパートナーと電子メールで交換をし始めます。7月のビーティヒハイム・ビッシングングへの派遣を実施した後には、9月の草津での再

草津町には、年間約280万人の観光客が訪れる観光地であり、うち外国人宿泊者が、約14千人です。

草津町は、観光立町として一層の発展を遂げるため、「国際観光の振興」を柱の一つとして、平成25年までに、外国人宿泊者数を年間5万人にする目標としています。

姉妹都市関係

草津町は、①ドイツのビーティヒハイム・ビッシングング（姉妹都市提携1962年）、②オーストリアのノイシティイフト・イム・シュトゥーバイタール（姉妹都市提携1986年）、③オーストリアのスノーアイ・リバー（姉妹都市提携1991年）、④チエコのカルロビ・ヴァリ（姉妹都市提携1992年）と姉妹都市が4つあります。

明治時代に雇い外国人として日本に招かれ29年にわたりて医学を教え、医学界の発展に貢献しました。大正天皇の侍医でもあったベルツ博士が「草津には、無比の温泉以外に日本で最上の山と空氣と、全く理想的な飲料水がある。こんな土地がヨーロッパにあつたとしたら、カールスバート（カルロビ・ヴァリ）よりも賑わう」とだらう」と評価し、草津を温泉保養地として世界に紹介しました。



▲姉妹都市ビーティヒハイム・ビッシングングへ留学

余を楽しみにすれりと、つながりが出来ていいのです。やるに、ドイツでは英語を日常生活にあまり使わないと、日本では、両方が母国語と違う英語で会話をすれることで、バランスがとれる面があるのです。

しかし、問題は、ドイツには申込者はけつても多い一方で、草津は少ない点です。

理由は、家族はドイツからの生徒の受け入れが不安、夏休みの部活で忙しいことなどが考えられます。

わーいつピーティヒハイム・ビッ



▶草津町でのホームステイ

◀草津町での浴衣体験



シンゲンの方から聞こえてくる問題点は日本の生徒の英語能力です。

ドイツの生徒は、早くから英語を勉強しているので日本の生徒より能力が高いのは仕方がありません。ただ、最近日本も5年生から英語の授業があるので将来的にはこの状況は改善されてしまうことが期待されます。

基本的には、参加者は英語で会話するのに興味があつて、間違つても話してみると姿勢が一番大切だと思ひます。

ピーティヒハイム・ビッシンゲン

滞在中は週末が自由行動です。草津では、自由行動は一口だけで、他のプログラムは町が企画し率してします。ホームステイを通して、草津の中学生が違う文化や習慣を経験し、若い間に外国に対する不安や恐怖を取り除くことが重要です。そして、英語の勉強は試験のためではなく、海外の人と交流するために必要な勉強であることを理解して欲しいと思います。今は、インターネット時代で、ホームステイ終了後も連絡を取り合つ生徒が多いので、終生変わらぬ友情を結ぶ場合があります。

姉妹都市公式訪問

日本ロマンチック街道

平成24年はドイツのピーティヒハイム・ビッシンゲンとチエコのカルロビ・ヴァリが、姉妹都市関係の記念式に草津を訪問する予定です。

ピーティヒハイム・ビッシンゲンとは50周年、カルロビ・ヴァリとは20周年のそれぞれの記念となります。また、草津からの訪問団は2013年にピーティヒハイムを訪れる予定です。

労力や費用はかかりますが直接会い、友好関係を深めることができる機会は千金の値打ちがあると思ひます。

(平成24年2月13日付第2789号)

草津町 愛町部 観光課

草津夏期国際音楽アカデミー &フェスティヴァル

毎年8月に「草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティヴァル」が行われます。日本はむとより各国の優れた音楽家による2週間のワークショップで直接指導を受けることができます。毎晩、この演奏家などのコンサートも行います。

草津町は日本ロマンチック街道のメンバーです。ドイツバイエルン州のヴュルツブルクからフュッセンまでの366kmのロマンチック街道を模範として、1982年に作られた長野県小諸市から栃木県日光市までの全長約230kmを通過する広域観光ルートです。

1988年、日本ロマンチック街道協会は友好街道の締結をし、定期的に意見交換を行います。2009年に作られた韓国ロマンチック街道とも友好街道関係が決まりました。草津町の道の駅に日本ロマンチック街道資料館がありま。

74 町村の施策事例集Ⅲ

—動画サイト「もろやま 親子で学ぶ基礎学習」を公開—



埼玉県 毛呂山町 もろやままち

毛呂山町は、かつて関東平野の純農村でしたが、昭和38年頃から首都圏のベットタウンとして開発が始まり、人口3万7千人になりました。

西部山間地は、日本最古ともいわれるゆずの産地で、住宅地が広がる中央台地部では、流鏑馬の伝統行事が受け継がれています。東部低地は、肥沃な農地が広がっています。

埼玉医科大学病院の立地により、近年は最先端医療のまちとして、さらには発展を続けています。

ICTの波

このよきな町の行政にて、ICTの波が押し寄せたのは平成6年の頃です。「汎用機の時代が終わりパソコンの時代になる」「すべての職員は時代に遅れないように準備しなければなりません」とされ、平成8年には職員全員が

出雲伊波比神社流鏑馬祭 夕的(ゆうまとう)
乗り子は、町内の小中学生。平成12年には
「埼玉県ふるさと自慢百選」に選ばされました。



文書作成ソフト、表計算ソフトを研修しました。

しかし、パソコンの整備が間に合わず、300人のうちの100人の職員が、当時40万円はしてたパソコンを自前で購入、業務に使用しました。

昭和50年頃、8桁の電卓が1万円で、税務担当者は申告受付に使つたままでそれを買って、大事に抱えていました。

それから20年、こんどはみんなでパソコンを買つたのです。

汎用機よりさらに利便性の高いコンピュータを、職員が自分で買えるよう

私たち、「とんでもない時代が来る」と、肌に感じました。
しかし、パソコンコンピュータの登場は、職員のアイデアだけで住民の暮らしを豊かにする利便を自治体に提供する、と感じました。

民間は会社の利潤を追い求め、自治体は住民の福祉を追い求めます。多額の経費を注いで職員研修を行い、機器を整備し、ネットワークを整え、そうして得られた膨大な利便性を、住民の立場から使いこなすことが求められる、それが強く意識されました。

パソコンの時代になつたとはいえ情報処理機器はまだまだ高価です。住民1人1台はおろか、一世帯に1台であつてもそれを維持する」ことは簡単ではありません。

行政の一〇一化が、そのような住

うになり、「時代に遅れてはならぬ」ところの地方公務員としての『感概』が示される、そのような場面になりました。

変革の時

民を含むすべての人々に対しても、いかにも暮りし匂わにつながるような、行政としての方策を考えなければなりません。

動画の可能性

そして、毛呂山町は、映像（動画）の活用に着目しました。

映像は、一目見るだけで伝えたいところを指示することができる特性をもつてます。

が、従来、映像資料は制作・複製・上映のそれに大きな経費が必要で、これを自治体の小さな施策にいかすのは困難でした。

そして、パソコン、「デジタルカメラ」、DVDといった機器が登場し、これらの課題を一掃。制作・複製・上映のどの場面においても、きわめて軽費で取り組みが可能になりました。

特にアニメーションは、制作のすべてを個人が机上で行つことが可能です。平成19年、私たちは窓口の案内や、小さな商店のコマーシャルを作製しました。その試みをくりかえすうちに職員の中から、「基礎教育の場において大いに有効」と提言を受けました。

自治体業務のアニメーション化は、

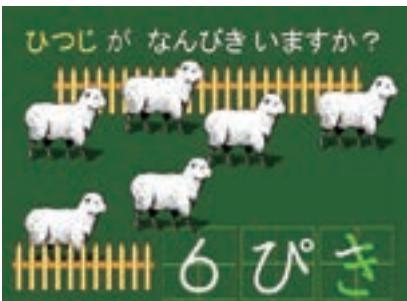


▲ひらがな「あ」の筆順。画像をクリックすると起動します。

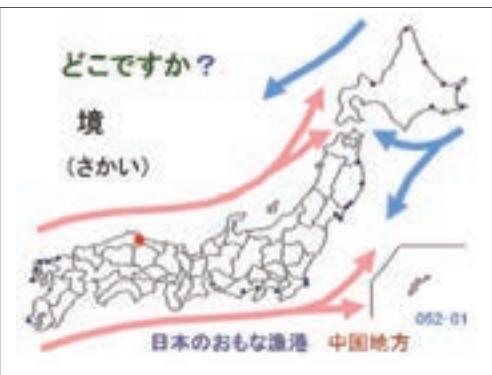
◀「のはら」をテーマにしたば
の筆順を学びます。
◀ひつじの画像で数の数え方
を学びます。



◀数えましょう。
1から10まで。



◀英語。
曜日を書いて覚えます。



◀地理。
日本のおもな漁港を地図で覚えます。



◀漢字「愛」の筆順。1字ずつ5回学びます。



◀「尊敬」ほか熟語の筆順を2回学びます。



◀数えましょう。
1から10まで。



◀英語。
曜日を書いて覚えます。

各学校に50枚ずつほど提供しましたが、思うよくな反応はありませんでした。

漢字の読み書きや計算の基礎、歴史や英語の分野も作りました。基礎教育へのアニメーションの活用が、学習にのぞむ子どもたちの負担を軽減し、教育の改革に大きく貢献すると確信する一方、基礎学習の分野は広大

自力での対応を覚悟した私たちは、小学生が習う漢字1,006字のアニメーション化に取り組みます。漢字1字のアニメーションが50秒として、1秒間にセル画10枚を使う場合、セル画1枚を200円と計算すれば、従来のアニメーション制作の手法では、漢字1,006字を仕上げて1億円以上が必要になります。

そのような作品を、全国に向けて無償で提供できることになれば、自治体におけるアニメーション活用に大きな前進がもたらされると考えました。このようにして、平成20年3月に完成しました。

取り組みを多くの方に知っていただけたため、ユーチューブを利用しました。

5つの速さの九九

九九の練習を作りました。

DVD化によって家庭での利用も可能になりました。そして、町内の小中学校から各家庭に貸与するかたちにしました。

5つの速さで練習できるものにし、有名企業や関係団体にも協力を求めました。しかし、ご協力いただける団体はありませんでした。

教育委員会からヒントをいただい

ユーチューブの利用

そのほかにも数多くの作品を仕上げ、

ため、ユーチューブを利用しました。

て教科書体のフォントを使用、毛筆特有のしなりや勢い、撥ねや留めを、できるだけ損なつことないように心がけました。

1字目からはじめて1,006字まで行くと、その間に作製技術が大きく向上するため再度、1字目から取り組むことになりました。

このようなことを4回ほど繰り返して、平成20年3月に完成しました。

パワーポイントを動画ファイルに変換する適切なソフトがないので、パソコンの画像データをテレビ信号に変換して録画、これをDVD化してそのディスクから動画ファイルを抽出する方法で、平成20年5月までに概ね600点の動画をアップしました。

なめらかなアニメーションで漢字の筆順1,000字を提供する動画サイトは前例のないものとなりました。私たちもこの試みが無償であることを念め、先進のものである確信を持ちました。

補助金の活用

このよきな経過を経て、平成21年6月、国の年度補正予算の地域情報通信技術利活用推進事業の採択を受け、町独自の公開サーバーを設置する機会が与えられました。

公開サーバーの活用により、私たちのこれまでの取り組みを、全国に向けて公開し、取り組みの真価を確かめることになったのです。

私たちのアニメーションは、すべてマイクロソフト社のパワーポイントを使って制作されています。これをDVD化したりインターネット公開した

りかるために、どうしてもパワーポイントからスマートに動画ファイルに変換するツールが必要です。

平成21年12月、eワーニングを専門に行う企業からの変換ソフトを入手できました。その後は、すでに作製されていたコントンツの再構成を行い、2ヶ用で10,000点のファイルを動画に変換、そこからさらに2ヶ月をかけ、その動画ファイルをインターネット公開可能な形式へと、7,000点を変換しました。

公開と停滞

インターネット公開が行われると読売新聞、朝日新聞、東京新聞などに取り上げられ、ネット上でも話題となり、5月には多くの方がサイトを訪れるようになりました。

しかし、そのような利用は一過性のもので、話題にはなったものの物珍しさによるアクセスが多く、「親子で学ぶ基礎学習」の本来の趣旨に沿う利用が、納得のいく広がりを見せていったことはありません。

そして、「傑出し、画期的な取り組みである」との評価が寄せられる一方、「作品が単調で魅力がない」とある評

価もあり、今後の展開が重要です。

インターネットは、仕事、趣味、経済活動のいずれにしても、未だその利用のほとんどが個人中心で、ひとつのパソコンの画面を親子がのぞむいみ時間と共に共有する、そのよきな文化は未熟です。たゞに、「デジタルテレビとインターネットがブロードバンド接続され、茶の間で家族全員がインターネット」コントンツを利用する、そのよきな時代までまだしばらく時間が必要です。

打開の切り札

しかし、私たちはこの取り組みの有用性について、せりに訴えを拡大させていかなければなりません。

インターネットが、いまだ個人レベルでの利用を脱しないツールであるなら、インターネットを盛んに利用している人々が、いわつて「役立つ」と認め合ひださるよきな取り組みを、具体的に進めていくことが必要です。

英単語や英文基礎、その習得の場にアニメーションを開拓し、このサイトの主張と有用性を明らかにして利用者の増加を図り、たゞにはインターネットで結ばれる全国の小学校、中学校の教室においても利用が進むよう、訴

えてきました」と書かれています。

町内においては、生涯学習課を中心に、家庭教育の改革を目標に、取り組みを進めています。

当サイトは、各検索サイトから「親子で学ぶ基礎学習」と入力してアクセスできることができます。

皆さまの「利用」と「支援」を、宜しくお願いいたします。

（平成22年8月9日付第27回の記）
情報推進室 新井康之



▶親子でひとつの画面に集中。共有する時間は親にとっても子どもにとっても貴重な時間です。

「木」をキーワードに、 都市と農村の交流で町の活性化を

—植えて育てる林業から、伐採し、活用し、植える林業へ—

ときがわ町は、 首都圏に近い「木のまち」

ときがわ町は、埼玉県の中央部に位置し、都心から60キロメートル圏内と、比較的都心に近い場所にあります。

町の面積56平方キロメートルのうち7割が森林であり、その森林の多くがスギ・ヒノキなどの針葉樹で、この材料を利用した建具産業に代表される木製産業を中心にしてきました。

この産業の発展の源は、埼玉県でも数少ない国宝である「法華経一品(いっぽん)経」を有する、「慈光寺」にあります。良材のあるところに名刹あり。鎌倉時代、寺の建立のために各地から呼び寄せられた「番匠(ばんじよう)」と呼ばれる大工などの木工職人たちがこの地に定住し、彼らの優れた技術と地元の良質な森林資源を基に起こしたのが、建具産業であると言われています。

平成18年2月、都幾川村と玉川村が合併して、人口約1万3千人のときがわ町が誕生しました。今回は、合併後のまちづくりの施策と、森林資源を活用する「木」を活かした町の活性化への取り組みをご紹介します。

「ときがわ方式」による 公共施設の内装木質化

合併前の玉川村では、民間企業の経営に対する考え方をいち早く導入し、バランスシートにより財政の健全化に努めてきました。その手法は合併後も引き継がれており、平成21年度決算で実質公債費比率は3・5にとどまっています。

合併後、これまで財政的理由で着手であった公共施設の耐震化工事を、合併特例債を有効に活用し、順次実施しているところです。これらの工事、特に小中学校の大規模改修には、ときがわ町政運営における「イノベーション(意識改革)」、「オリジナリティ」、



埼玉県 ときがわ町

▲「木の産業」の源である、国宝「法華経一品経」を有する、都幾山慈光寺



▲木質化した学校の廊下



▲ツルが巻き付き、枝打ちもされていない荒廃した山林

▲ときがわ産材で生まれ変わった、都幾川中学校体育館



○重要な山林の循環サイクル

整備は、「ときがわ方式」として注目されています。建替えと比較して低コスト、短期間で実施可能なこの方法は、夏休みの期間に工事を行い、新学期に生まれ変わった校舎で子どもたちを迎えることができる、新たな木の学校づくりのモデルとなっています。

「ローコストマネージメント」の3つの理念と、町の森林資源を有効に活用する「ときがわ方式」が生かされています。

○森林環境と教育環境を同時に改善
ときがわ町では、面積の7割を占める荒廃した山林の再生が、懸案事項のひとつでした。全国的にも戦後造林された人工林が資源として利用可能な時期を迎える一方、木材価格の下落等の影響などにより森林の手入れが十分に行われなくなつた結果、二酸化炭素吸収機能、水源かん養、土壤保全など、本来森林が持つ機能の低下を生じさせています。

○「ときがわ方式」の教育環境整備

戦後全國に建てられた小中学校の校舎のうち、80%以上は鉄筋コンクリート造で、この種の建築物の寿命は、適切に木を利用することが必要

です。そのため、地域の森林資源を積極的に小中学校の内装に用いるなどの「公共施設の内装木質化」に平成12年度から取り組んでいます。この教育環境の整備方法は、「子どもたちが日々の生活を送る校舎にぬくもりと、いやしそうな雰囲気をもたらす」ことを目的として、木材の持つ素材「木」を取り入れることで、学校の雰囲気が落ち着き、教育再生の一助になると同時に、地域産材の活用による伐採と植林のサイクルが一定のリズムで行われ、その結果山林の活性化が促進されることを狙つたものです。

50～60年といわれています。これらの校舎は、建替えあるいは改修の時期が迫りつつありますが、安全面を考慮しつつ、最も経費を抑えた改修方法として、耐震補強を施し、外壁を塗り替え、屋上の防水加工を行い、同時に内装も木質化することで新築同様の「木の学校」として校舎は生まれ変わります。仮に木造新築の学校を建築した場合、1校で10億円以上の経費がかかるそうです。これに対してときがわ町の手法では、新築1校に満たない金額で、財政を圧迫することなく木造小学校1校と、鉄筋コンクリート造の小学校2校、中学校2校をリニューアルすることができます。これが出来ました。この地域産材での内装木質化と耐震改修による教育環境の

○重要な山林の循環サイクル
教育施設の内装木質化は、木材の持つ調湿機能による健康面への効果や安全性の向上などに効果が見られます。また、役場庁舎や公民館の内装木質化、木造の地域集会所や観光施設、庁舎内のサイン類や町職員の名札に至るまで、「木づかい」にこだわっています。

木材を資材として積極的に活用し、伐採後は針葉樹と広葉樹をバランスよく混交林として植樹すれば、水のかん養、二酸化炭素の吸収効果等が期待されます。こうした「伐採し、活用し、植える」という山林の循環のサイクルを確立することは、川の上流部の私達にとっても、下流部の都市部の人たち



にひとつの一つ一つの要素が重要な資源にもなります。

町では、手軽に田舎を楽しんでいただく施設を中心に整備を進めています。ときがわ町の観光は、観光事業者が観光商品を開発する「発地型観光」ではなく、地域と行政が自らの発想力と想像力で地域固有の観光商品を開発する「着地型観光」です。地元に伴い、ときがわ町では埼玉県内の自治体では初となる「町有施設の木造化・木質化等に関する指針」を策定し、さらなる林業振興を推進しようとしています。「植えて育てる」林業から前進するため、木材を供給する川上と、消費する川下の結びつきを強化し、木材全体の需要拡大に取組みたと考えています。

観光入込客数 100万人を目指す

○都心に近い田舎の利点を活かしてときがわ町は、都心から日帰りでできる、都会から近い「田舎」です。田舎であることは、見方を変えれば田舎



▲渓谷のほとりに古民家のたたずまいの日帰り温泉施設「四季彩館」



◀ヒノキ間伐材に発生したナメコ

○原木キノコを特産品に

近年ときがわ町では、新たな特産物づくりとして、原木栽培によるキノコの生産に取り組んでいます。特に、これまで不可能とされてきた針葉樹であるヒノキ原木からナメコを発生させた技術は、豊富にあるヒノキ間伐材的有效活用として期待されています。

生産したナメコ、マイタケ、シイタケなどのキノコ類は、町内にある4か所の町有直売施設で、主に観光客に対して販売されるほか、町内のうどん店やそば店などで味わうことができます。原材料の原木調達から栽培地である山林、販売施設や飲食店などキノコ流通の一連の流れが、ときがわ町内で完結できます。これも、都心に近い田舎ならでは



▲難所「白石峠」に集うサイクリスト

うどん・そば打ちが体験できる施設、澄んだ空気の中で星空観測を楽しめる施設、清冽な水をたたえた渓谷のほどりで温泉入浴が楽しめる施設。これらが整備した観光施設は、どれも環境の良い田舎であることを資源として捉え、地域の人的資源をも活用し、東京から近いことの優位性に着目した、都市と農村の交流体験型の施設です。

うどん・そば打ちが体験できる施設、澄んだ空気の中で星空観測を楽しめる施設、清冽な水をたたえた渓谷のほどりで温泉入浴が楽しめる施設。これらが整備した観光施設は、どれも環境の良い田舎であることを資源として捉え、地域の人的資源をも活用し、東京から近いことの優位性に着目した、都市と農村の交流体験型の施設です。

○サイクリストを「客」に取り込む利点です。

2004年の埼玉国体で、ときがわ町は自転車ロードレース大会のコース上で最大の難所になりました。国体終了後、

コース上で最大の難所である「白石峠」は、サイクリスト達の間で「聖地」の名前で親しまれています。

ごとく扱われるようになり、折からの

サイクリスト達で賑わいます。どこか

う来たか聞くと、「東京の〇〇区から走ってきました」との返事は珍しくな

く、私たち地元の者を驚かせます。

しかし、生活道路の自転車交通量が増えると交通事故の発生が懸念され、

交通の妨げになるルールに反した走行は、地域住民にひとては迷惑なものと

思われます。

しかし、生活道路の自転車交通量

が増えると交通事故の発生が懸念され、

交通の妨げになるルールに反した走行は、地域住民にひとては迷惑なものと

思われます。

しかし、生活道路の自転車交通量

が増えると交通事故の発生が懸念され、

交通の妨げになるルールに反した走行は、地域住民にひとては迷惑なものと

思われます。

しかし、生活道路の自転車交通量

が増えると交通事故の発生が懸念され、

交通の妨げになるルールに反した走行は、地域住民にひとては迷惑なものと

思われます。

しかし、生活道路の自転車交通量

が増えると交通事故の発生が懸念され、

交通の妨げになるルールに反した走行は、地域住民にひとては迷惑なものと



◀ i かわらばんの情報端末

○町が主体的に情報通信基盤を整備
ときがわ町は、民間事業者による
高速通信環境の整備が遅れており、町
内で ADSL でしか利用できな地域
がありました。このため、若者の間で
は生活する上で欠かせないものとなっ
てじる、インターネットを利用できな
い地域が存在していました。少子高齢
社会を迎えてい
るときがわ町に
とつて、若年層
の町外への流出
を食い止めるこ
とは、重要な課
題です。「イン
ターネットが利
用出来ない町に

高齢化対策の重要な施策でもあります。

15%の伸びとなりました。

今後は、町の森林資源を活用し、森
林整備と木材の利用、それぞれの産業
における雇用の創出のための事業を実
施し、併せてそれらの産業に就業を希
望する若者が、ときがわ町に定住化す
るための住居を確保する事業を実施し
て、課題の解決を図っていきます。

ときがわ町長 関口定男

なります。今後は、自転車のマナーップ
を呼びかけた上で、これまでただの
通過者であったサイクリスト達に町内
の店舗や温泉入浴施設を利用してもら
える仕組みを整え、「お客様」として
もてなしていくことを考えております。
これら様々な手段を講じて、平成
22年度の時点で90万人である観光入込
客数を、28年度までには100万人に
までに拡大することを目指し、努力し
ています。

合併後の基盤整備の推進

○バス体系を「ハブ＆スポーク化」
合併により町の面積が拡大したこと
により、町民のバス路線へのニーズ
が多様化し、単に町内にあるJRの駅
への輸送だけでなく、より利便性の高
いとなり町にある私鉄駅への接続が求
められるようになりました。

公共交通機関であるバス路線の充
実は、通勤通学者の足を確保する事、
高齢者が住み慣れた自宅での生活を継
続させる事などの点で大変重要であり、
単なる利便性の向上のみでなく、少子
高齢化対策の重要な施策でもあります。

葉に触発され、合併特例債を活用し、
町が主体的に光ケーブルを敷設し、民
間事業者に貸し出す公設民営方式で、
情報通信基盤の整備を実施しました。
この光ケーブル網を活用し、町から
の情報発信ツールとして、NTTの
「光ファーレーム」の端末を利用し、ツ
イッターの技術を応用した「i かわら
ばん」と呼ばれるタッチパネル式の情
報端末を町民や町内事業者に貸し出し、
利用していただいている。町からの
イベント情報、観光情報などの行政情
報はもちろん、端末を借り受けている
町内の商店などが発信する売り出し情
報などについても、文字と写真で「i
かわらばん」利用者に情報発信してい
ます。（※平成25年サービス終了）

なります。今後は、自転車のマナーアップ
を呼びかけた上で、これまでただの
通過者であったサイクリスト達に町内
の店舗や温泉入浴施設を利用してもら
える仕組みを整え、「お客様」として
もてなしていくことを考えております。
これら様々な手段を講じて、平成
22年度の時点で90万人である観光入込
客数を、28年度までには100万人に
までに拡大することを目指し、努力し
ています。



▲ハブバス停。
すべてのバスは、ここから放射状に目的地へ



山間部をきめ細かく走るデマンドバス。町民の関心は高く、利用説明会には多くの人が訪れ、職員の説明に耳を傾けた。

人自然歴史が 調和した活力あふれるまちづくり

—住民満足度の向上へ—

水と緑に包まれた
豊かな自然

酒々井町は、千葉県の北部、北総台地の中央に位置し、人口21,244人（平成23年6月1日）、総面積19・02km²、東西4・2km、南北6・2kmと小さくまとまった町域となっています。また、都心から50km圏内にあって、緑豊かな自然環境と温暖な気候に恵まれています。

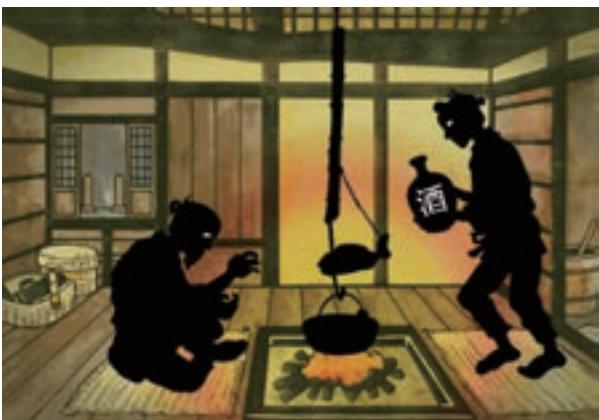
町名は、北部に印旛沼、南部には高崎川周辺に田園地帯が広がり、清らかな湧水や地下水が豊富なことから、親思いの孝行息子が見つけた井戸から汲んだ水が酒になったという「酒の井伝説」に由来しています。

天正19年（1591年）、徳川家康の町建てにより中世の町として誕生し、明治22年の町村制施行により近隣16か町村が合併し、新生「酒々井町」



千葉県 酒々井町 しうまち

►酒の井伝説



▼奈良ニ彩椀



江戸時代には佐倉藩の

城下町として、また徳

川幕府直轄の佐倉牧

（野馬牧場）の野馬

会所の地、さらには

成田山や芝山参詣

客の宿場町として栄

えました。

町の長い歴史の中で

►獅子舞の里



平成17年3月の住民投票により、隣接する佐倉市との合併をしなさい」とで自立自立の道を選択し、地域の活性化を図しながら町民の誰もが住んでよかつたと思えるありのべく進めていきます。

歴史的文化遺産 眠りから覚めた

酒々井町には、約3万年前の旧石器時代の遺跡、奈良時代の一彩楓や千年前の印東庄（じゆとうのじょう）の景観が残り、戦国時代には下総の国（現

最も脚光を浴びたのは、今から約500年前、下総守護の居城、本佐倉城の時代でした。この城跡の規模は35万坪にもおよび、現在でも土塁や空堀などがほぼ完全な姿で残されており、重要な文化財として平成10年に国の史跡に指定されました。

町では、「国指定史跡本佐倉城跡整備実施計画」を策定し、発掘調査を平成15年から始め、城山郭からは城主が執務や接待をする主殿や会所などの大形の建物跡、櫓跡、門跡、堀跡が見つかり、本佐倉城は今再び目覚めようとしています。

してこます。現地ではボランティアガイドによる案内で楽しむことができるので、戦国時代に想いを馳せながら散策してみてはいかがでしょう。

また、町内3地区（墨・馬橋・上

岩橋）で笛や太鼓の音に合わせ、五穀豊穣や家内安全などを祈願して演舞される獅子舞が残されています。こ

れらは江戸時代から続く「三匹獅子舞」で、それぞれの地区の個性が見られ、今なお地元の方々の手により伝承されている「獅子舞の里」の見

酒々井ブランドの創出

◀朝一番にしぼった新酒をどうぞ(新酒祭)



しそじハーブガーデンは、「ハーブのまち酒々井」を広く皆さんに知つてもらおうと、ふるさと産品育成協議会と町との協働により、世界各地のハーブを150種類以上収集して植栽した本格的なハーブガーデンです。

春から秋にかけてガーデン内ではそれぞれの季節の愛らしさ花々が咲き、爽やかに香る風に揺れています。なか



そして、地名にちなんだ酒々井ならではの魅力を再発見しようとの住民の発案に地元の蔵元が賛同し、皆で楽しく「酒々井新酒祭」が平成23年に6年目を迎えていきます。

さらに、平成22年度には協働のまちづくりのもと、地域産業の発展と観光振興、町のイメージアップを図るために、商工業や農業者、郷土を愛する町民の方々、それに町を加えた「酒々井ブランド創出会議」を組織し、地域資源を活用した新たな特産品やイベントを「酒々井ブランド」として開発・創出するための調査・研究を行つてこます。

園内には観賞用ガーデンのほかハーブショップでは、ハーブ苗やクッキー、ジャム、ハーブティーなどハーブ関連商品を多数取り揃え、平成20年10月からは喫茶コーナーをリニューア

ルし、ハーブを使った軽食なども楽しむことができ、今では年間約1万人の来場者で賑わっています。

また、35年前から秋に行われている「ふるさとまつり」は、町の特産品や産業の紹介、新鮮野菜の即売やチャリティバザーなどが行われ、町民と町が一体となつた一大イベントとなつています。

本線、京成成田線の3線に4つの駅が配置され、東京へ約1時間、成田空港へ約15分で結ばれています。JR酒々井駅への快速電車の全便停車や、JR京成の両酒々井駅舎と駅前広場、さい

にはエレベーターの整備も平成22年までに完了し、利便性が向上しました。一方では、路線バスの一部廃止などから高齢者の増加に伴う公共交通に対する要望が多様化しており、平成16年に自宅から目的地まで送迎する「スマート交通システムによる「しそじふれ愛タクシー」の運行を開始し公共交通手段を確保しています。

道路は、主要国道51号と296号の2本が縦横に走り、4車線化により渋滞緩和を図るほか、東関東自動車道の酒々井インターチェンジが平成25年4月に開通し、その隣接地には大型アウェレットを開発・運営する企業が進

優れた都市基盤

美しい自然や豊かな緑の保全に配慮し、機能的で快適なまちづくりを進めることは、交通体系や上下水道など都市としての基本的な基盤整備が不可欠です。

▲JR酒々井駅



▲デマンド交通システム ふれ愛タクシー



▲京成酒々井駅



◀しずいの水



計画給水人口6,200人の広域簡易水道事業から開始した上水道は、現在では計画給水人口22,700人、1日最大給水量9,100㎥の事業認可を受けて運営しており、普及率は92・9%となっています。町名の由来にもあるように豊富な地下水により、現在10本の取水井で水源の大部分をまかなっています。

また、下水道は、印旛沼流域関連公共下水道事業として544haの事業

出し、インターを中心とした周辺道路網の整備も進められていました。

幸いにしてこの度の東日本大震災では、町民への大きな被害はなく、都市基盤にも大きなダメージがなかったこと、「酒々井ブランド」の一つとして安全なまちをアピールしていくことも大切なことだと考えていました。

先進福祉千葉県一のまちづくり

酒々井町の高齢化率は、平成7年に9・9%でしたが、15年後の平成22年は21・5%と倍増しており、さらに15年後の平成37年には32%に達することが見込まれ、急速に高齢化が進展しています。

また、財政状況は、町税の減収が予想される中で社会福祉関係経費等の扶助費や施設及び設備の老朽化などに伴う維持補修費等の増加により、財政収支はさうに厳しいものになると見込まれています。

わいに商工業や農業では、従事者の高齢化や後継者不足が深刻化しており、遊休農地の増加とともに環境や美観などへの影響が懸念されています。このようなことから、未来に向かってまちづくりについて考えようと保健、医療、福祉、スポーツ、レクリエーションサークル、商工業及び農業の関係者など様々な分野の方々で構成する「先進福祉ビジョン懇談会」を設け、平成22年6月からの回にわたり多角的な視点から「先進福祉千葉県一のまちづくり」すなわち「地域のつながり、支え



▶首都圏最大級 パークゴルフ場



▲順天堂大学裸まつり



▲年間8万人が来場 ちびっこ天国

合ひ、助け合い及び郷土愛を基本として、町民一人ひとりが自然と文化と調和した健康で幸せな生きがいのある豊かな生活を送れるまちづくり」について自由闊達に議論を重ねてきました。

先ず現状を把握し、今後の各種施策の方向性を議論する中で、解決すべき課題や問題も浮き彫りとなりました。今後、様々な施策を推進し課題などを解決するためには行政と町民が一体となって協働することが必要であり、特に町民のいろいろな活動への自主的、積極的な参加及び考え方、助け合いが重要であり、施策の推進にあたっては先ずできることから実現していくこと、将来に向かって不可能と思われることでも可能に変えていく関係者の努力や情熱が必要になります。

コンパクトシティを目指し、 町 자체をブランド化へ

町はこれまで簡素で効率的な行政運営に努め、職員の意識改革と行財政改革により、財政力の向上を図るとともに、節減した予算を活用し、子育て支援や安全・安心のまちづくりなど新たな施策に取り組んできました。特に平成22年度は、町独自の施策

策の現状を把握し、今後の各種施策の方向性を議論する中で、解決すべき課題や問題も浮き彫りとなりました。今後、様々な施策を推進し課題などを解決するためには行政と町民が一体となって協働することが必要であり、特に町民のいろいろな活動への自主的、積極的な参加及び考え方、助け合いが重要であり、施策の推進にあたっては先ずできることから実現していくこと、将来に向かって不可能と思われることでも可能に変えていく関係者の努力や情熱が必要になります。

今後は、これまでの取り組みの成果を踏まえ、地域間格差のない優れた環境の充実を図ったほか、各小学校の耐震化工事の完了により、当町はいち早く学校施設耐震化率100%を達成することができました。

さらに、ユーバーサルデザインのまちづくりの一環として、JR・京成西酒々井駅のエレベーターも供用が開始され、中心市街地の活性化への取り組み、急速に進む少子高齢化社会への対応など、持続可能なまちづくりへの基盤づくりを着実に行つてきました。その結果、中心市街地での商業施設の立地などが進んでいます。

今後は、これまでの取り組みの成果を踏まえ、地域間格差のない優れた都市基盤をはじめ、町の歴史的な文化遺産、景観や恵まれた自然環境など、まち独自の特性や強みを最大限に活かしながら、行政サービスの質を高め、町民満足度の向上に努めていきます。

そして、生活機能の整った、歩いた暮らせる成熟した「まち」、子どもから高齢者まで、すべての人たちがいきしきと安心して暮らせる「コンパクトシティ 酒々井」を目指した取り組みを推進していきます。

(平成23年7月18日付第2767号)
酒々井町長 小坂 泰久



世界自然遺産推薦地

初めに

小笠原村は、本土から約1,000km離れた亜熱帯の島です。交通手段は1週間に1回定期船である「おがさわら丸」が竹芝から出港しています。到着までの時間は約25時間かかり、船旅としても楽しめます。

人口約2,500人、大小30余の島々から成り立っている小笠原村は、島の誕生から

気温の年較差が少なく、島の誕生から一度も大陸とつながったことがない海洋島です。世界でも有数の透明度を誇る海に囲まれ、固有の動植物が数多く生息する自然の宝庫です。

主な産業は、観光業や漁業、農業などで成り立っています。観光業でも、海や山、戦跡ガイドなど様々なサービスがあり、自分にあったガイドを選ぶとより楽しめます。

歴史

12月～5月にかけてザトウクジラやマッコウクジラを見ることができ、ホエールウォッチングや、イルカと一緒に泳げるドルフィンスイムが人気です。

海だけではなく、山にも小笠原にしか生息していない植物があり、季節ごとにも違つ花が咲くので見てみたい花を調べてから來るのも楽しいです。

小笠原諸島は1593（文禄2）年、信州深志城主 小笠原長時の曾孫、小笠原貞頼によって発見されたと伝えられています。人が最初に定住したのは江戸時代後期の1830（文政13）年、歐米人とハワイの先住民でした。その後、江戸幕府や明治政府の調査、開拓により1876（明治9）年には、国際的に日本領土として認められました。



東京都 小笠原村 おがさわらむら

▲新東京百景にも選ばれた、沈水カルスト地形の「南島」[写真提供:小笠原村]



年、欧米系の島民に限り帰島を許されました。他の大勢の島民は故郷への帰島は許されず、慣れない土地での苦しい生活を強じられることになります。

昭和43年6月、23年間と長い時を経て、小笠原諸島は日本に返還され、島民の帰島がようやくかなつとなりました。

昭和54年4月には村政が確立し、自然と共生する村を目指して、あたりじい村づくりが進められています。

太平洋戦争時、国内（現在の）最初の地上戦となつた硫黄島では、壮絶な戦いの末、日本軍が玉砕し、日米両軍合わせて2万余名もの尊い命が失われました。小笠原諸島返還後も、火山活動などによる自然条件が厳しいとの理由により、硫黄島への帰島は実現しません。現在は、自衛隊基地及びその関係者だけが在島しています。

大正後期には、亜熱帯気候を生かした果樹や冬野菜の栽培が盛んになり、漁業ではカツオ、マグロ漁に加え、捕鯨、サンゴ漁などを中心に栄え、人口も7千人余を数えるなど小笠原の最盛期を迎えました。

豊かで平和な島「小笠原」は、太平洋戦争により大きな転機を迎えることになります。昭和19年、戦局の悪化により、軍属等として残された825人を除く全島民6,886人が本土へ強制疎開させられました。

敗戦により、小笠原は米軍の占領下に置かれることになります。昭和21

くされてしましました。

戦場と化した硫黄島は日本軍21,900名、米軍6,821名島民の軍属82名が戦死しました。今現在も硫黄島には多くの遺骨が眠っています。

いち早く遺骨を本土に戻すためにも小笠原村では、厚生労働省が年4回実施している、遺骨収集事業に参加しています。米軍の資料や様々な証言を頼りに作業を行っていますが、未だ半分も収集できていないのが現実です。

今後も国や関係機関と協力し、1日も早い遺骨の帰還に向けて努力していました。

てじきまわ。

映画「硫黄島からの手紙」が反響を呼び多くの方に硫黄島の事を知つていただけました。

硫黄島は戦前から「ごおのとい」で「ごおのじま」という読み方が一般に広まつてしましました。硫黄島旧島に広まつてしましました。

硫黄島は戦前から「ごおのとい」と呼ばれていましたが、さまざま縦縞で「ごおのじま」という読み方が一般に広まつてしまつました。硫黄島旧島民の強い要望に応え、村議会で決議され、平成19年に地図や、教科書の読み方を「ごおのじま」から「ごおのとい」に変更することができました。今後硫黄島を「ごおのとい」と呼んでいただきますよりお願ひいたします。

特産品

小笠原の特産品は「ラム酒」と「パッションリキュー」です。

「ラム酒」は1830年、小笠原に初めて定住した欧米系5名とハワイの先住民約20名の中の一人、ナニコル・セーボレーが、当時、太平洋に進出していた米国などの捕鯨船との間で、サトウキビから蒸留したラム酒の取引を行つていました。彼の出身地、米国マサチューセッツ州にもラム酒の蒸留所があつたと言われています。小笠原諸島が日本領土となつてからは、開拓移



▶硫黄島
摺鉢山

てじきまわ。

映画「硫黄島からの手紙」が反響を呼び多くの方に硫黄島の事を知つていただけました。

硫黄島は戦前から「ごおのとい」で「ごおのじま」という読み方が一般に広まつてしまつました。硫黄島旧島民の強い要望に応え、村議会で決議され、平成19年に地図や、教科書の読み方を「ごおのじま」から「ごおのとい」に変更することができました。今後硫黄島を「ごおのとい」と呼んでいただきますよりお願ひいたします。

硫黄島は戦前から「ごおのとい」と呼ばれていましたが、さまざま縦縞で「ごおのじま」という読み方が一般に広まつてしまつました。硫黄島旧島に広まつてしまつました。

▲小笠原特産品 ラム酒



住民がサトウキビから砂糖を製造し、主要な農作物として発展しました。その副産物としてさとうきびを原料とするラム酒が作られるようになりました。

このような国内でも特異な歴史を背景に、小笠原の地酒「ラム酒」が誕生し、現在に引き継がれています。

「パッションリキュール」は、このラム酒に小笠原特産のパッションフルーツの果汁を加えた、ソフトタイプの爽やかな地酒です。

自然遺産への取り組み

平成22年1月26日に、小笠原諸島

小笠原村では、自然遺産登録へ向

の世界自然遺産登録への推薦書が日本政府から国連教育科学文化機関（ユネスコ）に提出されました。平成22年7月には世界遺産委員会の諮問機関である、国際自然保護連合（IUCN）専門家を迎えて、評価を受け、世界的価値観を認められれば、平成23年7月の世界遺産国際会議で登録の可否が決定されます。

た海・風・鳥などをパックに、小笠原

のさまざまな固有種や希少種が描かれています。

には、小笠原諸島

に生命をもたらし



けたロゴマークを行っています。

このロゴマークには、小笠原諸島で使用されなくなり、悪者になってしまっている横断幕、村営バスや官公庁などの車等に使用しアピール活動を行っています。

かまえよう 小さな島の大夢を!

~心ひとつに小笠原~

複合施設「太陽の郷」

「太陽の郷」は、この春に父島に完成した診療所と有料老人ホームが一つになった、複合施設です。老人ホーム

カギの伐採など様々な対策を行っています。元々は、食用や木炭のために持ち込まれたものですが、時代が変わり使用されなくなり、悪者になってしましました。



▶「太陽の郷」

は村内で初めてで、唯一の高齢者介護入所施設です。

名前である「太陽の郷」は小笠原村民の方の投票で決定しました。長い間親しまれる良い名前がつきました。

42年前に日本に返還された島に戻り、島の復興を支えた世代が老境を迎えています。

今までは、本土にいる家族と同居したり、内地の介護施設などに入所したりと、島から離れなければなりませんでした。「故郷の島で最期まで暮りたい」という願いを叶えるためいか大いに期待してくる施設です。

母島

母島は、父島から南に約50km、船で2時間の場所にあります。本土からの直接の船便がないため、父島で「ははじま丸」に乗り替える必要があります。

人口約450人の島で、みな知り合いであり島民同士の結びつきはとても強いものがあります。

母島には、警察駐在所や、簡易郵便局、商店などあり一つの町と変わりありません。高校が無いため、高校進学の際は、故郷である島を離れなけれ

ばなりません。父島の小笠原高校には、母島出身者専用の宿舎も用意されています。

特産品でも紹介したラム酒とパッショナリキューは母島に製造工場があります。

乳房山は標高463m父島母島で最も高い山です。遊歩道で一周回るコースでは4時間かかりますが、その多くの固有種の植物や、母島にしか生息していない特別天然記念物の

「ハハジマメグロ」などの生物を見ることができます。登頂される際は、母島観光協会でキット（300円）を購入して頂くと登頂記念証を発行してもらいます。名前や登頂日も明記されるので、自分だけの記念品になります。

夕日を見るなり、新夕日ヶ丘がオススメです。名前にもなっている通り、時間が経っているのを忘れてしまって程の絶景を見られることができます。父島のウエザーステーションとはまた一味違つた夕日を楽しんだください。

終わりに

小笠原村では現在早期の航空路の開設や、平成24年7月に発表される世界自然遺産登録に向けて準備を進めて



▶母島 乳房山より



◀ハハジマメグロ



▶母島 新夕日ヶ丘より

小笠原村 総務課・広報係
(平成23年1月10日付第2744号)

航空路が開設されれば、物資の運搬や、本土との移動時間を短縮することができ、多くの方が小笠原に来ていただけるだけでなく、島民の方も、本土の病院に通院するなど大きなメリットがあります。航空路の開設には候補地の決定など課題もあり、実現までには、まだ時間を要しますが、安心して暮らせる村づくりのために一歩一歩確実に進めていく必要があります。

います。

航空路が開設されれば、物資の運搬や、本土との移動時間を短縮するこ

とができ、多くの方が小笠原に来ていただけるだけでなく、島民の方も、本

土の病院に通院するなど大きなメリッ

トがあります。航空路の開設には候補

地の決定など課題もあり、実現までに

は、まだ時間を要しますが、安心して

暮らせる村づくりのために一歩一歩確

実に進めていく必要があります。

小笠原村 総務課・広報係

(平成23年1月10日付第2744号)

ゼロ・ウェイストへの第一歩

—住民協働と半減袋でごみ半減へ—

海と山に囲まれた 自然豊かな町

葉山町は、神奈川県の南東部に位置し、人口約3万3千人が暮らしています。相模湾の向こうに富士山を臨む風光明媚な海岸沿いには、明治時代に御用邸が造営され、その後「別荘」として発展したことから、現在も「保養」「リゾート」の町として知られています。一方で、町の山側には田畠が広がり、「にほんの里百選」にも選ばれた上山口では心癒される棚田の風景を見ることができます。

東京から50キロ圏内に位置した自然豊かな住宅地としての人気も高く、人口は微増傾向にあります。

ゼロ・ウェイストへの転換

葉山町のごみ処理は、ステーション収集を基本とし、ごみ量は1人1日あたり約1キロ（事業系含む）と全国平均並で、その約7割を焼却しています。ごみの分別は、容器包装グラスチックなど14分別を実施していますが、資源化率は約24%（平成20年度）にとどまっています。ごみ処理費は、町民一人あたり2万5千円／年と高額になっています。ごみの減量と併せて大きな課題となっています。

また、全国的なごみ処理広域化の動きを受けて、近隣の2市との広域化を、約10年間にわたり協議を行ってきましたが、大規模な施設建設への危惧や、資源の保全を重視したごみ処理の



神奈川県 葉山町 はやまち

▲湘南国際村からのながめ

あり方を求める町民からの声がかつてなじほじ囁いたことから、平成20年1月に初当選した私は公約もありに同年5月に広域協議会を脱退し、資源化・減量化に力点を置いた「ゼロ・ウェイスト」へと方針を転換しました。

ゼロ・ウェイストとは

してアメリカやユーロージーランドを始めとする海外で広がっています。

日本でも、徳島県上勝町、福岡県大木町、熊本県水俣市が「ゼロ・ウェイスト宣言」を行い、先進的な取り組みが始まっています。

第一期目標は「ごみ半減」

してアメリカやユーロージーランドを始めとする海外で広がっています。

考え方ですが、日本語に訳すと「浪費・無駄・ごみをなくす」という意味になります。私たちは毎日たぐわこの物にかこまれて暮りじてこますが、ちょっと考へただけでも使い捨ての物が多いことに気づきまよ。ついにはそれなりほとんどを、多額の税金を使って収集・焼却するところが常態化しています。



では、この「ゼロ・ウェイスト」を葉山はどう実現化していくのかと云うのですが、まずは先進自治体になります。私たちは毎日たぐわこの物にかこまれて暮りじてこますが、ちょっと

この「ゼロ・ウェイスト」というイメージにして考え方を具体的にしたいとかり、当初「わかりじ」ことこの反応が見られた町民の理解を得る」といじめつながらました。

図があります。

この「ゼロ・ウェイスト」というイメージにして考え方を具体的にしたいとかり、当初「わかりじ」と云う反応が見られた町民の理解を得る」といじめつながらました。

「ごみ」を 「ごみ」でなくすために

さて、「ごみ」を「ごみ」として捉えてくるまでは、発想が生まれません。そこで、中身を把握するため、「ごみの組成分析を行いました。

すると、燃やすごみについては、約60%を占めた生ごみに次いで、分別しているミクスチャー類が11%も混入していました（重量比）。他にも、古着・古布や植木剪定枝

にて段階的な目標を設定するといじめ、その第一期目標として平成25年度末までに「ごみ半減」を掲げました。「半減」としたのには、現在2系列ある焼却炉の使用が半分ですかむ可能性がでいておりじや、「半分」という挑戦的な目標を掲げるなどが大きなインパクトとなり、推進の原動力となることの意

になります。現在は「可燃系ごみの回収」の様式がわかつていていますが、分別収集の様式がわかつていても、分別してくるびんが約50%を占め、燃やすごみと同様に分別の徹底がされていないことが明らかになりました。

徹底されていない要因としては、分別収集の様式がわかつていても、分別してくるびんが約50%を占め、燃やすごみと同様に分別の徹底がされていないことが明らかになりました。

このよしな問題意識から、できる限り物の無駄遣いや浪費をなくし、資源として利用できる物は利用しないという動きが、「ゼロ・ウェイスト」と

など、新たに分別すれば資源化できるものも多く含まれていてることがわかりました。また、燃えないうごみの調査では、分別してくるびんが約50%を占め、燃やすごみと同様に分別の徹底がされていないことが明らかになりました。

と「資源」とが明確に意識されるよう、

出す曜日と場所を分けるようにしました。

具体的には、燃やすごみ・プラスチックごみ、容器包装プラスチックは、

各戸が家の前に出す戸別収集によって

責任の所在を明確にし、それ以外の資

源物については、新たに設置する資源

ステーションでコンテナに分け入れる

という方式です。さらに資源物は、袋

から出して、アルミ缶はアルミ缶のコ

ンテナに入れるようにすることで、資

源ステーションに行けば何を分別しな

ければならないかが明確になることを

考えました。また、植木剪定枝や古布

などの新たな資源化品目を追加し、25

種類の分別によってリサイクルをより

進める方式の検討を行いました。



▲地域内のごみステーションの様子

て、「半減」への鍵であることが明確になつてきました。

また、分別の不徹底は、ごみステーション周りでの不规则の原因にもなつておひ、近隣の方が掃除をされていふことわざなくありません。間違つた出し方をされた本人には正確な出しが伝わらないまま一部の人たちに負担が生じていることからも、この問題の解決が望まれていました。

分別収集方式を一新！

そこで、収集方式を抜本的に改編することにしました。まず、「ごみ」

入する」としました。

モデル地区となつた牛ヶ谷戸地区は、約360世帯を有し、田舎から防犯パトロールなどの町内会活動が盛んな地区です。国道沿いに多くのごみステーションが設置されている地区でもあり、不法投棄などのごみ問題に頭を抱えていたことから、この新方式に関心を示し、モデル地区に応募されました。応募を決められたままで、町内会ではアンケートの実施や、地区内のご

▲資源ステーションで分別



▶牛ヶ谷戸地区での説明会

まずはモデル地区で ～牛ヶ谷戸町内会～

しかし、「分別収集」といつて、「一軒一軒集めることが可能なのか」「つちは車を入れないところにあるが取りに来てくれるのか」という疑問や不安の声があがりました。そこで、一部の

地区をモデル地区として、実験的に導



◀ 序内に展示された
生ごみ処理容器



ターネーしました。初めは、分別間違いなどが見受けられましたが、町内会の役員の方々が資源ステーションをまわられ、間違いを正すなど、きれいな資源ステーション環境の維持に努めてくださいましたこともあり、2ヶ月後に実施した意見交換会では概ね好評な反応を得ることができました。また、町で作成した50音順で分別方法を詳細に記した分別早見表と、収集日カレンダーは好評でした。

資源物の量は増加し、一部古紙や金属類については回収量に応じた奨励金を町内会に支払制度を開始したこと、町内会は活動資金を得ることができました。燃やすごみが減量した分、不足分は購入していただいくことで、費用負担の公平性と減量の意識づけを図ることを現在検討しています。

この「半減袋」で 意識づけを

この新方式は、今後全町での実施を目指して準備を進めています。併せて、導入を検討しているのが燃やすごみの指定袋制です。すでに指定袋の有料化を実施している自治体は

全国に数多く存在しますが、葉山町ではこの指定袋の大きさを少し工夫することと、減量の意識付けを図ることを考えました。

それは、第一期目標である「ごみ半減」を、目に見える形にするところです。半減の目標値は、具体的には「1人1日329グラム」という目標になるのですが、ごみ量を何グラムと言われてもピンと来ない人が多いと思ひます。そこで、重量を袋の容積に換算し、それをさらに収集1回あたりのごみ袋の大きさに表しました（＝半減袋）。つまり、収集1回に出すごみがこの袋に収まれば、その世帯は目標値をクリアしたことになるのです（収集は週2回）。これを、収集1回につき1枚分は無料で配布し、不足分は購入していただいくことで、費用負担の公平性と減量の意識づけを図ることを現在検討しています。

平成21年度に100世帯を対象と

減袋）。つまり、収集1回に出すごみがこの袋に収まれば、その世帯は目標値をクリアしたことになるのです（収集は週2回）。これを、収集1回につき1枚分は無料で配布し、不足分は購入していただいくことで、費用負担の公平性と減量の意識づけを図ることを現在検討しています。

したモーター実験を実施したといふ、初めての説明会では「袋が小さすぎて入らないな」と思ひ」ところの反応が多かったのですが、実際に使つてみるとなかで、「袋に収めよう」「分別を見直そう」という意識が働き、結果的には9割以上の世帯が2ヶ月間袋に収めるに成功しました。また、実施後のアンケートでは、7割が「分別に対する理解が深まった」と回答し、意識に変化が生じたことがわかりました。

持続可能な社会に向けて

このように、葉山町ではごみ半減を目標としていますが、もうなる減量に向けてそもそもごみにならない商品がもつと増えるような社会をつくっています。ゼロ・ウエイストを進める他自治体との連携も図っています。

3万人強の小さな自治体の取り組みですが、このこった動きが少しでも持続可能な社会にながっていきと願い、引き続き取り組んでいきたいと思います。

葉山町長 森 英一

▶シンポジウムなどで取り組みを紹介



(平成23年3月28日付第2754号)

「おひが田のPR下手」解消への第一歩

はじめに

市川三郷町は、平成17年10月1日に三珠町、市川大門町、六郷町が合併して誕生しました。甲府盆地の南西に位置し、南アルプスを源流とする釜無川と秩父山系を源流とする笛吹川が合流し、富士川となる左岸に位置しています。四季折々の自然が楽しめる四尾連湖や芦川渓谷、ぼたん回廊や桜の名所、花火や和紙、はんこなどの地場産業、大塚人參やとうもろこしの「甘々娘」に代表される農産物、市川の百祭りなど、町には誇れる資源が多くあります。

PR不足の指摘

そんな誇れる資源を幾つも持ちながり、「町内外に向けてPRすることが不足している。苦手としている。」

毎年8月7日(はなびのひ)に開催される神明の花火大会。

2万発の花火が上がります。

恒例の「メッセージ花火」では、今年も3人がプロポーズ。

成功率100%を誇っています。



山梨県 市川三郷町 いちかわみさとちょう

と町民の目には映つてゐたようであ。町民からは、「町をPRするような何かが欲しい。例えばPRシールを作成し、不特定多数の人に町の名前を売り込んではどうだか?」との提案も頂きました。

町ではこの提案を元に、幾度となく企画調整会議を行い、動く広告塔として公用車などに貼るPRシール、またなどなたこでも気軽に貼つていただけるプロクラのよひなシールを作成することに決定しました。



▲デザイン作成中の市川高校美術部



▲山梨県立市川高等学校

高校生の思い描く市川三郷

そこで問題になつたのが、「町のPRを目的とするシールなので、町を元気におけるよひな明るく楽しげなデザインをどのように表現するか?」ということでした。町民を対象に公募で決定しようと、いろいろ案もありましたが、「これからの方に柔軟な考え方で「デザイントーク」としての関係を構築した」という一つの目的もありました。

高校生の思い描く市川三郷

町の担当(広報部)と市川高等学校とで数回の打ち合わせを行い、美術部において「デザインの作成に対応していただき」となりました。部員の中には町外の生徒もあり、合併したばかりの本町のことを知らない状況で

依頼した理由には、今まで以上に「地域のパートナー」としての関係を構築したい」といひ一つの目的もありました。

町の担当(広報部)と市川高等学校とで数回の打ち合わせを行い、美術部において「デザインの作成に対応していただき」となりました。部員の中には町外の生徒もあり、合併したばかりの本町のことを知らない状況で

密で良好な関係にある県立市川高等学校に作成を依頼しました。自由な発想で高校生たちの思い描く「市川三郷」をイメージしてもらつたため、あえて条件や要望は何も付しませんでした。更に加えるなり、市川高等学校に作成を

したが、町の広報紙などから市川三郷の知識や情報も参考にしてくれたようですね。

PRキャラクター 市川三郷レンジャーの誕生



▲市川三郷レンジャー誕生

PRキャラクターを 最大限生かすために

そして誕生したのが、町のPRキャラクター「市川三郷レンジャー」でした。部員達によると「園児や小中高生の若者層にウケルのはやっぱりヒーローもの。それにわりに流行りのゆるキャラ風味を加味しました」とのこと。このPRキャラクター「市川三郷レンジャー」は3人で構成されていますが、それぞれの顔の正面には「大塚人参」「花火」「はんこ」がデザインされており、それは全て合併前旧三町の特産品です。ひと目で町の特産品がわかるこのキャラクターは、市川三郷をなんとかPRしようとする若い感性を感じられ、職員にも好評を得ました。作成を依頼したこの時期は、高校の定期試験などがあり進歩には思いのほか時間がかかりましたが、結果的には、その間のやり取りで高校との信頼関係も構築でき、地域的な連携も深めることができたなど、予想以上に大きな成果を得ることができました。

このよひな経過を経てPRキャラクターは作成出来たわけですが、このPRキャラクターを一時の流行で終わらせないためには、上手に活用しなければなりません。私達はこのキャラクターを大々的に紹介する方法を考えました。まずは広報紙の表紙で華々しく登場させ、「PRキャラクターが誕生したこと」と、「誕生までの経過」を報告しました。広報紙をめぐらなくては、町内に在り、町とは緊



じも達を中心になるべく多くの方に考えていただこうと、管内小中学校にも掛けをして協力していただいた結果、実際に400通もの応募がありました。

公募により町民からの注目を集め

始めた矢先でしたので、この名前の中会も、やはり大々的に行う必要があると考えました。その当時、PRキャラ

ラクターはまだ多くは出回っておらず、山梨県内では自治体そのもののPRキャラクターはほとんどありませんでした。また、そのままれた経緯も市川高校生とコラボという独自のものだつたため、マスコミの多くから興味を示していました。また、その生まれた経緯も市川高校生とコラボという独自のものだつたため、マスコミの多くから興味を示していました。この発表会も、町内で行なわれるイベントと抱き合わ

与えたようでした。贅否も含め多くの感想をお寄せ頂き、まずまずの好スタートを切れました。

せたため、新聞のカラー記事、テレビニュースなどでも大きく取り上げていただき、町内のみならず県内全域に発信することができました。

市川三郷レンジャーの認知度を高めた方法として、マスコミの力は大きな後押しとなりました。市川三郷町では、普段から広聴広報係を中心に、地元の新聞社やテレビ局に積極的に情報提供をしていただきました。この発表会も、報道・露出回数どころでは、自治体のHPや広報紙などよりもマスコミに一日の長があり、新聞、テレビ、ラジオの媒体を利用しない手はありません。記者やディレクターと太いパイプ

を作り、お互いの信頼関係を築いておくことにより、信頼の上に相互の情報提供が成立し、このようなイベントの報道なども積極的に取り組んでいただけたのだと実感しています。

マスコミとの連携

市川三郷レンジャーの 新たな展開



▲市川三郷レンジャー、PRキャラ名の発表会



▲PRキャラの存在を知らせる地元紙

始めた矢先でしたので、この名前の発表会も、やはり大々的に行う必要があると考えました。その当時、PRキャラ

ラクターはまだ多くは出回っておらず、山梨県内では自治体そのもののPRキャラクターはほとんどありませんでした。また、そのままれた経緯も市川高校生とコラボという独自のものだつたため、マスコミの多くから興味を示していました。この発表会も、町内で行なわれるイベントと抱き合わ

れた方法として、マスコミの力は大きな後押しとなりました。市川三郷町では、普段から広聴広報係を中心に、地元の新聞社やテレビ局に積極的に情報提供をしていただきました。この発表会も、報道・露出回数どころでは、自治体のHPや広報紙などよりもマスコミに一日の長があり、新聞、テレビ、ラジオの媒体を利用しない手はありません。記者やディレクターと太いパイプ

を作成しました。

また、市川三郷レンジャーを使ったPR活動の、大きな転機になつた出来事があります。それは、町内自主グループボランティアによる着ぐみの作成でした。

当初、町としてはキャラクターの独自の体型、予算の関係などから着ぐみの製作は考えておらず、イラストを使ったPRグッズ以外、製作する予定はありませんでした。そんな中、地域の自主グループが主催したお祭りの中で、主催者自ら着ぐみを製作し、参加者達とふれあいを深める活動を始めたのです。しかしその着ぐみは、自主グループゆえにあまり経費をかけられなかつたのか、少し手作り感覚の出来栄えであったため、町としてはイラストとのギャップを心配しましたが、そんな危惧は最初だけでした。キャラクターが立体となり、一人の生き物として活動することで、そのキャラクターに親しみがわくのか、多くの

の認知度を深めたことは間違ひありません。

せん。



▲保育園を訪問する自主グループによるボランティア活動



▲市川三郷レンジャーグッズ

残念ながら、この自主グループの着ぐるみ活動は、老朽化や時間の制約があり、その後にストップしてしまいましたが、町から発信されたキャラクターを活用して、住民サイドがそれを地域おこしに利用するところの形は、地域に市川三郷レンジャーが根付いてきた証でした。この自主グループの皆さんのがいや着ぐるみの有用性を感じていた町では、翌年度、市町村合併体制整備費補助金を利用して140万円をかけて三体の着ぐるみを製作しました。

（平成22年10月25日付第2737号）

活動を実施している自治体が数知れず存在することも承知していますので、私達も着ぐるみでのPR活動はむちろん、まだまだ新たな展開を計画中です。また最近は、山梨県内の自治体などの「ゆるキャラ」と共に協力し合って、PR活動を行える機会が増えてきましたので、「PR下手を解消すべく頑張つていただきたい」とも思っています。

（総務課広聴広報係）



▲市川三郷レンジャー新着ぐるみを制作

現在、着ぐるみを使用しての活動は主にイベントなどに出演し、会場で参加者と触れ合い、町のPRを行なうことです。参加者は実際に市川三郷レンジャーと触れ合ひ、逢つたびに親しみが増してくるようです。参加者の笑顔や言動から、愛情に近い感情も生まれてきて感じるよつと感じています。更に、絶えず对外との接点を持つことが容易となるめ、市川三郷町の保育所などを訪問して下さりました。この地道な活動が、町内の子ども達へ

むりなむPR活動展開へ



▶子どもたちに大人気市川三郷レンジャー

全国的には、私達の先を進むPRの1人

子どもたち、親子連れが着ぐるみとの交流を求めてきました。さらに、そのグループは着ぐるみを引きつれ、町内の保育所などを訪問して下さりました。この地道な活動が、町内の子ども達へ

「百匠一品・あたりまえがふつうにあるまち」を目指して!

ひやくしょういつぴん

はじめに

す。また、約八百年来継承されてくる「水海の田楽能舞」は国の重要無形民俗文化財に指定されています。

福井県池田町は県の東南部、岐阜県境に位置し、総面積19,472ha（山林92%）、農地450ha、人口3,043人、高齢化率39%、特別豪雪過疎指定、特定農山村指定の極めて脆弱で小さな農山村です。

戦わずして滅びるを待ちはしない

四方を山に囲まれ、自然は四季に豊かであり、日本滝百選の「龍双ヶ滝」、残したい自然百選の「冠山」があります。

こんな小さく、弱く、老いている町に、平成の合併問題が降りかかりました。県内の市町村が合併協議に入る中、池田町においても町民との対話集会を幾度と実施しました。



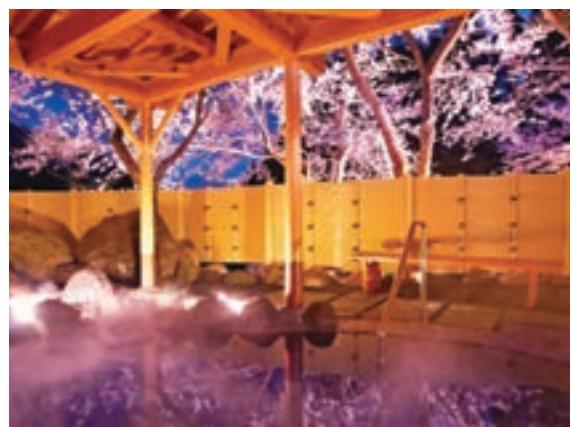
▶国重文 水海の田楽能舞



福井県 池田町 いけだちょう

ぐりをはじめとした無じものさがし、そして都市化への憧れが底辺にあったといえます。

しかし、農業青年グループの各種体験交流活動から、まちづくりの青い鳥は山の向こうではなく足元にあることを実感したのです。



自然を察しながら営む農業、伝統の郷土料理、収穫物をいただくという文化、人と人の相互扶助の係わりなど

「日本人が忘れかけた日本」「都市が容易に取り戻せないモノ」が池田町に生き残つてゐること、そして日本人が見失つてしまつた「日本のあたりまえがふつぶつに残る農村」に憧れる時代が来てしまふことを感じ取つたのです。

今、池田町では「自然資源」「文化資源」「人資源」「社会資源」の四つの地域資源連結活用型のまちおこしを開催しています。

戦わざして滅びるを待ちはしない」だったのです。池田町は単独の道を選択しました。

「まちづくり」とは 「まちづくり」をつくるひと?

池田町における近年までの「まちづくり」は、特産開発や新しいモノづ

所得は減少し意欲も減退しほじめでいました。でも自家用野菜は多品目栽培され、しかも無農薬に近い栽培がなされていました。生産量は少なくても安全でおいしい野菜がつくりられていたわけですね。

そこで、わかつ一株、わかつ一畝の増産運動を展開するなど少量多品目の直売所を開設するなどいたしました。

販売経験のなじみのやん農業の担い手達から、「おおそれ分け野菜など買つてもらひえのだらうか?」と異口同音に不安が出されました。が、「始め

た。回を重ねる協議の終盤「池田町単難の道のりだが、町を守る努力をしてほっこ、わづおねたりはしなう」の声が上がりはじめました。そこで出た台詞が町民の多くを納得させた「池田町、戦わざして滅びるを待ちはしない」

環境活動と農業・農村の総合産業化をめざして

- 「一株増苗運動」から直売所
- 「トッボン屋」を県都福井市に開設

池田町の農業は米単作地域であり、農家は米以外に農産物を販売した経験がほとんどなく、米価の下落から農家



なければ始まりない」「始めなければ成長しない」との声に170人をこえる出荷会員が集まり、平成11年7月池田町ショッピング「トッボン屋」(方言で幸せ、ありがたじの意味)を県都福井市のショッピングセンター内に開店しました。現在では約12坪の店舗で年間約1億4千万円(売り上げ坪単価では全国上位クラス)を販売しています。

- 食ロターン事業からの堆肥「土魂壤」(じごんじょう)シリーズ商品化

また、池田町では安全な作物栽培と肥沃な土を守るために、堆肥利用が熱心に行われてきました。そこで、家庭等からの生ごみを堆肥化する事業「食ロターン事業」を開始しました。施設は町が整備し、生ごみ収集は週三日、



▲池田特産 米・水セット

液肥、園芸用培土となつて販売されて
います。

また、「オベル」と文字でのトレーナーでは限界があり伝えきれな
いとか、「トヨミツ屋」には農家
自身が入り、栽培の状況や野菜山菜の
調理方法などを、直接おしゃべりで伝
える「おばちゃんシャベリティー」を
実践してます。

▲全国一の25,000本エコキャンドル・
メインアート

準を設けた「ゆつき・げんき・正直農
業」をスタートさせました。

○ゆつき・げんき・正直農業と
おばちゃんシャベリティーの実践
作物の安全栽培へ向けた資源循環
の基礎が出来つつある時、農家個々の
栽培技術だけでは信頼を得ないとか
ら、町全体での栽培基準と認定ルール、
指導体制を町独自に策定することとな
りました。

有機肥料を使用し化学肥料、除草
剤は使用しない、栽培履歴の記帳義務、
認定は消費者も参加して圃場視察を行
う、堆肥を利用した土づくりや栽培の
年数によつてランク付けするなどの基
準を設けた「ゆつき・げんき・正直農
業」をスタートさせました。

○漬物加工施設「おこもじ屋」
これらの取り組みから農家の生産
意欲は向上し、栽培品目や栽培量も拡
大するとともに、惣菜加工業、菓子製
造業などを手がける女性グループも10
件起業しました。

町も、生産物の販売拡大と郷土料
理の商品化、伝統加工技術の継承を目
的に加工施設と販売を担う「おこもじ
屋」(HACCP(ハサップ)、食品衛
生管理認証取得の漬物惣菜製造業)を
設立しました。



○全国一・25,000本の
エコキャンドル・ナイトイベント
開催

用木金曜日に町民ボランティアが担つ、
家庭ではルールに従つて専用の紙袋で
生ごみを出す、堆肥センターでは生ご
みと牛糞を混合して完熟堆肥を製造す
る仕組みで始めました。現在では町内
約7割の家庭が参加しています。
そして出来上がつた堆肥は「土魂
壌」(どこんじょう)と命名し、堆肥、
園芸用培土となつて販売されて
います。



▲食Uターンの生ゴミ回収



前出の食Uターン事業が年を重ね
る中、スタッフや町民の中から、てん
ぶり油の回収リサイクルにも取り組ん
ではとの声が上がるとともに、ガソリ
ンスタンドが廃油集油場として協力す
ることになり、「食油Uターン事業」が

スタートしました。廃油は精製され生ゴミ収集車の燃料に使用されています。またこれらの環境活動のアピールとして廃油ローソクを灯す「キャンドルのナイトイベント」が企画されました。

キャンドルづくりには、学校、子ども会、老人会、青年団など町民の約2割が参画し、年間約27,000本が製作されています。

そして、平成19年から毎年秋に廃油キャンドル25,000本（全国一）のアートイベントが開催されています。

まちの宝「感じる力・見抜く力・活かす力」

年5回2泊3日の授業が開かれています。平成24年で8年目を迎えます。

成果から次への戦略

○名賞の受賞

①資源循環型農業

平成19年 農林水産大臣賞受賞

②環境向上活動

平成18年 環境大臣賞受賞

③平成20・21年連続

日本環境首都（2万人以下の部）コンテスト第1位

④食ヒターン事業

平成21年 食品リサイクル環境大臣賞受賞

○日本農村カーデザイン大学の開校

池田町ではまちの四つの地域資源を繋ぎ、共振させることであつおじしを進めようと取り組んでいますが、ややわらかく手法を間違えたり、モノを見誤ったり、目的を見失つたりしてしまいます。

○農村力観光ポスター

平成19年 国土交通大臣賞受賞

池田町では、その試行策として平成23年3月に、町も一部出資した株式会社「まちこじけだ」を設立いたしました。

○新たな公を担う株式会社 「まちこじけだ」の設立

池田町のまちおこしはやっと緒につじたといふです。また、行政を取り巻く諸環境は不透明、不安定な時代にあります。その中で、まちの個性や得意技を磨き、暮らしを支え豊かさを築くには非常に困難と見えると同時に、町の力が試されてくることがあります。

これからの時代は、住民と行政の

そこで、私たちの足元にある町の資源は何か、どのように価値があり何を守り、何を伝えるのか、農村の力を復習するなど、学ぶことを始めようと、青年グループがNPO法人を立ち上げ「日本農村カーデザイン大学」を開設し、



課題と結び

以上、代表的な池田町の取り組みを紹介しました、他にも子育て、教育、福祉、定住促進、産業振興事業の中にあっても特徴的な取り組みを行っています。

（平成24年1月9日付第2784号）
福井県池田町長 杉本博文

笑顔があふれるまち ながいづみ

—子どもが輝き 子育てが楽しい 心ふれあうまちをめざして—

はじめに

長泉町は、静岡県の東部、伊豆半島の基部に位置し、東を三島市、西を沼津市、そして南北を駿東郡清水町と裾野市に接しています。東海道新幹線三島駅や東名高速道路沼津インター チェンジに至近の地であり、東京まで約100km、県都である静岡市まで約60kmの地点にある、南北に細長い紡錘形をした面積26・51km²と県下で3番目に小さな町です。

北に靈峰富士を仰ぎ、東に箱根連山を眺め、温暖な静岡県内でも特に降雪が少なく、穏やかな気候の地でもあります。このような人が住みやすい地であることを裏づけるように、町内各所から旧石器時代から弥生時代にわたる遺跡が発掘されています。

明治22年、10か村が合併し長泉村

が誕生しましたが、当時の人口は3,962人で、世帯数は655戸を数えるに過ぎませんでした。その後、合併することなく昭和35年に町制を施行し、

そして、平成22年4月1日、明治22年の区域のまま、人口40,956人（5月1日現在）の県下一の人口規模の町として、町制施行50周年を迎えたところです。

企業誘致と町の発展

当地には、昭和10年代の後半までに製紙、製薬等の大きな規模の工場が創業をしておりますが、当時はまだ、サツマイモを代表的な作物として栽培する農業を中心の町に一大転機が訪れたのは、昭和31年に決まった大手繊維関連企業の進出からでした。

工場の主体部分の土地として旧軍

放課後こども教室「のびのびスマイル」
毎週水曜の放課後は、子どもたちが学年をこえて仲間とふれ合う場です。



静岡県 長泉町 ながいづみちょう

有利に働きましたが、当地が、冬期もほとんど降雪のない温暖地であること、富士の雪解け水を水源とする大量の地下水が容易に得られ、しかも、その水が水温、水質ともに工業用水としても最適と折り紙がつけられてくる良質の水であることなども評価されました。また、東京、横浜、名古屋に近く、原材料、製品輸送面においても三島駅に近く、その接続も容易な立地条件も当地への進出が決定された要因でした。

そして、昭和44年（1969年）に新幹線三島駅が開業し、隣接地である長泉町にとって新たな南玄関口とな

り、その後の町の発展に大きな追い風となつたことは言つまでもありません。

これら的企业誘致により、町の税

収は増大しました。さらに業種の異なる企業誘致を推進したため、景気の変動に左右されにくい足腰の強い町として、昭和58年から現在まで連続して不

交付団体であることや、平成20年度決

算でみると、経常収支比率が70%、公

債費比率が5・9%と財政の健全性を

見ることができます。

以後も大規模工場の誘致を展開す

る一方で、当町では、町民有志の協力

のもと、「スポーツを通じた健康で明

るい住みよいまちづくり」を目指して

います。こゝで、企業の従業員として全国から集まってきた新たな住民が、スポーツの普及に大変大きな力となり、また新旧住民の交流によって、文化・風習なども幅広くなつたと言われ、当町の特色の一つである新旧住民の隔てない良好なコミュニティ形成につながっています。

平成14年に当町内に静岡県立静岡

がんセンターが開院しましたが、こゝ

へのアクセス整備を確保するため、JR

御殿場線への新駅設置や、これまで

遅れていた町内の幹線道路網の整備な

どが促進されました。

そして、恵まれた財政力を背景に

した福祉や教育施策への対応など、こ

れらすべての相乗効果により、県内外

の方々から転居先の選択に際し、当町

を選択肢としていただけのようになつ

たと理解しています。

人口増加の要因

2010年3月に発表された土地の公示価格では、全国総下落という中、

地下鉄駅ができる名古屋市緑区の5地

点じ当町の2地点のみが上昇

したという発表がありました。何て読

むかもわからない「長泉町」という町

がなぜ?合計特殊出生率も上がつてい

る、子育て支援策が評判だとか…

といつひとと、新聞、テレビ、雑誌と

取材の嵐でした。

しかし、土地の購入や転居先として当町を評価していただけるようになつた要因は、子育てなどの一分野の政策の充実によるものだけとは考えておりません。

前述の東海道新幹線三島駅は、三島市と当町の境界部にあり、当町の中

心部からは車で10分とかかりません。

合計特殊出生率

	平成20年	平成19年
長泉町	1.84	1.78
国	1.37	1.34
静岡県	1.44	1.44

合計特殊出生率の推移

	平成15年～平成19年
長泉町	1.70
国	1.31
静岡県	1.44

少子化、人口減少といつ社会の大きな流れの中において、当町は、合計特殊出生率も国・県平均を大きく上回っています。「出生率が上がつたのは雇用機会や交通の便に恵まれた」とが大きいが、上昇が長期で続いていることは子育て支援策の効果である」と、

中学3年生までの入院・通院との自己負担なしでの無料化が、子育て世帯に評価を頂いております。これは県内

でも3自治体で実施しており、現在では、珍しくありませんが、当町では、

昭和48年から3歳未満の無料化を始め、

平成14年から就学前、平成19年から小

学3年生までと拡大してきました。

就園前の子とその保護者が対象の



▲働いているお母さんたちにも安心して預けられる「放課後児童会」。



▲保育園に併設されている子育て支援センター「みかんちゃん」。他にも「アップル」と「ちえりーぶらっさむ」があります。

子育て支援センターは、現在どの自治体にもありますが、当町では、平成11年に第1号を開設しています。結婚してから当町に転居して出産するなど周囲に知人、友人などがない母親による常駐の保育士による子育てのアドバイスや、子育て仲間ができるなど利用者に好評であったことから、現在町内に3施設を開設しています。

放課後児童会では、平成19年度末に次年度の希望をとったところ、多くの待機が発生する状況がわかり、予備費を投入して2箇所にフレハブの施設を建てて4月からの受け入れに対応し、2ヵ年かけて恒久的な施設を整備してきました。

また、人口の増加に伴い、町内に3つある小学校の2校で教室が不足することなどが予想されたことから、平成21年度、2つの小学校で6教室ずつ校舎を増築しました。

しかし、様々な需要に対し、すべて新たな施設を作るなどして対応できている訳ではありません。当町でも、幼稚園に比べ預かり時間の長い保育園への入園希望が多い状況ですが、この状況がじつまで続くかわからないなか、新たな保育園設置には踏み切れません。そこで、この4月から幼稚園の保育時間

を希望により1時間延長し、また、認可外保育施設の利用者に対し、町で定める保育料との差額を補助するなどの制度を平成22年度から実施しています。

また、少子化のなか、たくさん子どもを産みたいが経済的に大変という声を聞き、出生順位で第3子以降を対象として公立幼稚園、保育園の保育料等を無償化するとともに、私立に対しては公立の料金を上限に助成をしています。

教育現場の充実

保護者に対してこのような支援をする一方で、子どもに対しては教育現場への支援員の配置などにより、学校と連携を図った取組みを進めています。小学校には、小学1・2年生のすべての教室に、学校における生活、学習の基本的な習慣等について担任を補佐する小学1・2年生支援員を配置している他、義務教育において重要な学年である3・4年生では、算数や国語などの授業をクラスを分けて少人数で授業をするための少人数指導員の配置、背筋を伸ばし授業へ集中する態度を養うことを目的に1・2年生で書道科の授業を導入しています。また、全小中



▲2つの小学校で、6教室ずつ校舎を増設 (左)南小学校 (右)長泉小学校。



学校に特別支援教育の補助員や図書館に教員以外の図書館補助司書なども配置しており、教員や保護者からも高い評価を頂いております。

▲小学校1・2年生を対象にした書道教室
背筋を伸ばし授業に集中する態度を身
につけます。



なじで成果が見られております。

地域の力を子育てに

しかし、子育てにおいて行政がや
ることには限界がありますし、地域
全体の関わりの中で子どもを見守り、
育てていくことが本来の姿であると考
えます。当町でも、大変多くのボラン
ティアの方々が、子育てに関わってく
れています。

乳幼児を抱える世代が対象の事業
において、子育て経験の豊富なボラン
ティアによる託児サービスを始め、生
涯学習の分野で小・中学生を対象とし
た事業での関わりが目を引きます。

その中でも特記されるものとして、
「放課後子ども教室推進事業（通称：
のびのびスマイル）」や「長泉町少年
少女サークル（通称：はぴはぴサーク
ル）」があります。

また、平成12年に行つた行政改革
の取り組みで、これまで町長部局が所
管してきた児童福祉に関する業務を教
育委員会に置き、保護者の立場に立つ
た「出生から中学卒業までの窓口の一
本化」を目指した「こども育成課」を
設置しました。当時としては斬新なも
のでしたが、10年を経た現在、当初意
図した「住民の利便性」から、行政内
部での「子育て課題の共有化」や「人
材の有効活用」、「幼保・小・中学校と
の連携」、「施設整備の計画的な推進」

多様な体験を通じ、豊かな感性を育ん
でおり、なぎなた、箏曲尺八、大正琴、
ハーモニカ教室などの講座が用意され
ており、実行委員を務める地域ボラン
ティアとの楽しい時間を過ごしています。



▲毎月1日に発行する町の広報で、1歳6ヶ月検
診にきた親子の写真を掲載しています。

おわりに

人口減少、少子高齢化、企業誘致
や道路整備に追われる時代ではない
・・・これが現在の自治体間での共通
認識かもしれません。しかし、その地
域によって課題はまちまちであり、自
治体における施策の優先順位もおのず
と違つてまいります。住民生活の現場
になつて活動しております。

この他にも学校教育の現場におい
て地域の力を借りることも多々あります
が、最近では、行政主導ではなく、
地域で子育て支援をしていく新たなボ
ランティアの動きが見られ、町として
も大変心強いものがあります。

平成22年度の予算編成にあたり、町
政の基本姿勢を「住民意線の行政の推
進」とし、「健康」「環境」「子ども」
を重点においていた施策を展開してまつり
たいと考えております。行政内部では
他部署を巻き込んだ「施策の総合化」
が、そして地域・住民を巻き込んだ「協
働」が、これら重点課題への取り組み
の鍵を握るものだと考えています。

子どもの笑顔は、町にとってかけ
がえのない財産であり、住民の活力の
源になるものです。これが絶えないま
ちづくりに今後も取組んでまいります。
長泉町長 遠藤日出夫

現代ゆいの提唱

—上下流の協働で再生する水源の里—

水源地はだれのものか

愛知県の北部に位置する東栄町は、いわゆる水源地としての役割を担う山間地域であるが、近年、過疎や高齢化に伴つて発生する農林業の衰退によりその多面的機能さえも失つてしまつ危険性をはりこんできた。このことに危機感を覚えた住民の有志が一同に会して得た結論は「上流域水源地は、そこに暮らす住民だけのものではなかつた」である。

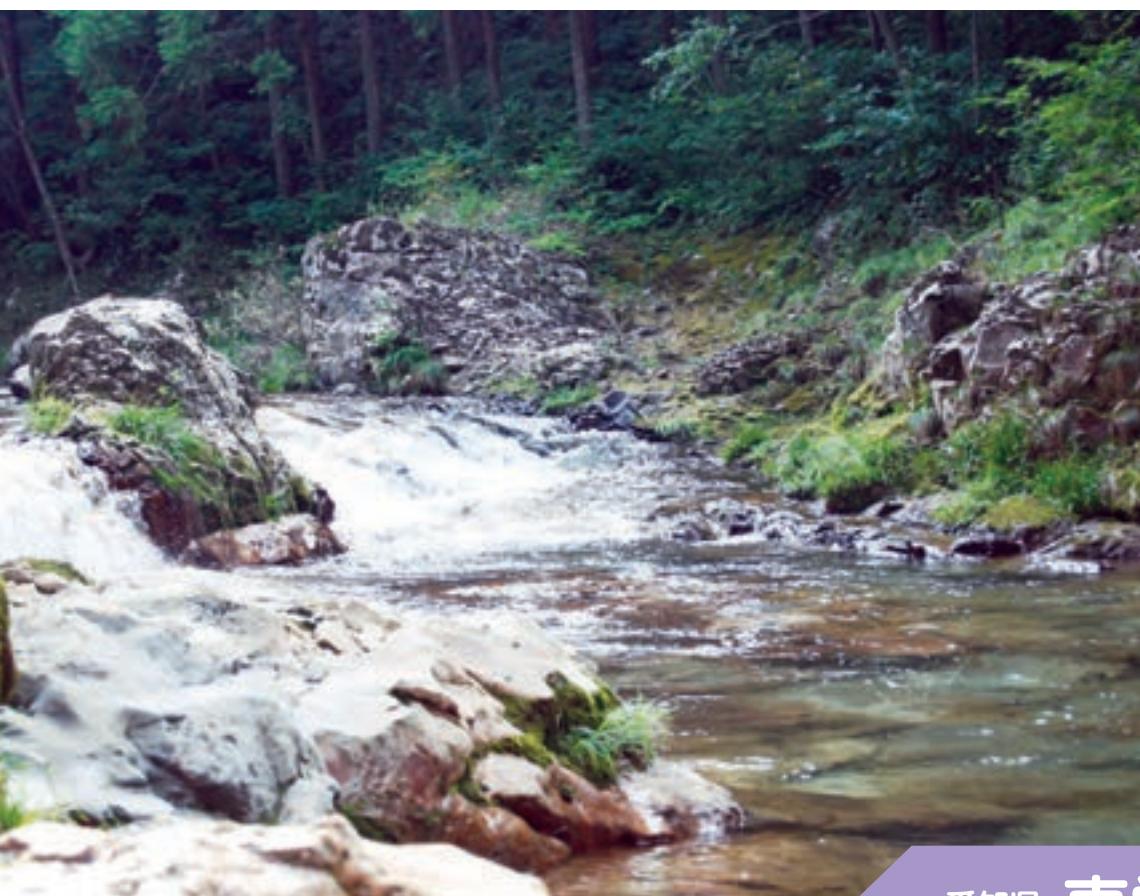
つまり水源地とは、下流域の住民にとっても養うしの上で欠くことのできない重要な存在なのではないか。それならば水源地の環境は「上下流が協働で保全すべき」と結論付けたのが現代版「ゆい」の提唱である。その昔、集落内の協働作業システムとして発祥したこの制度を、上流域と下流域の関係に置き換えて再構築しようと試みた

みである。名付けて「ゆいのまちづくり戦略会議」。

基本的なコンセプトを「水源地の保全は農林業の再生から始まる」とし、水源地の自然を上下流の共有資源と位置づけた。さらにその先に望まれるのは上下流相互の理解と合意である。それゆえに我々はこのプロジェクトの到達点が、遠い先であることを予感した。過去の活動から、山村と都市の価値観の差を痛感してきた経緯があり、両者の間に合意をとりつけには膨大な時間とエネルギーが必要なことを熟知していたからである。しかし今、それを乗り越えて一步を踏み出さなくてはならない窮地にあることも紛れのない事実である。

知つてもうつための一歩

都市の住民に山間地の現状を知つてもらうための手段として、食への関



愛知県 東栄町 とうえいちょう

▲「水源地は、上下流域住民が協働で保全すべき」現代版「ゆい」の提唱

心に着目した。山間地域の自家消費食材を持込み、名古屋市内で「地産地消の料理教室」を開催し、その中で山間地（水源地）の現状と衰退する農林業の窮状を報告した。そこから、農業体験講座を通しての遊休農地の利用拡大や耕作放棄地の再生ボランティアへの参加者を募る試みである。約八十名の教室参加者中十一名が農業体験講座へと移行し、まずまずの結果を残した。しかし、その大半は料理教室が目的であり水源地への関心の低さが改めて浮き彫りになる結果でもあった。そこで情報発信の対象を拡大し、地域新聞に募集記事をリリースしたところわずか一週間で定員に達し、改めてメディアの威力を痛感した。ちなみに募集定員は農業体験講座を述べ八十名、耕作放棄地再生ボランティアを述べ三十五名

と設定した。



▲農業体験講座：(上)耕運機の取り扱い講習
(下)種まき風景

◀食への関心に注目！
「地産地消の料理教室」から再生ボランティアへ

と設定した。猛暑の中での草刈りに始まり、土づくり、種まき、除草作業など、都会の人が慣れない手つきで作業を進める。地域の指導員は必要最小限のアドバイスを行ないながら、後方支援に回つて見守る。作業の後には、様々な質問が飛び交う交流の時間が設けられ、山間地農業の衰退状況から水源地における重要性へと話題を誘導していく。体験のプログラムは六回にわたり、最終日の収穫作業では満足そうな参加者の笑顔が印象的であった。この日の収穫野菜は、秋作ジャガイモ、大根など五種類で、参加者は延べ七十四名となつた。

目的は山間地の現状を知ること。都会の人々が普段消費している農産物など、どのような場所で、どのような人により、どのような経過で生産されているのかを知ることにより、食の安全性のみならず生産地の実情を目の当たりにして、感動や感謝を喚起し、やがて水源地保全への協働意識を引き出すのが狙い。従つてプログラムは栽培技術よりも農家（指導員）との会話や交流を重視した。

約千平方メートルの遊休農地を借り上げ、八月半ばから始まった農作業は隔週の土・日を利用して行なわれた。

ボランティア作業は、八月一日から毎週、土日の一泊二日で行なわれた。一回目の伐開作業は雨の中でスタートしたが二十年以上放棄された農地は雑木が林立しほんどうなジャングル状態。木が林立しほんどうなジャングル状態。チエンソーや刈り払い機による作業も一時間で数平方メートルがやつとで、予定の面積六百平方メートルを目指すこととした。そこで一回目以降は三倍の機材を投入することにより作業の進捗を図ることとし、ボランティア作業の間にもスタッフによる継続作業が連日行なわれた。その結果予定通り三回目までの間に伐開作業は無事終了し、次の抜根作業に着手できることとなつた。放棄地内に群生していた雑木は大きなものでは直径三十センチメートルを超えるものもあるなど抜根作業も困難を極めたが、資格を有するNPOのスタッフが大型の建設機械を操作し、手作業の必要な部分をボランティアが担当するなど、息のあつた連携プレーで予定通りの作業工程をクリアしていった。

いま、地域における耕作放棄地面積は、加速しながら急増を続け、減速点が見えない状況にある。しかも遊休地機能に与える影響は格段に大きい。そこで田舎暮らしに関心のある都会のひとびとをボランティアとして募集し、耕作放棄地の再生実験に取り組みなが、水源地への理解を深めてもらい、農地保全のためのシステムづくりを進めたいと考えた。從来から地域づくりに関わる地元のスタッフと都会からのボランティアが協働で耕作放棄地を再生

よみがえれ実りの大地！ 耕作放棄地の再生ボランティア

し、その後はボランティア自身の手で自主的に農地の管理運営をしてもらつた農地を利用してブルーベリーの栽培を行ない、ボランティア参加者がその収穫権を保有することにより農地の管理を継続していく。

ボランティア作業は、八月一日から毎週、土日の一泊二日で行なわれた。一回目の伐開作業は雨の中でスタートしたが二十年以上放棄された農地は雑木が林立しほんどうなジャングル状態。木が林立しほんどうなジャングル状態。チエンソーや刈り払い機による作業も一時間で数平方メートルがやつとで、予定の面積六百平方メートルを目指すこととした。そこで一回目以降は三倍の機材を投入することにより作業の進捗を図ることとし、ボランティア作業の間にもスタッフによる継続作業が連日行なわれた。その結果予定通り三回目までの間に伐開作業は無事終了し、次の抜根作業に着手できることとなつた。放棄地内に群生していた雑木は大きなものでは直径三十センチメートルを超えるものもあるなど抜根作業も困難を極めたが、資格を有するNPOのスタッフが大型の建設機械を操作し、手作業の必要な部分をボランティアが担当するなど、息のあつた連携プレーで予定通りの作業工程をクリアしていった。

その後、地表保湿材として木材チップが敷き詰められ、土壤改良剤を散布し予定通り六百平方メートルの再生地に六十本のブルーベリーが植栽された。

また伐採された雑木は保湿用木材チップとして再生利用され、循環型農業の一端を担うことができたことも書き加えておきたい。

ボランティア作業は九月の上旬まで十回に渡って実施された。当初の募



▲再生前の耕作放棄地



▲ボランティアによる伐開作業



▲NPOによる抜根作業



▲いよいよ再生へ！
六十本のブルーベリー苗木を植栽

▼最後は笑顔で！ 達成感が人をつなぐ



山村と都市の協働価値観の差を埋めるために

集定員は盛夏の過酷な作業を考慮して一回五名とし、七回で三十五名を見込んだが、参加者が次々と友人知人を誘い込み、終つてみれば延べ参加者数は百五十八名にのぼった。都市部における水源地への関心は決して高くはない」と判断しているが、ボランティア作業という達成感を伴う行動と、ブルーベリーのオーナーという魅力が相

乗効果をもたらしたものと思われる。その後、植栽された苗木は順調に成長を続け、参加者たちは管理組織を設立して継続的な活動を展開している。再生された耕作放棄地は、今回の実験では約六百平方メートルと小さな面積であったが、山村と都市の協働による「水源地保全」のシステムづくりの基礎としては大きな一歩であったと考えている。

かつて長期間にわたりこの種の活動に参加してきた山村側のメンバーにとって、山村と都市の価値観（暮らし方）の相違は容易に解決できない難問としていまだに残されている。今回の

プロジェクトでは、これらの摩擦を最小限とするために徹底した議論の場を設定した。それぞれ作業の後に設けたこの時間は、結果として一定の効果をもたらしたように思える。時には夕食を共にしながら、それぞれの想いをさらけ出すことで徐々に理解が生まれた。山村と都市の交流といいながら、実は人ととの交流である」とも双方が納得した。都市側が山村の資

源を求めてくる」とが、実は山村で暮らす「人に逢じにくることである」とも理解できた。これらの経過から得た結論は「立場を変えた協働」である。都市の人々がいま山村に暮らし、山村の人々がいま都市に移り住んだとしたら、それぞれ相手方になにを望むか。そう考へると、理解ある協働が生まれてくるようになる。最後にこれこそが我々の提唱する「現代ゆい」の精神であることを述べておきたい。

特定非営利法人ななさじぐるーふ
専務理事 伊藤 俊弼

(平成22年6月7日付第27-22号)

高校生レストラン 「まごの店」で地域活性化!

はじめに

三重県多気町は、松阪牛で有名な松阪市の隣町で、人口1万6千人足らずの小さな町です。多気町は、平成7年にシャープ株式会社の液晶工場がオーブンし、先端産業の町という一面も持ち合わせていますが、一級河川の「柳田川」と、2006年から4年連続で清流日本一^(*)に選ばれている「宮川」に挟まれた肥沃な農地の広がる、農業が盛んな町でもあります。「また、多気」という名前にも、食べ物のたくさん取れるところ、という意味があると聞いています。

その上、私たちの町には、三重県立相可高校という特色ある高校があります。私もこの相可高校のOBですが、普通科、環境創造科、食物調理科、生産経済科という4つの科があります。なかでも食物調理科は、高校生が運営する常設のレストラン「まごの店」の経営で、今、脚光を浴びています。

*1 国土交通省が1級河川を対象に毎年行っている水質ランキング全国1位のこと

いとの起り

この「まごの店」は本町役場農林商工課の一人の職員によって仕掛けが始まりました。彼は当時、農業振興係長で、多気町の農業をさうに振興するために、手始めに町内で専業に農業をしている認定農業者35人にスポットを当てようとしたのです。

ただ単に人（認定農業者）にスポットを当てるのではなく、その人が作っている野菜や果樹などの生産物にスポットを当てるなどにより、その生産者の方々を浮かび上がらせようと企画しました。平成14年の2月に「おこし多気町まるかじりフェスティバル」と銘打ち、午前中はテレビなどでも有名な料理の先生を県外からお招きし、多気町原産の特産物の伊勢イモをテーマに料理トーク&調理ライブショーを行



▲笑顔のあふれるまごの店内



三重県 多気町 たきちょう

行つと共に、風には、相可高校食物調理科の協力を得て、認定農業者から提供いただいた大量の農産物での試食会を開催しました。

現在の相可高校食物調理科は、高校生レストラン「まごの店」などの活動などで新聞やテレビに頻繁に登場し、日本中に明るい話題を提供し続けています。

しかし、8年前にこのイベントを行つまでは、行政面では相可高校との交流はほとんどありませんでした。と言つても、文字どおり県立相可高校は三重県の管轄です。町の管轄でない相可高校とはほとんじ付き合ひがなかつたというのが、当時の『町と高校』との現状であり、午前中の料理のライブのデイナーバイキングのようだ、そのまま結婚式もできやうだったといます。彼はとても感動し、その後相可高校へ放課後1週間に4回ぐらじ通いつめる程、生徒やその指導者の村林先生に惚れてじつたそりです。

そこから、同年代である村林先生とは、色々な話をしたそ�です。そして、心の底から先生を応援したく「先生を三重県の村林ではなく、日本の村林にしたい」と先生に話したと聞きました。

彼と村林先生は、伊勢イモ入りつどんの開発など、一人で話し合つたことで実現できるとはすべて実現してしまいました。

その中で彼は、ほとんじ100%「食」に関する道に就職する生徒たちのために、高校ではできなことが2つあるといつ話を先生から聞いたのです。一つは接客、そしてもう一つはコスト管理でした。そこで、お店をや

シヨーの講師も外に求めたのです。

認定農業者の方々も含め総勢250人近くの参加者が始ました「おじじ多気町あるかじりフェスティバル」は、楽しげ雰囲気で始まりました。そして、じょじょ毎の試食会です。相可高校にはスーパーやデパ地下の試食をイメージしてお願いしたのですが、

出てきた料理は30種類もあり、ホテルのデイナーバイキングのようだ、そのまま結婚式もできやうだったといます。彼はとても感動し、その後相可高校へ放課後1週間に4回ぐらじ通いつめる程、生徒やその指導者の村林先生に惚れてじつたそりです。

※2 著者：村林新吾 発行：伊勢新聞社 2008年刊

まごの店からまごの店へ

「まごの店」は「多気町五桂池ふるさと村」にある相可高校食物調理科の調理実習施設で、学校が休みの土日祝日や夏休みなどの長期休暇にクリスマス活動の一環として運営されています。行列の出来る店として人気を呼んでおり、地域の人もこの高校生たちの頑張りに感動し、大きな勇気をもりつけています。

最初の「まごの店」は、平成14年10月に農産物直売施設「おばあちゃんの店」の前にオープンしました。自動販売機コーナーを改装した、約20mの屋台のような小さなお店でしたが、そこでの生徒たちの明るく活発な取り組みが、高齢化などの進む多気町に明るい話題を提供し、人々を勇気づけてくれました。

そして、この「まごの店」での地

つたらどうかといふ話になり、いろいろな問題を解決し、感動のストーリーを経験し、現在の「まごの店」ができるました。そのあたりは、村林先生の「高校生レストラン、本日も満席」^(セキ)といふ本の中でも紹介されていますので、よろしければお読みください。

域に密着した食の活動が、文部科学省の「めざせスペシャリスト事業」に選ばれたのを契機に「フランス料理なりフルコース、和食なり会席料理からふぐ料理までこなす彼らの技術を、もうと發揮できる店をつくつてあげたい」と現在の新しい店の仕掛けを始めました。県内の建築を学ぶ高校生に店の設計コンペを依頼し、コンセプトは、「料理家を目指す高校生の夢を、建築家を目指す高校生が形にする」。その夢、



▲「まごの店」の設計も建築を学ぶ高校生が手掛けました。

を多岐町やふるさと村などの地域が
応援する。』とした。

高校の卒業生たちが、地域で働きながら地域の活性化に一役担うのです。

そしてこれから

異例ではありますがあんまり行政管轄外の県立高校のために、町はもとより地域住民、町議会、受け入れ先のふるさと村など一致団結しました。素晴らしい生

徒のために、そして村林先生を始めとする素晴らしい相可高校の先生方に尊敬と感謝の念を込めて、町単独でもこの事業を実現しようという熱い思いで取り組んだのです。最終的には県の補助2千万も得て、総事業費約9千万をかけ平成17年2月に建築を学ぶ高校生が設計した現在の「まごの店」がオープンしました。



▲「まごの店」の卒業生で、「せんぱいの店」をオープン！

わざと、平成20年9月には、相可高校食物調理科卒業生の受け皿となる（株）相可フーズネット、「セントラル」が、「まむじ」の店、卒業生3名を中心とした惣菜とお弁当の店としてオープンしました。

組みが、多くのマスクにて取り上げられております。

また、レストランで排出される生ゴミは、町内の農家で構成される「多気有機農業研究会」のメンバーが毎週土曜日に回収に来て、同会の堆肥施設で堆肥化し、その堆肥で作った野菜を

小さいながらも農業の循環モデルを実現しています。



五桂池ふる古と村案内図

最近の新しい取り組みとしては、相可高校生産経済科の生徒たちが、町内の2009年度日本経営品質賞を受賞したような一流の製薬会社と一緒にハンドクリームを作っています。高校生が今回のハンドクリームの製造のコンセプトからパッケージ制作、ネーミング、入れ込む成分まですべてを提案し、その高校生の提案を最大限に引き出しプロの立場から一流の製品に仕上げていただきます。コンセプトは、『孫のような高校生が、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、おかあさんに感謝を込めてプレゼントできるようなハ

心となつて運営していく「せんぱいの店」が発売のすべての責任を負う。また、多気町やJA多気郡も応援していただき、販売には高校生も県内外の販売会社への営業やインターネット通販を学校で行い、経済の実体験をする計画です。

しかししながらこの事業をきっかけに、町として真剣に地域ブランドを確立して行きたことも考えておもむ。地域で明るい話題を提供することが、地域の産業全体も盛り上げていく大きな原動力になります。今後とも地域と共に発展していく持続的な取り組みを通して、ひとつでも多くの明るい話題を提供して行きたことを考えております。

最後になりましたが、「田舎は一見につかずー」ですが。ぜひ多良町にお越しあれ、活気あふれる私たちの姿をご覧いただければ幸いです。

現在、生産経済科生徒は、園芸を通じて「ソードクリーメン」

二重県多気町長 久保 行央
(平成22年10月4日付第2735号)

「明るく・元氣で・長生き」ができる 町を目指して!

—ICTを利用した安心・元氣な町づくり—

私の住む玉城町

三重県は、日本最大の半島である紀伊半島の東側に位置し、海、山の豊富な自然に恵まれ、農業・漁業が盛んであります。また観光で江戸時代（お伊勢参り）から現在（F1日本グランプリや、鈴鹿8時間耐久レースなど）に至るまで、観光を産業として成り立たせてくる県です。わが玉城町はその中で伊勢神宮の鎮座とともに、神領となり、その中心でした。

町の位置は、伊勢平野の南部にあって、面積40・94平方キロメートル。本町の中心、田丸は、古来陸上交通の要地で、大和を結ぶ初瀬街道と熊野街道（世界遺産熊野古道出立の地）が合して伊勢に通じていました。江戸時代から、お伊勢参り（お蔭参り）の名で知



三重県 玉城町 たまきちょう

られる伊勢神宮を擁する地域として発展しました。また、太河ドラマ「江」でも紹介された、織田信雄（のぶかつ）（織田信長の二男）が、天正3年三重の天守閣を掲げて現在の城郭を築き上げましたが、天正8年炎上して焼失。元和5年（1619）以来明治維新まで紀州領となり、廃藩置県とともに明治9年三重県管轄となりました。その後、昭和30年（1955年）、1町3村が合併して、玉城町が誕生しました。

平成15年4月、近隣の5町村が任意合併協議会を設置し協議をしましたが、平成16年12月協議を終了し、当町は当面単独の道を選択し現在に至っています。

押し寄せる高齢化の波

玉城町は人口15,400人、そのうち65歳以上の高齢者は3,300人、高齢化という問題を抱えています。特に大きな問題は高齢者の交通手段です。平成8年、民間の路線バスが大幅縮小されたことを受け、町は翌年、病院や買い物へ行く高齢者のために「福祉バス」という無料の路線バスの運行を始めました。2台体制の29人乗りのマイ

クロバスは、いつも乗客は4、5人程度。「元気バス・ガラガラバス」と呼ばれていました。路線型のため点在する住宅地をカバーしきれなかつたので、サービスを向上させたいのですが、予算は余りかけられない。路線バスは、時刻表通りに決められた経路で、すべてのバス停を回ります。その為に乗客が居ないバス停も巡回し、乗合い効率が悪い運行となっていました。

オンラインマンドバスの採用

平成21年11月、路線型の「福祉バス」の欠点を改善して、高齢者の生活に合った新しいシステムのバスを登場させました。最大9人が乗れるワゴン車「元気バス」です。オンラインマンドバスとの新しいシステムで走ります。オーナーマンドとは注文を受けてサービスをするという意味です。

特徴は、

- ①予約制の乗り合いバス
- ②乗り合いによりタクシーより効率的
- ③乗客がいなければ移動せず、路線バスより効率的

④多数のバス停を設置できるため

バス停までの便がいい

▲元気バス車内の様子

オンラインマンドバスは、乗客が予約したバス停を最適な経路で巡回するので、無駄が無く、乗合効率が高い運行が可能になり、環境問題（CO₂の削減）にも貢献します。

また、時間帯によつて予約がないときは走行しないなど、柔軟な運行も可能です。



▶オンラインマンドバス「元気バス」



乗客は、予約をすることが特徴です。バスには、乗車時間、乗車場所、目的地が違う乗客が乗り合わせます。この乗客のそれぞれの希望に合わせて運行するのがオンラインマンドバスです。バスの運行管理をしているのは玉城町社会福祉協議会です。ここに予約が入ります。

乗客は「元気バス・予約デスク」のオペレーターに電話します。電話を受けたオペレーターは予約内容をパソコンに入力、するとバスの運転手の端末に連絡が入ります。この指示に従つてバ

スを運行します。

乗客の希望に合わせるので、自宅や目的地の近くで乗り降りができます。これが、高齢者の交通手段として導入した大きな理由です。

ところが、当初「オーダーメンド」方式の採用には消極的でした。その理由は、運行管理が大変難しかったことでした。オンドマンドバスは、乗客一人一人の希望を効率的にスケジューリングしなければなりません。さらに、予約が追加されればそのたびに予定ルートがどんどん変わります。オペレーターが予約を受け、オペレーターが経路を作り、そして配車する。オペレーターに土地勘や高度な経路形成能力が必要となります。バス停を増やすほど経路が増えます。そのため、どうしても時間遅れのトラブルになりやすかったのです。

東京大学大学院との出会い

こんな時、玉城町に転機が訪れました。

東京大学大学院新領域創成科学研究科 オンデマンド交通研究チームがコンピュータを使った、今までにない運行管理システムを開発していました。

がわかつたのです。

人の頭で考えていた作業をほとんど「コンピュータが肩代わりしてくれる」のです。

バスの予約電話を受けたオペレー

タは、利用者の乗りたい場所、目的地、時間を選ぶだけ。するとコンピュータがインターネットを通じて、東京にあるオンドマンド交通サーバーにアクセスして、瞬時にバスのスケジュールを計算して無理なく運行できる乗車時間の候補を表示します。乗客はこの中から自分に合ったものを選びます。

東京大学大学院との出会いがこのあと展開する「ICT (Information and Communication Technology)」、情報通信技術を使って地域の「ハブ」ケーションを作るなどにつながつたのです。

元気バスの推移と効果

平成21年11月、路線型の「福祉バス」と併行して運行を開始したオンドマンドバス「元気バス」は、当初、月に100人程度の利用でしたが、月を追いつづけて利用者が増えてきて平成22年8月には3ルートあった「福祉バス」

の1ルートを「オーダーメンド」方式に切り替へ、

平成23年1月からは「元気バス」3台体制によるフル「オーダーメンド」方式に完全移行しました。現在、月2、400人の方が利用されています。

「元気バス」は、高齢者の外出する

きっかけを作りたい。その願いから始めました。「元気バス」のバス停は147カ所、町内の68ある

自治区をすべてカバーします。「福祉バス」のときはバス停が53カ所でしたから、約3倍に増えた

ことになります。これは、バスを小型化したことにより城下町の道幅の狭い道をスマートに走れるよ

うになつたためです。

バス停の数が増えたことで、自宅や目的地の近くで乗り降りができるようになります。

町が開催している介護

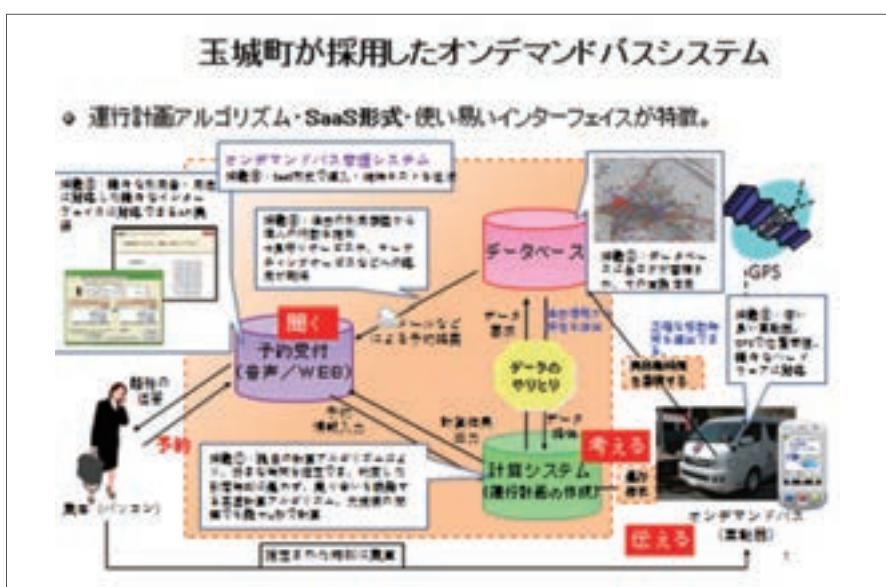
予防教室の参加も大幅に増えました。また、温泉施設に通う高齢者も増加するなど「元気バス」は、少しづつ町に変化をもたらせています。

玉城町の国民健康保険の一人当たりの医療費は県下29市町中21位とあまり高くなっていますが、15年間で外

れが1・1倍の伸びに対し、入院が1・6倍に急増しています。

重症になるまで病院に行かないのではありますか。日々医療費が伸び続ける

玉城町の国民健康保険の一人当たりの医療費は県下29市町中21位とあまり高くなっていますが、15年間で外



ところの現実から、出かける機会と出かけやすさを求めて、「元気バス」はその対策としても期待しています。

安心・元気な町づくり事業 ICTを利活用した

平成22年3月、総務省の情報通信技術地域人材育成・活用事業交付金事業（通称・「ICTふるさと元気事業」）に応募し、「ICTを利活用した安心・元気な町づくり事業」として採択されました。この事業は、「外出支援サービス」、「安全見守りサービス」、「安全情報配信サービス」の3つのICTを活用したサービスを連携させた複合サービスを提供することにより、持続可能な地域の福祉・防犯・防災といつた公共サービスの充実を図ることを目的とした。

①外出支援サービス

「元気バス」利用者は、オペレータへの電話予約だけに留まらず、自宅のパソコン、従来型の携帯電話からインターネットを経由してセンターサーバーに接続し、希望の時間や移動の場所を指定して予約を行った上でサービスの



▲外出支援サービス

②安全見守りサービス

「安全見守りサービス」とは、高齢者・障害者の福祉・防犯の観点から、



▲安全見守りサービス(緊急通報)

提供を受けます。加えて今回の事業では、高齢者にとって扱いやすいICT機器（スマートフォンやスーパー、銀行、病院、公共施設など43カ所に設置した、おサイフ携帯などFeliCa）に対応のカードで一発予約ができる設置

a対応のカードで一発予約ができる設置型バス予約端末）を新たに開発し、外出先でも高齢者が気軽にバスの予約を行えるようにしました。

③安全情報配信サービス

「安全情報配信サービス」とは、地域全体の防災・防犯の観点から、地域が人を発見した場合などの緊急時に遭遇到した場合に、簡単な操作で自身の位置情報をセンターサーバーに送信します。すると受け取った情報はリアルタイムに社会福祉協議会のオペレータに通知されると同時に、地域内に存在する設置型バス予約端末にも通報され、社会福

祉協議会職員や近くにいる方が駆けつけれるという仕組みです。



▲安全見守りサービス(安否確認)

町、もしくは社会福祉協議会職員によって、オペレータ用のICT端末から台風・地震などの自然災害の情報、不審者目撃情報がスマートフォンや設置型バス予約端末に送信されます。

「安全見守りサービス」とは、高齢者・障害者の福祉・防犯の観点から、

▲安全情報配信サービス

自由に使える仕組みになります。

従来型の携帯電話でも一回だけ一日バスカードを入力していただいくと、次回からはこれを省略して「元気バス」を予約できる「簡単ログイン」機能を追加しました。この携帯電話にGPS（位置情報）機能やFeliCa（おでこぶケータイ）機能がついていれば、町内43カ所に設置したタッチパネル方式の設置型バス予約端末（スーパー銀行、郵便局、ホームセンター、病院、医院、老人福祉施設、公共機関など）で、携帯電話をかざすだけで簡単にバスを予約することができます。



今回の事業で採用したスマートフォンは、グーグル社が開発したOIS（オペレーティングシステム）Androidを搭載した端末が利用できます。したがって国内大手のキャリアはこの端末を発売してしまったので、携帯通信会社をじつでも選べるというメリットがあります。地図情報は無料のグーグルマップを利用します。また、「元気バス」や「緊急通報」のアプリケーションは、グーグルマーケットからダウンロードやバージョンアップができるように開発しましたので、世界中で

スマートフォンは現在40名ほどの高齢者に利用していただいているほか、

まだまだ、使い慣れない理由で敬遠されがちですが、様々なサービスを展開することによる利用者を増やしていくことを考えておきたいと考えておきたい

孤独にさせない。そんな仕組みを考えています。

このように、同一のLTE機器・基盤を活用した複合サービスを開拓するにあたり、わざと外出する機会を増やすことで、高齢者の方の社会参加の機会を増大させ、健康増進による医療費軽減の効果も期待するものです。

高齢者の運転に起因する交通事故の割合が増加しているという現実の中、車を運転する「よのいび」から「元気バス」に乗つて出かけた「たのしみ」へ変えてこあた。

車は移動手段であつて「よのいび」にしてはいけない。「生きがい」を失うと認知症になる可能性があります。「元気バス」で「出かけさせる」という外出支援サービスを開拓しながら、LTEを利用することで高齢者が「生活している・生きている」とこのシグナルが生活弱者を地域で見守る体制づくりを構築したい。

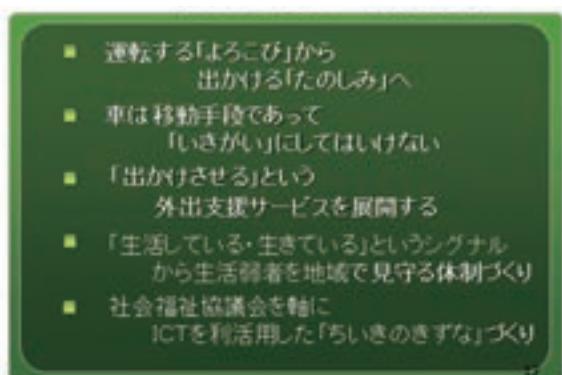
「高齢者の方を一人にしない」という町の願いを込めて、今後も「LTEを利用した安心・元気な町づくり」を開拓してこきたいと考えておきたい

また、地域全体で高齢者を見守り、さらに防災・防犯情報の共有を図つておきたいと考えておきたい

きました」と考えておきたい

▲基本理念 明るく・元気で・長生きを

住民が安心して元気に暮りすことができる町へ



▲基本理念 明るく・元気で・長生きを

消えゆく文化を保存活用し、 地域の魅力に

—町の「地域遺産」を未来へ—



▲愛荘町イメージキャラクター あしょうさん



▲金剛輪寺本堂(国宝)



滋賀県 愛荘町 あいしょうちょう

▲氏子集落からの9基の曳山で盛り上がる堅井之大宮大祭

お宝自慢が親近感生む
～むらじまん標示板～

平成18年2月に、隣接する秦荘町
と愛知川町の2町が合併し誕生した愛

愛荘町は滋賀県の中央部、琵琶湖の東側に位置する緑豊かな田園都市空間です。鈴鹿の山麓から広がる洪積丘陵と扇状地からなり、南には一級河川愛知川、中央部には宇曽川が流れ、水田が町域の約4割を占めています。古くから水との関係が深く、現在でも豊富な地下水を求めて、飲料水メーカーや食品会社、さらには染織工場など、多数の企業が進出しています。

また、愛荘町には国宝本堂「大悲閣」など豊かな寺宝を有する湖東三山の古刹金剛輪寺、近世中山道愛知川宿の面影を残す町並みなど、古くからの歴史と文化を伝える文化遺産が多数あります。

水と歴史の愛荘町



莊町は、合併後でも人口約2万人と、決して大きな町ではありません。しかしながら、旧町域が異なると互いの地域の様子が分かりにくく、数年を経ても馴染みがない地域のことは知る機会もなく、町の一体性を損なつてしまつた感じられました。そこで町では、地域に生きる人々の息遣いを知れば町民の一体感が進むのではないかと考え、来訪者の利便性アップと地域アイデンティティの醸成を狙つて、町内58自治会に伝承・保存されてきたお宝を「むらじまん」と題し、自治会名とともに標示した221枚の看板を作成しました。看板は主に集落（自治会）の入り口となる道路わきに設置しており、「むらじまん」の内容はそれぞれの自治会に提供いただきました。

事業費約700万円の財源には、滋賀県湖東圏域で取り組む定住自立圏推進協議会からの交付金を充てています。設置後は驚くほどの反応があり、「知らなかつた集落の場所が分かつ



中山道に沿つた
愛知川商店街にある、
三店舗の菓子店、小
松屋老舗、しろ平老
舗およびさかえ屋に
は干菓子などに使用



中山道の面影残す愛知川商店街 ～和菓子の菓子型～



た」、「自慢の内容が面白い」、「個性的な写真を見て親近感がわいた」など、その内容も様々。この標示板は、地元の住人が懐かしむだけでなく、町を訪れる人や地元の子どもたちにも埋もれた宝を「発見」して楽しんでいただけ効果も期待しています。

知る機会がなかつた地域に触れることで、町が一体になれば大変うれしく思います。



する大量の菓子型を所有しており、明治30年から平成の初めにかけて蓄積されたものです。明治から大正、昭和さらに平成とおおよその編年が可能であり、各時代の地域的な要求の中でどのような干菓子が作られてきたかがわかります。当時の地域性が強く表れた貴重な地域文化資源です。

消えゆく手しじとの復興と継承 ～びん細工手まり～

この地域は、古代先進的な土木・灌漑技術をもつた朝鮮半島からの渡来人「依智秦氏」によって開発されたところです。秦氏がもたらしたといわれ

る蚕・繭糸・紡績の技術や、良質な水のある自然環境、中山道の宿場町、近江商人の活躍などいくつもの要素が作用しあって、太鼓、酒、和菓子づくり、さらには近江上布や近江刺繡などのような干菓子が作られてきたかがわかります。当時の地域性が強く表れ

ることを生み出しました。

この手しじとのは、身近な暮らしのなかで受け継がれており、その代表がびん細工手まりです。びん細工手まりとは、フラスコ型のガラスびんの中に、びんの口より大きな手ま



りを封じこめた不思議な工芸品です。その起源は明らかではありませんが、丸くて中がよく見える（丸く仲良ぐ）ことから縁起物として進物にされることが多い、当町でも江戸末期に嫁入り道真として持参されたものが確認されています。昭和初期までは裁縫塾を中心全国各地に存在したと考えられるが、高度経済成長など変動のなか、多くの手しごとと同様にその姿を消しつつありました。当町では、明治期に裁縫塾でびん細工を習得し継承していた女性が逝去されたことから、昭和49年に教育委員会の呼びかけで貴重な技術継承のため保存会が結成されました。現在の制作工程は、伝承の方法に改良を加え、さうに保存会会員が工夫して発展させたものです。

旧愛知川町では、平成8年の町観光協会発足を機に、びん細工手まりを町のシンボルにしようと取り上げる動きがありました。技術向上と後継者育成のため、びん細工手まりの指導者養成講座を実施し、町の伝承工芸品としての確立を目指しました。平成11年には意匠登録もされ、観光イベントにあわせて京都駅や東京駅、韓国などでも展示や実演を行いました。

町が平成10年から行っているびん細工手まりの制作体験イベント「ふるさと体験塾」には、これまで全国各地

から300人以上の方に参加いただきました。一方、びん細工手まりの販売は近江鉄道愛知川駅構内の「愛知川駅コムニティハウス」でのみ行っており、結婚や新築祝いなど慶事の引き出物として順調に売上を伸ばしています。

結成時19人だった保存会の会員は、今では100人を超えており、子どもでまり教室を開催するなど、若い世代への技術継承が続けられています。平成23年には滋賀県伝統的工芸品に指定されました。

町民が気軽に憩つ空間 ～ゆうがくの郷～

平成12年12月に、びん細工手まりの常設展示施設である「びんてまりの館（やかた）」は、愛知川図書館とビオトープ公園とともに複合施設「ゆうがくの郷（敷地面積約3,300坪）」として開館しました。愛知川図書館は地域の情報庫として、図書や雑誌だけでなく、例えば、新聞の折り込み広告、古い写真、ホタルやお地蔵さんといったまちの風景を利用者から収集して発信する「まちのこしカード」など、地域に関するあらゆる情報を収集し発信しています。また、びんてまりの館と連携して、手しごとや芸術、地域の歴史



▶ゆうがくの郷(びんてまりの館)

三町合同企画展で新たなる縁をつむぐ～近江上布～

偶然のきっかけから、群馬県東吾妻町、徳島県藍住町そして本町、滋賀県の愛荘町とこれまで全く縁のなかった三町が、平成21年9月、東京で合同企画展「麻・藍・布」を開催しました。

群馬県東吾妻町は知る人ぞ知る日本一の麻である「岩島の麻」を産し、徳島県藍住町は阿波藍の故郷です。一方、愛荘町は伝統の近江上布の産地です。麻と藍は、日本人が古くから親しんできた布であり、天然染料です。江戸時代、日本四大麻布と言われたものに、薩摩上布、越後縮、奈良晒および高宮布があります。このうち、薩摩上布、越後縮なりびに奈良晒は同じ麻で

文化の発展のため、コンサートやワークショップなどさまざまな行事を開催しています。この幅広い活動が認められ、平成19年には、NPO法人知的資源イニシアティブ（IRI）が主催する「Library of the Year（ライブラリー オブ ザ イヤー）」を受賞しました。また、町内のもうひとつ図書館である秦荘図書館とともに、人口2万人以上3万人未満の自治体のかで、全国1位の貸出冊数を記録（21年度末調査）するなど、図書館は住民

の暮らしのなかに深く浸透しています。施設は、オープン当初からすべての人々が気軽に訪れ、知識や経験を共有していくことができます。この活動が認められ、平成19年には、NPO法人知的資源イニシアティブ（IRI）が主催する「Library of the Year（ライブラリー オブ ザ イヤー）」を受賞しました。また、町内のもひひとつの図書館である秦荘図書館とともに、人が読書文化推進に向けて図書館の活動がさらに注目されています。平成21年には、町議会で「愛荘町まちじゅう読書の宣言」が議決され、読書文化推進に向けて図書館の活動がさらに注目されています。平成21年には、町議



も苧麻（ちよま）布ですが、今日の近江上布のルーツといえる「高宮布」は麻（大麻）を素材としている非常に稀な布です。麻は苧麻に比べ荒く品質の劣るものと思われ一般的に野良着などに使われていましたが、高い技術力によって細微で光沢を持つ品格のある布に仕立てたものが「高宮布」であり、近江上布はこの歴史と伝統を発展させたものです。「高宮布」には縞柄等に藍染めが多用されていました。この麻と藍そして麻布を縁として、三町合同企画展を開催しました。東京での企画展では約1,500人余りの来館者があり、麻挽き（精錬作業）、苧績み（麻

できないメニューを用意し、大変好評を博しました。



平成22年は、この三町合同企画展

を徳島県藍住町で8月11日（水）から9月20日（月）にかけて開催しました。

阿波踊りの期間とも重なり、平成21年以上の反響がありました。さらに、平成23年度は本町、平成24年度は群馬県東吾妻町で開催しました。深い歴史的なつながりが背景にあったことは、妙な縁から地域文化資源に風吹を吹き込み、活性化できる機会を得たことは望外の喜びであり、この好機を今後とも大切にしていきたいと感じています。

希少建物に保存運動が起る ～旧愛知郡役所～

旧郡役所は、全国にも32棟程しか残つていません。特に滋賀県では唯一です。愛知郡役所は愛知郡内の町村を監督する役所として1922（大正

11）年に現在の地に建設された近代洋



▶滋賀県で唯一現存する旧愛知郡役所

風建築です。しかし、建設から4年後には郡役所制度が廃止され庁舎は郡教育会や県に移管。その後建物は郡農会に無償譲渡され、戦後にになって土地と共に農協の所有となり愛知郡産業会館と呼ばれた時期もありました。内部から発見された貴重な文書とともに、愛知郡の郡都であった証と、大正から昭和にかけての地域の人々の営みの歴史を示す重要な建物であり、歴史的、建築学的価値は十分といえます。

現在、旧愛知郡役所の建物は老朽化し活用されていませんが、愛知郡の象徴的な近代建築であり、まさしく誇れる地域文化資源といえます。最近になり、住民の中からこの建物の保存運動

が沸き起りました。現代的な再生によつて、文化、芸術、観光あるいは産業の振興に生かせれば、町の活性化に貢献できるものと考えられます。保存に向けての運動はまだ糸余曲折があると思いますが、多くの方々の理解を得て保存活用が図れるのことを願っています。

私たちが大切にして残していくたいものはこれだけはありません。もつと身近なものの中にも、愛荘町の魅力に気付かせるもの、あるいは魅力ある地域を築く財産となるものがあります。これから愛荘町のまちづくりを活性化させる可能性を秘めたこの地域遺産を「未来遺産」にすべく私たちも努力してまいります。

愛荘町 政策調整室

（現 総合政策課）



▶近江鉄道愛知川駅前のびん細工でまり型郵便ボスト

日本で最も海に近い生活のあるまち 「ふなやん」の故郷から

京都府伊根町は京都府北部の日本海側、丹後半島に位置する小さな町です。人口は2410人（平成22年国勢調査）、面積は62・00平方キロメートルで、南側は宮津市、西側には京丹後市と接しています。おもな産業は漁業と農業で、特に漁業は年間を通じて定置網漁を中心に行われています。町内は伊根（いね）、朝妻（あさづま）、本庄（ほんじょう）、筒川（つつかわ）の4地区から成り立っています。それぞれに大きな個性を持つこれらの特徴があります。

しかしながら、伊根町でも人口減少は深刻な課題となつてあり、昭和55年の国勢調査時には4021人いた人口と比較すると、半減に近い状況です。さうにその当時20%程度だった高齢化率は、平成22年では42・7%となり、京都府内でも一番高齢化が進んだ自治体となってしまいました。このため、将来の目標人口は減少に歯止めをかけ

たとしても2500人とうつ控えめな数字を出さざるを得ないのが実情です。

このため、本町では交流人口の増大を第5次伊根町総合計画の大きな目標のひとつとして掲げています。交流人口の考え方は、1人が1日伊根町に滞在した場合、単純に1人を365日で割って0・003人の効果があると考えられます。この計算をもとに、定住人口に換算して1500人に相当する活力を期待するには、年間50万人の交流人口が必要になります。現在の交流人口、つまり観光入込客数は年間25万人程度で推移しており、これを10年間かけて倍増させることを目標としているのです。

また、伊根地区においては、国の重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けている「伊根浦舟屋群」（いねうらふなやぐん）があります。これは、伊根湾に沿つて立ち並ぶ「舟屋」と呼ばれる建物のみならず、その背後にあ



京都府 伊根町 いねちょう

▲伊根湾遠景

▼伊根浦舟屋群(いねうらふなやぐん)



ジ」で、母屋とは別の建物です。昔使われていた木造の船は、使わなことには陸に揚げて乾燥させないと腐つてしまします。このため水辺から船を陸に揚げ、それを保護するために舟屋ができました。この船は漁船ですから、舟屋の中では網など漁師が使う道具類を格納する機能があるほか、網を手入れしたりするスペースなどが設けられています。つまり、舟屋は漁師の知恵がこもった建物と言えるでしょう。

このような由来があるので、舟屋は伊根湾に直接面しており、船が入る開口部には海水が入り込んでいくことがあります。つまり、海上から見ると、ある意味海の上に建っているような錯覚をおぼえます。ついで、年間の潮の干満の差は50cm程度と小さいために、このような海岸ぎりぎりに建てることが可能となっています。

その後、舟屋は改良が加えられ、2階を居住スペースとして使うものが多くなりました。とは言え、母屋は別にありますから、離れとしての機能が中心になります。食事や風呂などは母屋に行つて済ませるところが、今まで多く残っています。

「舟屋」とは
どんな建物なのか?

舟屋は簡単に言えば船の「ガレー

現在は漁船が大きくなり、格納で

▶伊根漁港の水揚げ



きなくなってしまったことと、材質が木材でなくなり腐食の心配もなくなりました。それから、大半は舟屋の外に係留されています。しかし、漁師が使う道具類の格納庫としての機能は今も残っていますほか、漁業をしていない舟屋では離れとして生活のための機能が中心になっています。

伊根町には以前から民宿が営業していましたが、近年は舟屋を改装した「舟屋民宿」の開業が相次いでいます。これは「農林漁業体験民宿」という形で

「ふなやん」は伊根町観光協会のマスコットキャラクターです。イラストは一般公募によって集まった438件の応募作の中から、伊根町の小中学生

「ふなやん」のパロディー!

◆お問い合わせは伊根町観光協会
(電話 0772-321-0277)
までお願いいたします。



▶売り切れ御免!伊根のブリしゃぶ

月22日・23日には滋賀県彦根市で開催された「ゆるキャラ（R）まつりin彦根」では参加349体中138位という結果となりました。

▼「ふなやん」正面



▼「ふなやん」背面



おわりに

参加、さらに「ゆるキャラ（R）グラソプロ2011」では参加349体中138位という結果となりました。そして、満を持して12月3日・4日に東京国際フォーラムにて開催された「町いち！村いち！2011」に

参加して首都圏デビューを飾り、「ゆるキャラ（R）グラソプロ2011」の第1位と最下位の両方までもが揃うという大舞台でよく奮闘してくれました。

舟屋の妖精である「ふなやん」には大きなメッセージが込められています。よく見ていただけます。このように、おなかの部分に船が入っていて、その下にさざ波が描かれていることがお分かりいただけます。そして裏側も実際の舟屋の形を忠実に表現しています。つまり、「ふなやん」は単なるマスコットではなく、自分の舟屋の構造を説明することができる、名実共に「広告塔」としての役割を担っています。

登場しているが、5月には地元テレビ番組にも出演して知名度を上げ、10

舟屋には漁師の知恵がたくさん詰まっています。そして、今なお、生活の場として機能しています。こうした生きた文化財を守り育むことが、伊根の魅力を保ち続けるために一番必要なことと言えるでしょう。そして、海に近い生活をしてくる住民もまた、伊根町内でとれるお米を食べていて、町内の農業とも深く関わっています。こういったつながりが、伊根町内全体の発展に波及していくことを願つてやみません。

伊根町への交通は意外に便利です。JRでは山陰本線・福知山線の福知山駅を目指してください。このから北近畿タンゴ鉄道（KT R）に乗り換え、宮津駅で下車してください。宮津へはJRの西舞鶴駅や豊岡駅からもKTRで来られます。その後、5系統「伊根・亀島」行き、7系統・8系統「蒲入（かまにゅう）」行き、9系統「経ヶ岬（きょうがみ



▲町いち！村いち！2011で、見事に首都圏デビュー！ 全力で踊るふなやん

（平成24年1月16日付第27-05号）

係長 能津 和雄

地域整備課観光推進室

さき」行きのバスに乗車して1時間ほどです。概ね1時間に1本運行しています。お車の場合は京都縦貫道と接続する宮津与謝道路の与謝天橋立インターから国道178号線で40分ほどであります。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

人口12千人の都市近郊型のまちづくり —何もないという贅沢—

てっぺんのまち

能勢町は、大阪府の最北端、いわゆる「てっぺん」に位置し、緩やかな北摂山系に囲まれた自然豊かで多くの文化遺産に恵まれた里山文化の息づいた

まちです。

この地域は、縄文時代にすでに人々が暮らし、「日本書紀」雄略天皇17年の条（5世紀頃）に「摂津国来狭々村」の古名で、文献に初めて登場し、古来より、日本海方面から瀬戸内海方面への街道筋にあたり、能勢街道・丹州街道など交通の要衝の地として早くから開けてきました。

町内各所には、歴史的な文化財が数多く残っており、中でも、「能勢の淨瑠璃」は江戸時代後期から約200年もの間、語り継がれています。

また、江戸時代に関西一の靈場として、多くの参拝者で賑わった「能勢妙見山」は、山頂から、摂丹連山、六甲の山々が一望でき、厄難・病苦を避け、開運を願つて今も多くの人が参拝に訪れております。



▶能勢妙見山

「日本の棚田百選」に選ばれた能勢長谷（ながたに）の棚田
オーナーになれば、農家の管理している棚田で、
田植えから稲刈りまで、年数回の農作業やイベントに参加できます。



大阪府 能勢町 のせちょう



観光物産センターは平成12年5月にオーブンしました。玄関でくり坊が皆さんをお出迎えしています。

平成21年度には来店者数28万人、総取扱金額522、

073千円、経常利益22、502千

田の規模となり、さらなる充実をめざしていきます。

おり、きれいな曲線美を見せています。

夏の緑や秋の黄金色と四季の彩りが

美しい、日本の原風景を彷彿させてく

れます。

樹齢1000年以上と推定される「野間の大けやき」は、野間神社の旧境内で神木として保護されていました。

みどりの百選、国の天然記念物にも指定されています。

てつぺんの拠点

積極的に「能勢」をPRし、農業の振興と地域の活性化をめざして作られ

た、道の駅「能勢（くりの郷）」。

観光情報の発信拠点でもある能勢町



▲観光物産センターでは「くり坊」がお出迎え

▼能勢菊炭(池田炭)



▲能勢栗「銀奇」

他にも、原料となる米の栽培から酒造りまで一貫して生産する蔵元のこだわりと、冬の厳しい寒さが作り出す深みのある純米酒のほか、能勢の農林産物を原材料に用いた加工品がたくさんあります。



え尽きた後に白い灰が残る風情、火付

き・火持ちのよわかり現在も茶席には欠かせない灰として珍重されています。

能勢の冬の味覚の代表格である「ぼたん鍋」は、里山の豊かな恵み育ち、

縮まった肉質・甘味、野趣に富んだ味

わいにひかれて毎年多くの方が「ぼたん鍋」田舎にてに訪れてこます。

造りまで一貫して生産する蔵元のこだわりと、冬の厳しい寒さが作り出す深

みのある純米酒のほか、能勢の農林産物を原材料に用いた加工品がたくさんあります。

情報・案内コーナーでは、伝統文化の「淨瑠璃」を定期的に上演しているなど、「観る・食べる・楽しむ」の三拍子揃った能勢の地域振興・情報発信の拠点になっています。



▲「顔の見える」モノだけを提供。新鮮で美味しいものを求めてくる人たちでにぎわう観光物産センター内

能勢町にお越しの際は、ぜひ、ご賞味ください。
また、物産センターでは、春のだけのこ、夏のトマト、秋の栗のほかにも、朝採りの「旬」の野菜や切り花などを販売しております、大勢の人で賑わいます。

併設しているリストランでは、能勢でとれた「旬」の食材をふんだんに使つたふるさと料理を味わうことができる。

農業のかたわら、土地固有の芸事として、農閑期に師匠からマンツーマンで稽古を受け、芸を身につけていくスタイルは、江戸時代から平成の今も変わらず受け継がれています。

現在も、200名を越える太夫が町内に存在しており、ここ能勢町がいかに淨瑠璃になじみ、親しんできたかを物語っています。

淨りシアターの開館をきっかけに、能勢町内の行事や施設案内、観光情報を提供する観光案内所があり、町内9ヶ所の観光コースを案内する「観光ボランティアガイド」の受付も行っています。

他にも、能勢町内の行事や施設案内、観光情報を提供する観光案内所があり、町内9ヶ所の観光コースを案内する「観光ボランティアガイド」の受付も行っています。

ひつぺんの文化

『能勢の淨瑠璃』は、『素淨瑠璃』と呼ばれる形態のもと、江戸時代後期文化年間から今日まで、2000年余に渡り伝え続けてきた、太夫（語り）と太棹三味線だけで物語が進行する活い座敷芸です。

農業のかたわら、土地固有の芸事として、農閑期に師匠からマンツーマンで稽古を受け、芸を身につけていくスタイルは、江戸時代から平成の今も変わらず受け継がれています。

2006年10月には、活動をより確かなものにするため、劇団として『能勢人形淨瑠璃「鹿角座」』を立ち上げ、そして現在、鹿角座は定期自主公演以外に、年間30件もの公演依頼を受け、「アマチュアのてつぺん（日本一）」をめざし、意欲的な活動を行っています。



▲庶民によって創られ伝え続けられた文化（能勢の淨瑠璃）は極めて特殊な地域芸能として、1993年に大阪府指定無形民俗文化財、また1999年には「淨瑠璃」という芸能が地域に伝播し伝承する過程で、全国的にも希少な伝承のあり方を生み出したものであり、芸能の過程を知る上で重要”のことから国の無形文化財の選択を受けた。

淨りシアターの開館をきっかけに、能勢町内の行事や施設案内、観光情報を提供する観光案内所があり、町内9ヶ所の観光コースを案内する「観光ボランティアガイド」の受付も行っています。

能勢町商工会青年部有志が中心となり立ち上げ、能勢の伝統芸能と伝統技術を融合させた活動も行っています。

また、「伝統文化の黒衣隊」とこの組織を能勢町商工会青年部有志が中心となり立ち上げ、能勢の伝統芸能と伝統技術を融合させた活動も行っています。

能勢オーディナルを重視した、現在の能勢の文化活動は、全国の中でも珍しいとされています。

しかし、現在行っている事を50年・100年と続けることができれば、目



▲能勢オリジナル演目「風神雷神」



▲能勢オリジナル演目「能勢三番叟」

新しさとされていゆるの活動も長い歴史の一 部分になり、常識となるものとの違いです。

古の能をそのまま守つ続けるだけではなく、現代に生きる能として新しい能の形を創り続けることができぬし、強く信念を持ち、舵取りをしていくべきだね。

スタートは、町の観光資源のひとつである淨瑠璃以外にはじだけの資源があるかを把握するところからでした。それらの大切な資源を「大阪のてっぺん能勢」として一人でも多くの人に「ああは知つてむりね」など、観光情報誌を発行することになりました。

しかし、発行までの道のりは想像以上に険しく、町を観光地として改めて見直したとき、観光地開発の難しさにぶつかったのです。

情報誌発行の会議では、「能勢には、お店の数が少なくて、何もなし」「看板も整備されていない」……などのマイナス面の言葉ばかりが行き交う状況でした。

まちの情報誌との差別化を図り、能勢の観光の核となることに気がついたのだけれど、

まちにひつねりとある神社。誰にもみつからないような場所に隠れ家のやつにあるカツハ。

町全体が宝探しのような町。つまりは「何かな」と思つてた町に、「いろんなものが」「あんなといひが」ところ、新しい発見と感動を与へるしがであるのではなく、ところの発想の転換に変わったのです。

今から2010年3月に、近畿圏を中心に「おおせかのてっぺん」というタイトルで情報誌が発売となりました。これがすぐに交流人口の増加に繋がったかどうかをすぐに把握することができませんが、情報化社会の現在では、インターネット上で「大阪のてっぺん」と「能勢」を紹介してくれるファンが増えてきていたことはあきらかであり、このロゴマークが大阪のてっぺん能勢を観光地として、そして地域活性化させていく最も効果的な方策の一つとなることを期待しています。

しかし、発行までの道のりは想像以上に険しく、町を観光地として改めて見直したとき、観光地開発の難しさにぶつかったのです。

情報誌発行の会議では、「能勢には、お店の数が少なくて、何もなし」「看板も整備されていない」……などのマイナス面の言葉ばかりが行き交う状況でした。

まちの情報誌との差別化を図り、能勢においては、住民の皆様とともにこのまちのあるべき姿・めずるべき姿を描き・描き、まちの特色を最大限活かす施策を戦略的に展開するなど、これまで以上に効率的・効果的な行政運営が求められてくることは申し上げるまでもありません。

能勢が持つ自然環境やそこから生まれる淨瑠璃などの文化、新鮮で安全安心な食を通じて、四季を感じることのできる癒しの空間を提供することができる

まちの果たすべき役割だと思います。

そして能勢の中には、まだまだたくさんの方々がまだたくさんの未利用資源があなと感じます。彼らの認識を住民の方々はもともと、観光客の皆さんとも共有しながら、今までも、これからも、高らかな自治意識を確に、里山とともに、「おおせかのてっぺん」が地域ブランドとして幅広く認識していただける、そういう持続可能なまちづくりをめざしていきたことを思つておきます。

「てっぺん」にはもうこの想いが込められてます。

てっぺんのこれかわ

(平成22年10月11日付第273回)

能勢町長 中 和博

「絆」を大切にした支えあい、 助けあうまちづくり

住民と行政の 「協働のまちづくり」を推進

兵庫県の南西部に位置する佐用町は、平成17年10月に佐用郡の旧佐用町、旧上月町、旧南光町、旧三日月町が合併し、総面積307・51平方km、人口21,012人（平成17年国勢調査）の町として誕生しました。

佐用町には世界一の施設が二つ存在します。その一つである播磨科学公園都市の大型放射光施設「SPRING-8」は、世界最高性能の放射光実験施設として、国内外の多くの科学者や研究者の注目を集め、ナノテクノロジーなどの最先端の研究が進められています。

また、平成24年3月から、同施設に併設するX線自由電子レーザー施設「SACLA」（さくら）の供用運転が

開始。世界に2つしかないこの施設で、原子や分子の動きを観察し、様々な分野での研究が進むことが期待されています。

もう一つは、県立西はりま天文台公園にある公開望遠鏡「なゆた望遠鏡」。口径が2メートルと一般の人ができる利用できる望遠鏡としては世界最大で、多くの天体ファンや研究者たちが集まる



▲地域の伝統芸能を守る南光子ども歌舞伎



▲年間150万人が訪れるひまわり畑



兵庫県 佐用町 さようちょう

ります。

そのほかにも佐用町には、たくさんの「宝物」があります。豊かな緑と清流、四季折々の自然の恵み、伝統ある多彩な歴史資源、また人と人とのふれあいなど、先人たちが守り、引き継ぎできた財産です。

これらを守り、育てるために、佐用町では住民と行政の「協働のまちづくり」を推進しています。

1. 住民が主人公のまちづくり
住民が主人公のまちづくり。これは、だれもが望む永遠のテーマです。これまで、このテーマに取り組んできましたが、実際には行政の責務として行つ必要があつた道路や上下水道などの生活基盤整備が急務でした。それら生活基盤が、ある程度整備が進んできた今、佐用町では、そのテーマに本格的な取り組みを始めました。それが「協働のまちづくり」です。

2. 「協働」を推進する新しさ

自治組織「地域づくり協議会」

住民の暮らしに、最も身近な自治組織として、自治会があります。自治会では、農業や環境美化、防犯、防災、またはお祭りなどの行事など、身近な



▶ 地域のコミュニティをはぐくむ「ふれあい喫茶」

事項を話し合ひ、その地の歴史や風土にあつた住民自治が行われています。

しかし、過疎化や少子高齢化が進みつつあるなか、今後、そのような自治会機能の維持が、とても困難になると懸念されています。

それらの将来的な不安材料を解決し、さらに住民相互、そして住民と行政の「協働」を推進する新しい住民自治組織として、平成18年3月の「地域づくり協議会」を設立しました。

この協議会は、面識社会と言われるおおむね小学校区単位で組織し、複数の自治会を包括し構成されています。そして低下が懸念される自治会機能を、地域全体で補い、支えあう体制を築き、地域の特性を生かした地域づくりを推進する必要があります。

地域課題への取り組みのなかで、地域の人たちが集い、話し合い、学習し、気づき、さうに実践を繰り返す。一連のプロセスを踏みながら、一步一步、着実に成長を遂げています。

1. 災害を検証し教訓を生かす

台風9号の豪雨は、人的被害をはじめ、広範囲におよぶ浸水や、家屋、河川、道路、農地、農業用水施設などの損壊、農作物、山林などに甚大な被

進しています。それら一つひとつ取り組みが「協働のまちづくり」につながっています。

ついで、地域の力をはぐくみ、新しい「協働のまちづくり」の大きな目標が「協働のまちづくり」を構築するといふことです。

これらの将来的な不安材料を解決し、さらに住民相互、そして住民と行政の「協働」を推進する新しい住民自治組織として、平成18年3月の「地域づくり協議会」を設立しました。

この協議会は、防災訓練を通じた安全で安心な地域づくりや、ワークショップなどによる地域資源の再発掘、「人が集まる」ことを目的とした交流事業など、ありゆる分野で集落間を越えた地域づくりが進められています。

われ、私たちに大きな衝撃と深い悲しみをもたらしました。

しかし、災害発生直後から、全国から駆けつけてくださったボランティアによる支援活動や多くのかたからお寄せいただいた支援金など、心温まる支援によって今日まで復旧・復興してきました。

佐用町では、このつらく悲しき経験を生かし、安全で安心な地域をつくるため、『絆からはじまるふるさとの復興』をスローガンに自助・共助・公助が連携した「災害に強いまちづくり」を進めていきます。

災害に強いまちをつくる 一絆からはじまるふるさとの復興

平成21年8月に発生した台風第9号による大水害。時間最大雨量89.0 mm、24時間最大雨量326.5 mmとい

害をもたらしました。

佐用町は、県や他市町などの応援を得ながら、全庁体制で応急対策に取り組みましたが、様々な課題も判明しました。そこで、台風9号の災害への町の対応を検証し、その結果を町地域防災計画（風水害等応急対策計画）に反映させるなど、今後の防災対策の充実強化を目指すため、町災害検証委員会を発足。30回を超える分析会議や現地調査などを経て、「町の防災体制、町の関係機関との連携に関する」と「災害情報の伝達、避難の実施に関する」「災害救援ボランティア活動の支援体制に関する」となど、あつゆる分野から9項目にのぼる提言がまとめられました。提言の中には、取り組みに一定の期間を必要とするものもありますが、直ちに改善できるものは早急に着手し、さらなる防災体制の強化を目指しています。

2. 集落単位で防災マップづくり

佐用町では、自治会を中心とした集落単位で、防災マップを作成し、自らの地域を自らが知り、地域の課題や特徴、災害への対応などを地域で認識し、共有する取り組みを進めています。この防災マップの作成にあたって

「災害情報の伝達、避難の実施に関する」と「災害救援ボランティア活動の支援体制に関する」となど、あつゆる分野から9項目にのぼる提言がまとめられました。提言の中には、取り組みに一定の期間を必要とするものもありますが、直ちに改善できるものは早急に着手し、さらなる防災体制の強化を目指しています。

3. 災害時要援護者を地域で避難支援

平成23年3月に発生した東日本大震災。その犠牲者や行方不明者の多くは高齢者でした。高齢者や障がい者な

ど、避難に支援が必要な災害時要援護者については、地域で避難支援体制を整えておくことが必要です。

平成23年4月に創設した災害時要援護者支援制度は、災害時要援護者に対する対応、ご近所のかたをはじめ、自治会、自主防災組織、民生委員・児童委員など地域で連携して要援護者を支援する仕組みです。

現在、各自治会での取り組みが行われており、事前に災害時要援護者に同意を得て、個々の避難支援計画である「個別計画」を作成。その情報を避難支援するかたや自治会などと共有し、日々の見守りや災害時に避難支援に役立てています。

4. 千種川水系の大規模河川改修

台風9号水害では、雨量、被害とともに過去最大を記録しました。兵庫県は、佐用町と連携し、平成22年11月から千種川水系の大規模河川改修に着手。総延長54・59kmで総事業費は459億円にのぼります。平成26年3月の完成を目指し、順調に工事が進められています。

5. 防災訓練で地域防災力を向上

河川改修や防災マップの作成などによって、必ず災害から身を守れるわけではありません。特に災害が大きくなると、初動期に行政の救助が期待できません。被害を最小限に抑えるためには、自分の身は自分で守るという意識で災害に対する備えを進めるとともに、自治会や自主防災組織が中心とな



▲地域で取り組むマップづくり



▲河川監視カメラの映像

やインターネットで確認できるようになりました。佐用チャンネルでは、豪雨によって河川増水が予想される場合、映像を放送を切り替えて河川カメラの通常の放送を切り替えて河川カメラの映像を放送し、町の防災情報として有効に活用されています。

台風9号水害で大きな痛手を受け

水害で浮き彫りになつた 「買い物弱者」問題に取り組む —暮らしを支える新たな絆



▲防災訓練で地域防災力を高める

佐用町ですが、その際、移動販売をされていた商店が閉店。町内の山間部に住み、移動手段を持たない多くの高齢者が、「買い物」とつい日常にすり困窮する状態となりました。水害が、佐用町が抱える生活課題を浮き彫りにさせたのです。

佐用町では、買い物に困る人たち、いわゆる「買い物弱者」問題への取り組みを開始。平成22年10月に山間地域と商店（街）を結び、「買い物弱者」支援と商店（街）の活性化を目指す「さくら商店会」を設立しました。この商店会は、町内での移動販売による社会実験を行つてきました。

こうした取り組みを通じ、町商工会が町の補助を受け、移動販売車購入の半額を助成する事業を実施。このほど事業者が決定し、平成24年1月から商工会が指定した地域で移動販売が始まりました。

町内の各地域では、様々な災害を想定し、消防署や消防団などと連携した防災訓練が行われています。訓練では、地域住民や要援護者が参加し、避難情報などの伝達や避難経路の確認などを通じて、地域全体の防災意識を高めています。



▶高齢者など「買い物弱者」の暮らしを支える移動販売車

おわりに

「買い物弱者」の問題は、私たちの暮らしに直結する課題です。この課題を解決していくためには、移動販売や商店（街）と地域がお互いに支えあい、共生していくことが必要です。そして、それは私たちの暮らしを支え、豊かにすることがあります。

これからも、先人たちから受け継いだ「人と人とのつながり」や温かい地域コミュニティ「絆」を大切にしながら、共に支え合ひ、助け合ひ」とことで、佐用町のまちづくりを進めていきたいと考えています。

総務課広報室 福本純也
(平成24年3月26日付第2794号)

平成17年10月に、佐用郡4町が合併して誕生した佐用町。合併前からそ

よつまち・むり西立プロジェクト協議会」を発足。これまで、視察研修や買い物環境に関するアンケート、研修会などを通じて「買い物弱者」と「商店（街）」の両者が共栄する仕組みを模索してきました。

2年前から復興に向け商工会や地域づくり協議会などで組織する『町防災に強い地域づくり推進協議会』が、国の補助を受け、町内で移動販売に関する社会実験を行つてきました。しかし、佐用町には、そんな逆境をばねにし、地域を愛し、自ら行動し、佐用町の復興に向けて、また地域の暮らしを守ろうと頑張る人たちがいます。

決策はなく、変わりませんでした。さうに年月は流れ、その状況は深刻化。いわゆる限界集落も散見はじめ、産業、地域経済など、何をどうても町の将来に「夢」を見ることが困難な状況になつてしました。

それが町で抱えていた少子高齢化・過疎化の問題は、合併後も決定的な解

決策はなく、変わりませんでした。さ

うに年月は流れ、その状況は深刻化。

いわゆる限界集落も散見はじめ、産

業、地域経済など、何をどうても町の

将来に「夢」を見ることが困難な状況

になつてしました。

そこに発生した平成21年8月の台風9号水害。その影響は、いまだに佐用町に大きく爪あとを残しています。

しかし、佐用町には、そんな逆境

をばねにし、地域を愛し、自ら行動し、佐用町の復興に向けて、また地域の暮らしを守ろうと頑張る人たちがいます。

「買い物弱者」問題の取り組みは、その一例に過ぎません。

これからも、先人たちから受け継いだ「人と人とのつながり」や温かい地域コミュニティ「絆」を大切にしな

がら、共に支え合ひ、助け合ひ」とことで、佐用町のまちづくりを進めていきたいと考えています。

人にやさしい 人がやさしい 元気な町をめざして

広陵町の沿革

広陵町は、奈良盆地の中西部にあり、

近畿圏の中核都市大阪へ直線で約30キロメートルの距離にあります。歴史と伝統に育まれ、水と緑が織りなす四季折々の自然美が色濃く残っています。町の総面積は、16.33km²、大阪のベッドタウンとして、時の日本住宅公団の開発により昭和58年頃から真美ヶ丘ニュータウンの入居が始まり、以後、人口増が続き現在3万4千200人で、奈良県で人口が一番多い町となっています。

「人にやさしい 人がやさしい 元

氣な町」として、町民の皆様と共にがんばっています。

歴史的にも口マン溢れる古墳の町でもあり、竹取物語でおなじみの「かぐや姫の誕生地」でもあります。産業

は、靴下の生産地として全国的にも知られています。更にオリンピックの金メダルが四個（柔道）ある町でもあります。

住みよい美しい環境づくり

全国都市緑化ならフェア

43万人が来町

平成22年9月18日から開催されました全国都市緑化ならフェアは、広陵町と隣の河合町にまたがる県立馬見丘陵公園をメイン会場として43万人の方が来場され、10月15日には秋篠宮同妃

殿下をお迎えして、全国植樹祭が行われました。会場は

もとより町内は町ぐるみで花を栽培してい

ただき、会場周辺を重点的に



広陵町長 平岡仁



奈良県 広陵町 こうりょうちょう

▲パークゴルフ場はふれあい、健康、世代間交流の場として活用されています。

花あふれる訪れに値するふるさとづくりを致しました。おもてなしに、町をあげて取り組んでいただき、来町された方に感動をして頂いたのです。

また、平成22年10月に曾我川沿いにパークゴルフ場をオープンいたしました。

設計はプロフェッショナルにお願いした特色コースです。

パークゴルフは、子どもから高齢者まで気軽に楽しめるスポーツで世代間交流の場として近隣市町村から、更



▶讃岐神社や馬見丘陵公園に隣接する竹取公園

に県外からも好評頂いています。ホールインワンすれば、3千円寄付できるシステムを採用し、氏名を顕彰しますので「達成したい」の思いで挑戦願つて頂けるのです。

組織が立ち上がり町が防災倉庫を設置し、防災資機材は町が50万円補助金を出して整備をいただいているのです。

安心・安全なまちづくり

人・地域・組織を強化

この度の東日本大震災による地震及び津波により亡くなられました方々に哀悼の意を表し、被災された皆様に心からお見舞い申し上げ、一刻も早い復興を願っています。広陵町もいか早く人・物の支援を町民の皆様に力添えいただいています。



▶防災倉庫
▶防災士養成講座 地域の強み、弱みを知るタウンウォッチングD-I-G

治会において自主防災組織を設立していただき整備率は65・9%となっています。

組織が立ち上がり町が防災倉庫を設置し、防災資機材は町が50万円補助金を出して整備をいただいているのです。平成23年度も100名の防

次に人づくりは、一人でも多くの防災士を養成しています。平成23年の

2月には町の単独事業として防災士の養成講座を開催し、住民の方や町職員も挑戦しました。町内には現在115人の防災士がいます。

職員を1／3に削減

広陵町の年間予算は120億円で、特別会計を含めると180億円規模の健全経営を維持しています。

新清掃施設（ごみRDF炭化施設）を4年前に操業し、多額の投資をしました。これを契機に行財政改革に積極的に取り組みました。「職員が少數精銳で頑張ろう」、住民サービスを低下させではなくなりじことを合言葉にスタートしました。

現在186名まで正職員を削減し、パーク時の1／3を削減しました。県下で最も少ない職員で役所経営をしているのです。基本的には定年や中途退職者の補充をしないことで実現できました。住民サービスは、シルバーパー

自らのそして家族、隣近所の人たちの命を守るために、資格を生かしていくのです。そして、地域を守つてくれる、しかもボランティア精神を発揮願うのです。現在意向調査をして組織を確立し、研修を常に積み重ねたいのです。平成23年度も100名の防災士を目指し、町職員も挑戦し指導しています。

常に行財政改革に挑戦



すでに27の自



▶原材料の綿も町内で栽培しています。

センターの活用、専門職員の支援スタッフ雇用、事務事業の民間委託など住民の方にも町行政に参画、知恵を出していただぐ、そして汗を流していただすこと、皆様といつしょに町づくり、郷土愛にもつながっていきます。また、年々経費が高騰する電算の基幹システムの共同化を検討しました。参加した近隣の2市6町の各首長が自ら音頭を取つて一ヶ月の削減を最大の目標に掲げ、自治体クラウド化を想定した簡素で効率的な共同アウトソーシングの構築に向けた取り組みを検討した結果、今後9年間で30%の削減が可能となりました。

活力あふれるまちづくり

かぐや姫のふるさと広陵町

全国に発信

広陵町では、戦後、靴下・織布・プラスチック産業が盛んとなり、全国

「今は昔、竹取の翁といつ者ありけり」といって出だしで始まる竹取物語(作者不詳)。平安時代にできた最古の物語として有名ですが、むしろ「かぐや姫」の愛称で親しまれ子どもから大人まで、この物語を知らない人はいないと言つてもいいでしょ。

実は、この物語のふるさとが、広陵町であったとされています。

物語には「名をば讃岐の造となむじひかる」とあります。つまり竹取の

でも有数の产地にまで成長しましたが、

時代が変わり商品の良し悪しよりも値段の安さが優先され、海外で製造された安価な靴下の輸入や流通、販売ルートの変革で生産量が減少傾向にあります。地場産品振興対策の一環として「良い靴下」を作る、肌にやさしい、しかも当地で原材料の綿を栽培し、ブランド化を支援しています。

広陵町の農業は、きびしげ環境です。地場産品のナス、イチゴなどブランド化を推進すると共に、後継者育成など数多くの課題に挑戦しています。

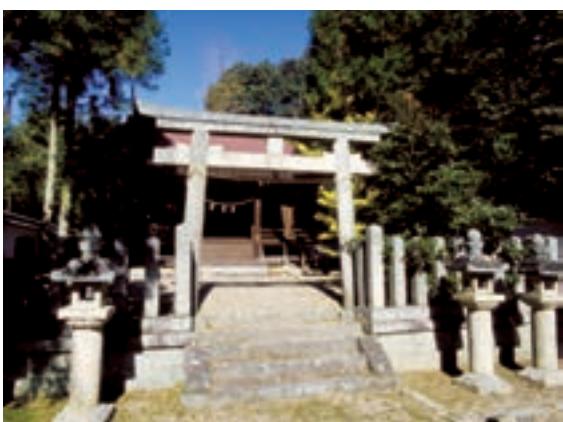
歴史とロマン溢れるまち

◀かぐや姫ゆかりの「讃岐神社」

社。今はかぐや姫を連想するよつな雅やかさを感じ取ることはできませんが、細く伸びた竹林が物語を偲ばせます。

古墳や十一面觀音像を代表とする文化財

町の西部には大和三大古墳群のひとつである馬見古墳群が築かれ、250基の古墳が築かれています。



翁の名が「さぬき」でそれが居住地に由来します。

広陵町には千年ほど前に作られた延喜式神命帳に大和の国広瀬郡讃岐郷に「讃岐神社」の名が記されてます。讃岐神社は、竹取の翁を祀つたとの伝承があります。

そのほか、かぐや姫に求婚した5人の貴公子の名が実在の人物であることや、帝が狩りを名目にかぐや姫のもとへ赴く際、翁の家が山麓であると記した文章もあり、物語の舞台が大和、それも広陵町の三吉である説が有力とされています。ひとつとたたずむ讃岐神



▶馬見古墳群中最大級の規模を誇る巣山古墳

ます。史跡整備に伴つ発掘調査で、前



◀帆立貝式古墳の三吉石塚古墳

方部西側から周濠へ張り出す出島遺構が発見され、水鳥、家、蓋、盾、圓柵等の形象埴輪が多数出土しました。周濠北東隅からは『古事記』に記された「喪船」（遺骸を載せる船）が出土しています。古墳群中最大級の規模を誇り、4世紀末～5世紀初に築かれた王墓とみられます。

【三吉石塚古墳】

陵墓参考地新木山

古墳の西に築かれた東向きの帆立貝式古墳で、墳丘全長45mで、周囲に馬蹄形の周濠が掘られ、墳丘と周濠には葺石がよく残り、5世紀後半の築造と考えられます。遺構を盛土で保存した上に築造当初の姿に復元する工法で整備されています。円筒、朝顔形埴輪は、出土遺物に基づき製作した複製品を設置し、築造当時の積み方で石を葺いて



▲牧野古墳の横穴式石室



▶十一面觀音像の像内から見つかった
与樂寺十一面觀音立像

(平成23年4月18日付第2757号)



▲百済寺三重塔

います。

【牧野古墳】

丘陵奥部にある直径約

50mの大型円墳で、墳丘は三段築成で造られ、一段目には全長17・1mを測る大型横穴式石室が開口しています。

玄室内には奥壁に沿つて横向きに家形石棺が置かれ、金環と各種の玉類、馬具は一組分出土しています。武器は銀装の太刀と400本近い鉄鎌があり、

石室入り口には総数58点の須恵器がありました。6世紀末葉の古墳で舒明天皇の父にあたる押坂彦人大兄皇子の成相墓とされています。

【百済寺三重塔】

「日本書紀」 舒明

天皇十一年（639）七月の条に「詔して曰く、今年大宮及び大寺を作らむ。」十一月の条「この月に、百済川の側に九重塔を建つ。」と記された九重塔の名残りとされています。塔は三



▲百済寺三重塔

間四方で、初層に廻縁を張り、二・三

層には高欄を付け、本瓦葺きで彩色を施しています。鎌倉時代中期に建てられたと考えられます。

【与樂寺十一面觀音立像】

与樂寺西

觀音として伝えられる十一面觀音像の像内から見つかった高さ31cmの仏像で、頂上の仏面から蓮華座までマユミの一枚で彫刻されています。宝冠が庇のよ



うに張り出す形は類例がなく、頭上面

が三面（上段1・下段2）を一単位と

して正面及び左右に配列されることが特異です。像の首飾り中央の大玉三個をつける表現は奈良時代の菩薩像に多用され、後頭部を深くとる側面觀から日本製とされていますが、洗練された目鼻立ちや肉感的表現は盛唐彫刻の感覚を濃厚に伝えています。

皆さん一度広陵町にお越しください。ご案内致します。
ありがとうございました。

広陵町長 平岡 仁

▼現代の桃源郷「森林文化休養地域」



豊かな自然と歴史と文化

かつらぎ町は和歌山県北東部に位置し、人口1万9065人（平成22年3月末）の行政規模となっています。また、平成17年10月1日に花園村と編

入合併を行い、総面積151・73km²、東西14・7km、南北29・3kmと南北に長い町域となっています。また、町内の主要産業は、豊かな自然環境が整っていることから農林業、特に果樹栽培が主となっています。

紀の川周辺の市街地から果樹園が広がる丘陵地帯へ、さらに緑濃い山間部へと、本町の自然は多様で変化に富んでおり、そこに住む人々の生活を支えてきました。そして、それぞれの地域の自然に根ざした固有の歴史と文化を築いてきました。

本町は、世界遺産をはじめとした数多くの文化財を保有しています。また、四季折々の祭事、伝承文化も、その景観とともに保存されており、歴史的にも貴重な存在です。各地域の若者たちは、この伝承文化を積極的に継承し、そこに新しい命を吹き込んで発展させ、町おこしに取り組んでいます。

緑に囲まれた潤いと 安らぎのふるさとづくり —一定住支援と住民が参画する協働のまちづくりの推進—



和歌山県 かつらぎ町

▲かつらぎ町の町並み

町では、こうした活動を支援するとともに、その保存と継承に努めています。『縁に囲まれた潤いと安らぎのふるむじづく』の理念のもと、これらの資源を町の宝として、都市との交流、人と人とのふれあい、自然との調和の実現を目指してこます。

世界遺産 「紀伊山地の霊場と参詣道」へ

平成16年7月に世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」であ



►「一つの鳥居から望む
「にほんの里100選」天野の里



400年の伝統 「串柿の里四郷」を訪ねて

丹生都比売神社のある紀伊山地から、本町の中央を流れる紀の川を挟んだ向かい側に連なる和泉山脈には、400年も昔から串柿の特産地として現在に引き継がれている串柿の里四郷社があり、高野山との関係は深く、空海の金剛峯寺地選定にまつわる伝説の中に、丹生都比売神社の祭神である土地を譲った丹生明神、道案内をした高野明神が登場します。事実、金剛峯寺の壇上伽藍でも、丹生・高野両明神が地主神として祀られています。壯麗

な朱塗りの楼門、きらびやかに装飾された本殿はいずれも国の重要文化財となつており、平成23年10月には、大正6年に焼失した中鳥居が再建され、より一層趣を増しました。

高野山町石道は、密教の仏尊を示す梵字と高野山に至る残りの町数が刻まれた町石が一町ごとに立ち並んでおり、信仰の道として多くの人が歩いています。また、町石道沿いにある丹生都比売神社への入口の一つである「ツバキ鳥居」からは、のどかな田園風景を今に残す天野の里を望むことができます。

毎年11月に開催される串柿まつりでは、串柿生産量日本一である存在感をアピールし、郷土芸能である「四郷千両太鼓」も披露され、その伝統を後世に引き継いでこます。



►400年の伝統「四郷串柿の里四郷」

▲胸に鳴り響く「四郷千両太鼓」



を超えるペースで人口が減少しています。特に、21歳から39歳までの子どもを産み育てる世代が減少し、出生児数が減少する大きな要因となっています。働く場が町内に少ないため、農林業以外の大半は町外に働きに出ている状況で、より便利なところを求めて転出していく傾向にあると報告されています。

このような状況により、本町の豊かな自然を守り育んでくれている農林業においては、農林産物の価格低迷や有害鳥獣の被害増加による収益性の低下、少子高齢化に伴う担い手の減少などにより、就業者が年々減少しています。就業者の減少により、耕作放棄地や荒廃した山林が増え地域活力が衰退する一因となっています。

人口減少と地域活力の衰退は、本町の将来に大きな影を落とすもので、重要な課題として解決に向かって対策を講じていかなくてはなりません。

人口減少と地域活力の衰退

また、町の活性化を図るため、平成19年に40歳以下の職員で構成する「次代のまちづくりプロジェクトチーム」を結成しました。そのプロジェクトチームから、町のPRやイメージアップを図るため、町のイメージキャラクターを作成したいと発案があり、平成20年に一般公募により町のイメージキャラクターが誕生しました。

また、町内企業や町内団体等がイメージキャラクターを使用する際の利便性向上及びイメージキャラクターを総合的に活用した地元の活性化に努めています。

季折々に豊富な果物が生産されていることから、特に農産物の販売促進に活用しており、各種イベント等では、着ぐるみを登場させることにより、集客効果を高めています。また、町内企業や町内団体等がイメージキャラクターを使用する際の利便性向上及びイメージキャラクターを総合的に活用した地域の活性化に努めています。

定住促進に向けて

人口減少に対し、若者の定住を促進するため、町では平成17年度より定住支援施策に取り組んでいます。平成17年度から平成21年度を第1期として取り組み、平成21年度に効果を省みて支援対象・支援期間を拡大し、平成22年度から平成26年度を第2期として取り組んでいます。取り組みとしては、主に若者を対象として、一定条件のもと賃貸住宅に入居したものに対して家賃を補助、3子以上の出産に対して奨励金を交付しています。平成17年から平成22年までの6年間の実績は、総申請世帯数115件、総世帯人口（定住



農林業振興とイメージキャラクター活用による地域活性化

本町の豊かな自然や農林業を守り育てていくためには、農林業所得の向上や安定化に取り組んでいく必要があります。その取り組みとして、友好提

ジキャラクターが誕生しました。

町のイメージキャラクターは、四

法の改正に伴い平成22年4月に過疎の町として指定されました。最近3年間では年間300人（人口の約1.5%）

人口) 320名、内転入等による人口増加197名となっています。

平成21年には、独立行政法人雇用・

能力開発機構より雇用促進住宅を購入・

し、定住促進住宅として再活用し、住居確保対策も行っています。

また、通勤圏の拡大を図るため、国道480号府県間トンネルや京奈和自動車道などの市町村との連携道路の早急な整備を国・県に対し強く働きかけています。

その他、田舎暮らしや移住に対しこで、県が主導する「田舎暮らし応援県わかやま推進会議」における市町村受け入れシステムを取り入れ、受入協議会及びワントップパーソンを設置し、受け入れに向けた相談や情報提供の窓口を設置しています。

住民が参画する 協働のまちづくり

まちづくりについで、様々なこと

に取り組んでいますが、町や地域が持続してあり続けるためには、住民が住み続けたい・住みたいと思う町であることが重要だと考えています。

平成16年の国と地方の三位一体の改革により、国庫補助金や地方交付税

の削減が行われ、町財政は非常に厳しい状態になり、まず役場の中の無駄をなくすことから取り組みを始めました。

成19年に行政の状況を説明し、住民の意見を聞くため行政懇談会を開催したところ、多くの厳しい意見を聽くこととなりました。

その様な中で、将来の町の活性化に向けた取り組みを求める意見を聞き、平成21年から自治区長をはじめとした住民の協力を得て住民が望んでいた地域の将来像や町の様々な活動について話し合いを開始する「住民が参画する協働のまちづくり」に取り組むことになりました。

その第一歩として、お互いに共通認識を持つこととして取り組む機会を作ることから取り組むため、平成21年度より行政と地域のパイプ役となる地区担当職員制度を導入し、全職員を町内会に配置しました。住民には一人ひとりがこれ

から5年後、10年後どのような生活を予定されているかを聞き、地域がどのような方向に進む傾向にあるのかを確認するため、住民要望や行政課題の解消に取り組む必要性から、平成19年に行政の状況を説明し、住民の意見を聞くため行政懇談会を開催したところ、多くの厳しい意見を聽くこととなりました。

その様な中で、将来の町の活性化に向けた取り組みを求める意見を聞き、平成21年から自治区長をはじめとした住民の協力を得て住民が望んでいた地域の将来像や町の様々な活動について話し合いを開始する「住民が参画する協働のまちづくり」に取り組むことになりました。

「住民が参画する協働のまちづくり」実現のためには、住民・行政双方とも意識改革が求められます。住民は行政運営に関心をもち、自らまちづくりに参加しようとする意識を、行政は協働のまちづくりを推進していくところの意識が必要となります。住民から信頼される行政でなければ協働の関係は生まれません。まず、職員が意識を変えて、住民と行政のより良い協働関係を築いていかなければなりません。

本町が「住み続けたい町」「住みたい町」になるよう住民が参画する協働のまちづくりを推進していきます。

かつらぎ町長 山本恵章

(平成23年1月17日付第2745号)



小さな村だから出来ることがある、 伝統技術・地場特産物・ICT・環境保全・教育の 5本柱で地域づくり

全国唯一の飛び地の村

和歌山県北山村は、紀伊半島の南東部に位置し、周囲を三重県と奈良県に囲まれた和歌山県のじこの市町村とも隣接をしていない全国で唯一の飛び地の村です。

面積は48平方キロで97%が森林となっています。豊富な森林資源に恵まれ、かつては木材と筏師の村として栄え、人口も2,000人近くを有していましたが、現在では人口約500人、高齢化率48%といつ典型的な過疎で少子高齢化の村となってしまいました。加えて、戦後復興の電力需要のため北山川にもダムが建設され、北山村は上流には七色ダム、下流には小森ダムと2つのダムに囲まれた村となり、住民の生活環境も大きな変革を余儀なくされできました。

今は、平成の大合併も飛び地という特殊な地理的条件から合併を断念し、単独の道を選択することで、村民一同が力を合わせて先人達が築いてきた北山村を守つて行こうと決意をしたところです。

過疎だ少子高齢化だと悩んでいても仕方がない、地域は自らが守る、自分で出来ることは自分でやる、これをモットーに、「これがこの地域に見合った適疎である、『小さな村だからこそ出来る』ことがある」と発想を変え、〔伝統技術を復活継承した観光筏下り」「地場特産物じやばり販売」「地の利の悪さを逆手にとったICT活用」「環境保全に配慮した地域資源の活用」「少子化と過疎対策になる教育の充実」〕の5本柱で地域の特性を活かし、小さな村だからこそ出来る施策を実施し積極的な地域造りに取り組んでいます。



▲北山川夏の風物詩“観光筏下り”



和歌山県 北山村 きたやまむら

筏下りの復活

(伝統技術の復活と継承)



▲おくる公園にある筏と筏師の像

優良な紀州杉の産地として栄えた北山村は、切り出された木材は筏に組んで北山川を流し、下流の木材集積地である新宮へと運んだ筏師の村として、600年の歴史を有しています。北山村の筏師の技術は高く評価されており、戦前では朝鮮半島の鶴綠江まで筏流しに出かけていました。

糸余曲折を経て昭和54年に北山村観光事業の田舎として復活以来、全国各地からのスリルを求めて多くのお客様が来るようになりました。

激流に観光客を乗せて昔ながらの筏で下るのは全国でも北山川だけです。毎年5月3日が観光筏下りの開航式となつており、5～6、9月は土日及び祝日のみ運航、7～8月は木曜日を除いて毎日運航をしています。

観光筏下り開航以来30余年を経過した現在では、北山川夏の風物詩として定着してきましたが、大きな課題は筏師の高齢化とともに後継者の確保です。平成10年に全国から後継者を募集し後継者養成事業に着手しました。現在では、筏師後継養成者11名が、夏は観光筏下りに、冬は林業等に従事し

しかし、戦後復興政策の中で電力エネルギーを確保する事から北山川にも多くのダムが建設され、基幹産業である林業の衰退と相俟って伝統ある筏流しも終焉を迎えることとなりました。このよき状況を憂いた先人達が地域活性化のために取り組んだのが600年の歴史を持つ筏流しの伝統技術を復活させ、後世に継承していく事業として、北山川に観光筏下りを復活させることでした。

糸余曲折を経て昭和54年に北山村観光事業の田舎として復活以来、全国各地からのスリルを求めて多くのお客様が来るようになりました。

激流に観光客を乗せて昔ながらの筏で下るのは全国でも北山川だけです。

毎年5月3日が観光筏下りの開航式となつており、5～6、9月は土日及び祝日のみ運航、7～8月は木曜日を除いて毎日運航をしています。

観光筏下り開航以来30余年を経過した現在では、北山川夏の風物詩として定着してきましたが、大きな課題は筏師の高齢化とともに後継者の確保です。平成10年に全国から後継者を募集し後継者養成事業に着手しました。現在では、筏師後継養成者11名が、夏は観光筏下りに、冬は林業等に従事し

しかし、戦後復興政策の中で電力エネルギーを確保する事から北山川にも多くのダムが建設され、基幹産業である林業の衰退と相俟って伝統ある筏流しも終焉を迎えることとなりました。

しかしながら、近年の林業の衰退等から冬場での仕事の確保が大きな課題となつてあり、後継者達には、伝統技術を継承しつつ、新しい分野の仕事にも携わってほしいことが求められています。

地域特産物じやばり

地域振興



▲小学生によるじゃばら収穫体験

ゆずでもない、すだちでもない、とんでもない柑橘類が北山村に自生していました。原種原木の「じやばり」と呼ばれる果実です。「じやばり」という言葉は、すだちでもない、とんでもない柑橘類が北山村に自生していました。原種原木の「じやばり」と呼ばれる果実です。「じやばり」という

う名の由来は、邪氣を払つからせんとり、北山村では正月料理に欠かすことのできない縁起物の果実でした。昭和47年「じやばり」は国内はもとより世界に類のない新品種であることが判明し、昭和52年に農産種苗法による品種登録を出願し、昭和54年に種苗名称登録許可を得たのです。

しかし、知名度の低さや販路の狭さは致命的で、販売事業もままならず事業廃止も検討されるような状況になりました。そこにインターネット時代の到来といつ、事態を急転させる救世主が現れました。平成の時代に入り一ト、一ト、といづの言葉が飛び交つようになりインターネット全盛の時代を迎えたのです。



▲じやばら果実と果汁

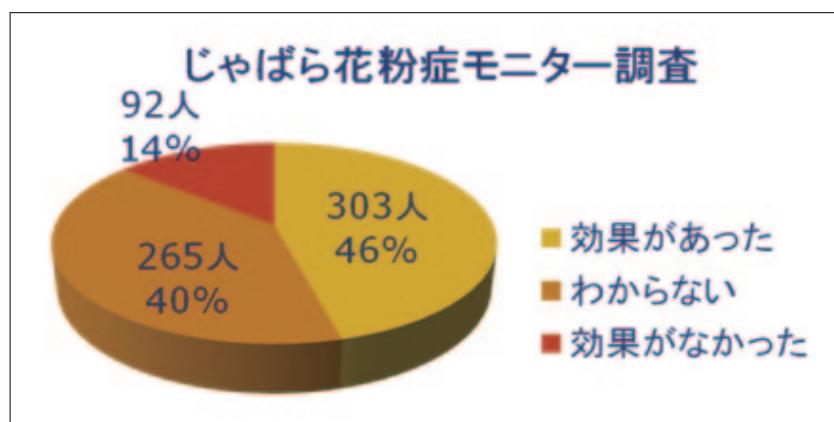
このような状況の中、北山村としても地の利の悪さを逆手に取り、最後のチャンスとしてじゅばら販売をインターネットに賭けてみようということになり、インターネット販売に取り組みはじめました。これが北山村の今後を左右するぐらいの大きな転機となりました。

地の利の悪さを逆手に ICTの活用

北山村として最初にICTの活用に取り組んだのが楽天市場への出店でした。大きなきっかけはお客さまの一言「じゅばらは花粉症に効く」ということでした。

直ちにインターネットを活用して1,000人モニター調査を実施しましたが、その結果は驚くべき結果でした。回答を頂いた人の約半数の方が花粉症に効果があったということでした。この結果をインターネットで公表するとすぐに大きな反響があり一躍じゅばらが脚光をあびることになりました。

これを契機として売上も順調に推移してきましたが、一々全盛の時代はより新しいツールが求められています。北山村としては、これまでに培つ



ブログ内の広告収入やシステム利用料等による運営として、村に財政負担のかからない仕組みとしています。現在の利用状況は、会員数約1万5千人、アクセス数1日当たり約30万PVとなっています。

村ぶらの輪も広がり、民間企業及び自治体で運用を頂いています。自治体では北海道の上士幌町とブログを通じての連携交流が始まっています。

この様なICTへの積極的な取組が認められ、平成19年10月には日本経済新聞社から地域情報化大賞MJ賞を受賞、平成22年には総務大臣から情報通信月間及び地域造りへの表彰を頂きました。自治体が運営するブログについては、種々の課題があるのも事実です。しかし、ICTは地域活性化にとって大きなツールの一つであることは間違ひありません。地域が如何にそれを活用するかにかかっていると感じています。

たいたインターネット通販のノウハウをつかず新たな戦略として平成19年春にブログポータルサイト（俗称村ぶら）の運営にのりだしました。

このブログポータルサイトは、自治体運営としては全国初となります。

運営の基本理念は、地域に密着したブ

ログとして地域情報を発信し、北山村の応援団を作り、地場畜産物の販売促進と地域活性化を図ることで、

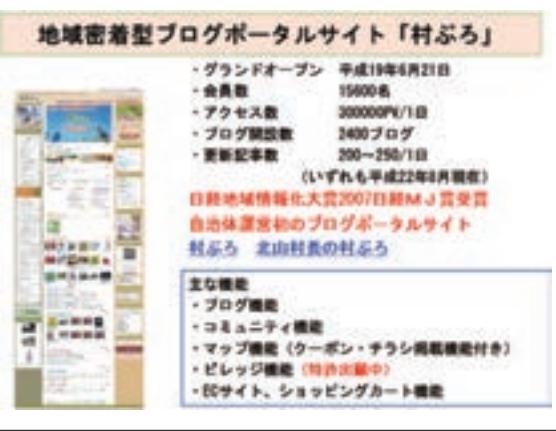
環境保全に配慮した 地域資源の有効活用

地球環境保全の動きは世界的に大きな動きとなっています。北山村においてもこの様な観点から観光施設の一

つである「おくどん温泉」のリニューアルにあわせて温泉供給方式を循環式から掛け流し方式に改めると同時に加熱方式をこれまでの化石燃料から間伐材等の地域資源を活用した木質バイオ

マスボイラー方式（新ボイラー）に変更し、CO₂の削減に取り組むこととしました。（平成23年5月3日から運用を開始しています。）

化石燃料から薪ボイラーに変更することによりボイラーマンagement等の人件費は若干増えることが考えられます。CO₂の削減や間伐材等地域資源の有効活用を考えれば今後は大いに活用されるシステムであると考えています。



▲おくどろ温泉に導入した木質バイオマスボイラー

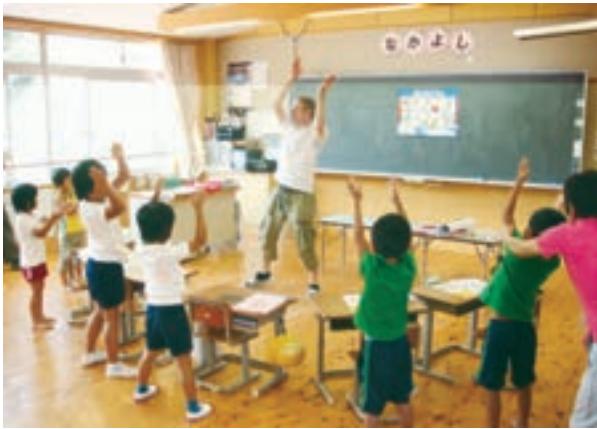


少子化・過疎化対策と 教育環境の充実

少子化対策と過疎化対策の課題は表裏一体であり、如何に地域から若者を始めとする人口の流出を止めるか、または流入をいかに図るかにかかっています。ただ、山間僻地の過疎地域では大きな企業の誘致等は不可能であり、就業機会の確保は容易ではありません。

しかし、あれもダメこれもダメと手をこまねいていても仕方がありません。北山村では、少しでも子供達の教育環境を良くし北山村で子育てをしたいとおもつ方が、1家族でも2家族でも増えれば、「出来る」ことは何でもやります。こうの思いで、教育環境の充実に取り組んであります。地域の将来を担う子供達を光り輝く宝物に仕上げていくのも行政の仕事であり、ひいては過疎対策と少子高齢化対策になつていくと考えておるといふのです。

力を感じておる「教育環境の充実」の大きな特徴として、①小規模校なり



▶保育園児も参加しての英語教育



▶語学学校での授業

ではの小中一貫教育への取組、②国際化に対応した英語教育の充実、③学力向上と社会教育の向上を目指した北山村塾の運営です。

特に、国際化に対応した英語教育には力を入れており、保育所からの英語教育、小学校での英語教育、中学校での海外語学研修を兼ねた修学旅行（平成22年度はアイルランド2週間）などに積極的に取り組んでいます。海外研修では、ホームステイして現地の語学学校への通学、現地学校との交流等が主なカリキュラムとなつています。（総費用の約90%を公費で負担）

おわりに

小さな村だからこそ、小規模だからこそ出来ることが沢山あります。例えば意志決定が早いのもその一つで、予算等費用面においてもそれなりのメリットはあると感じています。

勿論、それぞれに一長一短がありますが、大事なことは、色々なことを先々と心配しても仕方がない、これがベストと信じて前に進むことではないかと思っています。これをモットーに北山村は、これからも地域造りに積極的に取り組んで参ります。

（平成23年5月23日付第2760号）

北山村長 奥田 貢



▲中学生海外研修旅行(地元高校生との交流)

風車と名探偵コナンに会える町

人と自然が共生し、確かに豊かさを実感するまちづくり

本町は平成17年10月1日、旧北条町と旧大栄町が合併し誕生した町で、人口16,000人、面積57km²の農業を基盤としたコンパクトな町であります。鳥取県中央部に位置し、北は日本海に面し、南は靈峰大山山麓にあり、海と山に囲まれた風光明媚な所にあります。

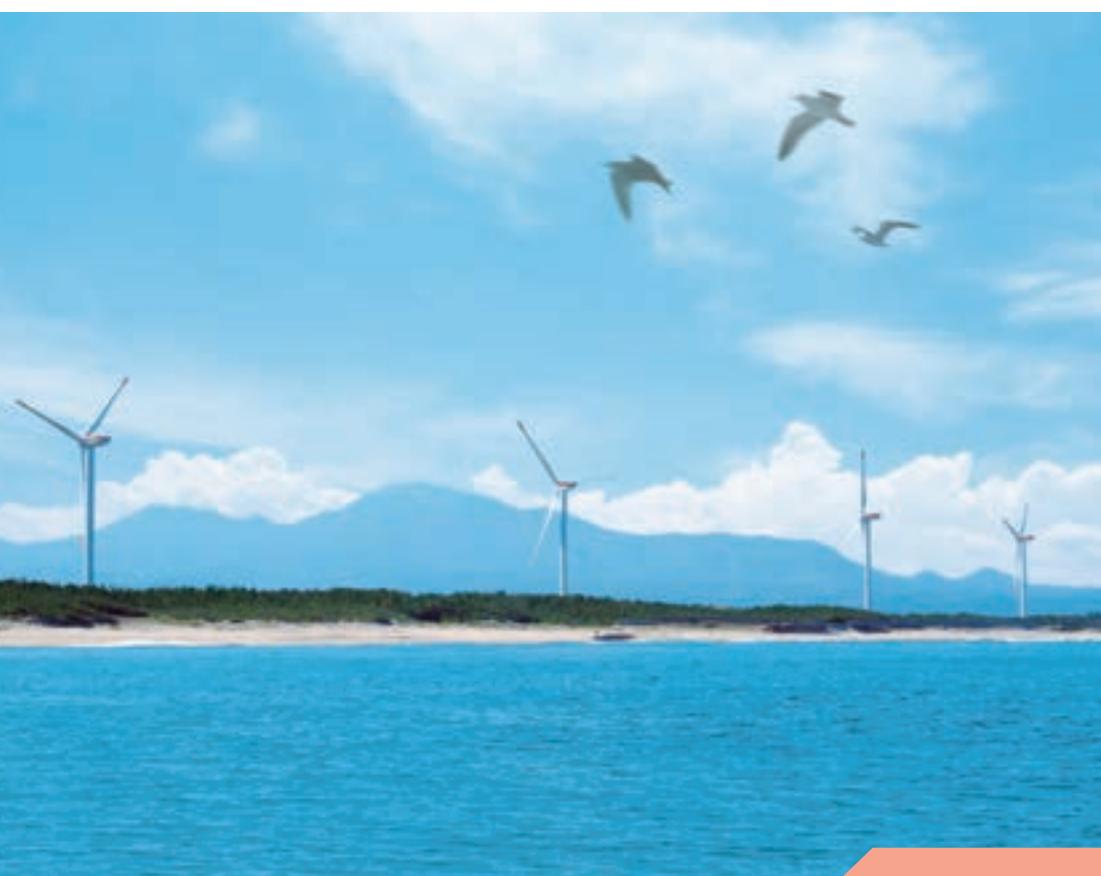
日本海に面した海岸線はすべて砂浜であり、その砂浜に沿つて防風・防砂の為の松林が東西に12・5kmにわたり、白と緑のコントラストが美しい白砂青松の風景が臨め、その南側に広がる砂丘地には戦後、全国でも一早く灌漑施設が整備され、砂丘ブドウ、葉タバコ、長芋、ラッキョウ、白ネギ等が栽培されており、スプリンクラーで散水する姿は、のどかな田園風景を醸しだしています。

また、平野部には水田が広がり大部分が区画整備され、大きな区画では

2haに及ぶものもあり、効率的でコストを抑えた水田農業が展開されております。集落営農の数も県下で一番多く結成されており、地域の結束力を強めております。

**販売額1億円を超える
14品目、認定農業者
県下第一の農業の盛んな町**

そして大山山麓に広がる丘陵地帯は、養分に恵まれた肥沃な黒っぽく地となつており、ブランデーとなつている大栄西瓜を始め、ほうれん草、ブロッコリー、花卉、中玉トマト等がハウス栽培されており、更には乳牛、肥育牛等、畜産事業もあり、県下でも有数の農業地帯であります。また、砂丘ブドウを原料とした「北条ワイン」は西日本で



鳥取県 北栄町 ほくえいちょう

▲日本海から望む風車と松林と大山

奨励賞を受賞し本場外国人にも好評を博しております。日本酒の醸造所もあり、地元の酒米を利用した清酒「つまいがな」や長芋を使った「長じわ焼酎」は大変親しまれています。



▲大栄西瓜初出荷式
マスコットキャラクター「夏味ちゃん」

ところで喜ばれております。またその時にマスコットキャラクターとして「夏味ちゃん」というねるキャラを作り、販売促進を始め多くのイベントで活躍をしております。

砂丘「び」でも平成21年に栽培100年を迎えた「北条砂丘」、「音頭」を生産者印が作詞・作曲・振付を考え、各イベントや販売先で披露すると共に「ホジヨピー」というマスクটুকু ক্যালকুলেটর এস্ট্রোপি প্রতিক্রিয়া করে দেখুন।

また、「ラッキョウ」でも平成22年11月、全国「ラッキョウサミット」を開催し、全国产地と交流を図ると共に更なる飛躍に向けて意図統一を図った所であります。そして長芋の新品种「ねばりっこ」は長芋より木目が細かく、ねばりが強い特徴を持っており、生食で販売すると共に、チップスとしての6次産業化を考えています。

しかし、その一方で、高齢化・耕作放棄地の増加、あるいはグローバル化の波等、問題は山積しており、担い手・後継者の育成、新規作物の導入等、強い農業、儲かる農業、そして持続・発展する農業を目指して真剣に考えているところです。

●大栄西瓜初出荷式
マスコットキャラクター「夏味ちゃん」

風力発電と工農活動

また、北栄町は地域の資源を活用し「風車と名探偵コナンに会える町」としてまちづくりを進めています。風

力発電への取り組みは田北条町が平成10年から地元、鳥取大学との共同による風況調査が最初がありました。日本海から吹く北風・西風は砂丘農業に多大な悪影響を与え、その防風・防砂対策として松林を植林して参りましたが、

この負の財産を風力発電へと活用したものであります。高さ20mから30mにして70mと、支柱を伸ばし3年間にわたり風況を調査し研究する中で、事業実施可能かどうか結果を得て取り組みました。松林と国道9号の間に1、500kW/hの風車を9基設置し、総事業費は28億円とつの事業であります。その当時の当初予算が約30億円です。その当時の補助金7億円があつたにしても大変な金額であります。風況調査の成果を裏付けに、住民説明会の開催や議会に説明をし、理解を得て、そしてまた土地の交渉や電力会社との売買交渉、1年にわたる渡り鳥の調査等を行い、平成17年に事業着手、11月に本格稼動し5年を経過し



た所であります。当初は皆さんに大変ご心配をいただき、停止してしまると「どうしてだ、故障か」等連絡がありましたが、現在まで順調に稼動し、計画通りに発電しております。今は皆さんは風車が回っているのが楽しみのようだ、風車が元気で回っている姿を見て、自分が元気をもらうとか、風車の羽根の方向で風の方向がわかつたりして喜んでいらっしゃいます。因みにこの風車により、約6,600戸の家庭に電力供給ができ、年間13,300tのCO₂の削減にもなっています。そして自治体直営では全国最大規模となっています。この風力発電事業をきっかけに本町は、環境にやさしくまちづくりに取り組んでいます。

園、学校でエコ活動に取り組んでおり
ます。



町民参加型のまちづくり

また、平成21年には、「風車から世界にとどけ エコの風」をテーマに第14回全国風サミットを開催し、これらの風力発電事業についての講演や、平井鳥取県知事にも出席していただきのパネルディスカッション、そして本町の取り組み、エコクラブの発表、町民有志によるスマートドライブ・チーニング等の発表を行い、盛会裡に終了いたしました。

本町では全てのイベント・大会等は町民参加型の実行委員会方式を取り入れており、町民と行政がコラボをしたものとなつており、この大会も多くの力を入れています。町ではあまりないと思いますが、環境に特化した環境政策課（現在は生活環境課）を設置し、色々な事業に取り組んでいます。太陽光発電設置事業、菜の花プロジェクト、北栄町版環境家計簿、全自治会に環境推進員の配置、BOPFの取組み、LED防犯灯の設置、地球温暖化対策実施計画の策定等、そして保育所の園児から中学校までの全ての子ども達が、子どもエコクラブに加入し、それぞれの



▲一村一品 最優秀賞受賞

町民のボランティアに支えられて実施したものがありました。この年には経済産業省による新エネ・省エネ100選に選定されました。

また、平成22年2月には、環境省主催のステップ温暖化「一村一品大作戦全国大会2010」において風力発電を始め数々の環境施策が認められ、見事、最優秀賞に選ばれ大いに喜んでいます。

同じく環境省主催による「環境・共生・参加まちづくり」も受賞し、一重、三重の喜びであり、町民と共にこの快挙を分かち合いました。県下でも、環境といえば北栄町といわれるくらい浸透していますが、更に住民周知をはかり全国一の環境の町を目指して頑張りました。

本町では青山剛昌氏の少年時代の作文、絵画から仕事場の再現、コナンのセル画やトリック等、素敵な品物が展示していますし、ここでしか買えないコナングッズの販売もあります。最近は国内外だけでなく台湾、韓国、中国等、海外おられます。旧北栄町時代からコナンや蘭ちゃんのブロンズ像の設置や、コナン通り、コナン大橋の整備、毎年7月第1日曜日に開催される「スイカ長いも健康マラソン大会」での参加賞のT



また、本町は「名探偵コナン」の作者である青山剛昌氏が本町出身である事から、コナンのまちづくりをしております。旧北栄町時代からコナンや蘭ちゃんのブロンズ像の設置や、コナン通り、コナン大橋の整備、毎年7月第1日曜日に開催される「スイカ長いも健康マラソン大会」での参加賞のT

季節毎にコナン館で色々なイベントを実施しています。また、明治大学の連

携で、学生達と「マンガ寺子屋」を開催し、マンガイラストの募集・表彰、青山剛昌と話す会等を開催しました。今後も引き続き取り組み、更なるPRを行い楽しい施設として多くの人が来館されるよう頑張っていきまます。平成23年はバイクのナンバープレートにナンバーフレームを入れるよとに考えていまし、住民票等はすでにコナン図入りのものを使用して喜んでおりまます。鳥取県にはNHK朝ドラの「ゲゲゲの女房」で有名になりました、妖怪の町、境港市に鬼太郎の水木しげるロードがあり、多くの観光客で賑わっています。まだまだその足元にも及びませんが、世界で唯一の施設・キャラ



▶「青山剛昌ふるやまと館」内部(一部)

クターとして、オンラインのまちづくりに向けて頑張っていきます。また、平成24年には鳥取県で世界マンガサミットが開催されます。まだ具体的な内容は検討中ですが、会場の一つとして本町が選定されるのは確実であります。県及び県中部の市町で構成する広域連合と共に楽しյプランをして、海外からのマンガ家やアニメファン、そして国内の多くの方に喜んでもらうだけではなくサミットにしたいと考えておまます。平成23年はそのプレ大会として色々な取組みを考えていましたので、来町していただかれたことを楽しみにしておまます。

本町は先に述べたように、農業を基幹産業とした町であり、「風車と名



▲すいか・ながいも健康マラソン大会



▶由良川イカダレース大会

4月には福祉事務所を開設し、住民と身近に接する事によりサービスの向上を図っています。そして、4,000人規模の「スイカ・長

探偵コナンに会える町」としてまちづくりを進めていますが、その他にも色々な施策に力を入れています。特に「子育てするなり北栄町」「教育するなり北栄町」をキーワードに幼保二元化による幼児教育の充実や、学力向上による教育力アップ等、これからの中未来を担う子どもたちの人材育成に取り組むようにしています。また、平成23年

4月には福祉事務所を開設し、住民と身近に接する事によりサービスの向上を図っています。そして、4,000人規模の「スイカ・長

探偵コナンに会える町」としてまちづくりを進めていますが、その他にも色々な施策に力を入れています。特に「子育てするなり北栄町」「教育するなり北栄町」をキーワードに幼保二元化による幼児教育の充実や、学力向上による教育力アップ等、これからの中未来を担う子どもたちの人材育成に取り組むようにしています。また、平成23年

中で平成19年には本町の最高規範となる「北栄町自治基本条例」を町民主体で策定し、町民との協働によるまちづくりを進めて参ります。また平成23年1月には、「人と自然が共生して、事業を実施して参りました。その像に、これも町民手作りによる今後10年の中の方向性を示す「北栄町まちづくりビジョン」を策定いたしました。今後は北栄町自治基本条例を基に、北栄町まちづくりビジョンに沿って住民と共にまちづくりを進めて、北栄町に住んで良かったと誇れる町に向かって更に邁進して参ります。

結びに

目指すは「飯南アーバンドーム」

いのち彩る里 飯南町

島根県飯南町は平成17年1月1日に旧頓原町と旧赤来町の2町が合併して誕生いたしました。

島根県と広島県との県境に位置する本町は、中国山地の中央部に位置し北西には大山隠岐国立公園三瓶山、東側には大万木山や琴引山の標高1,000m級の山々が連なり、面積の約9割を山林・原野が占める緑豊かな自然に囲まれた高原の町です。総人口5,523人2,127世帯（平成24年1月1日現在）で標高が約450mの本町は年間平均気温が12℃前後と県下でも有数の高冷地帯で、冬は寒さが厳しく豪雪地帯でも知られています。

まちの基本理念に『小さな田舎（まち）からの「生命地域」宣言』を掲げ、中国山地の自然の恵み、神戸川の源流、斐伊川・江の川へ注ぐ清流、里山に暮

らす人々の暮らしを生命地域と位置づけ、「豊かな自然を活かしたまち」「安心して暮らせるまち」「住民参画による育てるまち」を本町のまちづくりの将来像としています。

今飯南町が直面している危機

さて、飯南町は今、転機を迎えるところです。本町には南北に松江市と広島市を結ぶ国道54号線が縦断しており、山陰と山陽を結ぶ重要な役割を担ってきました。歴史的にみても石見銀山から銀の輸送が盛んに行われ、陰陽を結ぶ宿場町として栄えてきました。

しかし、平成24年度にはこの国道54号線に並行して本町の東側に中國横断自動車道尾道松江線が開通する予定です。県全体で見れば、広島方面からのアクセスがダイレクトになること期待する面もあるつかと思いますが、

本町としてはインターも無いことから、



島根県 飯南町 いいなんちょう

▲飯南町の冬景色

通過交通量激減により地域経済へ及ぼす影響が懸念され、これまで54号線の通過客や松江・出雲・広島方面のリピーター客によつて支えられてきた飯南町にとつては大きな危機感を抱かざるを得ない状況にあります。

これからは「通過していただい」と無くなる事で、「飯南町を目標して来てくれる方」を作り出していかなければなりません。

私は飯南町役場産業振興課の中で観光振興を主として担当してきました。

①飯南町を知つていただい

(情報発信)

②飯南町に来ていただい

(誘客)

③飯南町産品を買つていただい

(販路拡大)

大きくこの3点を目標に職務にあたつてきました。

飯南町と言えば・・・

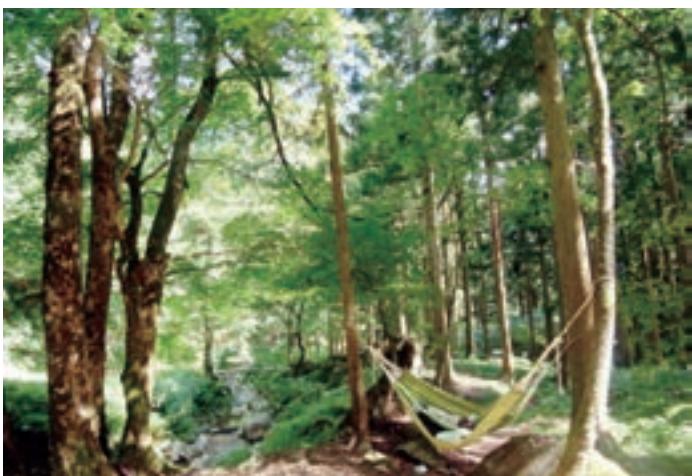
てどんな町なのが知つていただい必要があります。

ではイメージも定着しないと考えます。そこで本町では「一点突破」として観光では【森林セラピー】特産品では【やまと芋】を筆頭に掲げ、飯南町のイメージ作りを図ることにしました。

県下の良質米、高原野菜、奥出雲和牛、メロンやいちじくなどの果樹、そばに椎茸などなどこれをどうでも自信を持つて薦めるものですね。

しかしながら「飯南町と言えば」といった時に常にバラバラな回答してい

ました。そこで、森林セラピーは、森林セラピー基地に認定され島根県では唯一の基地です。森林セラピーは、森林浴の持つ癒し効果を医学的に解明し、科学的根拠に基づく健康増進メニュー



▲飯南町の特産やまと芋

により、心や身体に元気を取り戻すといつ取組です。四季を通じ様々な自然に触れ合ふことが出来ます。

そして、【やまと芋】は、やまのこも類の中でも最も粘りが強く、特に高原地域である本町で生産される芋は、昼夜の寒暖の差が激しく濃厚な旨味が特徴で、島根県内でも唯一の産地です。

一点突破の意味するところは、この2つだけを推進するところの意味ではありません。他地域には無いこの2つでまずは飯南町を知つていただいことで、その他の素材も必然と知つていただいところにならうと思つておき。

平成17年に合併して出来た新町「飯南町」。町の名前の変更はこれまで積み上げてきた町のイメージを一気にゼロにしてしまった事は合併の弊害とも言えるかもしません。まあほいの「飯南町」が何県のどこの町なのか、そして

▶ハンモックで森林浴

▶紅葉の森林セラピーロード

情報発信の取組

飯南町を知つていただけたといれまし。多くのイベントを開催、出店してもありました。近隣の大都市広島市を中心に、関西、関東と可能な限り、出かけてはPRに努めました。森林セラピーをP

Rするために、時には町からトランクで木や草花を運び込み屋内に森を作つてみたり、時にはハンドマッサージをしてみたりとありとあらゆるPRを試みました。「うちのイベントにも来てくれないか」と声を掛けられることが少なくななく、おかげで色々なイベントにお誘つていただきPRの場が増えてました。円の半分以上イベントで出かけることも多々あり、自分が役場職員であることを忘れる時すらあります。

やまと芋もそいつです。

全国的にはマイナーなやまと芋を地道にPRするに、芋のみならず飯南町の農産物の評価が高まり各地で産直市を開催あることができましたし、多くの販路も獲得できました。

その結果嬉しこと

して、積極的に出かけていって「飯南町ファン」が増え、飯南町応援団としてイベントのお手伝いや、ロコモでPRをしてくださる方が増えま



▲飯南の森フェアで、飯南町をアピール

◆島根フェアでは、やまと芋の粘りをPR



▲濃厚な旨みと粘りが特徴のやまと芋

やまとマニアになつて欲しいとの願いを込めて名づけ、飯南町の日々の暮らしや発見をブログに綴つたり、イベント情報観光情報を発信しています。他の業務をこなしながら常にブログなどを更新する点に苦慮していますが、アクセス数が向上するといふとそんな苦労も吹き飛びます。

また、同様に「せとやまにお商店」という飯南町の特産品がネットで買えるオンラインショップもあります。中でも一番人気なのは奥出雲和牛で全国各地から注文をいただけてあります。もちろん田舎のやまと芋も販売しておりますので一度ご覧いただければと思ひます。

このインターネットでの課題は、いかに「飯南町」「せとやまにお」という文言を打ち込んでいただき検索し

ていただきくかという点です。その情報発信の手法として

イベントでのPRのほかにメディアを活用してPRをしました。具体的にはテレビCMの作成、「ラジオでのPR



▲さとやまにあロゴ

です。CMを流すことで全国各地からのアクセスが増えました。

イベントでの口コミ情報発信、インターネットを活用した情報発信、メディアを活用した情報発信と複合的にPRすることで効率的に認知度の向上が図れたと思っております。

受け入れ体制は

並行して地元の受け入れ体制についても整えています。特に森林セラピーについては、現在4箇所のセラピーステーションがあります。いかに他



▲若手スタッフの熱いミーティング



▲森林セラピーステーションにある宿泊施設「もりのす」

のセラピーステーションとの差別化を図るのか、ただの山歩きと思われない工夫、セラピーを絡めた体験企画、地元食材を使った料理など現場若手職員と運営する民間企業の若手スタッフが日々喧々諤々とミーティングを重ねています。全国の森林セラピーステーションの中でも唯一宿泊施設があるのは飯南町です。そこを大きな強みとして今後も企画立案、そして最も重要なのがガイドの育成を進めていき、どの地域にも負けない森林セラピーステーションを構築します。

目指すは「飯南ブランデー」



▲地元食材を使った「もりのす」コース料理

飯南町役場産業振興課

主幹 奥野 憲孝

(平成24年1月30日付第2787号)

→「飯南町に住んでいただく」そんなストーリーを描き、そのための手段の一つとして、そういう町になれる、そういう町だと感じていただけ、そしてそんな町にある特産品や観光スポットに付加価値がつくところが目指す「飯南ブランデー」と思っています。

〈追伸〉

飯南ブランデーをPRするために生まれたキャラクター。以前は「ごくにゃん」ですが、どうかでお会いすることができれば仲良くなれたらうれしいですね、



▶飯南町のマスコットキャラクター
「にゃーにゃん」

↓「飯南町のファンになっていただけ」

目的は「定住」であり、「飯南町を知つていただき」→「飯南町に来ていただき」→「飯南町を感じていただき」

「A級グルメ」と「日本一の子育て村」の推進により 雇用の創出と定住人口、観光交流人口の増加を目指す

夢響きあう 元氣の郷

私たちの町「邑南町」は、平成16年10月1日に旧羽須美村、旧瑞穂町、旧石見町の2町1村が合併して誕生しました。

四季折々に彩りを見せる山々、清らかに流れる川、豊かな大地が育む産品、そして自然の恵みを受けながら脈々と受け継がれてきた風土や伝統文化が息づき、「誰もが心いやされる」魅力満載の邑南町です。

邑南町のまちづくりは、「和」のまちづくりを基本理念とし、「夢響きあう 元氣の郷づくり」の実現に向けて、住民総参加で取り組むこととしており、それぞれの地域の特性を生かし、人情味や風土を守りながら、この地に暮らす人々が誇りと生きがいを持ち、「住みたくなる、住んでよかったです、住

み続けたい」と思えるまちづくりを目指しています。

夢実現に向けた基本方針は、「協力」「協働」「協調」による、住民主体のまちづくりであり、平成19年4月には「まちづくり基本条例」を制定し、まちづくりに参加する権利や情報の共有化などを具体化することにより、町民と行政が協働して自立したまちづくりを進めることができます。

どこの町にあるの?・どんな町?

邑南町は、島根県中西部に位置し、西側は浜田市、北側は江津市・川本町・美郷町、南側は広島県安芸高田市・北広島町、東側は広島県三次市に囲まれ、中山間地に代表的な盆地の多い地形で、標高は100m～600mの地域です。また南西部には1,000m級の急峻な地形も分布しています。



島根県 邑南町 おおなんちょう

邑智郡の南部に位置していぬ」と、また「圓」は「ムラ」とも言ひ、人が寄り集う南の明るい地といふことから邑南町の命名となりました。町章は邑南町の漢字の「圓」をモチーフに、町づくりのテーマ「和」から輪がふれあい、大きな輪を創つていふことをイメージしています。最近では知名度アップのため「おおーなんと癒しの邑南町」と言つています。

合併時の人口は13,455人、5,251世帯でしたが、現在は11,985人、5,065世帯（平成23年8月1日）と減少しています。高齢化率は39・4%と高く、少子高齢化が進行しており、定住対策、少子化対策に取り組んでいるところです。

面積は419・22km²と県内町村では最も広く、内86%を山林が占めています。産業就業人口比率は、第1次産業25・1%、第2次産業21・5%、第3次産業53・0%となっていますが、水稻、畜産、野菜を中心とした農業の町です。

自然・文化・歴史を生かした地域づくり

自然豊かな本町には、ハンザケ（国



▲瑞穂ハンザケ自然館と飼育されているハンザケ

の天然記念物オオサンショウウオ）が多く生息し、調査結果では町民と同数の頭数がいるといわれています。また、夏にはゲンジボタルをはじめ数種のホタルが乱舞し、ホタル鑑賞ツアーも行なわれています。町の東部には約1千万年前は海だったことから動植物を始め貝などの化石が見られる高海地区があります。自然との共生をテーマとしたミユージアム「瑞穂ハンザケ自然館」にはハンザケが多数飼育されており、自然環境を学ぶ学習「ア施設として多くの来館者が訪れます。



▲伝統の舞「石見神楽」

島根県は神話の国です。邑南町には16社中の神楽団と3団体の子ども神楽団があり、神話を題材とした舞「八岐大蛇」などの石見神楽は広く愛され、伝統芸能として受け継がれています。

邑南町は、中世以降盛んに「たたら製鉄」の原料となる多量の砂鉄を探取するための「鉄穴流し」が行なわれ、鉄穴流して採取した砂鉄と豊富な木炭で「たたら製鉄」を行い、「出羽鋼」と呼ばれた良質な鉄が生産されました。映画「もののけ姫」は邑南町を含む中国山地一帯が舞台になつていると私は思っています。また、町の中心部は「於保知盆地」と呼ばれる盆地となつてあり、鉄穴流しで残された緑の丘



▲久喜・大林銀山の鉱山跡

そのほか邑南町には、断魚溪、千丈渓や滝などの自然スポットや、神社仏

所を超す間歩（坑道）や精錬所跡などが残されています。

【鉄穴残丘】や、島根県産の石州瓦の赤い屋根と白壁がよく調和し、「日本のスイス」とも呼ばれています。平成19年にユネスコの世界遺産として登録された島根県大田市の「石見銀山遺跡」は有名ですが、邑南町にも石見銀山に匹敵する「久喜・大林銀山遺跡」が存在します。鎌倉時代の1190年に発見されたと言われ、16世紀の戦国時代には石見銀山を含め銀山の争奪戦が繰り広げられました。江戸時代に入ると天領として栄えた久喜・大林銀山は、明治時代に入つて銀銅・鉛などを産出す鉱山として発展し、明治の終わりに廃坑となりました。久喜・大林銀山には、現在も400か所を超す間歩（坑道）や精錬所跡など

邑南町では、これまでも限られた財源を最大限に活用し様々な定住対策を行なってきました。生活環境では道路や上下水道の整備を行ない、普及率は

「日本一の子育て村」の推進で更なる定住対策
閣など様々な歴史建造物が存在します。邑南町には12館の公民館があり、それぞれに非常勤の館長、専任の公民館主事（町職員）と臨時職員を配置し、これまで紹介した様々な自然、文化、歴史などの資源を活用し、自治会などの地域コミュニティと協働しながら、地域を担う人材の育成と地域づくりを進めています。



▲邑智病院内のドクターへリポート

南町の総人口は、国勢調査結果では平成17年の12,944人から平成22年の11,966人と978人の減少となりており、0歳から18歳人口も平成17年の1,902人から平成22年の1,660人と242人減少しています。出生数は、近年75人前後で推移しており、婚姻件数は近年30件台、未婚率は

90%となっています。保健福祉分野では、公立邑智病院の充実や各種健診費用の助成、保育料の軽減など様々な子育て支援、情報通信では全町に光ケーブル網を整備し、高速インターネット・IP電話による無料通話体制や見守りネットサービス、雇用の場の確保としては企業誘致を進め、現在8社の誘致企業があります。また、ハーブを栽培、販売する香木の森公園での研修制度や農業研修制度も実施し、全国から研修生を受け入れ28人が定住しています。さらに無料職業相談所の開設や定住支援コーディネーターの配置により、就職や住宅相談、空き家提供機能も充実してまいりました。11校ある小中学校には全校に図書館司書を配置し、学習支援も行なってまいりました。



▲おおなんケーブルテレビ局



どの年層においても未婚の割合が増加しており、男性、女性ともに未婚化、晩婚化が増加しています。合わせて小中学校の児童、生徒数は年々減少傾向にあり、県立矢上高校の生徒数も町外からの生徒確保で何とか維持できている状況です。

こうした状況を踏まえ、平成23年度から思い切った支援を行なうこととしました。そのひとつが子育て家庭の誘致です。子育て世

界の年層においても未婚の割合が増加しており、男性、女性ともに未婚化、晩婚化が増加しています。合わせて小中学校の児童、生徒数は年々減少傾向にあり、県立矢上高校の生徒数も町外からの生徒確保で何とか維持できている状況です。

と思っています。「子育てするなら岡南町で」を合言葉に、「日本一の子育て村」をピーアールするステッカーを町長専用車を始め、全公用車に貼り、定住対策に取り組んでいたりとか。が生まれれば現在の人口を維持できる

代の経済的負担の軽減対策として、「第2子以降の保育料の全額無料化」や「中学校卒業までの医療費の無料化」を行なうこととしたしました。そのほか一般不妊治療費助成、子育て支援手当の充実、放課後児童クラブ費減免制度、医師・医療従事者奨学金制度、農林業後継者育成基金の創設などがありますが、これらは子育て支援策の一部です。

岡南町は前述したように米を中心と野菜や椎茸栽培、畜産などの農業が営まれている町です。近年は公共事業の減少や6次産業化のブームもあり、建設業者の農業など新分野への参入も盛んになつてまづりました。以前は米は農協へ、野菜は農協を通じて広島市場へ出荷されるのがほとんどでしたが、

産直市場が建設されると小規模生産農家などから農産物や加工品などが出品されるようになりました。



▲町長専用車に貼った「日本一の子育て村」ステッカー

と思っています。「子育てするなら岡南町で」を合言葉に、「日本一の子育て村」をピーアールするステッカーを町長専用車を始め、全公用車に貼り、定住対策に取り組んでいたりとか。

A級グルメで地域振興

岡南町は前述したように米を中心

に、インターネット通販サイト「みずほスタイル」を開設して販売を行なつたり、東京を中心とした専門家やメディアを招いての食のイベントを開催してPRに努め、岡南町の产品は一定の評価を受けることができました。

しかし、レストランやホテル、大手スーパーなどに商談を持ちかけても質の評価はあつたものの量が無いのが弱点でした。



▲地産地消レストラン「素材工房ajikura (味蔵)」



岡南町には、ハーブ米や高原野菜、未経産の雌牛200頭限定期の石見和牛肉、石見ポーク、自然放牧牛乳、キャビア、サクランボやブルーベリー、ピオーネなどの果樹、米粉パンやスイーツなどの特産品があります。また、独自の食品認定制度「A級・セレクション」を設置し「食」をキーワードにまちづくりを展開してきました。

町ではこれらの产品を売り出すために、インターネット通販サイト「みずほスタイル」を開設して販売を行なつたり、東京を中心とした専門家やメディアを招いての食のイベントを開催してPRに努め、岡南町の产品は一定の評価を受けることができました。しかし、レストランやホテル、大手スーパーなどに商談を持ちかけても質の評価はあつたものの量が無いのが弱点でした。

そこで発想の転換を図り、平成23年3月に「食」を切り口とした「農林商工等連携ビジョン」を策定して、地域振興を図ることとしました。近年、健康や食の安全性に対する消費者の関心の高まりがあるとともに、「B級グルメ」、「地元グルメ」など「食」を核とした観光・交流事業の盛り上がりが見られる中、岡南町では「食」を今後の地域活性化に向けた重点テーマと位置づけ、農林商工等の異業種が連携し、「生産」「加工」「調理」「交流」の各産業分野の更なる革新と、それらの産業群を有機的につなぐストーリーの

▶町内産品を活かしたコースメニュー

創出に取り組む」としました。

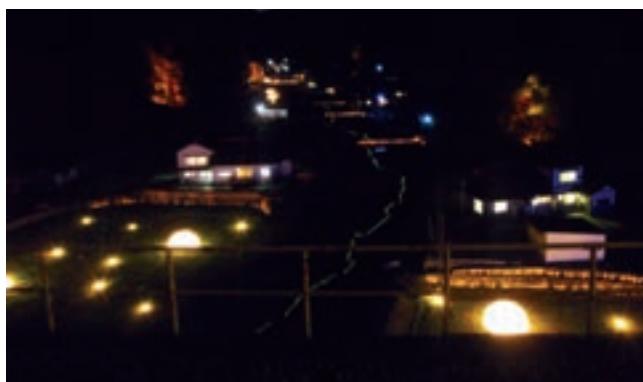
そして、邑南町で生産される良質な農林水産物を素材とする、「いかでしか味わえない食や体験」を「A級グルメ」と称し、①「食」関連産業の振興と雇用機会の拡大、②観光・交流人口の拡大と定住人口の増加、③農林水産物の付加価値の向上と販路拡大、④町民所得の向上を目指し、「A級グルメ立町」の実現」を図ることにしました。

平成23年から平成27年の5カ年で、①食と農に関する5名の起業家の輩出、②定住人口200名の確保、③観光入込み客100万人の実現を目指します。

● 食のラボニアトリーで「耕すシェフ」の養成

町観光協会では、温泉や公園のある香木の森公園の近くに、地産地消イタリアンレストランと加工場を併設した「素材工房 a-i-kura (味感)」をオープンさせました。これが「食のラボニアトリー（研究所）」であり、「A級グルメ立町」の推進役を担う実践施設です。レストランには東京から一ターンしたラボ主任研究員のシェフひとりのソムリエやパティシエを始めスタッフが食材の研究を進めながら

、キッチンで腕を振ります。



▲昨年開催した「INAKAイルミ@おおなん」



お客様を迎える「田舎ツーリズムの里」看板

ラボニアトリーでは、野菜等の栽培から地元の食材を使った料理の提供までのプロセスを行い、町内で起業・就職を目指す「耕すシェフ（地域おこし協力隊）」を全国から募集し、現在2名のシェフが頑張っています。

産・学・官・民が連携した持続可能な地域づくり・人づくり

まちづくりの主役はあくまでも町民であり、町民がいつまでも心豊かに暮らせるまちづくりを進めるためには、

まちづくりの主役はあくまでも町民であり、町民がいつまでも心豊かに暮らせるまちづくりを進めるためには、LED製造メーカーと地域住民、観光協会、行政が一緒になって開催したプロジェクト企画でした。お蔭様で3日間で延べ約1万人の来場者があり、島AKAイルミ@おおなん」は、町内のLED製造メーカーと地域住民、観光協会、行政が一緒になって開催したプロジェクト企画でした。お蔭様で3日間で延べ約1万人の来場者があり、島

地域づくりは人づくりであり、地域で必要な人材は地域で育てることが重要と考えます。そのためには幼い頃から子育てに地域が関わり、地域の課題は地域で解決することが必要です。今後は、最大の課題である少子化対策に取り組み、少しでも若者が定住できるよう、オシリーワンの発想でまちづくりに挑戦し続けてまいります。

邑南町長 石橋 良治

(平成23年10月31日付第277号)

町内の事業所や企業、学校、行政がそれぞれの立場で町民とともに協働することが重要です。

そのひとつを紹介すると、平成22年12月3日から5日の3日間開催した、日本一高い地上20メートルの「天空の駅」として有名なJR三江線「宇都井駅」と、周辺の棚田や赤瓦の屋根、川等をLEDでライトアップする「INAKAイルミ@おおなん」は、町内

根県初となる「第15回ふるわじイベント奨励賞」を受賞する」とがであります。平成23年は12月2日から4日まで3日間、平成22年の取り組みに加え、協力を図る「耕すシェフ（地域おこし協力隊）」を全国から募集し、現在2名のシェフが頑張っています。

の3日間、平成22年の取り組みに加え、協力を図る「耕すシェフ（地域おこし協力隊）」を全国から募集し、現在2名のシェフが頑張っています。

“人づくり”からの“まちづくり” —教育の魅力で全国から人を呼ぶ—

隠岐・島前・海士町の概要

隠岐島前地域は島根半島の沖合60キロほどに浮かぶ隠岐諸島の中の本土に近い西ノ島（西ノ島町）、中ノ島（海士町）、知夫里島（知夫村）の3つの離島で構成される。

島前の3町村ともに極端な過疎・少子高齢化、産業の空洞化に苦しみながらも、平成の大合併の折りには、互いに海を隔てた離島であるという地理的特殊性から住民視点での合併のメリットが見出せず、「合併しない」という決断をした。その後、三位一体の改革で地方交付税が町税額に匹敵する規模で大幅に削減され、島の経済雇用、生活基盤が根底から脅かされる危機的状況に直面。3町村それぞれ独自の地域活性の取り組みを始めた。

本町では、「先憂後楽」の精神で、

島前高校を失うことは島前3町村

自主的な給与の大幅カットを伴つ行財政改革を断行。「まちづくりの原点は人づくりにあり」という信念から、少子化対策や次世代の人才培养などへ投資。そして、官民一体となり、地域資源を活かした産業創出に加え、充実した子育て支援と地域の未来を担う人づくりの施策を積極的に展開してきた。

忍び寄る危機 ～高校の存続問題～

本町には、島前3町村で唯一の高校である島根県立隠岐島前高等学校（以下、「島前高校」）があるが、急激な少子化の進行を受けて、この10年間で生徒数が半分以下に激減。全校生徒90人程度（全学年1クラス）となり、このままでは高校の存続が危ぶまれる状態となつた。



▲第1回観光甲子園で、『ヒツナギの旅』プランが、見事グランプリ受賞



島根県 海士町 あまちょう

る問題なのである。

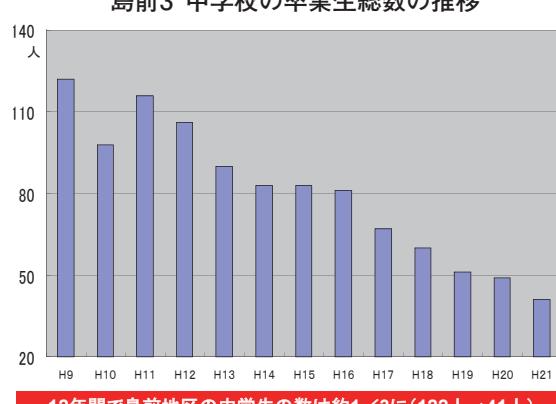
地域と学校の連携による 魅力化プロジェクト

OG会会長等で構成」を発足し、高校改革の母体とした。

まず、高校と島前にある全中学校の生徒・保護者・教員へのヒアリングや

アンケート、各町村をまわっての住民、議会との意見交換会や、県・国との協議を何度も重ね、一年かけて島前高校

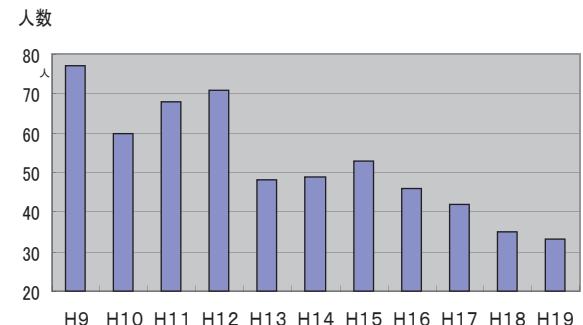
こうした潜在的な危機に対して、「ピンチは、変革と飛躍へのチャンス」という発想のもと、平成20年3月、島前高校と島前3町村による一大連携組織

「島前3中学校の卒業生総数の推移」


年	卒業生数
H9	約130人
H10	約100人
H11	約110人
H12	約100人
H13	約85人
H14	約80人
H15	約80人
H16	約80人
H17	約70人
H18	約65人
H19	約55人
H20	約50人
H21	約40人

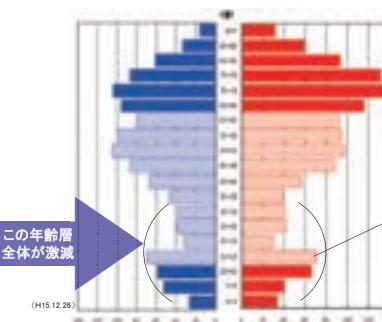
12年間で島前地区の中学生の数は約1/3に(122人→41人)

ここ10年間の島前高校入学者数推移



12年間で入学者数も半分以下に(77人→28人)

島前高校がなくなると。。。



※子ども一人あたり3年間で約450万円の負担 ⇒出生率の更なる低下
※子連れの家族の島外流出加速 + UIターンの激減
※Uターン率(約2割)の更なる低下 ⇒ 地域文化や行事の維持困難
※超少子高齢化が一気に加速 ⇒ 町村の自立・存続不能

にとつて文化的・経済的に計り知れない損失となる。高校がなくなれば、島の子どもたちは中学卒業とともに島を

離れなければならなくなる。仕送り等（3年間）一人の子どもを本土の高校に通わせると450万円程度）で家計にかかる負担は一気に跳ね上がり、子どもを持つ家庭の島外流出が進行する。また、子どもを持つ若年世帯層の島へのリーダーの激減や、教育費の負担増による出生率も低下する。

新たな雇用創出と教育・子育て支援の充実により、若者のリーダー層や出生数を増やし、持続可能なまちづくりを進めるという挑戦は、島から高校がなくなることで水泡に帰すことになる。更に超少子高齢化が急速に進み、人口構成が一層偏り、島の活力が急激に低下してしまつことも容易に想定される。高校の存続は島の存続と直結す



▲地域活性の一翼を担う学校「島前高校」

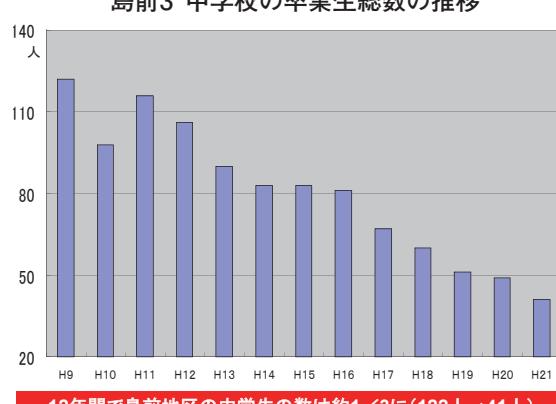
公立塾 「島前高校」設立

1人ひとりの力を最大限に
伸ばせる教育環境の整備

指針 1

今まで、「島では、学力が伸びず大学進学に不利」という「常識」が根深くあり、大学進学を希望する多くの生徒は、中学卒業時に島を離れ「本土」の高校へと流出していく。こうした状況を打破し、離島であっても学力が伸

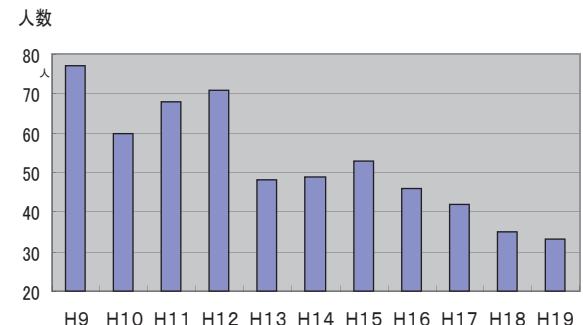
在は、その構想実現に向け、高校の教職員と島前地域の有志による「魅力化推進協議会」も発足し、実質的な取り組みが開始されている。以下に3つの主な指針と2つの課題について述べる。

こうした潜在的な危機に対しても、「ピンチは、変革と飛躍へのチャンス」という発想のもと、平成20年3月、島前高校と島前3町村による一大連携組織「島前3中学校の卒業生総数の推移」


年	卒業生数
H9	約130人
H10	約100人
H11	約110人
H12	約100人
H13	約85人
H14	約80人
H15	約80人
H16	約80人
H17	約70人
H18	約65人
H19	約55人
H20	約50人
H21	約40人

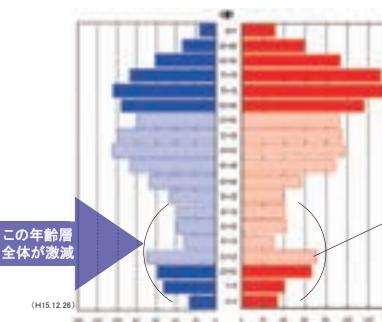
12年間で島前地区の中学生の数は約1/3に(122人→41人)

ここ10年間の島前高校入学者数推移



12年間で入学者数も半分以下に(77人→28人)

島前高校がなくなると。。。



※子ども一人あたり3年間で約450万円の負担 ⇒出生率の更なる低下
※子連れの家族の島外流出加速 + UIターンの激減
※Uターン率(約2割)の更なる低下 ⇒ 地域文化や行事の維持困難
※超少子高齢化が一気に加速 ⇒ 町村の自立・存続不能

び、希望の進路を実現できる教育環境づくりを進めている。

一つは、今まで弱みだと見られてきた「小規模校」といつことを、「一人ひとりに手厚い指導が可能な少人数制」といつ強みと捉え、超少人数指導と充実した個別指導で一人ひとりの個性と学力を徹底的に伸ばし、国公立大学などへの進学希望も実現する「特別進学コース」を設置する。

平成21年度は高校教員の努力により、難関国立大学への進学者も出るようになつた。

また、平成22年度から高校と連携した公立塾「隠岐國学習センター」を設立した。大手予備校やハーバード大学進学塾などでの指導歴を持つ経験豊富な講師や、生きる力や起業家教育に関する特別授業を全国で展開してきた指導者に加え、OCR（情報通信技術）や最先端の教育メソッドなども活用していつ。に戻り、「地元を元気にしたい」といつ

地域の未来をつくる人材の育成

指針2

地域創造コースの新設

従来、高校卒業とともに9割以上の子どもが島外に出て行き、いつか島

産業をつくりに帰りたい」といつ地域起業家精神を育成する必要がある。

そこで、次世代の地域リーダーを育てる「地域創造コース」を高校に新

に帰つてくる割合（ロターン率）は3割程度であった。地域が自立し持続していくためには、このロターン率を上げていくことが重要である。そのためには雇用の場つくりや定住促進の施策を集め、その観光プランを実現化させていく。

今後はグローバルな視点で、地域ビジネスやまちづくりを行える人材を育てるための、高校生の観光大使派遣や海外研修、留学制度つくりなど国際交流も検討していきたい。

全国からも意欲ある生徒を募集

指針3

「島留学」の開始

島内の中学生を島前高校に囲い込む「やり」の戦略だけでは、少子化の地

域において中長期的な存続は難しく、島前地域外からも生徒が集まるような切り拓く人材の育成を目指す。



▲県内最強のレスリング部 目指すは全国制覇！

「攻め」の戦略が必要になってくる。また56人定員の寮が常時4～6名しか入寮生がおりず、赤字で苦しんでいたこともあり、県と協議し、県外からも生徒の受け入れを可能にし、全国からの生徒募集を開始。全国からの意欲・能力の高い生徒の確保により、地元生徒

への刺激と高校の活性化を目的とした、寮費や里帰り交通費等を補助する「島留学制度」も新設し、その財源は町職員や町議員の給与カット分を充てた。平成22年度の新入生の約4分の1は島外からの生徒だった。今後は、都市部の大規模校や進学校で物足りないを感じる「学力だけでなく人間力も身につけたい」といつ生徒に加え、自分の町や村が大好きで「将来は地元に帰りたい」「家業を継ぐ」「まちを元気に



▶全国から志ある生徒の募集「島留学」

する仕事がしたい」という地域リーダーの卵を各町村から受け容れ、地域起業的な資質をしっかりと鍛えた上で、将来地元に戻って活躍できるように送り出していきた。



▲大阪の進学校からきた生徒

8名と算定される。当然8名では高等学校の運営はできないので、県からの加配と、町からの4人（社会教育主事、魅力化事務局、図書館スタッフ、事務スタッフ）の派遣を行い、それでも非常に多忙な状況である。今後は、中山間僻地や離島の小規模校における教育機会均等の実現に向け、他の町村とともに国の法改正と教員数の確保を強く要望していきた。

島前高校の管理職は2年おきに変わつていて、島に単身赴任し、少し慣れたと思ったらすぐに「本土」へ戻されるような状況では、どうしても中長期的な視点にたつた改革はやりにくく。教育は2年や3年で形になるものではなく、ましてや地域と連携した学校経営を行うには、継続性が重要になつてくる。そこで、地域が学校経営にかかり継続性を担保できる、持続可能な仕組みづくりを進めていきた。

魅力化の先に

若者の定住と持続可能なまちづくり

これまで過疎地には、「産業さえあれば人は離れない」「雇用の場さえあれば若者も戻ってくる」という幻想があつた。しかし、今の子どもを持つ20代後半から30代の感覚は違う。特に高学歴層ほど、「子どもにより良い教育を受けさせることが出来るならば、多少の犠牲や負担も厭わない」という意識が高まっており、雇用の場だけでは優秀な人材は定着しない。これからは産業に加え教育や子育て支援を含めた総合的な取り組みが、子育て世代の若者の流出を食い止め、逆に子連れ家族のリーターンを呼び込むための鍵になるであろう。豊かな自然と文化に囲まれ、人のつながりが深く、安心安全な地域であるとともに、学力も人間力も伸びる教育環境を整えることで、「子育て島」としての教育ブランドを築いていきた。

町村にとつて、少しでも参考になるのであれば本望である。また、逆に何か情報があれば、是非ご教授いただければ幸いである。

海士町長 山内 道雄
(平成22年6月14日付第27223号)



▶生徒の姿が地域の未来 地域絆がかりで未来をつくる

教員数は、「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」（以下標準法）により、各学校の収容定員（学級数・生徒数）に応じて全国一律の基準で算定される。この法律は昭和36年に学校の適正規模化を目的に制定された当時ままで、島前高校のような小規模校であれば教員数は

り、人づくりに投資しない限りは、生き残つていけない。これは島前をはじめとする多くの町村が直面している状況であると同時に、これから日本が直面する状況でもある。いじでの試行錯誤が、同じような課題を抱える他の町村にとつて、少しでも参考になるの

資源の乏しい島国においては、ヒート・ワザ・チエジングが最大の資源である

小さいからこそできる! きぬ細やかなまちづくり —単独町政を歩む町の挑戦—

はじめに

奈義町は、岡山県の東北部、中国山地の秀峰那岐山（1,255m）の南麓に広がる四季折々の美しい自然に恵まれた町です。

全国的に市町村合併が行われる中、平成14年に合併しないことを選択し、「小さいからこそできる！きぬ細やかなまちづくり」を目指して、町民の皆さんと力を合わせながら、住んでよ

かつたと思えるまちづくりを推進しています。町の特徴の一つとして中四国で唯一の実弾射撃演習が行える日本演習場があり、昭和40年には陸上自衛隊日本原駐屯地を誘致し、自衛隊との共生共栄を基本理念としたまちづくりに取り組んでいます。

独自の定住促進施策



▲自衛隊と町民の交流

近年の少子高齢化により年々人口が減少し、高齢化率も29%にまでなりましたが、人口減少に歯止めをかけるため、町独自の若者定住施策を行っています。第3子以降を出産した方に交付する「出産祝い金」、大人や子どもが一緒になつて「ミニユースーション」とれる子育て情報交換施設「なぎチャイルドホーム」の設置、出生から中学校を卒業するまでの「医療費の無料化」、中学校を卒業し高校に進学される方へは「就学支援金」として一律5万円を交付、中高生を対象に他市町村に先駆けて「子宮頸がんワクチンの



▲山の駅



岡山県 奈義町 なぎちょう

町民主役のまちづくりを推進する

町民参加のまちづくり

無料接種」、町営分譲地内に子育て世代を対象にした「若者向けの賃貸住宅」の建設など、これらのかね細やかな町単独事業を実施するににより、「若者が住んでよかったですと思えるまちづくり」「安心して出産・子育てができるまちづくり」を目指しています。

ため、ボランティアによる「町民参加の町づくり実施要綱」を策定しています。平成14年には、シルバー世代を中心とした様々な分野から技能や技術を持った町民の力により、クラブハウスを備えた3コース24ホールのグラウンドゴルフ場が整備され、町民の健康づくり施設として多くの人に利用されています。

これからも、町民ができることは自ら取り組み、行政との協働のまちづくりを進めていきます。



▲介護予防施設「ウォーキングプール」



▲町民の手によって整備された「グラウンドゴルフ場」

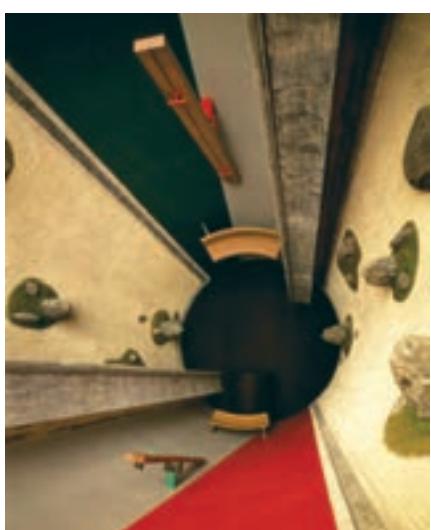
融合したまちづくりを行っています。約1600万年前の巻き貝「ビカリア」や一枚貝、古代の植物が化石となつて出土しており、特にビカリアの出土地としては国内最大といわれています。

この資源を活用した施設「ビカリアイミュージアム」は、ビカリアをはじめ動植物の化石30種類約300点を展示



▲太古のロマンに触れる「ビカリアイミュージアム」での発掘体験

◀江戸時代から続く「横仙歌舞伎」



示しており、実際に発掘体験もできる太古のロマンに触れる」とのできる貴重な施設となっています。

また、江戸時代から受け継がれてきた「横仙歌舞伎」は、岡山県の重要無形文化財にも指定されており、農村歌舞伎の姿を現在に伝える伝統芸能として、地元保存会により年4回「四季の公演」を行い、保存伝承活動が行われています。さらに、伝統芸能を町の子ども達に伝えていくため、小学校の授業を活用して歌舞伎教室なども開講しています。

奈義町現代美術館は、建築家磯崎新氏プロデュースのもと現代美術を代表する3組の作家が創り上げた建築と芸術作品を融合させた、太陽・月・大地の三つからなる空間的作品で、空間の形や光、視点と感触、過ぎゆく時間とありゆる要素が一体化した国内外



▲「那岐山麓山の駅」からの展望

▼休日はたくさんの家族連れでぎわう「山野草公園」



また、山の駅に併設して設置している約3・4ヘクタールの「山野草公園」には、オキナグサやチヨウジソウ、サギソウなど、山野草20種類、約2万本が植栽されており、四季折々に咲く可憐な花が、訪れる人の心を和ませてくれます。中には絶滅

提寺の境内にそびえる「大イチョウ」は、樹高約45m、目通り周囲約12m、指定樹齢900年を越え、岡山县唯一の国の天然記念物にも指定され県内最大の巨木です。

おり、その菩提修業した寺とが幼年時代に祖・法然上人が修業した寺として知られており、その菩提



に誇れる体感型の美術館です。

また、那岐山の中腹にある菩提寺は、浄土宗の開祖・法然上人

奈義町の恵まれた自然を体感することができます。ことができる「那岐山麓山の駅」は、農業体験や加工体験ができるよう、コテージや研修室を併設した滞在型リゾートスポットです。那岐山周辺の

ではもちろん、館内には特産品ショッピングや、地元の食材を活かした料理を楽しめるレストランなど、様々な角度から奈義の自然を満喫することができます。

また、山の駅一階には展望ベランダがあり、標高400メートルから見下ろす町並みや豊かな山並み、早朝の雲海などは、圧巻の景色です。

都市と田舎を結ぶ観光資源



▲遊休農地を再生した3haの「菜の花畠」

◀100%町内産の「菜種油」



若者が夢の持てる農業を目指して

町の基幹産業である農業は、米や野菜、黒大豆などを中心にした耕種農家と酪農・牛の肥育・養豚・養鶏の畜産農家とが耕畜連携を図り、有機堆肥を活用した「環境にやさしい農業」の推進を図っています。

環境にやさしい農業に取り組んでいる町内のエコファーマーが丹精込めて栽培したお米「エコ米」は、地産地消を推進するとともに食育にも力をいれ、米飯給食や米粉パンとして小学校の学校給食にも提供し、モチモチしておいしいと好評を得ています。

方々が守ってきた那岐山麓一帯に自生しているこれらの植物を保護し、種を保存する活動も行っています。

近くには、美しい癒しの景観を引き立てるように、手すりの赤が印象的な天空橋が架かっています。天空橋からは山野草公園が見下ろせ、空と緑の溶け合つ風景が楽しめます。

また、園内には自然の草花を楽しむだけではなく、水遊びのできる渓流や遊具広場があり、子どもから大人まで

一緒に遊べる憩いの空間となっています。平成22年度から資源循環リサイクル事業の一環として、3ヘクタールの遊休農地を再生して菜の花を栽培しています。収穫した菜種は、昭和初期の伝統的な搾油機で搾油し、純町内産の菜種油として山の駅レストランで特産の黒豚のカツを揚げる油として使用するとともに、特産品としても販売しています。

一緒に遊べる憩いの空間となっています。



◀特產品の里芋やアスパラガス、白ネギをモチーフにした「さと丸くん」

農業の振興を図るといった基幹産業である農業にまつわるところによつて、町内産農畜産物の販路拡大



▲町内産の安全安心な食材で作られる米粉パンの学校給食



▲金丸弘美先生の話を熱心に聞く山の駅従業員

養分に富んだ土壤からできる里芋は、粘り気が強くモチモチとした触感で食味が良いと好評をいただいています。この里芋をモチーフに作成した農産物PR用のマスコットキャラクターは、「さと丸くん」の愛称でたくさんの方に親しまれています。

これから農業は、若者が夢の持てる産業にすることが必要であると考えています。

地域の特産農畜産物の生産だけではなく、生産・加工・販売を一元的に行う6次産業化や恵まれた自然景観や歴史と文化、観光資源などを活用し、農業と商業と観光が連携した、体験滞在型の観光施設を行い、人

を呼び込むこ

とによって基

幹産業である農業の振興を

「農業・商業・観光業が連携したまちづくり」を推進しています。

平成23年度取り組んだ地域力創造アドバイザー事業は、新たに地域独自の魅力や価値の向上に取り組むため、地域の課題解決に最適な講師を招へいして地域力の活性化を図ることを目的とした事業で、平成22年度7月から全国の農山漁村でまちおこしに携わっている食環境ジャーナリストの金丸弘美先生と特産品開発のスペシャリストである料理研究家の馬場香織先生をお迎えし、両先生のご指導のもと「いかに人を町に呼び込み、人を呼び込むことによって奈義町らしさや奈義町ならではの魅力を来町者に伝え、その中から定住化を促進し、町の活性化につなげる」といった方策を実践しています。

平成23年度の具体的な取り組みとしては、町内産の農畜産物を最大限に活用し



▲馬場香織先生による特産品開発の調理実習

◀町内産にこだわった米粉牛肉バーガー

わが町のこれから

急速に進む少子高齢化と地方分権が進展していく中で単独町政を歩んでいく奈義町では、町民の皆さんとともに町のあるべき姿・目指すべき姿を想い描き、その特色を最大限に活かす施策を効率的かつ効果的に行つことが求められています。

そのためには、今後も行政改革を進め、自主自立を高めた行政運営を行つことは勿論のこと、先人の方々が守り育んできた町をさらに充実させて後世に引き継ぎ、未来を担う子ども達が誇れる町となるよう、町民の皆さんと希望に満ちたまちづくりを推進していかなければなりません。

町は、これからも町民の皆さんと力を合わせながら、住んでよかつたと思えるまちづくりを推進していきます。

に向けた調査などを行っています。また、平成24年度以降はアドバイザー事業で進めてきた事柄を継続し実践していくため、都市部からの人材を積極的に受け入れ、新たな視点や発想を基に町のすばらしい自然・文化・人材を再発見していただき、「地域おこし協力隊」を募集することとしています。

平成23年度開発された特産品の開発と販路拡大のため、町内産農畜産物の販路拡大

を進め、都市住民や自然回帰志向の消費者ニーズを捉えた「農家民泊」を実施するため、その受け入れ体制の整備と田舎ならではの各種体験学習のメニュー化。町内産農畜産物をふんだんに使用した料理で来町者をおもてなしするため、町の観光拠点である「那岐山麓山の駅」レストランのメニューを全面改訂。農業者の所得向上を目的とした農産物直売所の販売戦略と生産体制の強化。町内産農畜産物の販路拡大

「黄福」なまちづくりへ

MISAKI YELLOW HAPPY PROJECT

個性豊かで活力と
魅力あるまちづくり

美咲町は、平成17年3月、平成の大合併により、中央町・旭町・樋原町が合併して誕生した町です。

岡山県のほぼ中央部に位置し、「日本の棚田百選」にも選ばれた農村景観や岡山県三大河川の吉井川、旭川が流れなるなど美しい自然環境に恵まれています。基幹産業である農林業は、米を中心には、特に山間地では「ユーピオ」や葉たばこ等の生産が盛んに行われ、中山間地域なりではの文化や産業を育んできました。

日本棚田百選に認定されている「大拼和西棚田」と「小山棚田」は、地区住民の手によつてきれいに保全された岡山県を代表する棚田です。豊かな自然や農村風景は郷土の誇りであり、特に大拼和西棚田は、標高400mの山間に、すり鉢状に850枚(42.2ha)の田が広がる全国的に珍しい、

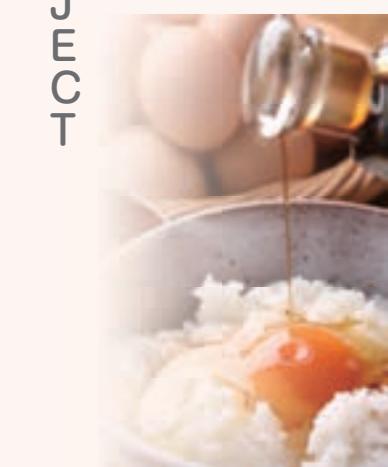
スケールの大きな棚田です。四季折々に美しい表情を見せ、人々の心に安らぎを与えてくれる、まさに癒しの空間です。

町の人口は約16,500人。少子高齢化、過疎化が進む中、新町ストート以来の町の第一施策に「少子化ストップ」を掲げ、子育てしやすい環境づくりに力を注いでいます。また町のキャッチフレーズは、「世界にはばたく元気な町」。変革の時代に夢と希望を持ち、大胆な発想で様々な分野に向けて発展し、情報を発信していくことをイメージして掲げられました。恵まれた自然環境や地域資源を生かし、個性豊かで活力と魅力あるまちづくりを目指しています。

美咲町は、横並びの3町が対等合併して誕生した新しい町で、既存の町名を使わない、というのが合併協議で決められ、町名は一般公募されました。

新町の知名度アップを模索

美咲町は、横並びの3町が対等合併して誕生した新しい町で、既存の町名を使わない、というのが合併協議で決められ、町名は一般公募されました。



岡山県 美咲町 みさきちょう

▲日本の棚田百選認定 大拼和西(おおはがにし)棚田

誕生する「新町」の形が花びらのよう見え、「人」も「自然」も美しく咲き誇る町になると願つて『美咲町』と命名されました。既存の町名を使わなかつことにより、町の知名度は低く、町内外の多くの方に、新しく誕生した『美咲町』という町はわかりづらかつたようです。

旧3町、そして新町がスタートしてからも行政施策の中に、「観光」の一文字が占める割合は少なく、1年を通して町内外からお客様が訪れる「観光地」もなく、もちろん、岡山県全体からみても「観光資源」が「豊かだ」といふ町ではありませんでした。

合併から2年経つた平成19年4月、旧3町、また新町になってからも初めての試みとなる「観光」と名の付く課（産業観光課）が新設されました。観光商材不足に頭を悩ませながら、初代美咲町長を中心とした、産官連携による、美咲町らしい「魅力」を関係者で模索する中、町の「観光」が少しずつ動き始めてきました。

まおは「卵」でもあります!!

初代美咲町長の食に対する、熱い思い、を原点に、町に「人」を呼ぶ目玉として、町内に西日本最大級の養鶏場があり、そこでは毎日多くの「アランド卵」が産まれています」といふこと。

ところが、この町では、卵かけご飯が、とても人気があります。そこで、町長は、この卵かけご飯を、町の観光資源として活用しようと考えました。そこで、町長は、この卵かけご飯を、町の観光資源として活用しようと考えました。

その理由は、あとで紹介しますが、もちろん「卵かけご飯」に関するすべての「素材」は町内産にこだわり、合併した旧3町それぞれの土地なりでは既存の「宝物」と、ちょっとしたアイデアから、美咲流の卵かけご飯は誕生したのです。

卵かけご飯の店は、町の第3セクターが管理運営し、空き施設だった「食堂かめつち」を再利用して、平成20年1月にリニューアルオープン。オープン以来「卵かけご飯」が珍しかったのか?それとも卵かけご飯で人を呼ぼうとした「美咲町」が珍しかったのか?

メディアにも数多く取り上げられ、するとたちまち予想をはるかに上回る人が来店し、知名度も低く、観光資源の少なかつた町へ、「人」を呼び込むきっ



▲素材としての「卵」が美咲流「卵かけごはん」へ変身

その「卵」をヒントにしたまちづくりの第1弾として、誰もが食べたことがある、誰もが知っている、誰もが食べたことがあります。先にも述べたように、「卵かけご飯」って、あまりにも当たり前な食べ物で、じいの家庭でも簡単に食べることができ、そして誰もが幾度と食べただけの「家庭の味」。専門店のオープン前、またオープン後も、果たして「卵かけご飯で人が呼べるのか?」といふ声が、町内外のあちこちであります。

この取り組みで美咲町が大きく掲げたのが、「安心安全な地元食材」と「美咲流卵かけご飯のストーリー」。全国各地で立て続けに「食」の問題が明るみになり、消費者が不安を募らせる中、町内産の食材にこだわり、「安心安全」を掲げた卵かけご飯が一躍注目される事になりました。

とは言え、一番はどこの家庭でも味わうことができる卵かけご飯を美咲流のストーリーにしたことが「話題」を呼んだのだと考えています。

△立ち並ぶたまごかけごはんのぼりが、人々が呼べるのか!?



この取り組みで美咲町が大きく掲げたのが、「安心安全な地元食材」と「美咲流卵かけご飯のストーリー」。全国各地で立て続けに「食」の問題が明るみになり、消費者が不安を募らせる中、町内産の食材にこだわり、「安心安全」を掲げた卵かけご飯が一躍注目される事になりました。

とは言え、一番はどこの家庭でも味わうことができる卵かけご飯を美咲流のストーリーにしたことが「話題」を呼んだのだと考えています。

△立ち並ぶたまごかけごはんのぼりが、人々が呼べるのか!

美咲流卵かけご飯のストーリーは、大きく4つのキーワードから展開されています。

①町内には西日本最大級の養鶏場があり、120万羽の鶏が毎日約100万個の「コクとうまみ」ある新鮮な卵を産んでいること。

②日本棚田百選に選定された棚田では、先祖伝来の農地を荒らすまいと、農家の方が愛情じ手間暇かけて作った棚田米があること。

③地元産の醤油をベースにアレンジした3種類（ねぎ・しそ・のり）の特製の卵かけご飯専用タレを開発したこと。

そして、何と言つてもストーリーの主役は……

④美咲町出身で、卵かけご飯をこよなく愛し、旅先でも卵を取り寄せて食していただ記述も残る明治時代を代表するジャーナリスト岸田吟香に着目したことだ。

岸田吟香は、日本の新聞界の草分け的存在として、また実業家としても活躍した人物で、卵かけご飯を全国に広めたとも伝えられています。

「麗子像」で有名な洋画家岸田劉生は、吟香の四男であり、五男の辰彌は宝塚歌劇団の演出家でわが国のステージに初デビュー、モン・パリを送り出し、ラインダンスを考案した人です。



▶ 美咲町出身のジャーナリスト岸田吟香が「卵かけご飯」を全国に広めたとも伝えられている

オープン以来3年7カ月で、25万人(年／7万人)を超える人が、美咲町の「卵かけご飯」を食べに町を訪れています。

卵かけご飯は、『黄福(こうふく)定食』と名付けられ、ご飯と卵がおかわり自由の300円。「黄福(こうふく)」とは、卵の黄身の『黄』と、幸福の『福』をかけ合わせた言葉で、新鮮

卵の黄身のイメージから、食べるといこか懐かしく、ふんわり幸せな気分になることができるなどからネーミング。

そして町自慢の新鮮で安心安全な食材を美味しく、しっかりと食べてもらつて幸せい氣分になつてもうれば、本当に嬉しいことです。もちろん、3、4杯と食べられる方もいますが、年間の卵の仕入れは調理も含め、14～15万個、この取り組みは多くのマスコミにも取り上げられ、またロコモでも広まり、北は北海道から南は沖縄県まで、わずか18席の食堂ではあります、が、

この取り組みは多くのマスコミにも取り上げられ、またロコモでも広まり、北は北海道から南は沖縄県まで、わずか18席の食堂ではあります、が、

現在美咲町は、「卵かけご飯」が話題になつたことをきっかけに、町内に点在する観光地や観光資源を「線」で結び、面としていくプラン、美咲 黄福物語、を開いています。

『美咲 黄福物語』は1章から3章の構成で、名前とおり、幸せな色をイメージする「黄色」を町のシンボルカラーとした幸福なまちづくりです。町内を「黄福」なモノで繋ぎ、ストーリー展開することで、「黄福」なまち美咲町の実現に向け、他市町村にはない魅力と活力あるまちづくりを目指していくのです。

▶卵かけ専用3種のタレを開発!
黄福定食と命名された卵かけごはんは、「食堂かめつち。」でー

美咲 黄福物語

— こうふくものがたり —

MISAKI YELLOW
HAPPY PROJECT

第1章

「美咲流卵かけご飯」は、

町の文化、歴史の詰め合わせ

『黄福物語』の第1章は、先にも紹介した新鮮卵と町自慢の棚田米を使用し、食べるどじか懐かしく、幸せな

気分になることができる、美咲流卵かけご飯での展開です。

美咲流卵かけご飯を「黄福定食」と命名、『Simple The Best』を合言葉に、シンプルな食材、シンプルなストーリーが、『話題、を呼び、「食堂かめつち。」で黄福定食を食べた人は、3年7カ月で25万人を超えます。

美咲町の卵かけご飯は、町の農業・産業・偉人等、合併後間もない美咲町を一語で語れる詰め合わせ丼なのです。

第2章

『黄福のレンガ』を活用した
幸せなまちづくり

美咲町の棚原地域には、昭和30年代をピークに、硫化鉄鉱で東洋一の生産量を誇った棚原鉱山があります。

平成3年に閉山しましたが、現在も旧棚原鉱山の坑内から湧き出る地下水を中和処理し排水する作業が行われています。その中和処理により発生した沈殿物(廃棄物)を原料に、平成21年、県内の耐火レンガメーカーによつて黄色いレンガが開発されました。セラミックを混ぜることで、沈殿物に含まれている鉄分が化学反応を起こし、黄色を発色させる着色料を使わない耐火レンガです。

そのレンガを「黄福のレンガ」と名付け、リサイクル製品として町が積



黄福の黄色いハンカチプロジェクト

黄色と言えば、1977年に上映され、第1回日本アカデミー賞を受賞した映画「幸福（しあわせ）」の黄色いハンカチを思い出しませんか？



▼着色料を使わない黄色い耐火レンガ（黄福のレンガ）を使用した「幸せの“あいのす”」



町では、この映画をヒントに平成22年から新たなプロジェクトとして、美咲町を訪れる方に幸せな気持ちになつてもらおうと、町内の観光施設では、黄色いハンカチでお客様をお出迎え。毎秋開催されている「たまごまつり」では、1日限定で歩行者天国となる「黄福通り（亀甲商店街）」が、ハンカチで「黄色一色」に染まります。また町内の小・中学生1,300人が、黄色いハンカチ1枚1枚に、「甲子園に出場」「保育士になりたい」など、将来の夢や願い、家族への感謝の気持ちを書き込み、それをボランティアの皆さんが、巨大なハンカチに縫い合せて町内に展示するなど、「町」は着々と町民の手によって「黄福色」に染められていきます。

最近では、解体前の中学校の校舎に、在校生・卒業生らが、校舎への感謝の気持ちや、学生生活の思い出などを書き込んだ黄色いハンカチを屋上から飾るなど、その光景はあるで映画のワンシーンのようでした。

3月11日に発生した東日本大震災

▶ 黄色いハンカチ1枚1枚に夢や願いを込めて！



被災地からは遠く離れた美咲町ですが、「美咲 黄福物語」が今できる支援をこれからも続けていきたいと思つ

ります。

黄色は幸せを招く色と言われています。

美咲町では、その「黄色」と「幸福」をかけ合わせた言葉・美咲町名物卵かけご飯をはじめとする「黄福」な食や「風景」に数多く出会い、美咲町を訪れる方に「幸せな気持ち」になつてもらえるまちづくりを進めています。

地域の「宝」を利用した、新しい観光ストーリーを描きながら、これからも美咲町の「黄福」をキーワードにした「黄色」という「色」をテーマに新たなまちづくりを開拓していくます。

あなたも「黄福探しの旅」に美咲町を訪れてみませんか！！

産業観光課 川島 聖史
(平成23年9月5日付第2772号)



▲義援金プロジェクトを立ち上げ、535枚の“思い”を福島へ

100万人を目指して —瀬戸内のハワイ周防大島町へ都会の子供たちの修学旅行—

はじめに

周防大島町は、平成16年10月1日に大島郡の久賀町、大島町、東和町、橋町の4町が合併して誕生しました。

財政の健全化を第一に掲げ、合併の効

果を町民の皆様に感じてもらうことを念頭に「賑わいの創出・観光交流人口100万人」を目標に掲げ取り組んでおり、ここでその一端を紹介させていただきます。

瀬戸内のハワイ ～アロハ・マハロ～



▶島と本土を結ぶ大島大橋

我が町は山口県の東南部にあり、瀬戸内海に浮かぶ島では淡路島、小豆島に次ぐ3番目の面積を有し、島と本土とは大島瀬戸を渡る大島大橋によって連結しています。年間平均気温15.5℃と、温暖な青く澄みわたる瀬戸内の海と四季の彩り豊かな美しい自然を有する町で、瀬戸内のハワイと呼ばれる所以は、明治20年代の官約移民として4,000人がハワイに渡った歴史から昭和38年（1963年）6月22日にハワイ州カウアイ島と姉妹島縁組を締結して50年近くになります。文字通りハワイ移民の島で、120年に及



山口県 周防大島町 すおうおおしまちょう

▲片添ヶ浜海水浴場

▲瀬戸内のハワイ 大人気のフラダンス



ダンス衣装に身を包むとアロハな気分になり「周防大島町で輝いて生きよう100歳に挑戦」を実践中です。高齢者だけでなく保育園児のケイキフラ（子供フラダンス）も本当にかわいい、夏場の毎週土曜日にホテルや温泉施設で開催されるサターナーフラダンス」と「サターナ」が大人気で、遠く県外からの出場チームも多くあり幸せな笑顔であふれます。

生涯現役の島

交流の歴史に裏打ちされた我が町は、6月22日から8月末まで役所も銀行も郵便局も病院も地域の方々もアロハシャツが公用着となります。クールビズならぬアロハビズです。「アロハ！マハロ！」は、おはよう、こんにちは、ありがとうございます。よくいらっしゃいました、などの意味で、おもてなしの心で皆様を歓迎します。余談ながら、ハワイのアロハシャツは大島の渡航者が着用していた浴衣を短く切って着やすくしましたが、そもそものルーツといわれています。この季節フラダンスがとても人気です。お年を召された方も華やか

によつて人口は一気に増加し、島には人が満ち溢れる一方、生活は困窮しました。昭和22年頃65,000人を数えた島の人口は、ミカン栽培と漁業に支えられてきましたが、ミカンの過剰生産と価格の暴落によって高度成長期に一気に人口流出がはじまり、更に昭和51年島民の悲願であった大島大橋が架かつて本州とながつたことも皮肉なことに島の人口流出に拍車をかける結果となりました。

戦後、海外各地からの引き揚げ者によつて人口は一気に増加し、島には人が満ち溢れる一方、生活は困窮しました。昭和22年頃65,000人を数えた島の人口は、ミカン栽培と漁業に支えられてきましたが、ミカンの過剰生産と価格の暴落によって高度成長期に一気に人口流出がはじまり、更に昭和51年島民の悲願であった大島大橋が架かつて本州とながつたことも皮肉なことに島の人口流出に拍車をかける結果となりました。



▲サザン・セト大島ロードレース

体験型修学旅行で 交流人口の増加を

更に、周防大島町がここにきてこ

なフリーライド、フリーダンスなどフリーダンス衣装に身を包むとアロハな気分になり「周防大島町で輝いて生きよう100歳に挑戦」を実践中です。高齢者だけでなく保育園児のケイキフラ（子供フラダンス）も本当にかわいい、夏場の毎週土曜日にホテルや温泉施設で開催されるサターナーフラダンス」と「サターナ」が大人気で、遠く県外からの出場チームも多くあり幸せな笑顔であふれます。



▲サザンセト・大島少年サッカー大会

ます。60歳で定年を迎えた息子が、80歳でなお現役で農家や漁師として働いている親の元にレターンすることも度々あります。よくできたドラマの筋書きのような現実の話です。

スポーツイベントと スポーツ合宿で賑わいを

気候温暖で年間を通してほとんどのない冬の季節、昭和23年の第1回から64回を数える12月の大島一周駅伝（77チーム参加）、2月のサザン・セト大島ロードレース大会は27回（平成23年は招待選手に大阪国際女子マラソンで優勝の赤羽有紀子選手ほか3,000名参加）、15回を数える3月のサザン・

セト大島少年サッカー大会（全国から48チーム1,000名参加）、4月のウオーキング大会（平成23年は365歩のマーチの水前寺清子さんを迎えて）など多くのアスリートが周防大島町に集う賑やかなスポーツイベントが目白押しです。加えて、陸連公認の陸上競技場や合宿施設も充実しており、中国電力、中電工、JFE、天満屋、デオデオ、ユニクロや興譲館高校などの名門駅伝チームをはじめ、社会人・大学生の陸上競技、テニスやサッカーなどのスポーツ合宿でも賑わっています。

その後人口は年々減り続け約2万人となり、加えて高齢化率は47%と全国トップクラスですが、誠に元気な高齢者が多く生涯現役の島を自認してい



わかれに適応ついてきたのは修学旅行のおかげです。これまで島に修学旅行生が訪れるなど全く無かつたのですが、広島、山口の瀬戸内海沿岸の7市3町と商工会議所、商工会で作る広島湾ベイエリア海生都市圏研究協議会が体験型修学旅行の誘致に乗り出したのを受けて、2008年、初めて神奈川県の私立中学校の修学旅行生を受け入れました。その後、毎年、埼玉県や神奈川県の中学校、高校が数校ずつ訪れていましたが、平成23年は青森、埼玉、岐阜、滋賀、京都、奈良、大阪などの予約が次々と舞い込み、なんと中学高校合わせて20校3、400人の修学旅行の予約で、4月から12月まで満杯のスケジュールとなっています。体験型

修学旅行は民家に3～4人宿泊（ホーミステイ）する民泊と民泊家庭の農業や漁業などの家の業、家業体験をするものです。ネットは受け入れ家庭の開拓であり、私自身も民泊を受け入れてくれるよう住民に呼びかけて回っています。ネックは用意されています。ある家庭での芋ほり体験では何度も注意しても芋を放り投げるため「投げたら芋が傷つぐじゃないか」と一喝。子供らはびっくり。大声で他人から叱られることさえ初めての経験だったようです。私も初めての経験。子や孫が帰ってきたような自然体での受け入れができたと思っています。工業化の産業形態からは取り残された周防大島町。観光客数は年間80万人台で夏場の海水浴客が中心でしたが、新たな体験交流型観光で町の基幹産業である農業や漁業などの1次産業と観光交流を結びつけた新たな産業につなげ、観光交流人口100万を目指に21世紀にはばたく先進の島を目指しています。

前のことが都会の子供たちには新鮮な感動となり貴重な体験となると信じています。体验プログラムには、山から薪を、海から藻や海水を、川から菖蒲を集め長老方に教えてもらひながら自ら薪を焚き、床に菖蒲や藻を敷き詰めて江戸時代から残る石風呂に入る古代サウナ体験のほか、みかん

修学旅行は民家に3～4人宿泊（ホーミステイ）する民泊と民泊家庭の農業や漁業などの家の業、家業体験をするものです。ネットは受け入れ家庭の開拓であり、私自身も民泊を受け入れてくれるよう住民に呼びかけて回っています。芋ほり体験では何度も注意しても芋を放り投げるため「投げたら芋が傷つぐんじゃないか」と一喝。子供らはびっくり。大声で他人から叱られることさえ初めての経験だったようです。私も初めての経験。子や孫が帰ってきたような自然体での受け入れができたと思っています。工業化の産業形態からは取り残された周防大島町。観光客数は年間80万人台で夏場の海水浴客が中心でしたが、新たな体験交流型観光で町の基幹産業である農業や漁業などの1次産業と観光交流を結びつけた新たな産業につなげ、観光交流人口100万を目指に21世紀にはばたく先進の島を目指しています。

え、周防大島町のじ婦人方が島での体験交流をお待ちしています。ミカンのシフォンケーキ、ミカンパンとミカンピザ、山菜料理、サザエご飯、ワッキヨウゼ、シソジュース、柏餅と桜餅づくり、たけのこ堀、玉ねぎの収穫、ウニ割体験、などなどおもしろいものばかりです。自分で作ったものは格別味、じろじろのコースにたびたび参加される方も増えています。



▲「島の暮らしをおそそわけ」
氣候に恵まれた周防大島。青い海、青い空、心癒される景観です。農漁業者とふれあいながら樂しく、おいしく、心温まる交流、「島の暮らしをおそそわけ」として地域資源を生かした人と人とのつながり20もの体験メニューをそろ

起業家人材育成と チャレンジショップ

創立の大島郡立大島海員学校は明治30年
大島商船高等専門学校を前身と

する全国に5校しかない歴史と伝統ある我が町の誇りとする商船高等専門学校です。この大島商船高専で2008年から開講した企業家養成塾「島スクエア」。国から5年間の補助を受けて運営し3年間で115人が受講し、11人が新たに起業しています。年齢層も若者だけでなく定年後リターンした方や女性も多く、町も新たな起業家養成に大きな期待を寄せており、起業家を支援するためのチャレンジショップを道の駅周辺に5店舗設置しました。地元の「カシヤイチゴ」を使ったジェラート、地元産の蜂蜜商品、地元食材で作つ



►チャレンジショップで起業家支援

たスイーツ、地元産サツマイモの芋焼酎、移民が縁で交流しているハワイ雑貨やアロハシャツなど新たな取り組みが始まり、島の恵みを発信し賑わいの創出拠点となることを目指しています。

高齢化した町の保健、 医療、介護、福祉の充実

超高齢社会を迎えた周防大島町の大きな課題は保健、医療、介護、福祉の問題です。平成16年の合併時に経営形態を公営企業法全部適用として公営企業管理者を置き、3病院（東和131床、橘36床、大島99床）、2老人保健施設（さざなみ苑80床、やすらぎ苑50床）、看護専門学校（1学年35人）、訪問看護ステーション、4居宅介護支援事業所を運営しています。

採算性の面から民間医療機関の立地が困難な過疎地域における一般医療の提供、町の東から西まで車で約1時間かかることや独居老人や老々介護が多い地域性を考えれば3病院を堅持することが最も必要であり、それぞれの病院に独自性を持たせながら3病院での総合病院化を目指しています。又、公共交通機関が少なく不便なため患者の方々の利便性を図る上で町内にいたるところに無料の患者輸送バスを運行



►改築した大島病院

いかに安定的に維持向上させていくか」という目的のための手段であります。さらなる行政改革を推進し、財政健全化に全力で取り組んでまいります。行政改革により生み出された財源により、身近な生活関連施設の整備や、子育て支援等を充実させると共に、オートキャンプ場やスポーツ施設の一層の活用を図り、これまでの観光交流に加え、体験型修学旅行の促進や、スポーツイベント、高校、大学、実業団のテニス、駅伝、陸上競技などのスポーツ合宿の誘致と周防大島町の貴重な地域資源を活用し、「賑わいの創出」を進め、交流人口100万人を目指してまいります。

平成23年秋には「よしよ山口国体」。本町でもアーチェリー大会の本番を迎えます。全国各地から、数多くの方々がこの大島に訪れます。おもてなしの心や花いっぱい運動、クリーンアップ運動などを積極的に進め、国体で訪れた方々に周防大島町との絆を深めていただけるよう精いっぱいのおもてなしでお迎えしたいと思っています。

全国の皆様もぜひ一度瀬戸内のハイ・周防大島町へ!!

周防大島町長 植木 巧

(平成23年4月25日付第275回)

財政の健全化は、「住民サービスを

終わりに

►チャレンジショップで起業家支援

元気まんまんまんのう町

改革・協働・輝きの町

まんのう町は、平成18年3月20日、

琴南町・満濃町・仲南町の3町の合併

により誕生した香川県の南西部、讃岐

山脈の北側ふもとに広がる緑豊かな町

です。讃岐山脈の主峰・竜王山や大川

山周辺は香川県で初めての県立自然公

園に指定され、ふもとを流れる1級河

川土器川や町内に点在する無数のため

池とともに四季折々に美しい風景を織

り成しています。四国三県および中国

地方とのアクセスにも恵まれていて上

に、「満濃池」や「野口ダム」、温泉、キャ

ンプ場やレクリエーション施設など多

彩な観光資源に恵まれ、一年を通じて

多くの来訪者を集めています。

づくりを推進しています。

安心と安全・快適なまち

成熟時代の魅力的なまちづくりのための生活基盤の整備をはじめ、すべての住民が住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを目指し、保健・医療・福祉の充実に努めています。

活力創造と改革のまち

住民と行政が協力し、共に汗を流す協働のまちづくりを進めるとともに、魅力的な生活や産業のまちづくりに向けて、住民主体の地域クラブ活動やボランティア活動、産業活動を支援しています。

自然と人々が輝くまち

まんのう町のすべての住民が元気まんまと活躍し、輝くことによって活発な情報発信が生まれ、人・もの・文化の交流を招き、さらに住民が輝くところ、プラスの連鎖が生まれるまち

日本最大の悠久のため池「満濃池」

満濃池は、貯水量が1,540万m³と規模が大きいことと、弘法大師（空海）

国内最大級のため池「満濃池」
毎年6月、田植えの到来を告げる「ゆる抜き」には、多くの観光客が訪れます。



香川県 まんのう町

が修築した、ゆかりの池といひます。全国に知られています。おとの町では、この満濃池を観光の中心とし、弘法大師が中国から持ち帰り、この地に植えたとしている「かりん」を町のシンボルとし、「かりんの里(いのむら)」として地域振興に取り組んでいます。

中でも自然環境の保全や周遊遊歩道の整備、池を展望しながら食事の出来るかりん亭、人づくり交流のかりん会館、下流には、初夏に螢が乱舞するほたる見公園など、訪れた方が滞在できる観光地づくりを行つてきました。



▲町立かりんの丘公園

平成22年3月28日には、NPO法人「さぬき夢桜の会」の尽力で、満濃池周辺にさまさかな桜一千本植樹が5年越しで達成され、春には来訪者の目を楽しませています。さらに平成21年からは、まんのうツーリズム協会を設立し、新たな観光資源の発掘、情報の発信、体験観光などに力を入れています。

まんのう町には、満濃池を中心として「国営讃岐まんのう公園」や「町立かりんの丘公園」、「県立満濃池森林公園」があります。国営讃岐まんのう公園は、「人間との語りごと」、自然、宇宙とのふれあい」を基本テーマに四国で初めての国営公園として平成10年4月にその一部が開園しました。その後、北口園路、自然生態園、満濃池展望遊歩道、湖畔の森、健康ゾーンの一部と開園区域を広げ、現在は、中央広場ゾーン、宿泊ゾーンを中心とする157ヘクタールとなっています。今後は、広域観光ネットワークの中核をなすとともに、四国における文化、スポーツ・レクリエーション的一大拠点となるべく整備を進めていきます。

かりんの丘公園は、平成21年5月に完成した子どもからお年寄りまで多目的に楽しめる総合施設です。大型複

合遊具を中心とした豊富な遊具を整備

▲かりんの丘開園バイク演技



道の駅の交流拠点 エピアみかど

平成11年、近代的な「エピアみかど」がオープンしました。国道433号沿いの香川県と徳島県の境に位置する「道の駅ことなみ」の施設で、歴史ある名湯「美霞洞の湯」からひいた天然温泉、水面に浮かぶ幻想的な石の能舞台、地元の新鮮素材をふんだんに使った料理が楽しめるレストラン、カルチャールームなどさまざまな設備が整っています。他少年野球場、ゲートボール場、芝生広場、少年サッカーも行える多目的グラウンドや四国でも数少ない子供から大人まで楽しめる本格的な自転車トライアルとオートバイトライアルのモーターサイクルスポーツエリアを整備しています。

県立満濃池森林公園は、自然を感じながら散策できる遊歩道やみどりの広場、野鳥観察小屋、森林学習展示館などが整備されています。昭和65年5月に全国植樹祭で、皇太子殿下、皇太子妃殿下がお手植えされたヒノキ、クロガネモチの記念樹が芝生広場に植えられており、四季折々、年間を通じて自然に親しめます。

県立満濃池森林公園は、自然を感じます。



り一層の健康増進が図れるようにと「塩入温泉」を整備しました。

鎌倉時代に発見された 塩入温泉

塩入温泉は鎌倉時代に高野山の道範阿闍梨が尾瀬山で修行をしていた中に、この地に立ち寄つて見つけたと伝えられています。

昭和59年、町の活性化を図る目的で温泉調査を行つたところ、冷泉を発見したことから、旧仲南町では温泉を通じて四季折々の変化に富んだ美しい景観の中でふゆやどの味を満喫し、よ

役場本庁の周辺には、若く世代が多いものの、山間地域では、過疎化が急速に進み、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯がどんどん増えています。そのような高齢者が日常生活で困ることは、やはり病院や買い物などの移動をどうするかとなるのです。

高齢者に人気の 「あいあいタクシー」

現在は、高齢者の約3割は自家用車を持ち、病院や買い物などの移動に利用していますが、運転ができなくなつた場合の対応策が必要です。運転免許の返納を推進するためにも、財政負担がより少なく、高齢者にとって使い勝手のよい新しい公共交通システムの構築が強く望まれるようになりました。

そこで、町は、平成20年3月に、まんのう町地域公共交通協議会を設立し、1年間で6回の協議を重ね、「まんのう町地域公共交通総合連携計画」をまとめました。協議会の中での議論や住民アンケートを通じて、確認したことが次のとおりです。

①町内を走る路線バス2路線は、小学生、高校生の通学のため何としても現時点のサービス水準を確保したい。

②通勤者のほとんどが自家用車の利用なので、今後はパークアンドライドを進める。また、琴電の羽間駅と櫻井駅の中間に新駅を設置し、駐車場を整備することを検討していく。

③高齢者層の外出先は、主に通院と買い物が占めており、高齢者の約3割は家族の送迎に頼つていて。公共交通を利用せず家族の送迎に頼る要因は、バス停までが遠く歩けないと、路線バスの運賃が高いこと、また、便数が

少なく不便であることなどである。したがって、特に高齢者が利用しやすい便利で小回りの利く新しい公共交通システムが早急に必要である。

これらを基に新しい公共交通システムとしてエビアミカドの「スマート乗合タクシー」の実証運行と「共通パス券の発行」を決定しました。

スマート乗合タクシーは町内のタクシー事業者3社に協力を依頼し、各社ジャンボタクシーを1台づつ平日のみ運行しています。エリアは旧町別に



3地区に区切り、その範囲内を1台づつが巡回運行します。タクシーは、住民から愛され、たくさんの出逢いをもたらしてくれるようこと、「あいあいタクシー」と命名され、山あいの道を毎日送迎に活躍しています。



▶「あいあいタクシー」と命名され、山あいの道を毎日運行しています。

実証運行開始から11か月が経ち、10月現在の1日の利用者は57人となり、当初の目標42人を大幅に上回りました。年間目標の1万人も10月25日に達成することができました。

経費は予約受け付けシステム構築費用を除き、維持費としてジャンボタクシーの借り上げ料、オペレーター2名の人工費、システムの保守料、通信費などで約2千百円程度必要ですが、

国土交通省の地域公共交通活性化・再生総合事業を活用しています。国の補助を受けられる3年間の実証運行が終わった後、運賃収入以外の財源をどう確保するのか知恵を出して、高齢者の日常生活を支え続けられる仕組みづくりが今後の大きな課題です。

町内を光ファイバーで結ぶ ～情報基盤整備事業～

情報基盤整備事業は、ブロードバンドゼロ地域の解消、テレビ共同受信設備の地上デジタルテレビ放送への対応、既存の行政放送設備及びインターネットシステムの老朽化や合併により発生した地域間格差などの問題を解決するため実施しました。

事業では、総務省の「地域情報通信

基盤整備推進交付金」を活用し、町全域に総延長約470キロメートルに及ぶ光ファイバ網を敷設して、行政、学校、公民館等の施設をネットワークで結び、各住宅に光ファイバーを引き込みました。これにより町全域での地上デジタル放送の視聴と、100Mbpsの超高速インターネットやIP電話の通信サービスが利用できる環境が整備されました。また併せて、旧町間の老朽化していた防災行政無線とオフourke通信で構成されていた行政放送設備を

一新する事業に取り組みました。この設備は、停電時でも放送を聞くことができるため実施しました。

(平成22年11月1日付第273380号)

月現在の1日の利用者は57人となり、当初の目標42人を大幅に上回りました。年間目標の1万人も10月25日に達成することができました。

▶告知放送録音風景



▲音声告知器

サービスの提供は、継続的な運営や維持管理を考慮し、民間のケーブルテレビ事業者にーFSC契約（長期的継続契約）により施設を貸し付けて、その賃料で保守費用を賄つ「公設民営方式」を選択しました。

この施設は、平成22年9月1日現在の住民基本台帳約7千百世帯に対して、約6千8百箇所、約95%の世帯などで活用されています。

今後は、福祉サービス分野での利用などの利活用の検討を進めていくつもりです。

総務課長 齋部 正典

この森に遊びこの森に遊びて あめつちの心に近づかむ

—地域資源を活かしたまちづくりで個性を磨く!—

私の住む森の国松野町

▶全長300mの花崗岩の一枚岩を溪流が雪の輪を描きながら流れる「雪輪の滝」

愛媛県松野町は、四国の西南部に位置し、面積98・50km²、人口4,500人、周囲を標高1,000m級の山々に囲まれ、東部と南部を高知県と接する予土県境のまちです。

松野町は、総面積のうち、84%を山林が占め、その豊かな森から生まれる流れは、その流域に肥沃な耕地を創りながら二つの河川に集まり、大きく蛇行しながら町を貫流し、日本最後の清流と形容される四万十川

に注いでいます。

この二つの流れは、豊かな水と肥沃な耕地以外にも私たちに多くの恵みを与えてくれます。

町の中心部を東西に貫流し、幅員100mを有する広見川は、四万十川最大の支流で、折々の景観に風情があり、田畠を潤してくれます。また、この広見川は川狩りの名所であり、そこで獲れる天然うなぎや川ガニ、川えびをはじめとする川の恵みは、私たちはもちろん、通人の舌つみを打ち鳴らす逸品です。

もう一つの貫流である田黒川は、その源流部に日本の滝百選に選ばれた雪輪の滝などの滝や深淵、奇岩、巨岩が12kmにわたって連続する滑床渓谷を有し、その美しい景観が評され国立公園に指定されています。春は新緑がまぶしげ、夏には滝すべりに興じる若者や避暑に訪れる人々を迎える、秋には紅葉で美しく化粧され、冬には幻想的な氷の城へと変化し、まさに「森の国」と



▲国立公園滑床渓谷「森の国ホテル」



愛媛県 松野町 まつのちょう

呼ぶに相応しい仙境で、四季を通じて私たちの日を楽しめてくれます。

また、松野町は古くからこの川沿いに伸びる街道が発達し、土佐と伊予を結ぶ交通、交易の要衝として栄え、そこに多くの歴史資源と独自の薫り高い文化が育まれてきました。

◀「雪輪の滝」で滝すべりに興じる。



◀伊予と土佐の交易で栄えた松丸街道。
ひそかに残るいにしえの面影。

大地を潤し、魚族を育み、文化を運ぶ清流「四万十川」。流域にさまざまな恩恵を与えてくれるこの川の、最初のひとつが生まれる場所のひとつに、足摺宇和海国立公園「滑床渓谷」があります。

滑床渓谷は、1,000m級の山々が連なる鬼ヶ城山系に源を発し、延長12kmにわたる渓谷美、四季折々に美しい変化する森林美、稜線部まで足を延

ばすと美しいリニアス式海岸の宇和海や遠く九州まで一望できる展望美の三つの美が楽しめます。昭和32年、この天与の大資源「滑床渓谷」を活かしたまちづくりが始まりました。自然保護を最優先に、住民の休養の場、若者の健全育成の場として活用することを基本理念に掲げ、町営の「コースホステル万年荘」を建設し、キャンパー・や若者を中心に自然に癒しを求める多くの人で賑わうスポットとなりました。

なお、表題の「この森に学びこの森に遊びてあめつちの心に近づかむ」は、滑床の自然を愛し、滑床の観光開発の創始者であり、発展に寄与した、松野町初代町長 岡田倉太郎氏が記した言葉です。

以来、滑床渓谷は営利観光ではなく公益観光で行うことづつ一貫した方針で、経営を続けてきました。

しかし、その後度重なる不況の到

天与の大資源を活かす 「森の国のまちづくり」の はじまり



来や観光ニーズの多様化、施設の老朽化等により滑床渓谷への入り込み客は徐々に減少に転じてきました。さらに、沿道の観光交流拠点もなく、地域の産業や文化に及ぼす効果も少なく、新たな交流拠点の整備が緊急の課題となっていました。

松野町では、この現状をふまえ、昭和63年に滑床山岳レクリエーション整備事業をスタートさせました。

この計画では、引き続き自然保護を最重点課題に置き、必要最小限の施設整備による利便を確保することとしました。また、宿泊機能を充実させ滞在型観光へ移行することによる地域経済への波及と雇用機会の創出を目指し、そして滑床の魅力を広く伝えることによる自然との共生意識の高揚を図ることを目的としました。

本事業により、遊歩道や公共交通トイレ、宿泊施設などを一定程度整備し、平成3年には、その中核施設である「森の国ホテル」が完成しました。森の国ホテルは、それまでの公共宿泊施設のイメージを一新し、滑床の自然環境を満喫するとの出来ある充実した施設と上質なホスピタリティをコンセプトとしました。この森



◀大きな暖炉のある「森の国ホテル」のラウンジは、まさに「森の特等席」

▼ホテルのレストランでは、地元の食材でフレンチを楽しむことも！



の国ホテルの話題性と、癒しを自然のなかで求める指向の拡がりにより、滑床渓谷への入り込み客は飛躍的に増加し、平成6年には、森の特等席「森の国ロッジ」を整備し、宿泊機能を強化、増える宿泊ニーズに対応しました。一方で、滑床渓谷へのアクセス道路について、利便確保の面で二車線改良の計画もありましたが、普通車が離合できる場所の確保と、大型車が最低

限入れるだけの拡張工事にとどめるなど、滑床渓谷を俗化させず、自然保護を最優先とした施策を展開しています。

点から面へ「森の国のまつづくり」の拡がり

全国的に農村部で過疎化と高齢化が進むなか、松野町においても高齢化の進行と過疎化に直面しています。また、高速道路の延伸など交通体系の整備により利便性が向上する一面、人口の流出との危険性もほりんどります。

いつしたなか、松野町では、森・川の豊かな自然、古くから交通の要衝が故に育ってきた歴史・文化資源を再発見、ブラッシュアップして観光資源化し、交流人口の拡大、雇用の場の創出などにより、地域の活性化を図ろう



▲目黒ふるさと館の「目黒の山形」。精巧かつ保存状態も良く、国の重要文化財に指定。

美しい田園景観が残る四万十川最大の支流広見川沿いに、都市民と地域住民の交流、自然との共生意識の醸成、若者の雇用の場づくり、地域経済の活性化を目的として、平成9年に、道の駅「虹の森公園」を整備しました。

森の国の魅力満載道の駅「虹の森公園」

男記念館」、山の入会権を巡る争いの裁定を江戸幕府に求める際の審判資料として作られた立体模型「国指定重要文化財日黒山形関係資料」を収蔵する日黒ふるさと館、「JR松丸駅」のある「森の国ほっぽ温泉」など、地域の資源を活用した交流の拠点を整備してきました。松野町では、滑床渓谷の森の国ホテルを核として、町内各所に点在する地域資源や観光拠点を連動させ、特色ある「森の国のまつづくり」をすすめています。

と積極的な取り組みを進めてきました。森の国松野町の魅力を満載した道の駅「虹の森公園」、四季折々の里山の美しさと中世の歴史に触れるこの掘調査と整備、交易に栄えた松丸街道が生んだ夭折の俳人の短くもあざやかな天性の輝きを展示している「狂不器男記念館」、山の入会権を巡る争いの裁定を江戸幕府に求める際の審判資料として作られた立体模型「国指定重要文化財日黒山形関係資料」を収蔵する日黒ふるさと館、「JR松丸駅」のある「森の国ほっぽ温泉」など、地域の資源を活用した交流の拠点を整備してきました。松野町では、滑床渓谷の森の国ホテルを核として、町内各所に点在する地域資源や観光拠点を連動させ、特色ある「森の国のまつづくり」をすすめています。



▲四万十川学習センター「おさかな館」



▲戦国の城をのま馬とともに体験



前から想像されるように、町内を走るJR予土線(しまひとグリーンライン)松丸駅にある温泉として新しい人気のスポットとなっています。

国境ゆえに形成された資源「国指定史跡 河後森城跡」

町の中心部の背後には、お城山として住民に親しまれてきた「河後森城跡」があります。この山の頂上にある本郭に登ると、川の上流から下流まで、さりには、かなり広く遠くの山や谷まで見渡すことができ、トトロにわらの拠点の城が築かれていたことが容易に想像できます。この城跡は、馬蹄形という大変珍しい形状で、山稜部には本郭を中心にも数個の曲輪が連続して築かれています。

公園内の淡水魚水族館に必要な水を確保するために地下水を探したところ、低張性アルカリ性冷鉱泉が湧き出しました。早速、平成14年にこの冷鉱泉を活用した施設「森の国ほっぽ温泉」を整備しました。この施設は、名

ているほか、土塁、空堀、虎口等が発

掘・確認されており、まさに中世城郭最大の特徴である「土から成る城」を見ることができます。むろには、発掘調査により本郭部分には天守と推測される大型礎石建物の存在や石垣が発見され、中世から近世への過渡期の様相が確認できる第一級の歴史資料であることから、国の史跡に指定されています。

町では、この河後森城を中世の城や当時の史実、生活の様子などが学べる「史跡機能」と、里山の植生や森の役割を学び体験できる「森機能」の共生を目指した整備・活用を進め、「体験する史跡」として、町外から訪れる歴史ファンはむちむんのこと、まちの将来を担う子どもたちの郷土愛を育む場、生涯学習やふれあい再発見によるまちづくりをしよつとある取り組みが始まっています。

そうしたなかで、本町では、住民と行政の協働により、歴史・文化資源、暮らしのなかの伝統行事や食文化など、森の国まつのが有する固有の地域資源を再発見し、それを活かしたまちづくりをしよつとある取り組みが始まってあります。

国立公園滑床渓谷においては、自然保護に取り組んできたグループが、その魅力を伝え、理解してもらつたためのガイド「森の国ネイチャーガイド」を始めました。国指定史跡河後森城跡では「森の国山城の会」が結成され、史跡の学習と伝承、植生研究や実践をおじて、河後森城を懐かしく心地よい里山の自然環境を保全する活動を展

していく場として活用しています。

これからの「森の国のもちづくり」 ～この森に学びの森に遊びて あめつちの心に近づかむ～

開していきます。さりに滑床のお膝元、田黒地区では、蛍の舞う懐かしい畦道の風景を再生せようと地域ぐるみの取り組みが始まっています。

松野町の特産品のひとつ「桃」を生産する農家の女性グループ「ピーチクラブ」では、自らが生産する桃を利用して、赤ちゃんでも安心して食べられる桃ジャムを生産し、全国各地で売られている田分たち

の桃ジャムを見て回ることを夢に、六次産業化に取り組んでいます。そのほかにもグリーンツーリズムクラブの活動など、挙げれば、枚挙にいとまがありませんが、いずれの活動においても、わがふるせとの歴史や文化、自然環境や當みなどの地域資源を再発見し、それを活かした活動をとおして循環型・高付加価値型の「森の国産業おこし」を目指していきます。

本町において、これまでじおり観光・交流産業の振興は、まちづくりの大柱のひとつです。

▲この森をこの子らのために！

磨き、キラリと輝くまちづくりを推進していくきます。その結果として、その輝く光を観に多くの人が訪れ、住民が誇りと愛着を感じる「森の国のもちづくり」が実現すると考えております。



松野町長 阪本壽明

(平成23年7月4日付第27-05号)

惠まれた自然景観と薫り高い歴史・文化資源、そしてそれを活用した観光施設、さらには、住民自らが地域の自然景観や歴史・文化資源を再発見しがれ、シコアップしていく活動、この三つの要素で森の国松野町の個性を

▶ボランティアガイドがまちを案内



▲森の国のもちづくりの理念となった、初代町長 岡田倉太郎氏の書

森がすくすく、川がじきつき、人が元気

—自然満足都市 もほく—

インパクトある 町名を活かす

全国で「鬼」の付く自治体は、我が町「鬼北町」だけあります。

「鬼」のイメージには、好感を持たないという人が多いと思います。私はそれを逆手にとつて、「鬼の北(来た)町」の町長ですと名刺交換をいたします。

「鬼」には、一つのことについに信念と情熱を傾注し、ただひたむきやり通すという意味もあります。だからこそ「仕事の鬼」「土俵の鬼」と尊敬される日本文化が息づいているのだと思つています。「鬼」は「力」、「鬼」は「精魂」です。

鬼北町は、平成17年1月1日に旧広見町と旧日吉村が合併し誕生した町

で、四国愛媛県の西南地域に位置する人口1万1千余人の中山間地です。農林業が主産業ですが、国道3線が交差する交通の結節点であり、隣県高知県の市町村を含む地域住民の生活経済圏として発展してきました。

また1,000m級の山々に囲まれ、清流四十川の最大支流である広見川や国立公園に指定される成川渓谷、四十川源流の節安渓谷等の観光資源に恵まれて居ることから、公共の宿泊施設や二つの道の駅（「日吉夢産地」と「森の三角ぼっこ」）、温泉、公園、観光農園等を整備し、魅力ある町づくりに努めています。

風光明媚な鬼北町は、先人から受け継いだ固有の生活文化や多様な芸術・伝統文化を継承してきた地域力と人間力豊かな町であると自認しています。



愛媛県 鬼北町 きほくちょう

▲四十川最大支流「広見川」での川上り駅伝

公園に指定を受けたことによりて一躍脚光を浴びることとなりました。成川渓谷を抱く毛山やハ面山など、000mを超える鬼が城連峰からの展望とともに、シイ・タブ・カシ類などの温暖地帯の広葉樹林が繁茂する自然林の中に、桜・カエデ・モミジ・ツガなどが混生し、四季折々の変化に富む絶景地であります。

成川渓谷は、古来より精麗な渓谷と自然林に囲まれた憩いの場として地元民に親しまれてきましたが、昭和47年にこの一帯が足摺宇和海国立公園に指定されました。

温泉のあるキャンプ場成川渓谷



また、成川渓谷が「愛媛12景」に指定されたことが活力となり、町営の宿泊施設である成川渓谷休養センターと高円温泉を整備するとともに、バンガロー（10棟）の新設とキャンプ場を完備しました。これにより四季を通じて遊山客が多く訪れるようになりました。隣接する高円温泉は、「ジウム」と硫黄の混合泉で万病に効果があると云われており、大浴場からはガラス越しに移りゆく四季折々の渓谷美を眺めることができます。温泉とふるさと料理さらに温泉のあるキャンプ場としてアウトドアやグリーンツーリズムなど「癒し型レジャースポット」とし

て人気を博しています。

また方々が美味しさことは昔から知られていました。しかし熟成とは、除々に腐敗が進行していくことを意味しますので、きじ肉の熟成を進めつつ腐敗を可能な限り押さえたためには、一定の低温で48時間寝かせるのが最適なことが解かりました。化学的に実験したところ、旨味の主成分「イノシン酸」等も48時間経過後に最大になることが解かり、その熟成のピーク時に凍結処理をするのがベストといつこになりました。

きじ肉が1年のうち一番身が締まって美味しくなるのは、12月～3月上旬頃のわずか4ヶ月間です。美味しい「鬼北熟成きじ」を年間通して安定供給するためには冷凍技術の開発が大きな課題となりました。しかし、従来の凍結法では凍結時に細胞内の水分が



▲最大イベント「やちいんか」でのジャンボきじ鍋(手前)

「鬼北熟成きじ」が美味しい秘密

鬼北町では、特産品として雉（きじ）を養殖・加工・商品化して全国販売を展開しています。きじ肉は処理後すぐ食べるよりもほど熟成させてから食べ方が美味しいことは昔から知られています。しかし熟成とは、除々に腐敗が進行していくことを意味しますので、きじ肉の熟成を進めつつ腐敗を可能な限り押さえたためには、一定の低温で48時間寝かせるのが最適なことが解かりました。化学的に実験したところ、旨味の主成分「イノシン酸」等も48時間経過後に最大になることが解かり、その熟成のピーク時に凍結処理をするのがベストといつこになりました。

膨張して細胞を破壊してしまって、凍結で凍った成分の微結晶がどんどん結合してより大きくなり一層細胞破壊を進めることが判明しました。また解凍時には、旨味成分を含む細胞内の諸成分がドリップ（多量の水分となつて出てしまう、味も鮮度も落ちてしまう）ことも解かりました。熟成技術で旨味成分をたっぷり含んだきじ肉に仕上げても、商品化するためには新しい凍結法

◀「古(いじ)いえの味を食卓へ」鬼北熟成
きじをじ賞味あれ



げることができ、また最良の状態だから
いじをじ冷凍保存中の劣化もなく長期保
存することができるようになりました。

厳選した飼料で養殖したきじ肉には、人体に必要なアミノ酸が多種含まれおりヘルシー食材として食通にも認知していただけております。年間を通して美味い「鬼北熟成きじ」を自信を持って提供させていただけておりますので、ぜひご賞味いただきたいと思ひます。

高齢者の輝くまちづくり

結法の開発が急務となりました。

様々な実験の結果、熟成後マイナス30度以下のアルコール液にきじ肉を浸す「瞬間急速凍結技術」を開発しました。急速に内部まで凍結するけど、細胞内に生じた微結晶がそのまま微小状態を保ち細胞破壊も最小限に抑えることが可能となり、それによつて解凍時にドリップの発生を抑えられることができたのです。

こつした様々な努力の結果、旨味成分が最良の状態にあるきじ肉に仕上

るの健康と元気を楽しみに活動しています。

1月19日に全国放送されました。

福島県土湯温泉では、毎年「いじけ

し祭り」を開催されており、平成24年4月21日から22日にかけて開催されます。今回の「ドキュメンタリー」を行なわれた「東日本大震災被災者応援イベント」に鬼北町役場職員4名と参加し、土湯温泉観光協会に手渡しで贈らせていただきました。

この度、高齢者が過疎地で元気に生きる姿を記録した「第20回「いじけキュメンタリー大賞」で大賞を受賞、

高齢者になつても、まだまだ社会のお役にたてるところ、人間としての「誇り」の回復ではないかと思っています。

放送の中でも地域振興課長が語つておりますが、「農村では60歳代は青年」であり、いの高齢者のパワーを最大限生かした町づくりは、今後の町のあり方を方向づけないと考へています。

「愛治ちゃんじんクラブ」の地区では、以前から高齢者が中心となつた地域起こしの活動が活発であり、ウコンの栽培、そのウコンを利用したウコンワーメンの開発、山芋の研究・栽培などの取組みが進められてきました。



▶大人気の「愛治ちゃんじんクラブ」

▲夜市に出演の愛治ちゃんどんクラブ



輝いて生きていこうの毎日へのを進めて
じきたじと着ててこおわ。

この登録申請をしました。国の文化審議会は「無駄を避け、建築の必須要素だけで高水準のデザインを施すレーモンドの建築観を反映した完成度の高い建物で、建設後50年を経過し造形の規範となつてじぬむの。」との登録有形文化財基準を満たすとして、これにより本庁舎は、平成24年2月に正式登録されました」となりました。

鬼北町庁舎は、昭和の大合併で誕生した旧広見町の庁舎として、今から54年前の昭和33年に完成した建物です。我が国の近代建築を牽引したアンダーン・レーモンドが開設したレーモンド設計事務所が設計した庁舎として、建設当初から「町村の庁舎としては四国随一」と言われるほど注目された建物です。「鬼北町庁舎は強固な地盤の上に建てられており、適切な耐震補強工事を施すことにより引き続き庁舎として使用が可能であり、庁舎内の設備機器の改善も現在の技術を持つすれば、更なる快適性が確保できる。また、その歴史的文化的な価値については、県宇和島圏域観光振興イベント（高速道路開通イベント）「えひぬ南予いやしほ2012」では、自分たちで作った「そば」を使った「そば打ち体験」を企画する等、グリーンツーリズムにも積極的に取り組んでいます。

今後もこれらの活動をヒントに、高齢者が「誇り」や「生きがい」を持ち、

輝いて生きていこうの毎日へのを進めてじきたじと着ててこおわ。

この登録申請をしました。国の文化審議会は「無駄を避け、建築の必須要素だけで高水準のデザインを施すレーモンドの建築観を反映した完成度の高い建物で、建設後50年を経過し造形の規範となつてじぬむの。」との登録有形文化財基準を満たすとして、これにより本庁舎は、平成24年2月に正式登録されました」となりました。

築後半世紀を過ぎた鬼北町庁舎は、耐震性を始め様々な課題を抱えておりますが、その歴史的・文化的な価値は先述の通りあります。この庁舎を再生保存し、更に新しい価値を付加することにより、引き続き40年～50年庁舎として使続けることじこじこ意義あることであり、眞の地域財産・観光資源となると考えております。もつとも、経費がござらかかつても良いじいじいじいじにはなりません。でもうだけ経費を抑えながら、しかも現庁舎の持つ歴史的・文化的な価値を損なつ

合わせて改修工事を行い、本庁舎が単に役場の事務をする場所に止まらず、町民の皆様に希望や勇気を与えてくれる、そしてそこで働く職員が、町民の方々の幸せいために誇りを持って執務ができるよう、そのよつの再生庁舎にじたじと考えておひおわ。

鬼北町長 甲岡 秀文
(平成24年3月12日付第279号)



▲レーモンド設計事務所が設計した鬼北町庁舎

自然・文化を生かした交流による 活力と心豊かな暮らしのある村

—山里の「智」と「技」から創造する持続可能なむらびづくり—

村の概要

◀行者杉：大王杉
(樹齢約600年、樹高55m、幹周り8.3m)

東峰村は福岡県中央部の東端にあって、大分県との県境に位置し平成17年3月に旧小石原村(1,190人)、旧宝珠山村(1,711人)の2村が合併し総面積51.93平方キロ、世帯数約940戸、人口約2,900人の村として誕生しました。当時は、村同士の合併で人口も少ないと本小さな合併とも言われました。

村の北部には、日本三大修験道の一つ栄えた英彦山修験道の修行場が点在し、小石原地域は行者や信者の集まる宿場町として栄えていました。往時修験者が峰に入りする際、杉の穗を植える慣わしによって植栽された樹齢500年を越える杉の巨木群が行者杉の名で親しまれています。また、分水嶺の釈迦ヶ岳(844m)、大日ヶ

総面積のうち山林・原野が86%を占め、村を囲むように標高500mから900mの急峻な山地が迫り、その豊かな森から生まれる流れは大肥川となつて中央部を南へ貫流し、大分県を経て福岡県へ流れ出ます。北部にある小石原盆地からは小石原川となって西へ貫流し福岡都市圏の水瓶、江川ダムの水源となっています。これらの川は、いずれも筑後川に合流し遠く有明海へ注いでいます。



福岡県 東峰村 とうほうむら

▲日本の棚田百選：竹地区的棚田



▲小石原焼
飛びかんな大皿

▶高取焼：水差し

岳（830m）といった山々は山を神聖視し崇拝の対象とする山岳信仰に因んだものと考えられ、ふもとの岩屋神社には修験に関する遺構のほか周辺には凝灰質角礫岩などが織りなす奇岩が数多く点在し、希少な植生とともに県の天然記念物に指定され一帯は耶馬田彦山国定公園の一帯を担っています。

村の産業は、第一次産業（農林業）、第2次産業（製造業）を中心となっています。農業は、小石原盆地を除き谷あいの傾斜地に耕作面積が狭い田が規則的に集積し棚田を形成しています。古いものでは約400年前に造られていたと考えられ、まさに日本の原風景とも言える景観を呈しています。

製造業の分野では、約350年以上歴史を持ち藩の御用窯として繁栄した高取焼や小石原焼の製陶業が中心となっています。かつては世襲制で英彦山参拝の土産用德利や大型カヌ、鉢などの荒物づくりが主流でした

が、後に「用の美」を唱えた柳宗悦、バーナードリーチ（英國）らによつて全国に紹介され生活雑器へと転換し、昭和50年に伝統的工芸品に指定され独特的装飾技法を50数軒の窯元が伝統を守りながら現在に伝えていいます。

ICTを活用した地域活性化の取り組み

（1）背景

東峰村は、福岡県内で唯一ブロードバンドゼロ地域でしたが、平成18年3月、当時の麻生福岡県知事の「移動知事室」で東峰村を訪れた際に、村民がその現状を伝えたことが大きなきっかけとなり、福岡県や慶應義塾大学と連携のもと、同年11月に「東峰村活性化戦略研究会（東峰村元気プロジェクト）」を発足し、情報技術を活用した地域課題の解決に向けたリーダー育成を目標に掲げ、①住民ディレクター（映像制作プロセスを通じた総合的な企画力の養成）、②インターネット市民塾（いつでも、どこでも、だれでも講師、受講生になれる学びの共同体）、③鳶離塾（地域をテーマにした教材を活用したディスカッション教育による戦略的思考の涵養）の3つの情報化プロジェクトに取り組んできました。

平成20年3月に公設民営方式によ



▲平成25年3月から、とうほうテレビのホームページを運用

り、念願のブロードバンド（ADSL）が敷設され、これまでの取り組みを継続的・自立的なものとするため、バーチャルとリアルの関係を融合させるメディアカフェ構想を打ち出し、平成20年8月に地域SNS「トーカー Media Café」をネット上に開設し、平成21年3月に人々が集い交流を行う場「東峰メディアカフェ」を開設し、住民ディレクターや東峰オープンし、住民ディレクターや東峰そんみん塾で制作したコンテンツを登録・発信するとともに住民相互の交流促進を図つてきました。

（2）事業の目的と経緯

A DSLによりブロードバンドゼロ地域は解消されたものの、中継局からの距離により通信速度の遅速が発生しユーザー間の不公平感が生じてきたこと、加入者が増加し、中継局の許容範囲が不足してきたこと、また、平成



▲とうほうテレビの収録状況

23年7月の地デジ完全移行に伴い、村内の43%の視聴を占める共同視聴組合が地デジ対応を迫られていたことなどを踏まえ、国がコビキタスネットワークの整備を進める中、情報通信は、電気や水道と同じく生活に密着した重要なインフラ整備と位置づけ、平成22年度に村内全域を対象に、光ケーブル網を構築しました。

民が連携・協力して、親しみのある番組づくりに努めています。また通信の分野では、一ＲＵ方式により村内全域で光インターネットを利用する」とができるようになっており、現在では、全世帯の3分の1にあたる約300世帯でサービスを利用しています。また、情報通信を活用した安否確認システムを導入し、独居高齢者を行政・地域・家族が一体となつた見守りシステムを取り組んでいます。

(3) 今後の展望

情報通信の分野は日々進化し、新しいサービスが展開されていく中、住民福祉の向上、地域経済の活性化、行政サービスの効率化を図る上で、ICTの効果的な利活用が今後さらに重要になってくると思われます。村では、これまでの取り組みを踏まえ、地域ＳＮＳやケーブルテレビ事業の長期的な安定運営を図るとともに、医療、福祉、防災、教育分野など村民の生活に深く関わる様々な分野において、ＩＣＴ利活用の検討を進めてまいります。

小中一貫校「東峰学園」の開設について

(1) 背景と経過

東峰村には、町村合併以前の昭和59年に学校組合として統合された東

峰中学校と旧村ごとに小石原小学校、宝珠山小学校の2校がありました。過疎化にともなう児童数の減少が問題となり、平成18年10月に「東峰村保・小中一貫教育審議会」を設置して、この問題を審議することになり、2年半にわたり審議を重ねた結果、平成21年3月に、「小中一貫校を平成23年4月に東峰中学校の施設を増改築して開校することが望ましい」との報告書が出され、村も同報告書に沿った形で小中一貫校の開設に踏み切りました。

同年6月には、学校づくり部会、学校教育部会、広報部会、事務局会から成る小中一貫校開設準備委員会を設置し、どのような学校を建設するのかについては、学校づくり部会で協議し、住民アンケートや専門家の意見を取り入れ、平成21年12月に基本設計を、翌22年6月には、実施設計が完了し建設工事に着手しました。また同時進行で校名、校歌、校章、制服、通学路、閉校式、開校式も同部会で協議。教育目標、学校経営全般については、校長を中心とした学校教育部会で取り組み、各部会の経過報告については、広報部会でとりまとめ「広報東峰」に掲載し、各部会がスムーズに運営されるよう事務局会が連絡調整を行い、各部会で受けられた各種の提案は、開設準備会で最終的な決定として承認を得ながらの進



▲小・中一貫校 東峰学園「小学校・中学校一緒の入学式」

行となりました。平成23年2月末に校舎が完成し、3月に数度にわたる引越、統合される小学校の閉校式、そして4月に小中一貫校開校の運びとなりました。短時間の内に多くのことを協議・決定し、実行しなければならぬ非常にタイトなスケジュールの中での事業実施でした。

(2) 事業実施にあたつての課題

過疎地域にとって学校は、地域アイデンティティの要となる施設であり、学校だけは残して欲しいと云ひ地域の強じ思いがありました。しかし一方で、児童・生徒の減少によって十分な教育環境の提供が、ますます困難になつて行く状況であり、非常に難しい判断の

行になりました。平成23年2月末に校舎が完成し、3月に数度にわたる引越、峰学園開校後、いろいろな所から視察の依頼がありましたので、視察の理由をお聞きしたところ、過疎地域に限りず、多くの自治体で同じ悩みを抱えていました。人口が少ないと云ふことが分かりました。これまでどうなつていく状況の中で、これまでどおりの体制を維持していくことは、とても難しい時代となつたことを痛感させられました。

(3) 展望

小中一貫校「東峰学園」は、まだ始まりたばかりで、学校づくりはこれからが本番です。幸いなことに、この事業の推進母体であった一貫校開設準備委員会から、開校後も学園を守り育てていく組織が必要ではないかと云ひございました。児童・生徒だけでなく、学校、家庭、地域の皆さんのが一体となつて、すばらしく学校づくりを図りたいと思います。

地域資源を活かした村づくり

東峰村は年間約90万人の入り込み客数を数えています。その内、春と秋に開催する民陶むら祭には、合わせて約14万人の観光客が数日間に訪れます。その他、棚田や修験などの歴史的遺構やキャンプ場などの交流施設、ホタル

▲小石原地区皿山・小石原焼の天日干し



や湧水などの自然環境にも恵まれ、百選に指定された觀光資源も村内に点在しています。

村の觀光を支える小石原焼・高取焼は、県内の小学校で伝統工芸品の学習教材として教科書にも掲載されています。そのため小石原伝統産業会館には、年間約8,000人の児童が訪れ陶器の歴史を学び陶器づくりをとおして「技」と「人」に触れ、自分たちの普段の暮らしとの関わりなどについて学ぶ「學習の場」としても活用されています。また、年間を通じて素焼きの団に絵付けをする「絵付け体験」から

本格的な陶芸教室まで自分に合った体験メニューを選択できるなど体験型観光にも力を入れています。平成20年6月に環境省から平成の名水百選に選ばれた「岩屋湧水」は、JR口田彦山線の新迦岳トンネル(4,378m)の中央付近からトンネル掘削の際に湧き出た水で、日量15,000tの湧出量があり1年を通じて安定していることから昭和38年から村の簡易水道の水源としても利用しています。この水は硬度30度の軟水で、まろやかな口あたりからお茶、コーヒー、に適していると多くの方が水汲みに訪れるようになったことから、平成14年に無料の水汲み場をJR筑前岩屋駅前に整備したところ、一部の利用者が大量の水を汲むことによる場所の独占や路上駐車による通行の妨げなどのトラブルが地元の方と度々発生しました。そのため、自動給水機を設置し、紫外線殺菌による安心・安全な水の提供を行うと共に料化に踏みきつたところ、水汲みマナーの向上が図られトラブルを解消することができました。今後は、この湧水を更に活用した地域振興策に取組んで行きたないと考えております。

村にはJRの駅が3つあります。戦後から昭和38年頃まで村は炭坑で栄え石炭搬出のために鉄道が敷かれ坑口近くには駅が建設されました。石炭産業

の恩恵のひとつと言われる鉄道の中で県境に位置する宝珠山駅のプラットホームは3分の1が大分県に位置するため九州で唯一、県境がとある駅として知られています。

また、縦貫するJRの駅舎間には4つのめがね橋があり、その内3つが九州の近代化遺産に指定されています。年末年始にはライトアップが行われ、澄んだ夜空に浮かび上がる幻想的な姿は、まるで「銀河鉄道」を思わせると写真爱好者もその時期には多く訪れます。

棚田百選一帯は、美しい日本の歴史的風土準百選「竹地区的棚田及び岩屋神社などの山岳信仰遺跡群」にも指定されています。何でも願いが叶うとされる「玉」が宝珠石をホームは3分の1が大分県に位置するため九州で唯一、県境がとある駅として知られています。

また、縦貫するJRの駅舎間には4つのめがね橋があり、その内3つが九州の近代化遺産に指定されています。年末年始にはライトアップが行われ、澄んだ夜空に浮かび上がる幻想的な姿は、まるで「銀河鉄道」を思わせると写真爱好者もその時期には多く訪れます。

棚田百選一帯は、美しい日本の歴史的風土準百選「竹地区的棚田及び岩屋神社などの山岳信仰遺跡群」にも指定されています。何でも願いが叶うとされる「玉」が宝珠石を



おわりに

村では、先人達が自然の恵みから豊かな価値を生み出し育んできた「智」と「技」を今に継承し、地域の特性や伝統を活かし精神的にも、また経済的にも豊かさを感じることのできる満足度の高い暮らしを創造していくことを目的として「智に学び誇りの持てる村」、「技を交流に活かした豊かな村」、キーワードとして持続可能な村づくりを基本理念としています。

総務課長 泉 和隆

「食」と「器」でつながる・おとぎの里

有田町の概要

有田町は、平成18年3月に「やきもの里」有田町と「農業の里」西有田町が合併し、誕生しました。町の位置は、佐賀県の西部で、北

に伊万里市、東に武雄市、県境を挟み西は長崎県佐世保市、南は長崎県波佐見町と接しています。これら周辺都市部とは直線距離にして、伊万里市8km、佐世保市15km、佐賀市40kmのところにあり、町の東西を、JR佐世保線が横断し、佐賀まで40分、博多までは80分で行けます。

道路交通では県内主要幹線である国道35号線が東西に横断し、伊万里、唐津、福岡都市圏へ伸びる国道202号線が南北に縦断しているほか、北部に国道498号線が通っています。波佐見町との境に西九州自動車道・波佐見有田ICがあるので、長崎自動車道、九州自動車道を利用すれば福岡までは80分で行くことができます。また、福岡空港・佐賀空港までは車で70分、長崎空港までは40分と、主要都市・施設からも利便性の高い交通環境にあります。

▲棚田の風景

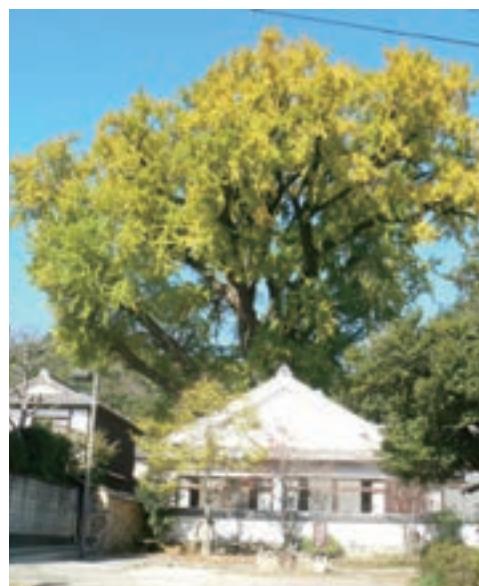


有田町は、面積65・8km²のうち、約



佐賀県 有田町 ありたちょう

▲100万人で賑わう有田陶器市



燃料となる松の木が豊富であったことや地形的な条件の良さなどから急速に発展を遂げました。

1650年頃にはヨーロッパに輸出するまでに至り、マイセンやセーブル等の世界の陶磁器産業に大きな影響を与えました。

田焼を取り巻く環境は伝統産業存続に危機的な状況にあります。販売に至る分業体制を確立し、91年のピーク時には2500億円を売り上げるまでの地場産業として発展しました。しかし、その後のバブル崩壊の波が、例外なく産地にも大きく及び、旅館・飲食店関係との大規模取引の減少、安価な輸入品の流入やライフスタイルの変化などにより、売上はピーク時の4分の1まで落ち込みました。現在では、窯元の従業員も半減するなど、有田焼を取り巻く環境は伝統産業存続に危機的な状況にあります。

農業に関する現状

有田町の農業は、水稻が主要な作物ですが、肉用牛やブロイラーの飼育

も盛んで、特に肉用牛は「佐賀牛」として関西や関東方面に出荷され、好評を得ています。また、山の地形を利用したぶどう（日峰）やみかん・茶の葉、

平野部では玉葱や大豆が昔から栽培されてきました。最近ではアスパラや金柑などのハウス栽培も盛んになつてお

り、多様な生産が行われています。しかし、やはり他の中山間地域同様、農業従事者の高齢化と農産物の価格低迷などによる後継者の減少、農業

連山など豊かな自然に恵まれ、観光資源は豊富に揃っています。

町には、有田の歴史を語る上で外すこときれない国指定史跡である「泉山磁石場」や高さが40mもある樹齢千年の国指定天然記念物の大公孫樹（おおごじょ）つ）、登り窯の廃材などを利用（現代風に言い換えればリサイクル）して作られた堀「トンバイ堀」、磁器製の鳥居と狛犬がある陶山神社などがあり、「やきものの町」なりでの風情に触れることができます。ついで、日本の棚田百選に選ばれた「岳

やきものの産業の現状

有田町は、1616年、朝鮮人陶工李參平により、有田泉州で陶磁器の原料となる陶石が発見され、日本での風情に触れることが出来ます。ついで、日本の棚田百選に選ばれた「岳



▲磁器製の鳥居と狛犬がある陶山神社

有田町は、1616年、朝鮮人陶工李參平により、有田泉州で陶磁器の原料となる陶石が発見され、日本での風情に触れることが出来ます。ついで、日本の棚田百選に選ばれた「岳

のグローバル化により、有田町の農業を取り巻く環境も大変厳しい状況に置かれています。

「食」と「器」の二つの危機を利用した地域活性化

二つの産業が危機的状況であることをかり、各自だけで再生を図るではなく、互いの相乗効果による地域活性化策として、【食】と【器】の地域づくりをテーマにし、有田町に多数の人々が集う交流観光の場を形成することを考えました。そこでのごだわりの食と器の販売を、陶磁器と農業生産額の確保につなげ、さらに後継者育成という流れを生みだし、有田町の再生を図っていこうとしたのです。

平成20・21年度と国からの「地方の元気再生事業」の補助を受け、有田町地域活性化協議会を事業主体に九州農政局と連携を取りながら、この事業の実施にあたりました。

町屋でのおもてなし事業とICTを活用した情報の発信による集客

これまでの有田町は窯業・農業とともに生産を中心であったため、町を訪

れる人への対応が十分ではなく、各種の地域資源・観光資源は数多くあるにも関わらず、4月29日から5月5日の

有田陶器市以外の観光客は少ない状況でした。しかし、有田を訪れる人に、提供方法を工夫すれば、四季を通じた交流人口・観光客増大の可能性を有していました。

そこで、有田を訪れる観光客などに対し、有田の窯元や農家が有田の特色である食と高感度の高い食器を用いて町屋でもてなす事業を展開していくと同時に、ICT等を活用し、情報の発信をするなどしました。

その波及効果として、有田陶器市以外の期間で観光客を集め、

○有田の魅力を再認識してもらう行事での通年観光

○有田の和牛や棚田米等のごだわりの食材の各流通販売チャンネルの拡大

○もてなしの食にマッチした有田焼デザインによる陶磁器新商品の開発の意識付け
○観光客への販売による産地活性化を目指しました。

（具体的な取り組み）

取組① もてなしの食材づくり

プレハブの販売所「あじさい村」を設置して、こだわりの食材を利用して加工食品の試食・販売。また、ピザやそば打ち研修などの人材育成。

特に加工品の開発では、佐賀大学の指導により有田産鶏の燻製、金柑ゼリー、金柑もちなどをつくり、生産から販売までのシステムを確立。

特に加工品の開発では、佐賀大学の指導により有田産鶏の燻製、金柑ゼリー、金柑もちなどをつくり、生産から販売までのシステムを確立。

取組② もてなしの場づくり



▲11月のおくんちご膳(小路庵)
〔あじさい村〕

取組③ 有田通年観光体制の整備

▶加工食品などを販売実験している
「あじさい村」

江戸・明治・大正・昭和の各時代

を代表する町屋が連なつてゐる地区（1991年に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定）を中心に、観光客への滞在時間の拡大を図ると共に、街中の散策を楽しんでもらいための「裏路地ルートマップ」の作成。



また、有田町内の各種催事のポスター・チラシの作成、旅行雑誌への掲載、首都圏での記者発表など集客のための情報発信のほか、やきもの体験と近辺宿泊施設を組み合わせた旅行商品の開発。

取組④ 持続的な推進体制の整備

観光振興事業推進拠点である有田観光情報センターによる観光情報の収集・発信の一元化管理。

また新「有田ブリュンデ」の確立と認知度アップを図るため、有田町の観光、地域と人々の魅力を紹介するホームページ「ありたさんぽ」を開設。日本語および英語・韓国語での、国内外へ向けての情報発信。

（ありたさんぽのアドレスは<http://www.arita.jp>）

これから展開へ

「食」と「器」のまちづくりを継続的に実施するための人材育成や組織の設立ができ、交流型観光を核とした地域づくりの推進体制が整備できました。今後は現在の活動を継続し、更なるステップ（体験・民泊を取り入れた有田型ツーリズムの構築）を目指していく予定です。

は有田町地域活性化協議会の事務局として、会議の調整、連絡会計業務等を担当し、実施しました。

▲町屋を改修したおもてなしの場

（1991年に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定）

（1991年国選定）

▶「重要伝統的建造物群保存地区」
（1991年国選定）

平成19年度に策定した地域活性化プラン「食と器」の策定委員会のメンバーを主体に、有田の魅力発信のため東京で活動するメンバー（情報技術活用、町屋等の不動産再生、映像技術等）を加え、地元大学や高校、各種研究機関などの協力も得て「有田地域活性化協議会」を組織し、事業実施体制を整備しました。

このことにより有田町内の窯業関連の商工業、農業、まちづくり団体、女性団体等のほとんどを網羅した実施体制で取り組みました。なお、有田町

実施体制

平成19年度に策定した地域活性化プラン「食と器」の策定委員会のメンバーを主体に、有田の魅力発信のため東京で活動するメンバー（情報技術

官民協働の体制確立へ

また平成22年度からは官民協働で地元経済の立て直しを図る「総合経済対策会議」を発足しました。これまで行政主導による対策が実施されてきましたが、今回は窯業、農業、観光といつた業界からの声をより反映できる民間主導の体制、トップダウンからボトムアップ方式による政策の構築を図る組織運営になっています。

各業界から選ばれた委員の方々で、これまでにかけて有田を元気のある活気づいた町にしたい」と会議を重ね、様々な意見・要望が出されています。

有田焼創業400年

即座に取り掛かれる事業については23年度から実施し、地元経済の再生に取り組んでいきます。



大豆焼酎「嘉島」誕生 — 嘉島大豆をブランド化 —

ゆたかさ実感!
水の郷——嘉島——

「水の郷」かしまは、昭和30年に六嘉村と大島村が合併し、嘉島村となり、同44年に町制を施行した東西に9・8km、南北に3・9km、面積16・66平方



▲公園化された湧水池でのんびりと釣りをする人と水鳥たち

kmの熊本市の南部に位置している町である。

熊本平野に属した海拔5~8mほどの平坦な水田地帯で、東地区の一部に丘陵地帯があり、四方を緑川、加勢川、矢形川に囲まれている。

大地の裾野を中心には蘇の伏流水といわれる湧水群があり、県下で初めて「水の郷」に認定された。

1日に13万トンの湧水量をほこり、水温は年間を通して18度といふことで、鯉や鮎、鰻、ハエ、エビと魚類も多く、魚つりも楽しめる。冬場は水鳥が飛来する約3haの広さを持つ「浮島さん」をはじめとして、一大湧水群を形成しております。公園化も進み、四季を通じて憩いの場として町内外から多くの人で賑わいを見せている。平成の名水百選にも「六嘉湧水群・浮島」が選定された。

文化遺産としては、5世紀頃のとされる国の重要文化財指定の装飾古墳「井寺古墳」をはじめ、県の重要



熊本県 嘉島町 かしままち

▲1日の湧水量13万トン、年間の水温18度、水の郷かしまのシンボル「浮島さん」

無形民俗文化財の「六嘉の獅子舞」(勇壮な獅子舞や牡丹の花が舞つ「タナ登り」)が見どころ)、手足の神様として深い信仰を集める「足手荒神」などがある。

本町は、周囲を河川に囲まれていて、かつては水害の常襲地帯であり、町の発展に大きな妨げになっていたが、平成11年に長年の懸念であった加勢川の河川改修が概ね完成し、町土の自然災害に対する治水安全度が高まった。



▲六嘉の獅子舞
五穀豊穣を願って先輩から後輩へと受け継がれていく

さらに、熊本都市圏の都市機能の一翼を担い、農業・流通・工業等の面で熊本市を補完する役割も果たし、就業機会や文化・医療施設利用

など都市的な利便性とともに、九州縦貫自動車道御船インター、エンジに近く、交通アクセスの利便性にも恵まれている。

圃場整備された農地を利用した農業中心の町から、近年、ビール・清涼飲料工場や大型商業施設が進出し、農業と商工業のバランスの取れた町となっている。

「フクユタカ」を使った特産品焼酎「嘉島」が誕生!

本町の基幹産業である農業は、米・麦を基幹作物としているが、農家の減少、農業従事者の高齢化が進むなか、集落営農を支える核として若手営農者を中心とする認定農業者や営農組織の育成を図り、水や農耕に適した土地活用を活かした経営の安定・規模拡大を目指している。

転作作物としている大豆は、都市近郊でありながら、圃場整備済みの水田で土地利用型農業を展開し、米の転作作物として地域輪作による転作大豆の団地化に取り組み、集団化した大豆栽培面積は県内最大規模となっている。豊かで清冽な水とその水で育まれた良質な大豆「フクユタカ」を使った



▲ブロックローテーションにより整然と植られた大豆

本町の特産品として、大豆焼酎の調査開発に取り組み、一般公募した中から「嘉島」というネーミングで、平成21年の4月末に発売、初年度としては限定2千本を販売する運びとなつた。本町は、湧水や表流水に恵まれ農耕に適した平坦な土地を活用し、安全で安心できる農産物の米、麦、大豆のほかイチゴ、トマトなどの作物を生産しているが、この農産物に付加価値をつけた加工・販売までは至つておらず、加工した町の特産品もなかつたところから、大豆を使った特産品づくりを目的として大豆焼酎の開発に着手した。

原料の大豆については、嘉島町で生産された大豆が全て農協に出荷され、原料の大豆については、嘉島町で生産された大豆が全て農協と交渉し、酒造メーカーへの持ち込みを委託するとともに、酒造会社についても選定を行い、熊本県球磨郡の酒造メーカーにお願いした。

販売については、地方自治体では小売業免許の取得ができないために、販売が可能な町内のショッピングセンターや酒店、コンビニエンスストアと

交渉し、酒造メーカーから直接仕入れ販売してもらつた」とした。

大豆焼酎のネーミングについて

町の広報誌及びホームページ・新聞に掲載し、広く一般から公募した。結果、県内各地から195件の応募があり、名称選定会議で、町のPRにつながるとして大豆焼酎「嘉島」に決定。ビンの種類も決まり、命名者の表彰や大豆焼酎の目印になる「背景が緑ひろがる大豆畑」をラベルに決定して町の特産品として大豆焼酎「嘉島」を商品化した。

地域活性化は、全国的に珍しい大豆焼酎で

恵まれた土地基盤で営む大豆については、農業経営の効率化の一つとして、同一品種を栽培し、農地を集積して団地化を図り、良質な大豆の生産に努めており、熊本県内第2位の作付面積・生産量を誇っている。

また、平成19年7月に中小企業地域資源活用促進法に基づき、県が国の方針に従い、地域産業の創出の核となり得る地域資源として本町の大豆も特定されている。

今回、数少ない農産物の特産品である大豆を使用し、更なる地域振興及



▲全国でも珍しい大豆焼酎「嘉島」

全国的に珍しい大豆を使った焼酎は、本町の新しい名物とすることことができた。

大豆焼酎「嘉島」の売れ行きが好

評のために平成22年度は前年度の倍の4千本を製造することとした。

町としても今後の醸造計画については、たとえば季節による品切れを防ぐ手段はないか、嘉島の最大の資源といえる水を活用できないか、醸造する適正量の再検討などを醸造元と緊密に連携するとともに、関係機関とも連携しながら継続できるよう嘉島の特產品の伸長を図つていただきたい。

関係機関との連携で大豆の商品の開発を目指す

画して全国的に珍しい大豆をつかつた焼酎を開発し、本町の新しい名物にと考えた。

また、大豆生産農家の女性で組織されてる「水の郷加工グループ」があり、自家製の大豆を使った饅頭やマフィンなどの商品を開発され、「ふるさと食の名人」の認定も受け、活動されている。

今後においては、生産農家、組織や団体等と行政が連携しながら、湧水・表流水を活かした土地活用を行い、安全で安心できる農産物の生産と付加価値のある加工食品の製造販売や特產品づくりを図りながら、地域の特性を活かして経済効果を高めるために、町民を巻き込んでのアイディア等を募集して、新たな商品の開発を目指し、努力する必要がある。

商工会女性部が起業 ～「大豆工房かしま」～

町商工会では、企業誘致や大型ショッピングセンターの出店により来町者の数が急激に増加、町の人口も増え傾向にある中、これらの環境を地域の経済に波及させる仕組みづくりが求められ、商工会の女性部が中心となつて、熊本県内でも有数の収穫量を誇り、栽培技術が高く品質の良い嘉島大豆を活用した商品開発に取り組むことになった。

取り組みの内容及び商工会の支援として、熊本県の補助事業や全国展開支援事業により、地場産業の第6次産業化、地域経済の活性化、地域ブランドの確立を目指し、商品開発の手法導入等により、23種類に及ぶ試作品が完成した。

また、メディアを通してのアイディア収集と事業紹介により、嘉島町での大豆の取り組みが認知された。

この嘉島大豆を利用して、「商工会女性部メンバー10名が、嘉島大豆を中心とした商品開発を目的に、嘉島町なりではの逸品を開発したい。嘉

▲商工会女性部が開発した安全・安心で、
なおかつおいしい大豆商品



県が実施した「農商工連携百選」に選定され、熊本県商工会連合会が実施した「首都圏流通関係者が発掘した一品55選」に認定されている。

今後は、主原料である嘉島産大豆は市場に出回らなければならないため、農協から直接確保する必要があるが、大豆は産地づくり助成金の対象で制度が廃止となつた場合に備えて、生産者からの調達も含めて、生産者を維持するためにも嘉島大豆のブランド化を早急に図ること共に、食の安全がより重要な問題になってきた今日、消費者の安全な食生活にも大きく寄与することを期待している。

島町を町外に強くアピールできる特産品をつくりたい。」そんな思いを実現するため、製造販売を手掛ける「株式会社 大豆工房かしま」を設立して食品製造業、販売の許可を受け、通信販売等の販路開拓も進めてくるといひであり、商工会から起業する例は全国的にも珍しく期待を集めている。

開発された食品は卵を一切使わず、材料にこだわり、低コレステロールの健康志向の強い商品に仕上がり、大ヒットレッジング「畑の貴婦人」は熊本

都市を目指している。

自然豊かな郷づくりでは、湧水や河川、地下水の恵みとともにあつた本町の歴史を尊び、また未来に受け渡す財産として守り育み、水だけでなく田園等の自然的環境を暮らしや生産の基盤として、自然の豊かさ、恵みをあげてやる郷づくりを進めている。そこである。

暮りしの場、豊かな郷づくりとして、安全で安心できる暮らしのために、より一層の危機管理と災害への備えを進め、いにしへ豊かな郷づくりでは、地域での相互の助け合い、子供やお年寄りを見守る温かさが、心のゆたかさに

とや伝統生活文化の継承にとても重要で、安全安心な食料生産と効率的な生産のしくみづくりを進め、工業・商業・流通等においても、熊本市に近いことや九州横断自動車道延岡ルートの整備等の立地特性を活かす産業振興を図り、経済的にもより豊かなまちづくりを進めている。

あずな豊かな郷づくりでは、まちづくりや地域活動に住民と行政が連携して役割を發揮していただけるようには様々な情報を共有できる仕組みを進めている。

以上のように、心の豊かさ・自然の豊かさとともに経済や暮らしの豊かさを大切に充実させ、「真の豊かさ」を実感できる暮らしの実現にむけて邁進している。

企画情報課 下田 弘美

▶水の浄化と環境学習を学ぶ子どもたち



(平成22年5月24日付第2720号)

個性と知恵と協働で創造する 豊かなまちづくり

—自然と文化と温泉のまち—

はじめに、さつま町の簡単な地勢と特性を紹介いたします。

自然を満喫できる町

さつま町は、平成17年3月に旧宮之城町・鶴田町・薩摩町の3町が合併して誕生した山紫水明の静かな町です。現在の人口は24,109人（平成22年国調）で、鹿児島県の北西部、鹿児島市から約50kmに位置し、周囲を山々に囲まれた盆地で面積は303.43km²、町のほぼ中心を南九州一の大河である「川内川」が貫流しています。

社会基盤では、主要都市に通じる国道267号、328号、504号が市街地を中心として放射状に整備されており、更に現在、504号についてては、空港にアクセスする地域高規格道路としても整備が進められています。観光としては、町内各地に湧き出る温泉で癒される湯の町としても知ら

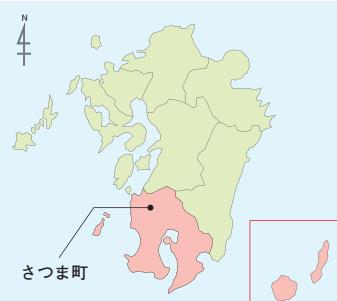
れ、また、豊富な緑と水を活かした「県立北薩広域公園」「観音滝公園」は、県内外のお客で賑わっており、その他、ホテル・ゴルフ場を備えた滞在リゾート施設もあります。

豊富な温泉で心が癒される町

宮之城温泉、紫尾温泉、観音滝温泉をはじめ、健康増進施設など21カ所もの温泉施設があり泉質が良く、歴史のある温泉のまちとして名聲を誇っています。

なかでも、紫尾神社拝殿下に源泉をもつことから、「神の湯」の名を持つ紫尾温泉は地域の人々や町内外の多くの方々にも愛されています。

毎年5月下旬になると地区内にホタルが飛び交い、幻想的な光景を露天風呂から眺められるのも魅力のひとつで観光客に人気のスポットです。



鹿児島県 さつま町

▲大石神社秋季大祭 兵児踊り

術、伝統芸能などを組み合わせた複合的交流環境も整っており、温泉施設を

核に、川内川を活用したホタル舟の運航など数多くのイベントや観光公園、

観光農園、体験農業など、グリーン・ツーリズムの滞在型交流人口の増加に向けた取り組みを進めています。



▲紫尾神社

◀ 桜野ひがん花祭り

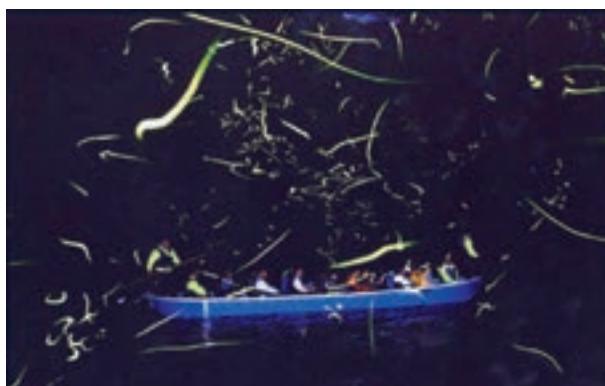
受賞しました。なお、ホタル舟の運航は、町内2ヶ所で行っており、それ以外の地区でも鑑賞できます。

平成18年7月の豪雨災害でホタルが激減しましたが、現在では地元住民の方々やボランティアスタッフの懸命な努力により、徐々にホタルたちが最盛時に近づいています。

自然を活かした手づくりイベント

先ず「奥薩摩のホタル舟」について紹介いたします。

奥薩摩のホタル舟運航が始まったきっかけは、地元新聞に川内川の岸辺でホタルが乱舞する模様が掲載され、



▲奥薩摩のホタル舟



みなさんも、川内川中流域を棹さしによる舟でゆっくりと川下りを満喫しながら、両岸に飛び交つたくさんのホタルの光の乱舞を鑑賞できます。その光景は幻想的で別世界にいるような気分になります。

是非のお越しを！

異文化の導入と新たな交流の創造

合併以前の旧鶴田町が、青森県鶴田町(つるたまち)と全国に一つしか

ないという同町名の縁から平成9年8月姉妹都市盟約を結び、「鶴の架け橋交流」という名称で「五つ太鼓」伝承イベントとして定着しています。

ふれあい体験できるまち

本町には、県立北薩広域公園や鶴田ダム、観音滝公園などレクリエーション施設も充実し、歴史、文化、芸

町内の各地域には、川内川や森林、温泉、ホタル等の優れた地域資源を活用したイベントや伝統行事など様々な取り組みが盛んに行われています。特に地域住民による手づくりのイベントは地域の自然、特色を十分に生かした

これを観光資源として活かせないかと地元の有志が立ち上がり、実行委員会組織を立ち上げたのが始まりです。当実行委員会のコンセプトは、行政に経済的な援助は求めず、地元の観光資源を最大限に活用し、ボランティアスタッフで運営するところなのです。

平成14年から始まったホタル舟の運航で、乗船者数は延べ1万7千人、運航期間中の乗船者数も平均2千人を超え、地元旅館への宿泊者数も増加するなど経済効果とイメージアップに繋がっています。平成15年度には鹿児島県表彰(観光まち)によるおもてなし表彰を受けたなど、「自然を活かした手づくりイベント」の活動が評価され

合併後は、新町さつま町となつたため行政同士の交流は数年止まった状況にありましたが、さつま町が平成22

と南国の交流などを平成17年3月の合併まで行っていました。

ため行政同士の交流は数年止まった状況にありましたが、さつま町が平成22

年度に合併5周年を迎えたことと、平成23年3月新幹線で鹿児島・青森間が繋がることを記念して、青森県鶴田町（つるたまち）から伝統芸能の「ねぶた」を贈っていただきました。

◇異文化で町に元気を！

全国的にも名高い「ねぶた」をさつま町夏祭りやイベント等で活用する上で、地域の元気再生の起爆剤にできないか。また、九州新幹線の開業により青森と鹿児島が線路で繋がり記念すべき新幹線開業と交流人口の呼び込みにより、情報発信と地域活性化に大きく貢献するものと確信いたしました。

さつま町も、貴重な郷土芸能を有効に活用するため、関係団体や町民と受け入れ態勢の整備を図りながら、双方の町民が喜んでもらえる演出方法を検討し、5周年記念式典と郷土芸能発



町の元気は地域から

地域活動支援（地域元気再生）事業は、合併前の平成13年、旧宮之城町が町内13地区（区公民館）自らがそれぞれ地域の特性に応じた特色ある地域づくりを進めるために作成した地域計画に基づき、地域の活性化のための人づくりやソフト事業に対し補助金を交付し、特色ある地域づくりを行うことを目的として創設しました。

その後、平成18年度から22年度までの5カ年間を合併後的第一計画期間として取り組み、平成23年度からは、新たな事業として「さつま町地域元気再生事業」を始めることになりました。

内容としては、新たな地域づくり活性化計画を実現する方策として、地域活性化型事業（区公民館）は50万円を限度として支援します。また、提案

公募型事業として公民会並びに公共的団体、NPO、ボランティア団体等へ20万円を限度として支援するなどにしています。このことにより、地域の活性化対策や創造的・独創的な取組みを支援し、共生・協働のまちづくりを支援し、なお一層地域の元気を再生していくと考えています。

企業立地の推進による雇用の創出

◇工業を根付かせ、活性化し続ける仕組みづくり

運行後には、さつま町民から「北



▲高齢者いきいきふれあいサロン



◀ねぶたの練り歩き

◇町民に新たな感動を！

にわたり街を練り歩きました。沿道には、約4千人の見物客が訪れ、笛や太鼓のにぎやかな響きと「ラッセラー、ラッセラー」の掛け声とともに跳ね踊る人たちと見物客が一体となつて大きく盛り上がりました。

運行後には、さつま町民から「北

が、平成19年度に「さつま町ものづくり企業振興会（会員企業17社）」を設立し、金属・機械製品製造業を展開している立地企業を対象としながら情報交換やニーズの提供を行っています。具体的な取り組みとしては、県内外の優良企業への企業訪問研修のほか、県内他異業種企業との交流会、近隣の高校等12校の進路（就職）指導教諭との意見交換会を開催するとともに会員企業を訪問し、高校生の就職希望状況や企業が求める人材像について活発な意見交換を行っており、これらの活動により企業間並びに関係機関の連携が深まるとともに、企業間の相互研修が地域の雇用創出や活性化を促すことが期待されています。

△三者が連携した 担い手の育成

◇将来を託す担い手づくり

さつま町の農家戸数は10年間で653戸（17%）減少し、65歳以上の農業従事者が70%に達し、耕作放棄地も45haと増加しています。このため、地域農業と集落を守るために効率的且つ継続的な當農が不可欠であるということから、将来を託す担い手づくりを進めるため平成18年

度に「担い手育成支援室」を設置し、「認定農業者の確保と育成」及び「集落宮農の推進と組織化（法人化含む）」を具体的な取り組みとしては、県内外の優良企業への企業訪問研修のほか、県内他異業種企業との交流会、近隣の高校等12校の進路（就職）指導教諭との意見交換会を開催するとともに会員企業を訪問し、高校生の就職希望状況や企業が求める人材像について活発な意見交換を行っており、これら活動により企業間並びに関係機関の連携が深まるとともに、企業間の相互研修が地域の雇用創出や活性化を促すことが期待されています。

△町・JA・県ワンフロアで 担い手づくり

平成18年度から4年間、町とJAが役場庁舎内でワンフロア化を実施。平成22年度から新たに県を加え、平成24年度までの協定を結び、集落宮農を含めた担い手育成ワンストップ機能と体制の強化を図っています。町職員4人、JA職員4人、県職員4人の体制で、三者が同フロアで業務にあたるのは県内での取り組みとなっています。

効果として、三者の機能を活かすことじで、制度、技術、経営及び情報提供面で高度で具体的な指導と支援が可能になりました。このため、特に新規就農者及び認定農業者の巡回訪問等支援の強化と拡充を図り、円滑な就業と経営改善の達成に向けて共に取り組んでいます。

△持続可能な農業・ 農村の環境づくり

農村地域であっても主産業は第2・3次産業が多くを占めています。しかしながら、大半が兼業農家であることから、現状に即した農業・農村の構造改革が求められています。今後も認定農業者等専業農家を中心に集落宮農を含む地域農業の担い手を確保し、共生・協働の体制とシステムを構築することで、農業・農村の維持・存続に繋がればと願っています。

また、県内の町の規模からして認定農業者233経営体、集落宮農（特

度に「担い手育成支援室」を設置し、「認定農業者の確保と育成」及び「集落宮農の推進と組織化（法人化含む）」を具体的な取り組みとしては、県内外の優良企業への企業訪問研修のほか、県内他異業種企業との交流会、近隣の高校等12校の進路（就職）指導教諭との意見交換会を開催するとともに会員企業を訪問し、高校生の就職希望状況や企業が求める人材像について活発な意見交換を行っており、これら活動により企業間並びに関係機関の連携が深まるとともに、企業間の相互研修が地域の雇用創出や活性化を促すことが期待されています。

▲集落宮農甘諸収穫



地元商店街に活力を

「さつま百縁祭」とは、「お客様との信頼関係を築く」との想いから、商店街の有志が立ち上がり平成19年12月の暮市から始まりました。これまでも商店街振興のため、プレミアム付商品券発行や店舗改造等の助成を行っています。最後になりましたが、是非「さつま町」にお越しいただきたいたいと思います。

さつま町 総務課 上野 俊市
(平成23年2月21日付第2750号)



▲百縁祭

島への移住支援に求められること

—サポセンの取組—

種子島U・ーターンサポートセンターとは

種子島U・ーターンサポートセンター（以下、サポセンと呼称）の事務局がある鹿児島県南種子島町は、サーファーのメッカである大隅諸島の一つ、種子島の南端に位置し、種子島宇宙センターがあることでも知られおり、町への移住・定住者は年間100人ほどになっている。サポセンとはその名称どおり種子島への定住を促進する活動を行う民間任意団体で、スタッフの中心が移住者で占められているのが特徴である。相談にきた人は、個別対応でとことん面倒を見る、その人が地元にとけ込めるよう、あらゆる方面からサポートするというのが、サポセンのやり方で、着実に成果を上げている。平成15年5月開設からの8年間を振り返ることで、成功の秘訣が見えてくる。

移住を決意させる理由から考えてみると

サポセンは平成15年以降、種子島へ移り住む人々への支援を行ってきた。初期の目的及び活動内容は、住宅の貸し借りにおけるトラブルの防止や下見などの際の円滑な情報収集のための関係者紹介等を行う情報提供であった。具体的に言えば、借り主が又貸しを行ったり、長期に渡って家賃を滞納したり、「反対に家主が借り主に改装費を負担させ、改装が終わり次第追い出したりするといった事例が続いたため、その防止策として、借り主になる移住者には注意喚起を、家主になる地元住民には賃貸契約を交わすように強く勧めるなどの活動である。

さるに本土から種子島へ移り住もうとする人たちが「移住」という行為を思ついた理由についても考えてみ



鹿児島県 南種子町 みなみたねちょう

▲シーカヤック体験会



◆種子島宇宙センター

ることにした。例えば都市部などに住んでいた人がなぜ遠くの地方へ移り住もうとするのか、そこに何らかの理由があるのだ。

そこで種子島への移住を希望する人たちからの電子メールによる問い合わせのやつとりや、下見に来てもうひとつ時の面談時を利用して聞き取り調査を行った。

理由は、メテイアで取り上げられた写真や文章が綺麗な風景や癒しを感じさせるような文章であるからだ。が、自然を感じて暮りたい」や「自然の多い地域で子どもを育てたい」、「田舎でのんびり暮りしたい」、「毎日サーフィンを楽しみたい」などに分類された。もちろんこれらは理由も全くの無意味という訳ではなく、これはこれで彼らの希望の一画面であることは確かである。

従って、これらの要望に添うような移住後の計画例を示すとして、より具体的な、より詳細な移住計画が作られるよう支援してきた。しかし、これだけでは解決できない問題が残ったのである。転入の数自体は増やせるものの、家主や職場、近隣の人々とのトラブルなどから、元の地へ戻るケースも数件に一件の割合で発生した。相談内容が深くなつた時点や移住後の相談時ににおける転入者本人の経済的な事情、移住以前の仕事の様子や家族・友人たとの付き合いなどの聞き取りや移住後に周囲の人々との付き合い方、話し方などを観察すると、他人との付き合い方、交渉の方法などにおいて、思慮が足りない、拙いとみられる場合が頻

に行つた。建前とも言つべき表面上の理由は、メテイアで取り上げられた写真や文章が綺麗な風景や癒しを感じさせることに也有るが、自然を感じて暮りたい」とにも成りかねない行為であるから、よほど事情がないと遠く離れた地への移住を決意するとは考へにくく、その主な原因であろう対人関係を悪化させた事情を考えてみると、本人の考え方や性格に起因するものが大半であるが、共通項のひとつにはやはり経済的な問題も感じられる。

繁に感じられた。

職場を急に辞めてみたり、簡単に前言を翻したり、世話をになつた人にも何も伝えず転職や引っ越しをしてみたり、役場に見当違いなクレームを持ち込んだりと、自分の行為や言動が周囲の人々にどのような影響を与えるのか想像できていない場合が目立つ。つまり「サーフィンを楽しみたい」あまり「サーフィンを楽しみたい」あれば「自然に囲まれて生活したい」などといふような願望以前に、住んでいた地を離れたい、もしくは居られないと感じたことなどが垣間見える。この核心

を行つた。建前とも言つべき表面上の理由は、メテイアで取り上げられた写真や文章が綺麗な風景や癒しを感じさせることに也有るが、自然を感じて暮りたい」とにも成りかねない行為であるから、よほど事情がないと遠く離れた地への移住を決意するとは考へにくく、その主な原因であろう対人関係を悪化させた事情を考えてみると、本人の考え方や性格に起因するものが大半であるが、共通項のひとつにはやはり経済的な問題も感じられる。

◆海上から島を観察



定住支援のポイントとは 貯金可能な就業支援

このため、平成20年度からは、新規転入者に積立貯金を強く勧めるようにしてみたり、家賃や給食費、税金などの滞納が減少しただけでなく、周囲の人々とのトラブルもほとんじ聞かなくなつた。「2~3年間の積立貯金を経て、空き住宅や宅地を購入し、自分の不動産を持ちましょ」と、半ば強制の如く感じさせのほどに強く勧めただけで、転入者が未来に希望を持ち、良い結果に繋がつたのではないかと感じた。 (種子島では、積立貯金を経て住

ば良いのかが重要なポイントではないかと考えた。

家族や親戚、先輩・後輩や同僚、友人たちとの交際を全て絶ち切つてしまつては、その主な原因であろう対人関係を悪化させた事情を考えてみると、本人の考え方や性格に起因するものが大半であるが、共通項のひとつにはやはり経済的な問題も感じられる。

宅建設や古屋の購入・改築に至つてい
るケースが既に数件でござる。)

だとすれば、定住支援で一つの重要なポイントは、積立貯金を可能にさせるより、仕事に就かせることと聞えただろ。自営業を開業できるような人は別としても、多くの場合でどこかの職場に就く必要がある。種子島も過疎地の一つであり職場の数も規模も都市部に比べて小さいので、就職が難しいものの、それでも人手不足で悩んでいる業界、あるいは人手が確保できるのなら規模の拡大も可能な業界もある。転入者にとっての本業となる就職が必



これから地域での仕事を覚えるにも経験とやる気、定着の必然性のバランスが良いようだ。相談を進める時点から、転入希望者自身のためにも無謀な計画や甘い見通しを許さないよに留意すれば、自然と30代有児家庭が多くなるように感じている。

中高年の転入者では、経験はある
ても、やる気がなかつたり協調性がな
かつたりする場合もよくみられるが、
あまりに若いと即戦力としては役に立
ちにくい。一方、30代夫婦で小さな子
供がいる家庭は、地域の自治会活動や
PTA活動、子供も同士の繋がりなど
もあって、地域にも定着しやすくな
る。

重要なことはもちろんあるが、サボセントでは、家庭として副業を持つようにも勧めている。大きめの家庭菜園や業務としての栽培・飼養や手芸、ホームページなどを利用した地域の情報発信や地域へ観光客を呼び込むような新しいレジャーガイドショップも出来たこれらを本業の妨げになりない範囲でチャレンジ・継続することで周囲の人々や金融機関などからの信頼度を高め、さらに周囲の人々との様々な関係を密にしていきたい、転入者としての地域での立場をより早く確たるものにするよつ話している。



就業支援は、まず転入者
自身の意識改革から

い労働力不足に悩む定置網漁の事業者や、事業や接客が出来る人物なら雇用したことの販売店など、地域の業界について事前によく調べておくと、どの業界のどの事業所で高齢化しているとか後継者がいないとか、あるいは人手が確保できれば規模を大きく出来そうだ

就職先の話しに戻ると、まずはそ
うじつた業界の情報を担当者が熟知し
関係者との連携を図つておく必要があ
る。事業所からの募集を待つていても
始まらない。例として、医師や看護師
介護士、整備士など、あるいは人手が
確保できるなら飼育する牛の頭数や舗
場の面積を増やしたことの農家、若

就業支援は、あくまでも転入者自身に「仕事を得る力」を身につけさせることが肝要である。したがって、転入者へは「転入時に手配する職は、当面の生活を支えるためのアルバイトでその後の職は、田舎す業界の人たちや周囲の人々、金融機関などからしつか

とかを把握しておける。更に、そのじつ
た事業所の人々に定住促進を理解して
おいてもらえるので、必要な情報をも
ひらめく可能性も高まるだのう。

◆シーカヤックで海上洞窟◆



つ争いで、自身で考えながら、自力で得るよつこ」と話している。転入者に住宅の賃貸や不動産の売買、就職などに優遇すると、周囲の人々との関係にも影響し、転入者自身のためにもなりなじつえ、地域としても、援助していくないと足りないような人物ばかりが集まつても困るだらうと考えたからである。この転入者への優遇という点においては、現実には町役場や議員の方たちとは意見の一一致を得られていなじ。



種子島の西之表市にあるサー

ファーリ連盟の初代会長の「移住してき

たサーファーは弟妹やねん。そやから悪い口トしたり怒るだ」という言葉

かりは、おれに余裕じての覚悟やこ

れまでの苦労が窺える。「このじつた人

物が各町村におられるなり、せひとも

定住促進を担当していただきた」。

「この町のためにも一定規模の書店が必要だかい」と踏ん張る書店主もいるし、「業態転換しても雇用を守りたい」と考える事業主も少なからずいる。高尚な志までは表現しなくとも、「外から人を呼び込んで販売を増やしたい」と考える商店主たちも心強い。このじつた人たちと連携を上手くとることが移住「コンシェルジ」として定住促進を担当する者の役割なのだと思う。



ちにとつてはマイナス面が目立つ場合もある。さうにはそういうじつた噂話が広がつて地方議会さえ影響される場合もある。また、定住促進とは地価を上げるといでもあるので、歓迎されなじ向

きは残る。

多くの人は、数回のトーブルに会つて「わつ移住者と関わるのはイヤだ。」など被害者になつて逃げようとする。過疎社会になつた当事者意識がないのかもしない。転入者に裏切られて心が傷つく場合もあるので、過度な期待は寄せな

じよつに事前によく話しておいた方が無難なよつでもある。全ての人が定着できる訳ではないことを予め覚悟しておくると気楽になるのではないだらうか。

相性が合わない場合は帰してあげるべきなのだと。

これら地域の人たちにとってのマイナス面は、地価上昇の点を除いて、そのほとんどが極めて短期的な問題であつて、時期が過ぎれば一緒に飲み食いする機会もでき、取引や提携、同じ地域の一員として出来づ、交流する時が来るので、やつ週ごとくのつむりで良いと思うし、地域の従業員たちや商店主たちと競合することも、その地域が活性化に向かつ要素の一つではないだらうか。

足りないのは事業者や企画・営業マン

や金融機関などからの信頼も得て自らの力で事業を興すことは、地方にとどて素晴らしいことじ」とではないだろつか。

ただ、定住促進活動を実践の方は無難な総会運営を田指すことになり、自治体が資金を提供したところで、予算として計上しやすいイベントの開催やアンケート調査程度の活動に収まり、定住支援を支援するような立ち位置に後退する、つまり主体性からはさらに遠ざかってしまう。定住促進をするグループが一つである必要はないだろ。町村長が把握したうじつなり、それぞれと付き合えば事が足りシビアな商品開発も期待できる。

シーカヤックのガイドショップなど観光客を呼ぶよつた業種では、やはり利用者側の視点を以て、より有効なサービスを組み合わせたことが成功の要因だろ。彼らは行政などから補助を受けず、自力・自己責任で起業したからこそ強みがあると思ひ。買手側の目線と作り手側の環境・事情の両方を知る人物が多く誕生し、取引先



する、つまり主体性からはさらに遠ざかってしまう。定住促進をするグループが一つである必要はないだろ。町村長が把握したうじつなり、それぞれと付き合えば事が足り、競争の原理の効果を期待したいものである。なにより、定住促進は地域活性化であるから、その地域の意志として主体性をもつて当たるべきだと思ひ。

また、地域のことを、その地域の人々だけが深く理解できているとは限らないのではないか。他地域のことや、より大きな地域の中でのその地域の立ち位置を理解できる人物とい

や金融機関などからの信頼も得て自らの力で事業を興すことは、地方にとどて素晴らしいことじ」とではないだろつか。

ただ、定住促進活動を実践の方は無難な総会運営を田指すことになり、自治体が資金を提供したところで、予算として計上しやすいイベントの開催やアンケート調査程度の活動に収まり、定住支援を支援するような立ち位置に後退する、つまり主体性からはさらに遠ざかってしまう。定住促進をするグループが一つである必要はないだろ。町村長が把握したうじつなり、それぞれと付き合えば事が足

りシビアな商品開発も期待できる。

シーカヤックのガイドショップなど観光客を呼ぶよつた業種では、やはり利用者側の視点を以て、より有効なサービスを組み合わせたことが成功の要因だろ。彼らは行政などから補助を受けず、自力・自己責任で起業したからこそ強みがあると思ひ。買

手側の目線と作り手側の環境・事情の両方を知る人物が多く誕生し、取引先

の時は、研修という名の観光旅行で他地域へ訪れるだけの人物ではないと思ひ。やはり身銭を切つて利益を上げるべく真剣に勉強しに行つた人物にじて期待したいと思ひ。そういう事業者やその業界を経験した転入者に協力をしてもらいたいときがしてしまふ。

私にとって、種子島の1番の魅力は、人の存在である。例えば、平成23年で86歳になる近所のおじさんは、普段つちへ来て話してくれるひとのほとんどが、5年後や10年後、20年後のことには、自分は死んでいないだらうけれど…」などと聞こながらも、じうれい」とが、ただただ嬉しい。

「あの時には自分は死んでいないだらうけれど…」などと聞こながらも、じうれい」とが、ただただ嬉しい。

私は、人の存在である。例えば、平成23年で86歳になる近所のおじさんは、普段つちへ来て話してくれるひとのほとんどが、5年後や10年後、20年後のことには、自分は死んでいないだらうけれど…」などと聞こながらも、じうれい」とが、ただただ嬉しい。

「あの時には自分は死んでいないだらうけれど…」などと聞こながらも、じうれい」とが、ただただ嬉しい。

私は、人の存在である。例えば、平成23年で86歳になる近所のおじさんは、普段つちへ来て話してくれるひとのほとんどが、5年後や10年後、20年後のことには、自分は死んでいないだらうけれど…」などと聞こながらも、じうれい」とが、ただただ嬉しい。



最後に

南種子町の中学校PTAによって

行われた伝統行事の準備作業での反省会（飲み会）でのことである。どあるPTA参加者は「子供たちは皆、外へ出てひつて帰つてしまひ。この地域は）人が少なくなつて住びしだ。この住びしだ」という気持ちが君に解るか？」といふ。寂しだといふ表現ではなく、敢えて住びしだと言つたそだ。

私は当面この意味を考えてみようと思つてゐる。

種子島ひーサポートセンター

事務局長 西 豊

「タロとロマンのハーフームアイランド」

—自立自生の村づくりを目指す島—

私の住む伊江村

伊江村は、沖縄本島北部の本部半島の北西9kmの位置にあり、人口約4900人の住む一島一村の村です。古くからイメージマッチчу（城山）とジーマニ（落花生）で知られています。北東側には伊是名島、伊平屋島が、南西側には遠く慶良間列島が望めます。島の輪郭はほぼ橢円形状で東西8.4

km、南北3km、総面積は22.77km²です。北海岸は約60mの断崖絶壁が連なり、南側にかけて緩傾斜の地形となっています。



▲伊江村へは、2隻のフェリーが就航

南海岸は、ほとんど砂浜となっていて、島の中央やや東寄りに標高172mの城山がそびえ村民を温かく見守っています。この山の眺望は、かつて沖縄八景の第1位を誇り、その山ろくから海岸にかけては平地で1250haの耕地が拓け、8つの集落で村を形成しています。そのうち、6集落は城山の南側から東西に密集し、他の2集落は北西と西南端にあります。島の地質は、琉球石灰岩土壤からなる弱アルカリ性に属し、有機物腐食に富まず畑地としての耕作は容易ですが、保水力は乏しい地質です。気候は、亜熱帯性で平均気温23℃の暖かく住みやすい気候となっています。伊江島へは伊江村船舶の2隻のカーフェリーが就航し、利便



沖縄県 伊江村 いえそん

▲伊江島遠景

性が高く、年間13万人余の観光客が訪れる賑わいのある島です。3月には新造船フェリーの運航も開始し、より良い船旅を皆様へ提供できます。

伊江村の産業

～農業・漁業・畜産業・特産品～

－農業－

本村は、農業振興を中心とした第1次産業を中心に村づくりの展開を図っていて、多様な品目の農産物が生産されています。比較的平坦な地形で、花き栽培（主に輪菊）、葉タバコ、さとうきび、野菜、島うりつきよう、果樹等が栽培されています。平成12年に電照菊、平成15年にとうがん、平成19年に島うりつきようが沖縄県から拠点産地の指定を受けています。中でも輪菊の生産は作付面積で3番目、出荷合計額では最も高い品目となっています。沖縄県内でも生産額トップとして重要産地として位置づけられています。花き産地の先導的役割を果たしています。平成23年には「伊江村花き選別施設」が建設され、花き農家の労働力軽減につながり生産性の向上や、新規雇用の拡大を含め花き生産の振興に大きく寄与する施設であることから、更なる地域の



▲H15年とうがんも拠点産地に指定を受けている

本村では、畑作に必要な用水は降雨と既設の溜池に依存せざるを得なく十分な用水手当がなされていないことから農業生産が不安定であり、農業振興の妨げとなっていました。この慢性的な農業用水の不足を解消するため地下ダムの工事が進められています。地下ダムを新設するとともに、揚水機、用水路の整備を実施することにより、安定的なかんがい用水を確保し、農業経営の安定に資することを目指しています。

－地下ダムとは－

地下水の流路に止水壁を築造し、琉球石灰岩の隙間に水をためる施設です。畑地や、道路下に造成された後は原型復旧されるため、これまで同様の土地利用が可能です。利用法は貯蓄された地下水を

から日製糖工場が閉鎖し、沖縄本島内の工場に海上輸送していました。輸送コストが高く、生産者から村内での工場設置を要望する声があがり建設になりました。さとうきびを中心とした循環型農業の再構築と地域経済の発展に大きく期待されます。又、国営かんがい排水事業として地下ダムの工事が進められていて、更なる農業生産の向上が期待されます。

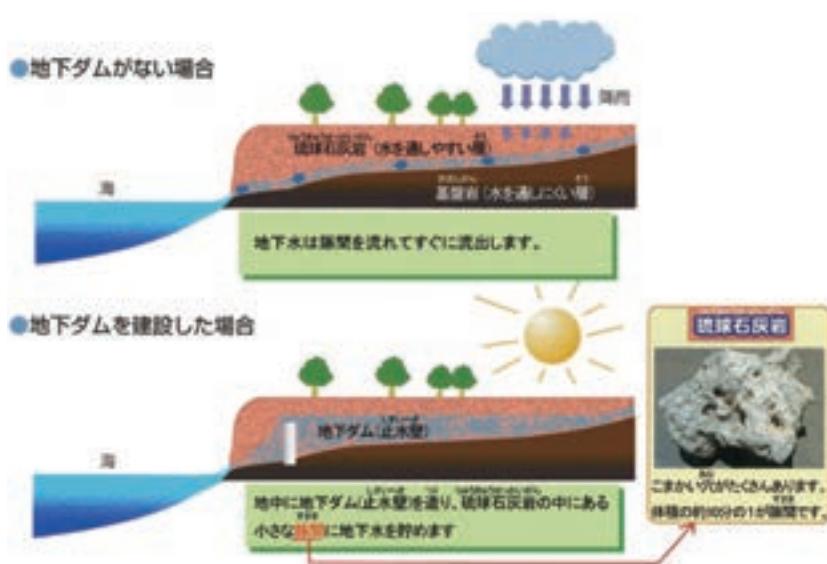
活性化が期待されます。又、さとうきびの含蜜糖を製造する「伊江村黒糖工場」も建設されました。2004年に農家のさとうきび離れに伴う原料不足から日製糖工場が閉鎖し、沖縄本島内の工場に海上輸送していました。輸送コストが高く、生産者から村内での工場設置を要望する声があがり建設になりました。さとうきびを中心とした循環型農業の再構築と地域経済の発展に大きく期待されます。又、国営かんがい排水事業として地下ダムの工事が進められていて、更なる農業生産の向上が期待されます。

伊江村で展開されている 地下ダムプロジェクト

本村では、畑作に必要な用水は降雨と既設の溜池に依存せざるを得なく十分な用水手当がなされていないことから農業生産が不安定であり、農業振興の妨げとなっていました。この慢性的な農業用水の不足を解消するため地下ダムの工事が進められています。地下ダムを新設するとともに、揚水機、用水路の整備を実施することにより、安定的なかんがい用水を確保し、農業経営の安定に資することを目指しています。

－漁業－

本村は四面海に囲まれ天然の漁礁が広がり恵まれた漁場が点在しており漁業も盛んな島です。しかし、水産業を取り巻く環境は年々厳しくなり、燃油の高騰や魚価の低迷で漁獲量は減少しておき、必要に応じて確保場まで送水され作物にあわせた散水器具による散水ができます。



▲地下ダムの役割

▲ソディカ漁



績で県認定種雄牛になるなど、肉用牛産地としての沖縄ワンドの普及推進に大きく貢献しています。今後、堆肥センターの整備により耕畜連携による地域資源保全型農業の確立に取り組んでいきます。

一産業から開発される特產品の数

前述の村の産業品を使用し、数々の特產品が生まれました。県内では伊江島と云えどジーマミ（落花生）が有名です。ジーマミを使った数々の特產品。沖縄料理定番のジューシー（炊き込みご飯）にイカ墨をませて作る「イ

傾向にあります。ソディカ漁は比較的安定しているため全体としては微減となっています。今後は、漁船の大型化等が進み安定して漁獲量と漁獲高を目指していきます。

一畜産業

本村の畜産は肉用牛が最も多く、年々多頭傾向にあります。主に子牛产地として県内外からの評価も高く、セリ市も安定した価格で取引されています。わいじ品質系統も沖縄県畜産共進会では常に上位を占め和牛産地「伊江島」として知られ、平成21年には県から拠点産地の指定を受けています。又、伊江村で誕生した種雄牛が歴代最高成



▶牛セリの様子

力墨ジユーシーの素」や、「イ力墨餃子黒ちゃん」伊江島牛を使つた「ソディカ漁」や、ハンバーグ。島の北海岸の波打ち際から湧く真水を使用し作った告白炭酸飲料「イエソーダ」等。主要産業からだけでなく天然の資源を利用した特產品を生み出しています。

一初の地酒

「イエラムサンタマリア」誕生

平成23年「伊江島蒸留所」が開所しました。蒸留所では村内で収穫されたとうきびのしぼり汁のみを使ったラム酒を製造しています。この工場は、元々は企業がさとうきびを原料とした自動車向けバイオエタノールの生産実証実験を行っていたバイオ燃料工場だったものです。実験を終えて村へ譲渡され、有効活用を検討したところ、設備をほぼそのまま転用できることがわかった。ラム酒の製造を決めました。蒸留器を新設するなど一部改修を施し、新工場を完成させました。村内初の蒸留所として稼働しています。

伊江島の誇るもの一つであるテッポウユリを、ヨーロッパの人達はマリアの花として愛されています。それと、母なる神・聖母マリアの名前から「イエラムサンタマリア」と名付けました。大地から授かった大きな愛に



▶初の地酒「イエラムサンタマリア」誕生

包まれたラム酒です。南国の太陽をめいっぱい浴びた伊江島産のさとうきびのしぼり汁のみを使い、単式蒸留器で仕込み、じっくり熟成させたアグリコールラムです。ラム酒は2種類製造していて、オーク樽でじっくりと熟成させたふくよかな樽の香りの「イエラムサンタマリア・コールド」とさわやかなさとうきびの甘じ香りが新鮮な「イエラムサンタマリア・クリスタル」の2種類です。ストレートで、オンザロックでいただぐ他、氷のかじもまた大好評の伊江島発の告白飲料「イエソーダ」で割つて召し上がっていただけます。

くのも格別です。平成23年7月の販売開始から約1万本を売上げ、県知事賞を始め数々の賞を受賞するなど高い評価を受けています。

このように、産地の作物や天然資源を使い数々の特産品を村内一丸となつて産み出しています。

学び創造する未来を目指して ～教育・芸能文化～

～学校教育の充実～

幼稚園2園、小学校2校、中学校

1校の学校教育施設があります。

高校を有しない本村では、ほとん

どの生徒が中学卒業と同時に親元を離れ本島内の高校へ進学します。将来を

担う児童、生徒が心身共に健全で、勉強、スポーツに励むよう小・中学校にパソコンの導入や外国语指導助手の採用など教育環境の整備が整っています。

小さな島であるがゆえに横の繋がりも深く、学校、家庭、地域が一体となって基礎学力の向上、社会生活の指導に努めています。

～芸能文化の保存・継承～

芸能文化のレベルの高い島として知られ、古くからの沖縄各地の民謡や本土の芸能を積極的に学び、さらに島独

特の個性豊かな芸能として発達しています。

「伊江島の村踊」は国の重要無形民俗文化財に指定され、先人の遺した貴重な文化遺産として、村ぐるみで保存・伝承されています。村踊は、琉球王朝時代に、伊江王子のお供をしていた島の若者が習い覚えてきた「本土風芸能」と沖縄本島や先島から伝承してきた「沖縄芸能」、島で創作された「独自の芸能」に分けることができます。島には、数多い村踊を始め、独特な民謡、

琉球古典音楽を取り入れ、沖縄風にアレンジした組踊「忠臣蔵」が県内で唯一、伊江島に保存伝承されています。この「忠臣蔵」は平成22年に県の組踊りが、ユネスコ無形文化遺産代表一覧表に記載され、地方に伝わる組踊りを代表して、国立劇場おきなわにて公演しました。村踊りは毎年11月に村内8区の自治会による輪番制で開催される伊江村民俗芸能発表会で披露されます。

観光地としての伊江島 ～民泊事業・イベント～

～社会教育の充実～

このような芸能文化は小中学校教育の一環でも取り入れられ、地域の指導者による指導が行われ、学校、家庭、地域が一体となる教育、保存継承がされています。

島の民家でホームステイを体験し、農家や漁業者の仕事を手伝ったり、沖縄料理を学んだりといつ内容の修学旅行の受け入れです。畑仕事や漁を手伝いながら受け入れ民家と絆を深めるプログラムは、大きな反響を呼び、今で

多くの団体が結成され、独自の活動を行っています。青年会や婦人会他、多くの団体があり、学習活動、文化活動、スポーツレクリエーションなど、年間を通して活動が行われています。特に

スポーツを通しての地域づくり、健康づくり、体力づくりが盛んであり、沖縄県国頭郡陸上大会においては、2年連続の男子、女子、壮年、優勝の完全優勝、6年連続の総合優勝を達成する等、老若男女問わずスポーツが盛んな村です。



▶芸能文化組踊り「忠臣蔵」の一幕

▲民泊見送りの様子



人の心の温かさにふれ島を出発します。

民泊生を送り出す際には「やめんなひ」ではなく「ふつむりつしゃじ」「ふつでも戻つておいで」といの思ひをこめ見送ります。島を離れてから交流も続き、リピーターとして島に戻つくる方も数多くいらっしゃいます。

このように、島の名所や観光地を巡る旅行ではなく、島民と触れ合つことメイノとした旅行プログラムが、島の一大事業に発展し、平成18年度「地域づくり総務大臣賞」を受賞しました。

イベント開催で島を訪れる方も多く

上の旅行者が民泊で訪れるようになります。それに加え民泊生が島でおみやげを買つたり、おやつや飲み物を買つたりしますから、民泊の経済的効果は計り知れません。また、ホームステイですから事業経費もさほどかかりません。食事は普段と同じものですし、バスなどを使って学生たちを観光に連れていくてあげる必要もないわけです。

又、村には高校を有しないため、民泊の受け入れ先は本島などに渡つて下宿や寮で生活している高校生や大学生を持つ家が中心です。民泊生を実の息子、娘と感じ接するので、伊江島の



伊江村は沖縄県島嶼町村制度が施工された1908年に発足し、2008年に村制100周年を迎えた。幾多の歴史と村民のたゆまぬ努力によって、一世紀にわたる「一島一村」のゆるぎない自治を確立し、輝かしい歴史を歩んでもらった。

終わりに

高さ、自然資源、人の温かさ、イベント、それらを全て活用することによって、年間13万人余の観光客が訪れる賑わいのある島を持続し、今後はさらに観光人数を増やす目標を掲げています。

沖縄本島から30分という利便性の

「継承」「調和」「未来」をキーワードに、1000種類のハイビスカスが咲き誇る、ハイビスカス祭り等、様々なイベントが開催されています。

(平成24年3月5日付第27-91号)
伊江村長 大城勝正



我々の先達は、貧困や戦禍・米軍統治から本土復帰・急速な本土化と基地問題など様々な課題に直面しながらも、常に前向きに村の発展と子供の教育に力を注ぎ、家族や祖先を大切にしながら今日の礎を築きあげてきました。村制100周年を経た今後も、村が歩んだ確かな歴史をはせ、自立の村づくりを目指すとともに、主自立の村づくりを目標とするにむけたる飛躍に向かって邁進します。

町村の施策
事例集Ⅲ

全国町村会

